



確かな明日へ長銀の債券

高利回りの1年貯蓄・年7.388%

ワリチヨー

が大きく活ける5年貯蓄・年8.3%

リッチヨー

ワリチヨーは、年7.388%(税引後、年6.45%)と高利回りの1年貯蓄。税金は源泉分離課税一律12%です。また無記名式ですから、だれにも知られずに財産づくりが楽しめます。もちろん確定申告は不要です。

リッチヨーは、年8.3%という高利回りです。お利息は半年ごとに5年で10回、どんな景気の変動にもかかわらず当初お約束した金額を確実にお受け取りになれます。無税の特典例をご利用になれば大きなお利息をソックリそのまま活かせます。

日本長期信用銀行

本店／東京都千代田区大手町1-2-4
☎ 03 (211) 5111 〒100

新宿支店 03(348)5111 東京都新宿区西新宿1丁5(新宿ルミネ内)
渋谷支店 03(476)5111 東京都渋谷区神南1-11-3
池袋支店 03(987)1781 東京都豊島区西池袋1-17-10
上野支店 03(341)2141 東京都台東区上野4-10-5
横浜支店 045(312)5111 横浜市西区北幸1-2-13
札幌支店 011(221)7111 札幌市中央区南1条西2-5
仙台支店 0222(25)3101 仙台市一番町2-1-2

金沢支店 03(348)5111 金沢市高岡町1-50
名古屋支店 052(211)5111 名古屋市中区丸の内1-17-19
大阪支店 06(203)5111 大阪市東区瓦町4-15
梅田支店 06(344)5111 大阪市北区水楽町6-3
広島支店 0822(48)3751 広島市立町1-20立町並前
高松支店 0878(31)1101 高松市龜井町1-2
福岡支店 092(77)6561 福岡市中央区天神2-13-7

資料請求

詳しいパンフレットをご用意しております。

ご希望の方は、①住所、氏名、年齢、ご職業、電話番号をハガキにご明記のうえ、資料請求券をはって、さっそくお申しこみください。

資料請求券
別冊オスカーフ

EARLYTIMES

アーリータイムズ

Imported by SUNTORY

'彼女は顔役だ！'の
ジェームス・キャグニイ'男氣ある追跡'の
ジョン・ウェイン

酒のサカナに映画の話

文 和田誠

酒のサカナ

来日した時の記者会見で健康の秘訣を聞かれたジョン・ウェインは、「いいウイスキーを毎晩飲むことです」と答えて会場を笑わせた。ジョン・ウェインの大柄な体躯を見ると、映画の中の自信あふれた主人公がそのままでも頼もしいムードも齡はとっても変わらないし、たしかにウイスキーのイメージにふさわしい。

ジョン・ウェインがアカデミー主演男優賞を受けた「勇氣ある追跡」の主人公ルースター・コグバーンは酒好きの保安官で、彼は十四歳の少女が父の仇討をするのを手伝う。強いが酒飲みだという設定が面白く、そのため手を焼く道中記となっている。

自己主張する70年代スター



フェイ・ダナウェイ

「チャイナタウン」二十九

アメリカ・ニュー・シネマの先駆けとなつたダナウェイこそ、七〇年代を代表する女優といえる。アンニュイとデカダンスが、そのセクシーな肢体と個性にたどりよう。近作『チャイナタウン』『ネットワーク』での演技的成熟ぶりは見事。ファッションのセンスも抜群の人だ。（S）



『おかしなレディ・キラー』(1976)

『カッコーの巣の上で』(1976)

ジャック・ニコルソン



アカデミー主演男優賞を獲得した『カッコーの巣の上で』によって一躍、脚光を浴びた。反体制派としての気骨ある生き方と、常に新しいものを探求する芸術的探求は、アメリカ映画の明天をになうニコルソンを七〇年代の旗手にした。『愛の狩人』『チャイナタウン』などにみられる卑猥なまでの男のセクシーな体臭は彼の大きな魅力だ。（S）

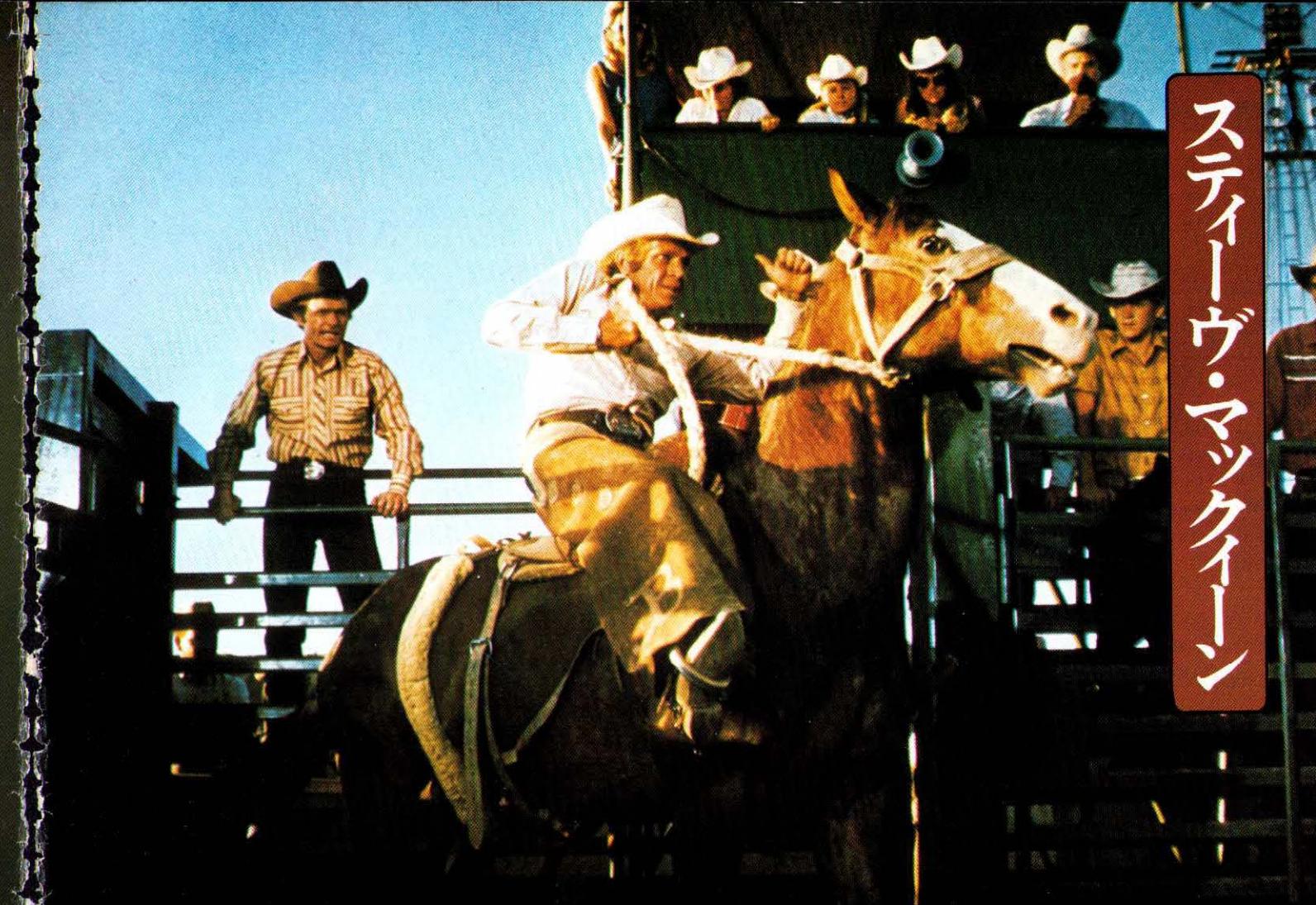
ポール・ニューマン



(上)『ロイ・ビーン』(1973)と(下)『タワーリング・インフェルノ』(1975)



マーラン・ブランド、ジェームズ・ディーンにつぐニューヨーク演劇界出身の秀才として「ハスラー」などの名演でスターになつた。ハードボイルド映画でのハードな男を演じてはナンバー・ワン。「明日に向つて撃て!」「ステイング」での軽妙洒脱なダンディズムも彼の魅力は一段と冴える。監督をやつても一流の才能を発揮した。(S)



(上)『ジュニア・ボナー』(1972)と(下)『ゲッタウェイ』(1973)

美男スターに代わる個性派の台頭は、マックイーンなどの登場によって、スターのタイプを一変させた。出世作『荒野の七人』『大脱走』から近作『タワーリング・インフェルノ』まで、彼が演じたヒーローは一貫して行動する男の、華麗でめくるめくアクションだった。スピードに賭けた男も得意役で、七〇年代のスーパー・スターになる。(S)



ステイーヴ・マックイーン

ライザ・ミネリ

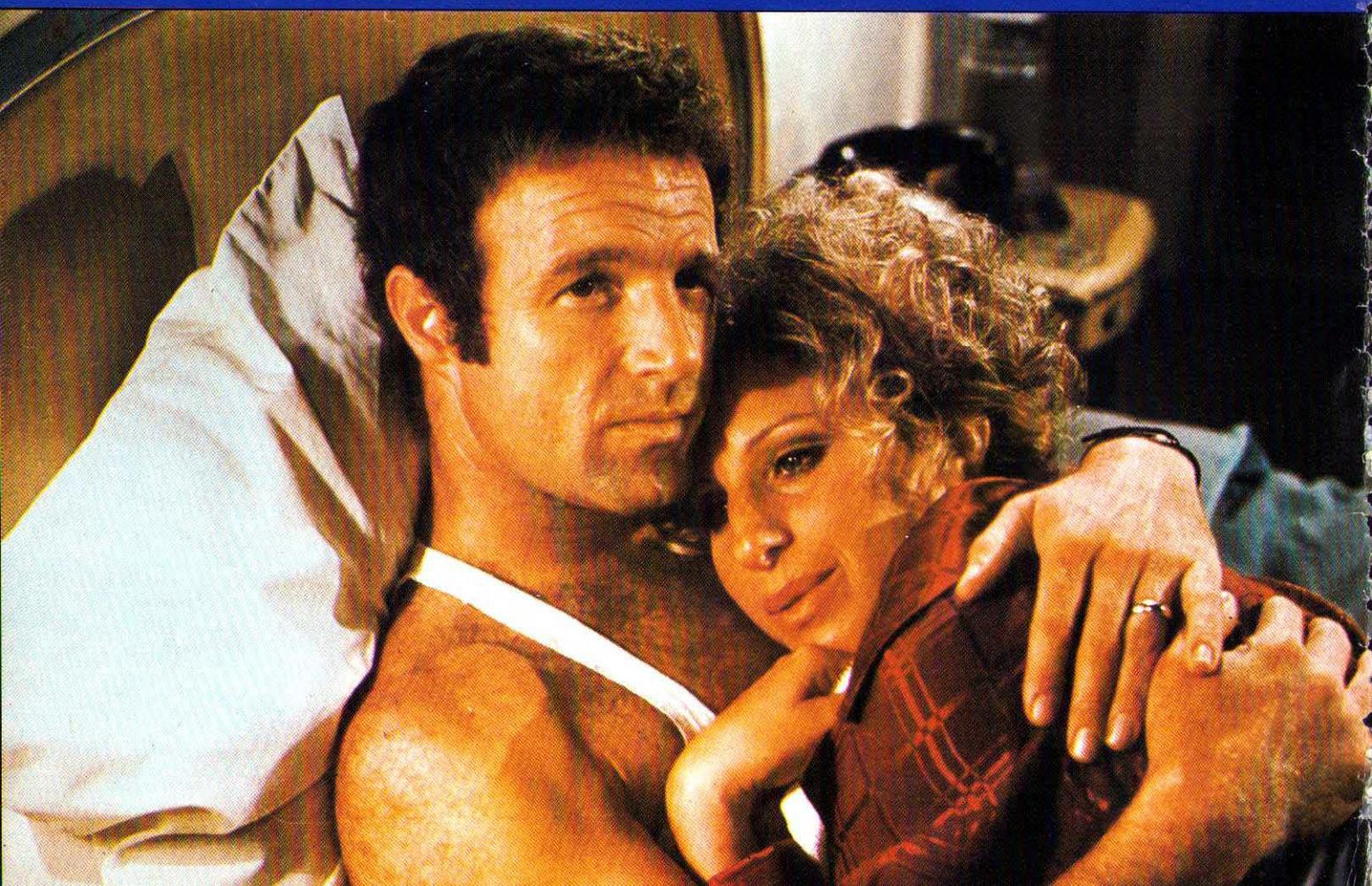
『キャバレー』（一九七二）

バーブラ・ストライサンド

てっかい鼻、威風堂々たる貴様、強烈な個性と自己主張でアメリカでの人気は現代女優のトップ・クラス。バーブラこそ従来の女優のタイプを変えたウーマン・リブ時代の女優といえよう。『ファニー・ガール』でミュージカル女優としての地位を確立したが、戦中戦後の女の生き方を演じた『追憶』に彼女自身が投影されている。（S）



(上)『ファニー・ガール』(1969)と(下)『ファニー・レディ』(1975)



ミュージカルの大スターだった故ジュディ・ガーランドの遺児として登場したライザは、『キャバレー』でアカデミー主演女優賞を獲得、母に負けない才能を開花させた。美人じゃないが、コケティッシュな可愛い女を演じては抜群に巧いチャーミング・スター。本領はミュージカルだが、歌ぬきの芝居も鋭い力でみごとにこなす。（S）



ダステイン・ホフマン

掠奪結婚をする一本気な現代青年を好演した
『卒業』で、ヤングの喝采を浴びてスターにな
ったダステイン。——『真夜中のカーボーイ』
ではニューヨークのどん底を生きる若者を、
『レニー・ブルース』では反逆の芸人レニー
の生きさまを名演し、ここに彼の真価はきま
つた。体制に背をむけ、反逆の血をひめた男
こそ彼の本領だ。(S)



「わらの犬」(一九七二)

「レニー・ブルース」(一九七五)



「狼たちの午後」(1976)

アル・パシーノ

ウォーレン・ビーテイ

「俺たちに明日はない」『シャンブー』で主演のほかに製作者も兼ねた時代を先取りする感覚の鋭さでは定評がある。ことに前者はギャング映画にまったく新しい青春の血を吹きこみ、時代からはみだした若者たちの悲痛な心のうめきをとらえて、衝撃のラスト・シーンとともにアメリカ・ニュー・シネマの不滅の先駆作となつた。(S)



(上)『おかしなレディ・キラー』(1976)と(下)『シャンブー』(1975)



売りだし当時は、第二のグレース・ケリーといわれた。バーグマンやグレース・ケリーが持つていた豪華な雰囲気を受けついだ魅力をアメリカ映画界は生かしきれなかつた。キャンドゥイスにとっては不幸な時代だったが、知性派として文筆やカメラ・ルボなどで活躍する一方、近作『風とライオン』で、いよいよ本領を発揮。(S)

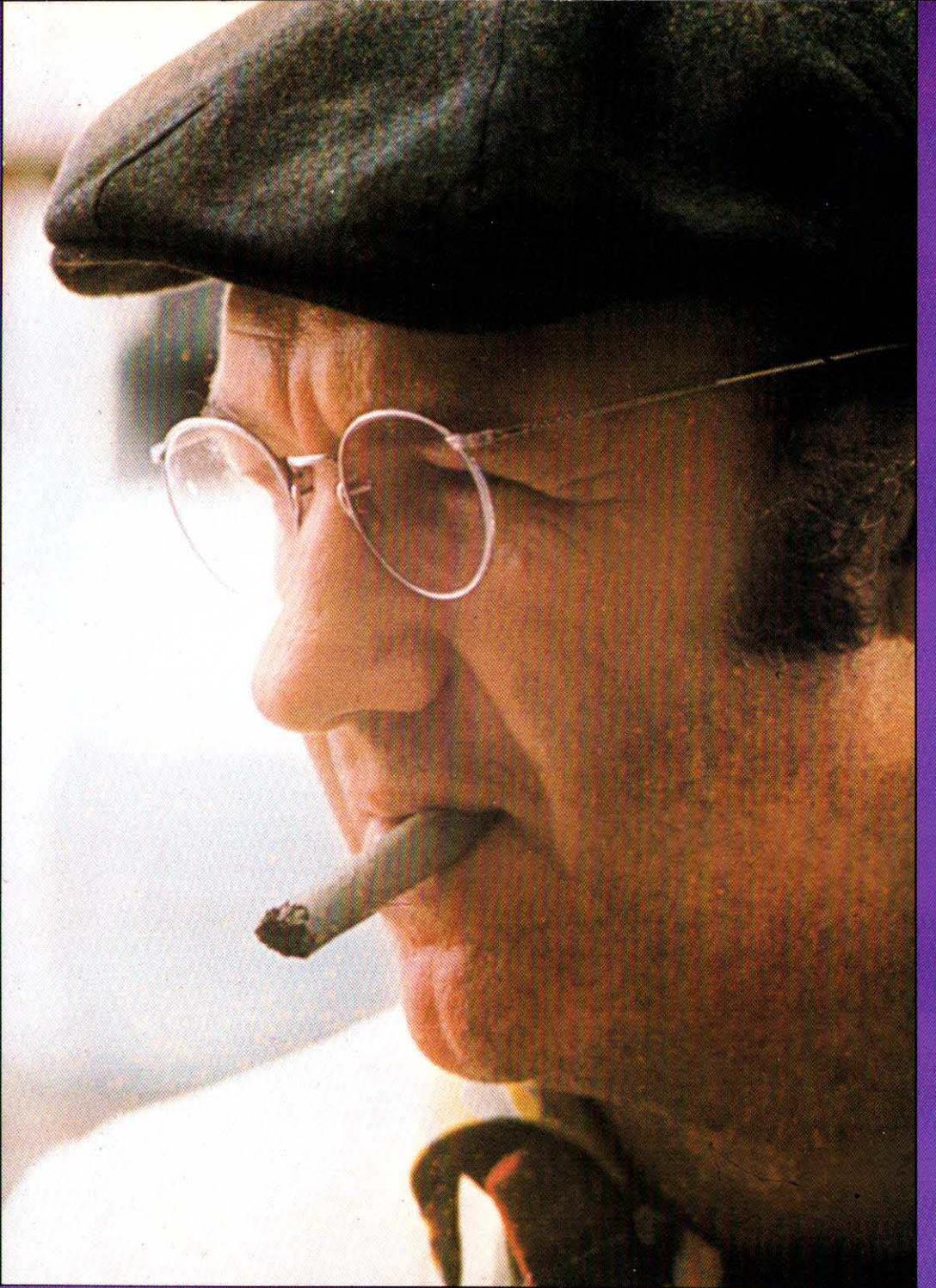
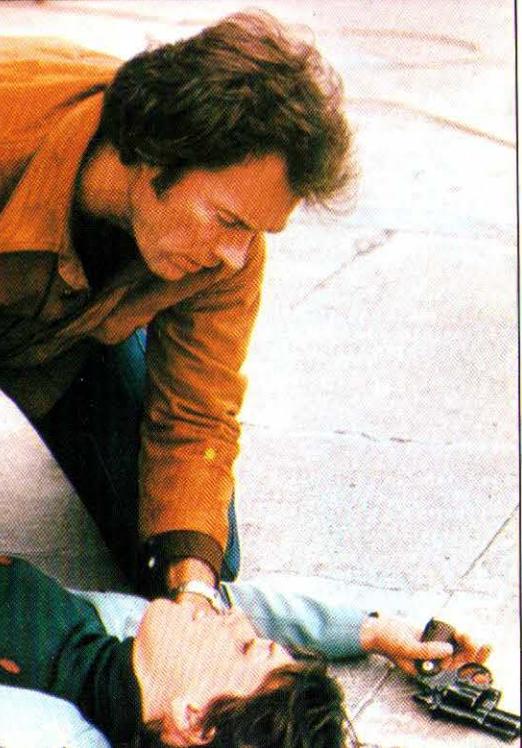
キャンディス・バーゲン

クリント・イーストウッド



『ダーティ・ハリー 3』(1977)

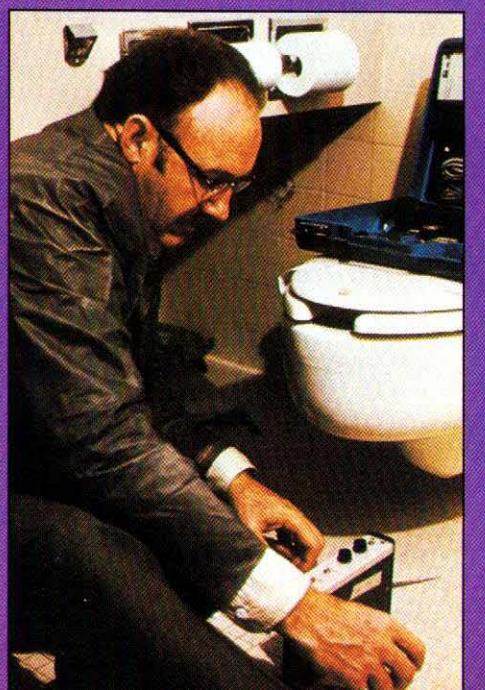
TVの『ローハイド』からマカロニ西部劇『荒野の用心棒』、そして監督もかねて主演し大好評を呼んだ『アウトロー』まで、ジョン・ウェインに代わって、ウェスタンの新ヒーローとして変動期を一筋に生きてきた。一方、荒くれ刑事を名演した『ダーティ・ハリー』ではヒーロー不在時代のヒーローとしての人気を確立。(S)



『スケアクロウ』(一九七三)

ジーン・ハックマン

『フレンチ・コネクション』のガツツな刑事ボバイトアカデミー主演男優賞を獲得した。『ボセイドン・アドベンチャー』では、転覆した豪華船の中で生き残った乗客たちを脱出口にリードする神父を好演。ここでは生きることの執念に燃えた男の心意気が深い感動と共感を呼んだ。根性の人を演じては当代随一のスター。(S)



『ボセイドン・アドベンチャー』(一九七二)

ピーターフォンダ

「イージーライダー」では、カスタム・メイドのオートバイでアメリカを旅する若者を演じ、抜群の魅力で七〇年代を先取りした。悩める現代青年の魂のさすらいを、その繊細な、感受性の鋭い個性で演じ、ニュー・シネマ・スターとしての脚光を浴びた。監督もかねた『さすらいのカウボーイ』での映像感覚のよさも本物だ。(S)

(上)『さすらいのカウボーイ』
(1972)
(下)『ふたり』(1973)



「軍用列車」(一九七六)

五〇年代は協役として地味なインディアン役などをしていたブロンソンだが、「さらば友よ」「雨の訪問者」などでフランス映画界で主演スターになつて以来、ブロンсон・ホームを世界に起させた。ことに日本ではテレビCMに出演して人気をあおった。男臭い野性の魅力があふれる彼のような個性が一世を風靡するのも七〇年代の特色といえよう。(S)



「正午から三時まで」(一九七七)

チャールズ・ブロンソン

ロバート・レッドフォード

(上)『大統領の陰謀』(一九七六年)
(下)『候補者ビル・マッケイ』(一九七六年)

故ケネディ大統領に似たハンサム青年として売りだしたレッドフォード。『明日に向って撃て!』『華麗なるヒョーキ野郎』などで男のロマンティシズムをあふれさせ、女性を魅了した。しかし、製作もかねた『候補者ビル・マッケイ』『大統領の陰謀』など現代政治を鋭くとらえた映画でのインテリジェンスこそ彼の本領である。(S)



映画史に残るこのスター、あの名場面。

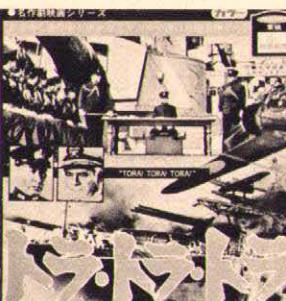
名作洋画シリーズ



主演 R.ミッチャム/C.マルカン/M. ファーラー <20世紀フォックス作品>
白黒90m 15,800円



主演 ジュリー・アンドリュース
<20世紀フォックス作品>
カラー90m 15,800円



主演 山村聰/M.バルサム/E.G.マーシャル <20世紀フォックス作品>
カラー90m 15,800円



主演・監督 ブルース・リー
カラー90m 15,800円



主演 ゲイリー・クーパー/グレイス・ケリー <ユニバース作品>
白黒90m 14,500円



主演 G.ベック/A.クイン/D.ニーブン <コロンビア作品>
カラー90m 15,800円



主演 W.ホールデン/A.ギネス/早川雪州 <コロンビア作品>
カラー90m 15,800円



主演 ジーン・ハックマン/フェルナンド・レイ <20世紀フォックス作品>
カラー90m 15,800円



主演 ポール・ニューマン/ロバート・レッドフォード <20世紀フォックス作品>
カラー90m 15,800円



主演 シルビア・クリスティル
<制作 日本ヘラルド>
カラー60m 12,500円



主演 シルビア・クリスティル
<制作 日本ヘラルド>
カラー60m 12,500円



主演 マリリン・モンロー/ジェーン・ラッセル <20世紀フォックス作品>
カラー90m 15,800円

●名作洋画シリーズの作品はすべてオリジナルサウンド・日本語字幕つき

名作劇映画シリーズ

緋牡丹博徒

カラー60m 9,800円

昭和残侠伝

カラー60m 9,800円

水戸黄門 天下の御意見番

カラー60m 9,800円

旗本退屈男 蛇姫屋敷の決斗

カラー60m 9,800円

達山金さん捕物謎のからくり天井

カラー60m 9,800円

網走番外地 大雪原の対決

カラー60m 9,800円

吉永小百合 伊豆の踊子(日活作品)

カラー60m 9,800円

赤木圭一郎 抜き射ちの竜(日活作品)

カラー60m 9,800円

関東やくざ者

カラー60m 9,800円

緋牡丹博徒 お竜參上

カラー90m 13,500円

光学式8ミリ映画専用
光学式8ミリサウンド映写機
フジックス SV65-①



標準価格
■本体82,000円
別売付属品
スペアランプ 3,300円

お求めは全国有名カメラ店・デパートで。

●くわしい資料・カタログをご希望の方は、
氏名・住所・年令・職業をご記入のうえ、
〒107 東京都港区赤坂1-9-20第16興和ビル
富士映像システム株式会社AO係へどうぞ。

富士フィルムより8ミリ映画で発売中

ああ神話のスターたち グラフ・アメリカ映画史



オードリー・ヘップバーン



エリザベス・テイラー



マリリン・モンロー



ハンフリー・ボガート



イングリッド・バーグマン



クラーク・ゲーブル



マルレーネ・ディートリッヒ



ゲーリー・クーパー



グレタ・ガルボ

映画史のごく初期において、スターは存在しなかった。映画のタイトルにも広告にも、俳優個々の名前すらあらわれなかつたのである。映画が誕生してから十数年たつた一九一〇年に、アメリカで映画スターが生まれた。そのいきさつは、こうである。

映画企業の大物カール・レムレが、自社にひきぬいた女優フロレンス・ロレンスの名をひろめるために、市電にひかれて死んだといふでたらめの報道を新聞に出させ、その一週間後に、この記事は対抗会社でのつちあげで、ロレンスはわが社と契約し、新作に出演する、と発表して話題をつくつたのである。

この一件は、スターがつくりあげられるものであることを証明している。映画は、他からの借りものでなく、自分たちの魔力によって、スターをつくりあげができるのである。しかも、このスターなるものは、やがて映画工場の本拠地にさだめられたハリウッドの目玉商品となつた。ある意味で、ハリウッドの映画工場とは、スターの生産工場だったといつてもいい。スター・システムというものは、ハリウッドの各社が、スターによつて利潤をうるために組まれた映画づくりの方法

うに表現している。「スターとは最小の演劇的才能でもつて、その顔が集団の本能を表現し、象徴し、化身することが可能な人物である。マルレーネ・ディートリッヒはサラ・ベルナールのような女優ではない。彼女は、フイリーネのような神話なのだ」（三輪秀彦訳）

大衆の欲望の化身であるといふ意味において、スターは神話であると同時に、大衆とは別の世界に住む人種といふ点で、スターは神話なのであつた。

スターがスターであつた、つまり神話に生きつけられたのは、無声映画時代がいちばんであつた。おそらくこれは、スターがしやべらないといふ単純な理由からである。しやべらないといふことは、観客のイマジネーションをかえつて触発し、スターをアイドル化させ、神秘化させる。音のない、光と影の効果を生かしきつた映像美も、スターを神聖に輝かせる。またスターと大衆との間にもテレビのようなざつくばらんな媒体が存在しなかつたので、彼らは神話の中に生きつづけたのである。

映画が音を持つようになつて、かえつてスターが栄えたとかんがえるのは、まちがいてある。スターがしゃべるということは、神話の人物からふつうの人間への天降りである。一方、しゃべることのうまい人種、たとえば舞台俳優とか、踊りや歌の達者な芸人が、トーキー映画に起用された。もちろん彼らをもスターと呼ぶことは当然だが、その持つ意味は

もう一つの原因はいうまでもなくテレビである。お茶の間に大スターがつぎつぎと飛び込んできたとき、もう彼らは、あの銀幕の彼方の別世界に生きていた神話の人物ではなくなつているのである。スターは、人気のある俳優もしくはタレントと同意語になつてしまつたようだ。（H）

映画史のごく初期において、スターは存在しなかった。映画のタイトルにも広告にも、俳優個々の名前すらあらわれなかつたのである。映画が誕生してから十数年たつた一九一〇年に、アメリカで映画スターが生まれた。そのいきさつは、こうである。

映画企業の大物カール・レムレが、自社にひきぬいた女優フロレンス・ロレンスの名をひろめるために、市電にひかれて死んだといふでたらめの報道を新聞に出させ、その一週間後に、この記事は対抗会社でのつちあげで、ロレンスはわが社と契約し、新作に出演する、と発表して話題をつくつたのである。

この一件は、スターがつくりあげられるものであることを証明している。映画は、他からの借りものでなく、自分たちの魔力によって、スターをつくりあげができるのである。しかも、このスターなるものは、やがて映画工場の本拠地にさだめられたハリウッドの目玉商品となつた。ある意味で、ハリウッドの映画工場とは、スターの生産工場だったといつてもいい。スター・システムというものは、ハリウッドの各社が、スターによつて利潤をうるために組まれた映画づくりの方法

である。

このスター・システムの一一番の特徴は、スターをタイプ化させたことだ。たとえば、フォックス社は、それまで無名だった若い女優セダ・バラという芸名をつけ、彼女にまつわるさまざまな神祕めいたパブリシティをはり、ヴァンプ（妖婦）として売りだし、徹底して妖婦役ばかりあつた。大衆は、セダ・バラに似たわちヴァンプだと信じこまされた。同じように、メアリー・ピックフォードは純情可憐型であり、ルドルフ・ヴァレンチノは鑑賞用美男子であり、そういう固有のタイプで、スターのイメージを定着させた。

観衆がタイプを見いだせないような俳優は、したがつてスターの位置を、完全に獲得することはできないのである。そのタイプは時代の性格の反映であり、スター史をそうした側面からとらえていくのも興味ある作業となる。スターになるためには、美貌であることも、すぐれた演技力を身につけていることも必要ではなく、時代の大衆がもとめているタイプといいかに合致するかがきめ手だつたのである。

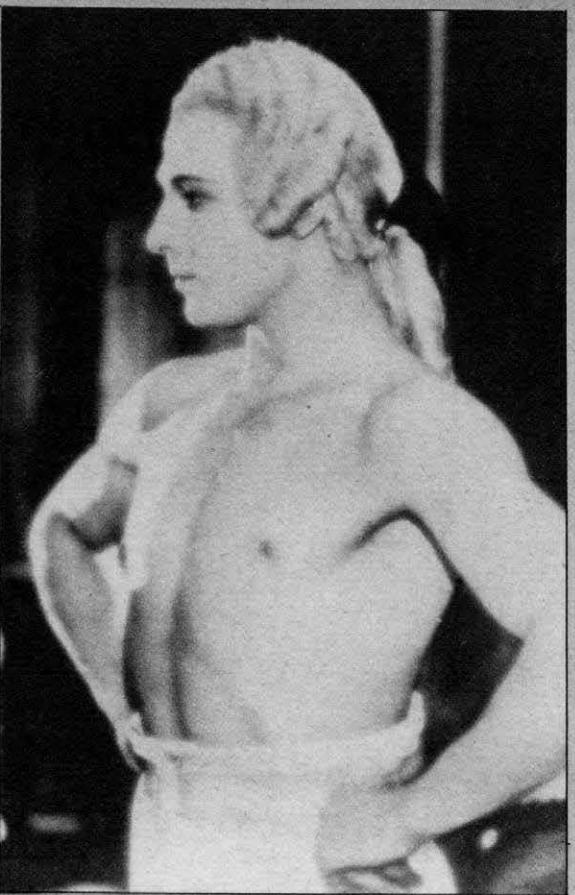
このことを、アンドレ・マルローはこんなふ

☆永遠の美男

ルドルフ・ヴァレンチノ



インドの青年に扮した『ヤング・ラジャー』(1922) 相手役はワンダー・ホーレー



裸体も見せて女性ファンを酔わせた『ポーケール』(1924)



『熱砂の舞』の一場面 当り役『シーク』の息子の物語である



出世作『黙示録の四騎士』(1921)では
アルゼンチン・タンゴを踊った

ルドルフ・ヴァレンチノの主演作は、いま見るといささか退屈だが、彼自身の甘い美貌はいまでも輝いている。ひきしまつた目鼻立ち、りりしい眼光……まさしく二枚目なのである。ハリウッド映画のうちでも、彼ほどの美男子はそうざらにない。

もつとも、美男というだけで片付けてしまつては、世界中を熱狂させた人気の秘密を解くことはできない。父はイタリア人、母はフランス人で、だから『默示録の四騎士』の妻人、恋におちるアルゼンチンの青年役で爆発的な人気を得てから、エキゾチックな主人公ばかり演じた。『シーケー』と続編『熱砂の舞』のアラビアの酋長、『血と砂』のスペインの闘牛士、『ボーケール』のフランス宮廷の理

髪師、「荒蠶」のロシア貴族など、異国の青年が専門である。早川雪洲なども、當時ハリウッドでエキゾチックな一枚目として人気を得ていたものだが、移民の国アメリカはエキゾチックな美にあこがれ、そこにセックス・アビールを見いだしたのであつた。

葬儀の行なわれたニューヨークの教会には、三万人のファンが押しかけ、百人以上の警官が整理にあつたと。新聞は「王の葬儀」と書いた。スクリーンの生んだ恋人が、他の有名人をはるかに凌いでしまったことを、この葬儀は物語っていた。三十一歳という若さで他界したのだつたが、そのことがヴァアレンチノをいつそう伝説化させている。(H)



おなじみ「カミーユ（椿姫）」（1921）の純情青年アルマン



二人の女性との愛に惑い、酒に溺れていくアルゼンチン青年役「情熱の悪鬼」(1824)



その後の作品となった『熱砂の舞』(1926) のアラビア酋長

Rudolph Valentino(一八九五—一九二六) 南イタリアに生まれ、十八歳で渡米し、ダンサーをやっていたが、一九一八年ハリウッドで端役出演。二一年「默示録の四騎士」の主役に抜擢され人気スターとなる。以後十三作に主演したが夭逝。最近、二度目の伝記映画がルドルフ・ヌレエフ主演で

メアリー・ピックフォード

夢みるような思いこがれているような瞳がチャーミング
なメアリー 純情可憐派が大いにうけた時代であった



警官の娘にふんして大奮戦するコメディ活劇『アンニー可愛や』(1925) お得意の娘役だが、このときすでに32歳



「いちばん出来の悪い作品」とメアリー自身のいう『ロジタ』(1923)



3度目の夫となるバディ・ロジャーズと共に演じた『デパート女大学』(1927)



出世作「ニューヨークの帽子」(1912)



メアリー初のトーキーそしてアカデミー主演賞を得た『コケット』(1929)

昨一九七六年のアカデミー賞で、メアリー・ピックフォードは特別賞を受けた。もう八十年を越えていて、会場には出席できないから舞台のスクリーンに、自宅でオスカーを受け取ったときの模様が映しだされる。堂たる邸宅である。メアリーは、自室に静かに坐り、嬉しそうにオスカーを手にした。アメリカ映画の創成期に女優となり、一九〇年代末まで「アメリカの恋人」として騒がれたスクリーンのアイドルは、まだ健在なところである。初期のアメリカ女優は、純情可憐タイプと妖嬈タイプに分かれていたが、メアリーは前者の代表的な人気者だった。あとけなく、やさしく、純潔な処女が、逆境におかれながらも勇気をもつて立ちむかう、そんな役柄であつた。しかも彼女は少女のように小柄で、だから「リトル・メアリー」と呼ばれたりもししく、「嵐の國のテス」など、少女役の青春映画のヒロインが多い。ブロントの巻き毛、夢見るような瞳、まさに「アメリー」のものである。アメリカ映画がまだニューヨークに本拠地をおいていた時代に映画入りして、スター街道をばく進し、契約料を雪だるま式にふくらませていった経過は、さながら新興映画産業の驚異的な隆盛をそのまま物語っているかのようである。そういう意味でも、映画史に一ページを残す大スターなのである。(H)



『小公子』(1921) では少年と母親の二役を

ダグラス・フェアバンクス



ダグラスのイメージに最もぴったりな『三銃士』(1921) のダルタニヤン



奇傑ゾロの息子『ドンQ』(1925)



『鉄仮面』(1929) M・ド・ラモットと



妻メアリー・ピックフォードと初共演したトーキー『じゃじゃ馬馴らし』(1929)

とコメディをミックスさせ、意気軒昂なアメリカ精神とびつたり一致したのである。二十代になつてからは、『奇傑ゾロ』を作どし、『三銃士』、『ロビン・フッド』、『バクダーツドの盗賊』など、アクロバティックで縦横無尽にあはれまわる剣戟映画の主人公を演じますます人気を高めた。メアリー・ピックフォードとの結婚は、人気の頂点を飾るものだつた。ヨーロッパへ新婚旅行にてかけたときは何千ものファンに取り巻かれ、二九年に来日したときもたいへん騒ぎだつた。『アメリカの恋人たち』は、世界のアイドルとなつていたのである。(H)

相手役はルーベ・ヴェレツ
『バグダッドの盗賊』(1924) G・ジョンストンと

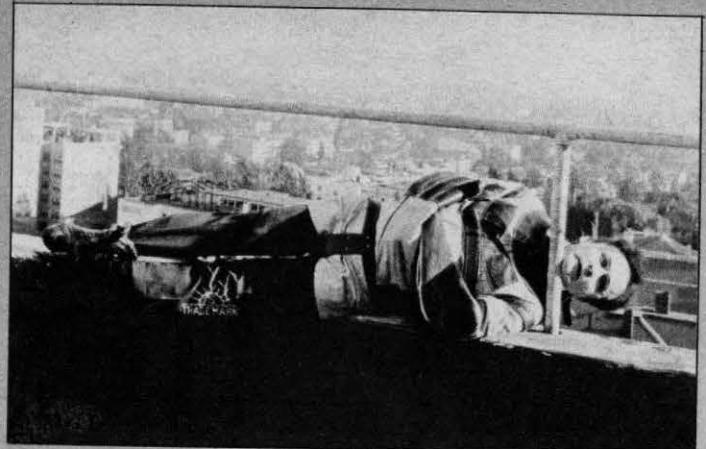
初期のアクション・コメディ『ドーグラスの蛮勇』(1917)



人気絶頂期のダグとメアリー夫妻

Douglas Fairbanks (一八八三—一九三九) 映画は台一九三九年から、一九一五年に映画入りし、プロードウェイの舞で喜劇、二〇年代には剣戟映画で一世を風靡した。メアリーピックフォードとは一九二〇年に再婚したが、三五年に別れて立派に再婚した。二七年、アカデミー協会設立に寄与し、初代会長をつとめた。ニアもスターとして活躍。

連續活劇のスター



魔術王フーディニの連続活劇 みごと脱出できますや 次週のお楽しみ



大ヒットした「ハリケン・ハッチ」の一場面



セダ・バラは3年間に39本に出演した。これは『シーザーの御代』(1917)のクレオパトラ



バーバラ・ラマールも妖婦型

ヴァンプ女優

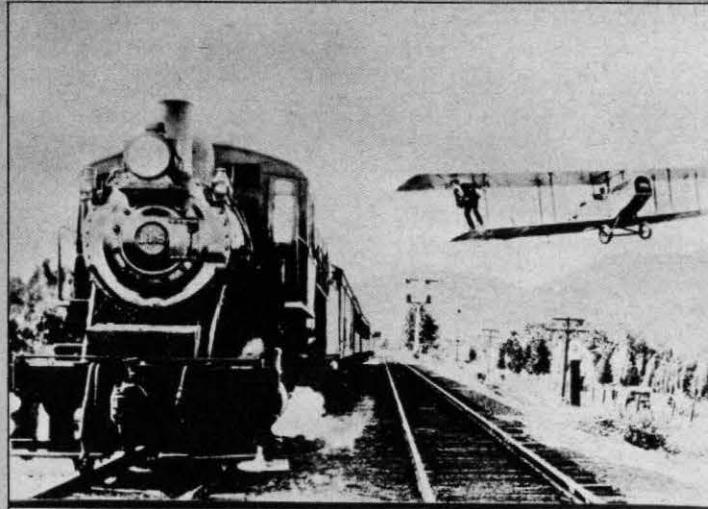
「ヴァンプ」とは、強烈なセックス・アピールで男を誘惑し、金と精気を吸いとれるだけ吸いとるヴァンパイア（吸血鬼）のような女である。一九一五年にセダ・バラが「愚者ありき」に抜擢されたとき、ヴァンプとして大々的に売り出され、一つの時代をつくった。日本では「妖婦」と呼ばれたが、本国でのようには人気を集めなかつた。大正期の日本男子は清純派のほうが好みだつたらしい。（H）



いかにも男の血を吸いとりそうなセダ・バラ



『血と砂』(1922) でヴァレンチノと共に演のニタ・ナルディ



『名金』(1925) で連続活劇の人気者となったエディ・ボーロ決死の活躍



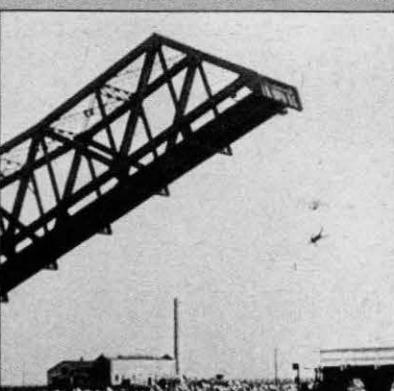
パールと並ぶ人気者ルス・ローランド



果たして彼の運命はいかに？



ハリー・フーディニの『氷原より激流へ』(1921)



自転車もろとも奈落の底へ



連続活劇の女王パール・ホワイト

大正期の少年ファンたちを熱狂させた連続活劇とは、ふつう一編が二巻程度で、全部で十編から十二編、巻数にして二十巻から二十四巻の続きものである。各編ごとに主人公の危機が設けられ、二人の運命、果たしていかにあります」と弁士（説明者）の名調子で、次に興味を持つなく。ええ、おせんにキャラメル、あんパンにラムネ……活動写真のダイゴ味をここに思い出す人も多いだろう。（H）



パールはかわいらしい美女であった



パール主演『電光石火の侵入者』(1919)

ウイリアム・S・ハート



「品性が高く信仰精神もあって 一種の男の哲学を感じられる」(南部圭之助)



大きなネッカチーフも独特のスタイルだ



W·S·ハート以前に「プロンコ・ビリー」として最初の西部劇スター G·M·アンダースンで活躍した。



「“S·ハートみたいに拳銃がうてる”という流行語が生まれた」(双葉十三郎)



当時のフィルムのコマを引き伸ばしたもので題名不詳



最初の西部劇 エド温イン・S・ボーター監督『大列車強盗』(1903)

アメリカ映画のヒーローには、"グッド・バッド・マン"、つまり、"善良な悪人"という系譜がある。悪事をはたらきこそするが、それが正義のためであつたり、心が善良なことを示していれば、許されるというタイプの男たちである。あるいは、悪人が善良な女性や子供の愛によって正義にめざめ、変貌する男たちである。

ウイリアム・S・ハートの演じた孤独でさうらいの西部男は、このタイプの原形といわれている。彼が映画入りしたとき、すでに四十五歳を越していた。それまで舞台で活躍していたが、当時の西部劇のいいげんさに腹を立てて、製作者トマス・H・インスに頼んで西部劇に出演させてもらったのだ、と伝説はつ

たえている。少年のころ、西部でインディアントと育ち、カウボーイの経験をもつたことのあるハートは、本物の西部をスクリーンにもちこもうとしたのである。馬づらに二挺拳銃というスタイルもいかにも西部男らしいが、孤独感と詩情をいつもただよわせて、独特的性格をつくった。ハートの登場によつて、西部劇は初めておとなな鑑賞にたえ得るジャンルになつたといわれる。

一九二五年に引退して牧場へ引っこむまで活動している。彼が映画入りしたとき、すでに四十五歳を越していた。それまで舞台で活躍していたが、当時の西部劇のいいげんさに腹を立てて、製作者トマス・H・インスに頼んで西部劇に出演させてもらったのだ、と伝説はつ



「威嚇的な二挺拳銃とボイスカウトのような帽子姿のやせた無口な男だった」(M・バーキンソン)

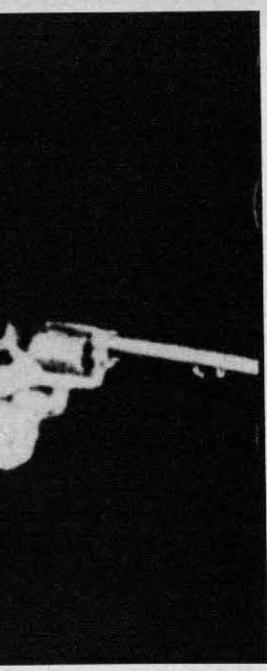


雄姿と孤独さをもった西部の騎士

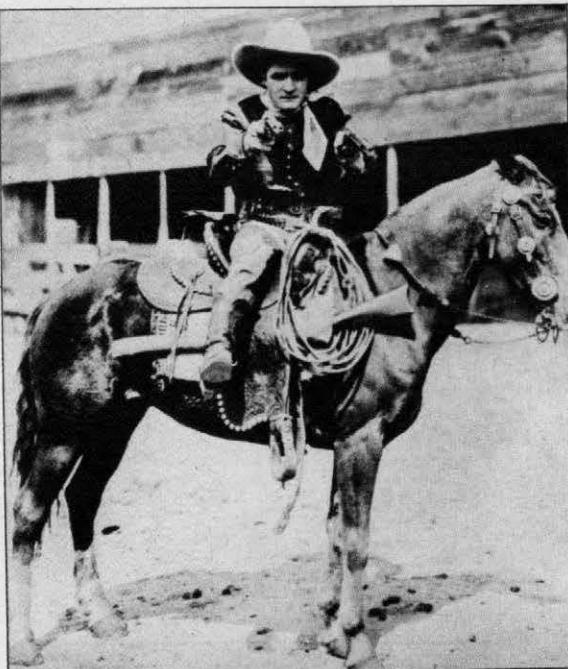


初期作品「帰って来たドロウ・イーガン」(1916) の二挺拳銃スタイル

ホース・オペラのヒーロー



早撃ちや曲馬で年少ファンに人気絶大だったトム・ミックス



ミックスは馬上で二挺拳銃を使うことなどお手のものだった



渋い魅力のハリー・ケリー



フート・ギブソンは“西部のあんちゃん”といったところ



グロリア・スワーンスン

☆ハリウッド一代女

日本ではモガ(モダン・ガール) モボ(モダン・ボーイ)といわれた時代の最尖端のファッションで……

グロリア・スワーンスンは小柄である。相手役の男優と並んで立つと背の低さはかくせないが、一人でスクリーンにあらわれると、いかにも堂々としている。美女というより、目鼻立ちが大きく、見栄えがするのである。映像の魔術にひたりとかなう容姿の持ち主なのである。

第一次大戦後の“狂乱の一九二〇年代”といわれた時代に、スワーンスンは社交界の女王として銀幕を飾った。時代の尖端をいく豪華けんらんたる衣装を着用において、最新型の乗用車で夜会場に乗りつけ、男友たちを手玉にとる。そんな、すべてが豪奢さにつつまれた役である。不道徳な愛にも走ろうとするが、けつきよく眞の愛にめざめる。豪勢な演出が売り物の大監督セシル・B・デミルの風俗メロドラマのヒロインとして一世代を築いたのであった。

私生活も豪奢そのもので、八百屋の支払いだけで月一千ドルだとか、ゴシップが新聞をにぎわさぬ日はなかった。一九二〇年代の半ばにはハリウッドきっての高給取りとなつた。まさに女王だった。

三〇年代以後は時折しか映画に出演せず、やがて映画界から忘れられたが、五〇年になつて「サンセット大道通り」で復活した。しかも、まるで彼女自身を連想させるようなもと大女優の役とは！ さらに二十四年後、「エアポート'75」とまた復活。ハリウッド一代女としてよ

大きな目鼻立ちがセクシーだった



西部劇のことを“ホース・オペラ”とは言い得て妙である。馬があつて、はじめてウエスタンは成立するし、馬、というより馬の使い手であるカウボーイの曲技がウェスタンの面白さを決定させる。馬と、ヒーローと、悪役と、娘役と、拳銃と、掘立て小屋、そして広漠たる西部があればもう西部劇は一本完成するのである。(H)



格闘の得意なウィリアム・ファーナム



デ・ミル監督による代表作『男性と女性』(1919) 上流階級の令嬢が無人島で眞の愛にめざめる



大スターに返り咲いたつもりでニュース・カメラの前に立つ『サンセット大通り』(1950)



彼女自身の役で乗客の一人に扮した『エアポート'75』(1974) これも懐しいマーナ・ロイと



店員が社交界入りする『勝られ者』(1924)



母物で歌も披露したトーキー初の『トレスバッサー』
(1929)

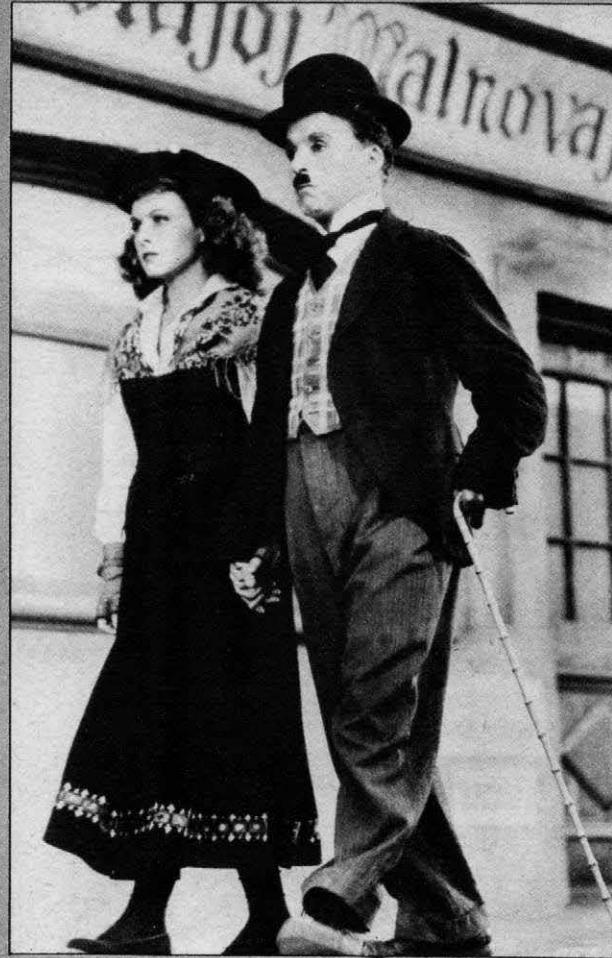


社会性をとりいれたメロドラマ『人間苦』(1920 デ=ミル監督)では後家さんに扮した

Gloria Swanson (一八九九-) 十四歳のときスクリーン・テストを受け、マック・セネットの海水着美人として映画出演。一九一九年、大監督セシル・B・デミルに抜擢されて彼の風俗ドラマのヒロインを六本つとめてビッグ・スターとなつた。結婚歴五回、公私ともにそのあとでやかさはなやかさ、話題は多い。



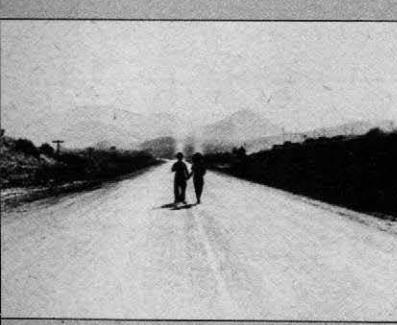
サヌセット・モームの「雨」の映画化『港の女』(1928)、共演ならびに監督—ラオール・ウォルシコ



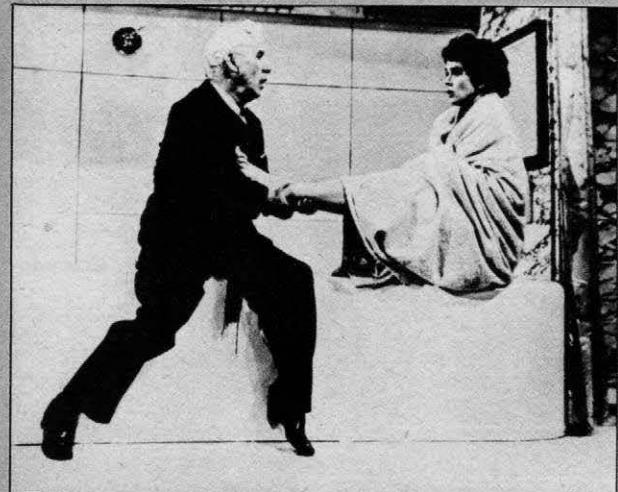
『独裁者』(1940)の相手役ボレット・ゴードーは3人の夫人



サーカスの娘（マーナ・ケネディ）へのやさしい愛——『サーカス』(1928)



『モダン・タイムス』(1936)のラスト



アナウンサー（ドーン・アダムズ）に惚れた『ニューヨークの王様』
(1957)



人妻（マーサ・レイ）を殺害せんとする青ひげヴェルドウ氏——『殺人狂時代』(1947)



躍り子（クレア・ブルーム）との老いらくの恋——『ライムライト』(1952)

チャップリンの名場面集はさほどめずらしくはないだろうから、ここでは女性との共演シーンばかり集めてみた。初期の作品の中で、チャップリンはいつも孤独にはじまり、美しい娘を愛するが、心をうちあけられずに、あきらめてさびしく後ろ姿で立ち去つていった。『黄金狂時代』・『サーカス』、とりわけ『街の灯』となると、これはもうひどくやさしかつた。徹底的にフェミニストなのである。『街の灯』で、盲目の花売娘に純愛を捧げるチャップリンのやさしさ、哀しさ。それは魂の絶望をすら感じさせる。もともと素顔のチャップリンは孤独な男だった。そのせいかどうか、女性には弱かつた。美しい娘、それも少女のような純情さのなか

に妖精的な魅力をもつた娘に出会うと、たちまちのぼせてしまうのである。会つた翌日には、もう求愛した、といったゴシップがよく流れたものである。離婚三回、結婚四回のほかに、いくつかのスキンシンドルがある。あるときは法廷に持ち込まれ、チャップリンは稀代の色事師のように責められたりもしたが、彼は青ひげではないのである。永遠の女性を求めてさまよつたフェミニストなのである。そのことは、いまあらためて彼の作品を見直すとよくわかつてくれる。すでに神聖な神話のなかにとじこめられてしまつたチャップリンだが、彼自身はあまりにも人間くさい、ごくあたりまえのちっぽけな男なのである。（H）

三大喜劇王

チャールズ・チャップリン



パントマイム芸のおかしさ哀しさ——『街の灯』(1931)



ジョージア・ホールと共に演じた傑作『黄金狂時代』(1925)



盲目の花売娘（ヴァージニア・チェリル）への恋——『街の灯』



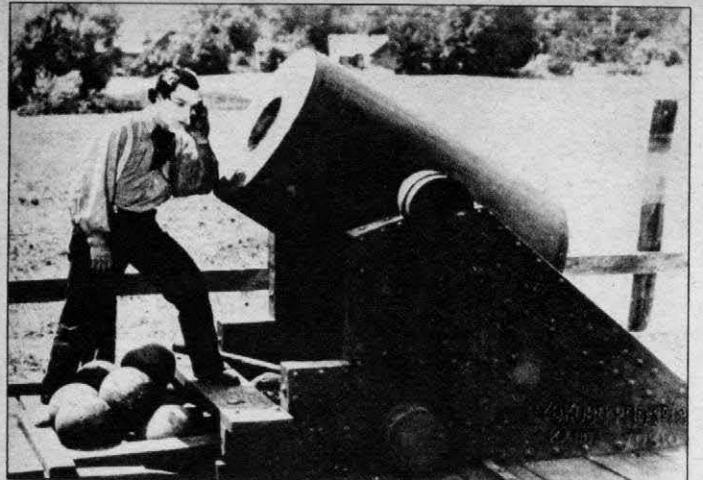
エドナ・バーヴィアンスとは息の合うコンビ——初期の『スケート』(1916)

三大喜劇王

バスター・キートン



Buster Keaton (一八九五年六月に芸人夫婦として初登場。一九一九年六月に映画の助演として舞台で人気喜劇俳優としてギヤーを始めたが、サインで喜劇マニアたちの笑い声を惹きつけた。一九一七年一月に映画『海底王』で喜劇映画の本格化を果たした。一九一九年七月に本格化した。



この大砲どうなっちゃってるの？——『キートンの機関車』(1926)



3分間の半熟がボク好みなんだ——『海底王 キートン』



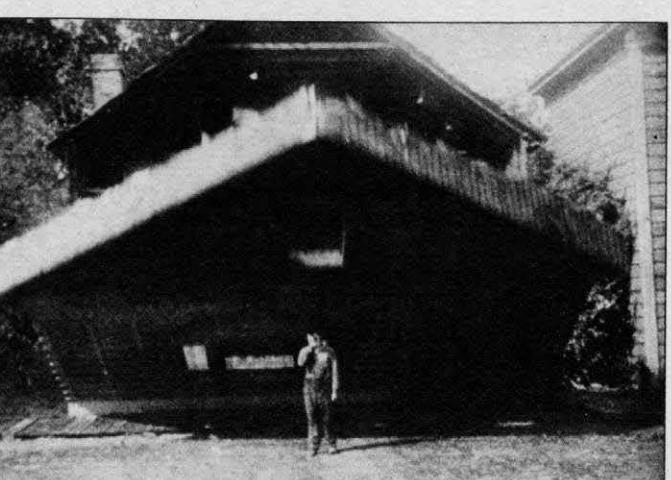
なんてよくつくライターなんだろう——『キートンの警官騒動』(1922)



美女を慕うのは石器時代の昔から——『キートンの恋愛三代記』(1923)



向いのビルに飛び移れますか？——『キートンの恋愛三代記』



家が倒れてくる 危い！ でも心配無用——『キートンの蒸気船』(1928)



『キートンの蒸気船』

たとえば上の写真は『キートンの蒸気船』だが、家の正面の壁が倒れてくる、あッ危い！と思いつや次のコマでは、キートンは倒れしまった家の二階の窓から傷つきもせずに立つて平然としている。また左上の『恋愛三代記』の次のコマは、向いのビルに飛び移ったキートンの空中大回転である。キートンのギャグは徹頭徹尾、動きによるものであるから、静止した一枚の写真でおかしさをつたえようとしても無理なのである。それを承知で、キートンのおかしさを紹介すべく、この見開きページを構成してみた。チャップリンの笑いと悲しさは、人間と人間の間から生まれる。キートンの場合は、彼と物との関係である。傘や帽子や大砲や、もつと大きな物では家や船や機関車とのアクロバティックなたたかいが笑いをひきおこすのである。『セブン・チャンス』では、追っかけてくる無数の花嫁候補すら、人間というより物体なのであつた。人間が演じる漫画として、キートンの右に出るものはない。(H)



哲人のごとく無表情なのがトレードマーク——『海底王 キートン』(1924)



この柔軟な肉体！——『海底王 キートン』



こんなに大勢の花嫁候補に追っかけられるとは！——『キートンのセブン・チャンス』(1925)



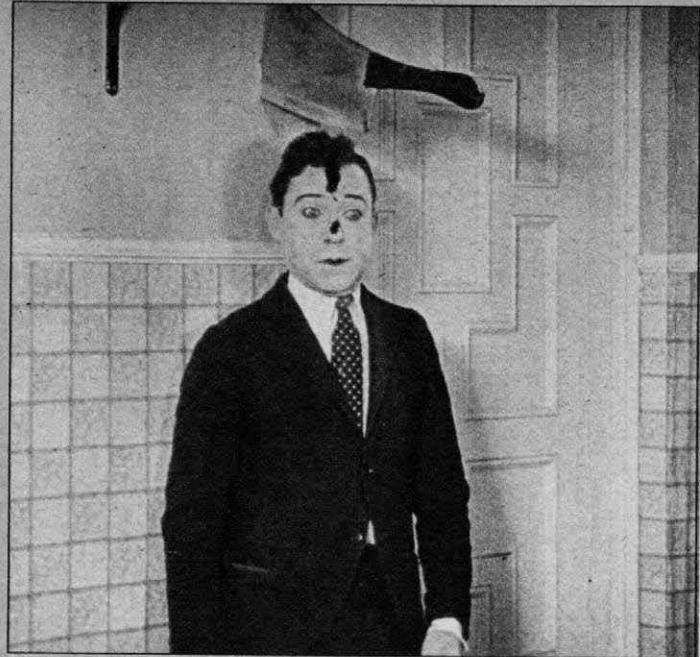
サラリーマンはつらいもの——『ロイドの家庭サービス』
(1924)



ロイドといえばこの場面 12階の大時計からの宙ぶらりん——『用心無用』(1923)

サイレント・クラウンズ

おかしな
喜劇俳優



白塗りでベビー・フェースのハリー・ラングドン



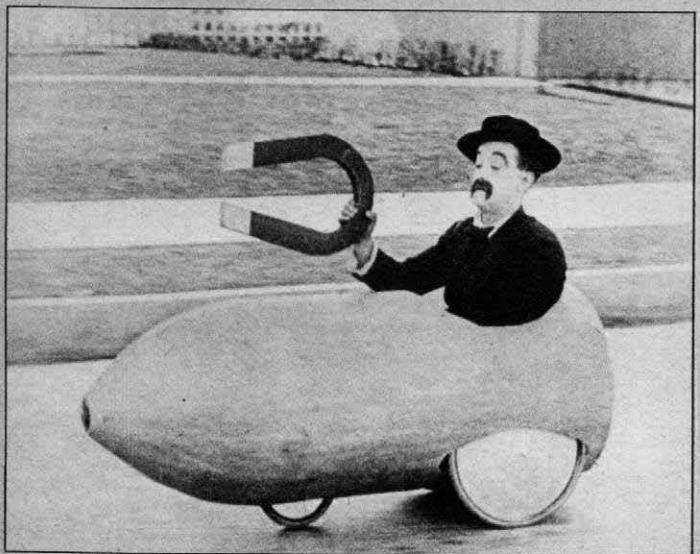
『両夫婦』(1914)のアーバックルとチャップリン



やぶにらみのベン・ターピン



チャップリンも育てたアメリカ喜劇の生みの親マック・セネット



“スナップ”ボラードは奇想天外なヒゲおやじ



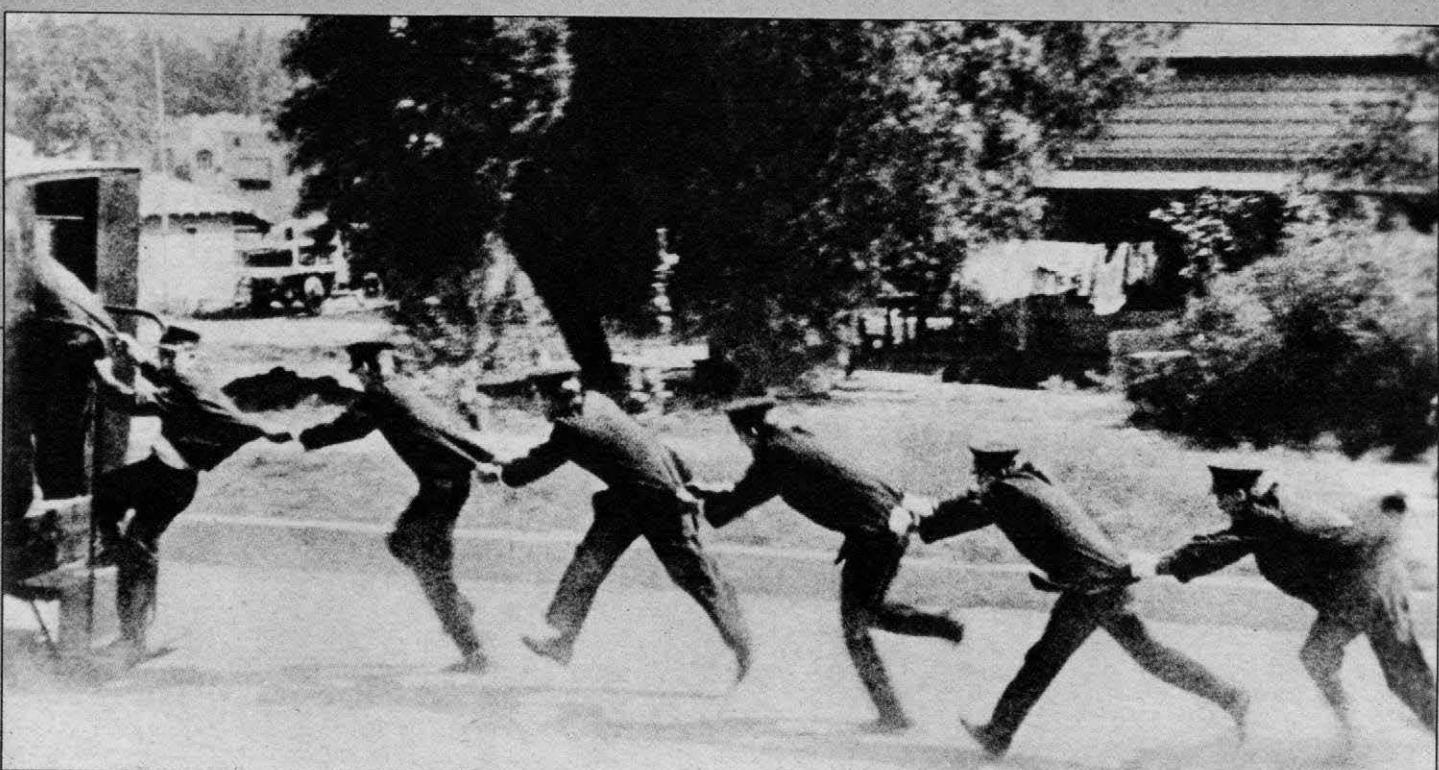
チャーリー・チェイスはとぼけた紳士



ターピンと珍犬カメオの『呑気な駅員』(1923)



サイレント末期から活躍したローレル／ハーディ・コンビ



“キーストン警官隊”は漫画のように大追跡を展開

サイレント映画のうちでも永遠の生命をたもつてゐるのはコメディである。やぶにらみ、でぶ、白塗りのベビー・フェース、でつかいヒゲの珍優・奇優。おかしな警官隊に、チラリズムの海水着美人。まるで漫画のように動きまわり、大追跡、ドタバタをくりひろげる。これぞ活動大写真ならではの“動き”的のおかしさ。人間がマンガチックになることの珍奇さ。日本では、ニコニコ大会」と称して、お正月やお盆の名物であった。(H)



サイレント喜劇名物“キーストン・コップス(警官隊)”右端は“でぶ”的アーバックル

★千の顔を持つ男

ロン・チャニー



『マンダレイへの道』(1926) では義眼の酒場経営者



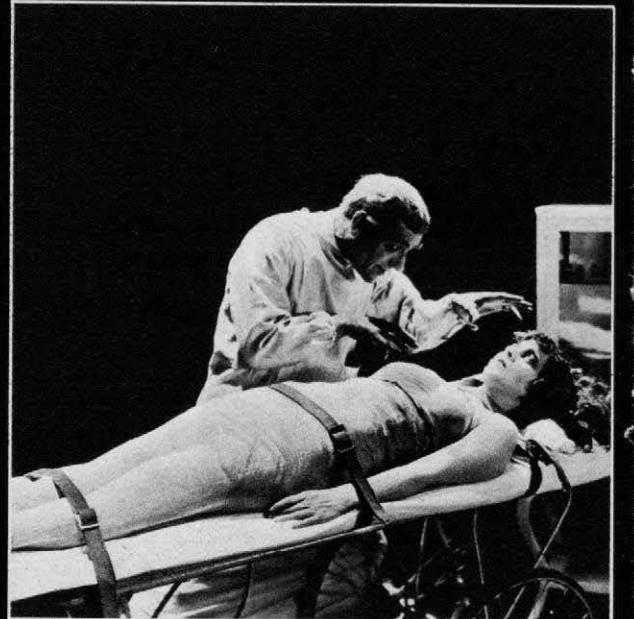
『ザンジバーの西』(1929) では中風の商人



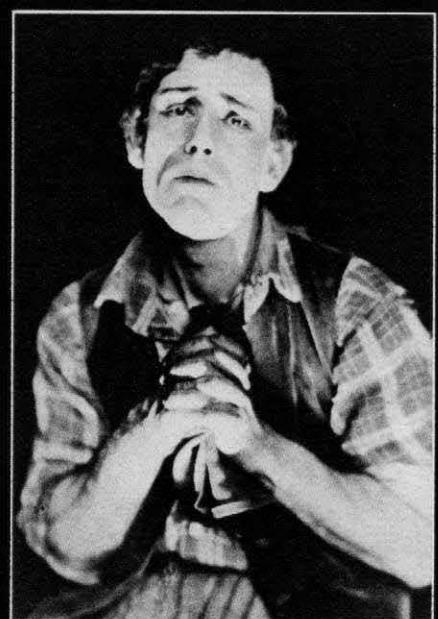
『オペラの怪人』(1925) では仮面の怪人



『法の外』(1921) ではギャング



『魔人』(1925) では狂える科学者



『狼の心』(1922) でもギャング



『ミスター・ワー』(1927) では中国人



『ノートルダムの偽僕男』(1923) ではカジモド



モンティ・バンクスの飛び移り術——『無理矢理ロッキー破り』(1927)



アル・セント・ジョンは曲技の持ち主

●海水着美人

現代ではやは使われなくなつた海水着といふ言葉は、胴長短足女性が消えていったのと時期を同じくして消え去り、水着という言葉が使われ始めたころから、女性の脚はいっしへ伸び、ウエストがくびれたのである——と人々は、いさかこじつけがましいが、海水着美人たちの、なんと素朴で愛らしいことよ！

海水着美人＝ベイジング・ビューティーズとは、喜劇の大製作者であったマック・セネットが、喜劇映画の添え花として編成したチャーミン



『やぶにらみ』ベン・タービンと海水着美人



常夏の海辺でも はいクリスマス・プレゼント



下着・水着の見本市とござい

格な女の子たち。彼女たちの出世頭は、初期ならば、グロリア・スワンソン、マリー・ブレヴォー。後期はキャロル・ロンバート。海水着美人は、大スターの養成機関でもあつた喜劇の大製作者であったマック・セネットが、スリップと一緒にしたような海水着を着た花も盛りの美女たちは、ある時は寄り目のベン・タービンと、またあるときは、でのアーバックルと共に演じて彼らの笑いを引き立たせつつ、世の男性の目を、可憐なエロティシズムで楽しませたのであった。(W)

☆イット・ガール

Clara Bow (一九〇五(六五)貧しい少女時代を送ったが、美人コンテストに優勝したのがきっかけでスクリーン・テストを受け、一九二二年映画デビュー。先端を行く女性アーティストで人気を得て、一九二七年「あれ」(二)に主演したところから「イット・ガール」と呼ばれた。スキヤンダルも多く、三〇年以後は不遇であった。



アイスクリーム売り場の娘とフレドリック・マーチの恋
『アイスクリーム艦隊』(1930)



若い人妻役で大ヒットした『人罠』(1926)



『つばさ』(1927) の従軍看護婦
チャールズ・ロジャーズと



細い眉 大きな眼のメイキャップは娘たちの間にも流行した



最後の作品『フープラ』(1933)では踊り子役

映画と風

●カーリー・ヘア

いわゆる、ボブ（髪型）“か知性を強調したヘア・スタイルであるなら、この“ボブ”に柔らかいふくらみをそえたクララ・ボウの“力”リリー・ヘア”（とは、当時は言わなかつたが）は、愛らしさを強調した“カワイイ子ちゃん”用のヘアである。

一九二七年に「あれ」のヒロインとしてチャーミングなデパート・ガールを演じたクララは、そのころ、社会に出て働いていた女性たちのおしゃれに大きな影響を与え、家に引きこもる良家の子女たちと違つて、何ごとにつけても積極的で前向きな彼女たちの格好の手本となつたのだ。

このクララ・ボウ・スタイルを取り入れた女の子弟たちは、『フラッパー・ガール』と呼ばれ、モダンでちょっとイカレた当時の働く女器に殿方のほほをゆるめ、口やかましいおばさま一族のひんしゆくを買ったのである。（W）



パリを訪れたヤンキー娘の恋 チャールズ・ロジャーズ共演『恋人強奪』(1927)

「フラッパー」という言葉がある。今でもちよ
つと古い人は、「うちの娘はフラッパーでね」
などと言う。一九二〇年代の後半、日本では
昭和の初期、フラッパーたちがアメリカ映画
にはつぎつぎと登場したのであった。お酒を
飲み、チャーチルストンの踊りに明け方まで興
じ、ボーカフレンドなど適当に楽しむ、そうい
う娘たちのことである。

クララ・ボウはその代表格だった。デパート、
ガール、ウェイトレス、看護婦など、仕事を

もつ娘の役が多く、だから小遣いには不自由しない。女性の地位が向上した当時の風潮を反映していたといっていいだろう。キューピッドのような唇、細くえがいた眉、大きな眼の化粧法、びちびちと躍るようなセリクス・アピールの可愛い娘だつた。その性的魅力は英語で「イット」(It)と表現され、映画の題名にまでなり、日本では「あれ」という題名で公開された。そこで彼女のことを「イット・ガール」と呼ぶようになった。(H)

エーリヒ・シュトロハイム

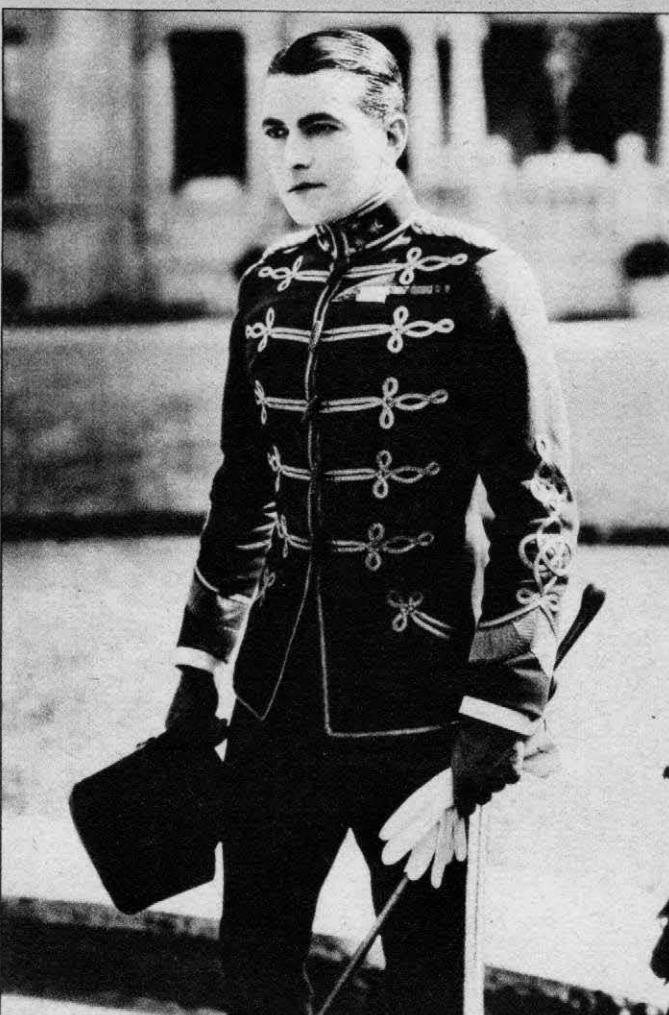
Erich von Stroheim (一八八五—一九五七) ヴィーンに生まれ、渡米して一九一四年映画入り。才ぶりを認められ、監督として一九一四年『アルプスの悲劇』で監督をつとめる。以後いくつかの秀作を発表。ハリウッドの規格に甘えず、三〇年代以後は脇役に甘く、ハリウッドのみずから主演もしたが、ハリウッドでは脇役に甘い時代があった。



美男ジョン・ギルバートと聰明な美女ノーマ・シアラー『殴られる彼奴』(1924)



31歳で天逝したウォーレス・リードとライラ・リーの『剣の輝』(1922)



美男の代表リチャード・バーセルメスの『ライト・ショール』(1922)

サイレント時代の一枚目と名花

エーリヒ・フォン・シュトロハイムを「怪物」と呼ぶのは、彼の風貌が怪物を連想させるからだけではない。アメリカ映画史上の異彩であり、ハリウッドの生んだ怪物の一人である。彼は監督であり、俳優であつた。一九二一年の『愚なる妻』、二三年の『グリード』といつた秀作で、強烈で執拗なりアリズム描写によって人間の本能、愚昧さをえぐりだした。これらの作品は常識をはるかに越えた長尺で

そのためには金社といふかを起こし、結局、監督としてはハリウッドからしませんでされた。俳優としては『愚なる妻』など自作に主演しているほか、一九五七年に没するまで、多数の作品に出演したが、坊主に近い短い髪、モノクルめがねの残忍なドイツ将校役や貴族役で独特的のキャラクターをつくつた。前身が謎につつまれていたことでも、まさに怪物である。(H)



貴族の息子に扮した『アルプスの悲劇』(1928) 相手役はフェイ・レイ



上記作品の前編にあたる『結婚行進曲』(1928) 相手役はザス・ビッツ

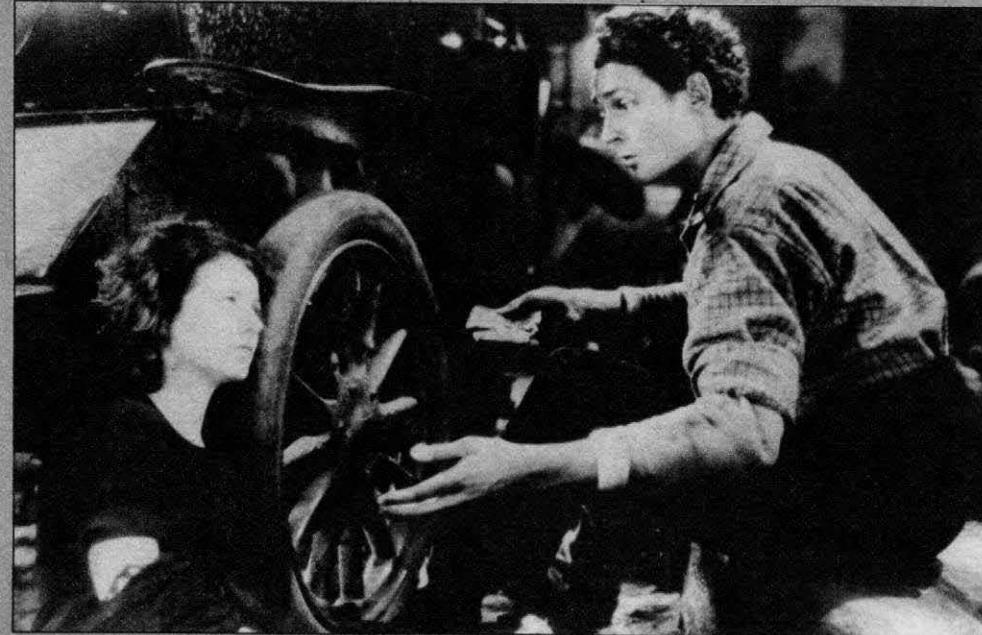


『大なる幻影』(仏1937) のドイツ将校



『サンセット大通り』(1950) のもと大監督 傑作『愚なる妻』(1921) では好色漢に扮して下女デール・フラーを誘惑





名コンビ ジャネット・ゲイナーとチャールズ・ファレルの『第七天国』(1927)



「ベン・ハー」(1926) のラモン・ノヴァロ



異国情緒あふれるメキシコの美女ドロレス・デル・リオ「紅の踊」(1948)



ポーランド出身の大女優ボーラ・ネグリ(右端)「禁断の楽園」(1924)

●コールマンひげ
かつてフランスでは、「ひげのない男性なんて、デザートのないディナーミたい」と言わされたそうだ。
まさにその通り、か、そうでないかは好きだが、格好いいひげというのは、時どして女心を狂わせる。いや、大変に狂わせるものであることは、一九二〇年代にハリウッドのロナルド・コールマンが、女性ファンを熱狂させたことで十分に証明されることだろう。

貴族的な風貌プラス、よく手入れされたコールマンのひげは、クラーク・ゲーブルのひげがセックス・アッピールの象徴であったのとはいささか趣きを異にし、紳士の象徴として、女性ファンの熱いため息を誘つたのであった。
コールマンが、そのひげを落としたのは『戦う巨象』(一九三五)がただ一度。なぜ落としたのかその理由を知りたいが、もはや彼はこの世にいない……。(W)

ひげが男っぷりをひときわひきたてたロナルド・コールマン



純情可憐で薄幸のヒロインとして日本でも人気の高かったリリアン・ギッシュ 左「ホワイト・スター」(1923) 右「東への道」(1920)



異色の二枚目ジョン・バリモアの「ドン・ファン」(1926)



美貌の演技派アラ・ナジモヴァ



これも断髪で可愛らしいコリン・ムーア



断髪女優ルイーズ・ブルックス

●ボブ・ヘア

大正時代から撮影所の髪ゆいさんとして働いていた伊奈もとさんは、その著書「髪と女優」の中で、「大正末期に恐慌をきたしたのは、断髪の流行でした」と書いていらっしゃる。そして、「撮影所では女優各位に、断髪を禁止する命令が貼紙となつて出ました」のだそうだ。

このボブ・ヘアつまり断髪ブームの火元になつたのがルイーズ・ブルックスという一九〇〇年生まれのハリウッド女優だった。彼女は、フロレンツ・ジーグフェルドが主宰するジーグフェルド・フォーリーズの一員から映画界入り。一九二五年『或る乞食の話』で映画デビューしたのだが、このときの売り物が、ほつそりとしなやかな肉体とボブ・ヘアであった。

以来、断髪といえば彼女の名があがり、ルイーズの名は当時のモダン・ガールの象徴となつたのである。(W)

★神聖
ガルボ帝国

グレタ・ガルボ

『アンナ・クリスティ』(1930)



妖嬈ぶりが魅力だった『肉体と悪魔』(1927) 名コンビのジョン・ギルバートと

神聖ガルボ帝国——と、かつて人々は彼女の
侵すべからざる美しさをこう評した。
グレタ・ガルボの美しさは、顔であった。北
欧のスフィンクス、北欧のモナ・リザ、とよ
ばれたグレタ・ガルボの、あの蒼ざめた、ひ
やかなナゾめいた微笑、あの大理石の彫像
を想わせる伝説の顔、ハリウッドが洗練した
異常なまでの——非人間的などさえ言つてい
いくらいの——クールな美しさ。ガルボの顔
は、『世紀の顔』とよばれ、ただ一度しか生ま
れない、まさしくユニークな美でありながら、
同時にその後の女の顔の美しさの基準ともな
った。たとえば、イングリッド・バーグマン
がハリウッドに出現したとき、まず、『第二
のガルボ』という表現で、その顔の美しさが
絶賛された。カトリーヌ・ドヌーヴのひやや
かな顔の美しさもまた、『第二のガルボ』と
形容された。ドミニク・サンダも、『第二のガ
ルボ』と言われ、つい最近では、『パリー・リ
ンドン』のマリサ・ベレンソンも、『第二のガ
ルボ』と絶賛された。そして、これからもす
と、『第二のガルボ』の出現は跡を絶たない
にちがいない。ガルボの顔は、女の顔の永遠
の美の典型になつてゐるのである。ブリムの垂
れた帽子をかぶつてえりを高く立てたトレニ
コートを着れば、『ガルボ・ルック』と言わ
れた時代もあつたほど、ガルボ
がファッショニ与えた影響も大きい。(Y)



ロシアの女スパイが悲恋に泣く『女の秘密』(1928)



放縱な男性温歎をへて眞実の家庭愛にめざめる『船出の朝』(1929) 共演ジョン・マック・ブラウン



ガルボ・ファンにとってはこれぞ完璧な美『クリスチナ女王』(1933)



ロバート・テイラーのアルマンを相手に『椿姫』(1934)



ガルボ最後の作品『奥様は顔が二つ』(1941) このとき36歳



ソ連のおかしい女闘士をめぐるラヴ・コメディ『ニノチカ』(1939)



女間諜の悲恋『マタ・ハリ』(1931)



農夫の娘に扮しクラーク・ゲーブルと激しい恋を演じる『スザン・レノックス』(1931)



囲われ者のブリマドンナ『ロマンス』(1930) 共演ゲーヴィン・ゴードン

映画と風俗



はじめてガルボがしゃべった！『アンナ・クリスティ』(1930)

●ガルボ・ハット
釣鐘型のクローシュよりすこしつばの広がった帽子を称してガルボ・ハットと呼んでいるが、全盛期のガルボが愛好したのはベレーだったという。

大柄で、肩幅が広かつた彼女は、専属デザインのすめにしたがって、シンプルなセータートとスラックス・スタイルを愛用。スクリーンでも、レースや宝石をあまり使わない地味なドレスで、神秘的な美貌を際立たせたのであつた。

ガルボの人気が絶頂だった一九二〇年代から三〇年代にかけて、女性たちは帽子をかぶるのが常識で、だから、映画の中のガルボはほとんど帽子をかぶっているのだけれど、それらの帽子の大半は、いわゆる「ガルボ・ハット」ではない。

「ガルボ・ハット」とは、一体だれがいいだしたのだろうか？(W)

☆百万ドルの脚 マルレーネ・ディートリッヒ



『プロンド・ヴィナス』(1932)



もった名刺を海に捨て さいはてのモロッコへ向かう歌姫アニー・ジョリー 『モロッコ』(1930)



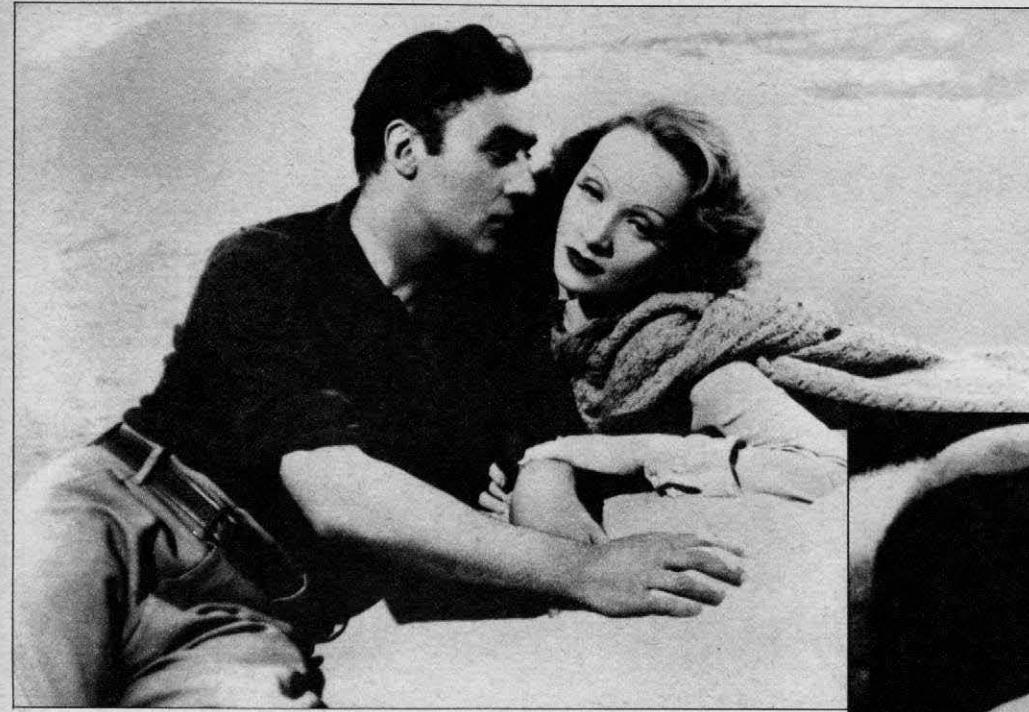
『嘆きの天使』(独1930) 下賤なキャバレーの歌い手ローラ——ディートリッヒの出世作

百万ドルの脚——といえば、まず文句なしにマルレーネ・ディートリッヒだ。一九三〇年代に、実際、彼女の美しい脚には百万ドルの保険金がかけられていたそうだ！たしかに、『百万ドルの脚』の伝説もそこから生まれたかも知れない。

マルレーネ・ディートリッヒの神話の創造者は、言うまでもなく、ジョゼフ・フォン・スタンバーグ監督である。ドイツで撮つた『嘆きの天使』からはじまつて、『モロッコ』『間諜X27』『上海特急』『ブロンド・ヴィナス』、そしてふたりのコンビの最後の作品になつた『西班牙狂想曲』に至るまで、スタンバーグがあつてのディートリッヒか、ディートリッヒであつてのスタンバーグかと言われるくらい切

つても切り離せない関係であった。一九三〇年代前半のこのスタンバーグ映画の時代に、マルレーネ・ディートリッヒの妖嬈的なイメージ、いわゆる「ファム・ファタール」(男たちを破滅に追いこむ女)の伝説が確立された。しかし、同時に、死を賭けても愛する男の命を救う『間諜X27』のヒロインや砂漠の熱砂を行く『モロッコ』のヒロインのように、『狂恋』の女の伝説も生まれた。

脚線美以上にディートリッヒのトレードマークになったもの——それはタバコであつた。くすぶる煙の中からじつとらむ神秘的な瞳の魅惑。タバコはディートリッヒの芸術とまで言われた。(Y)



灼熱の砂漠での修道僧（シャルル・ボワイエ）との悲恋『砂漠の花園』(1936)

Marlene Dietrich（一九〇一～一九九二年）は、ドイツ中流貴族の娘として名前を売るうち、「スター」に昇進。一九三四年には、『アーヴィング・ラブの恋のスケッチ』で、反骨の精神が見事な脚線、かっこいい「女神」像として世界中の女性たちから大いに支持された。女優として世界で最も偉い人物の一人と認められた。歌姫として歌うと、歌の才能が認められ、『三日三夜』（一九三四年）で監督デービッド・リッヒーが「彼女の歌は、歌の神殿である」と絶賛した。



セビリヤの歌い女で 妖婦と噂されるコンチャ『西班牙狂想曲』(1935)



夫と子のある地方のカフェの歌手『プロンド・ヴィナス』(1932)



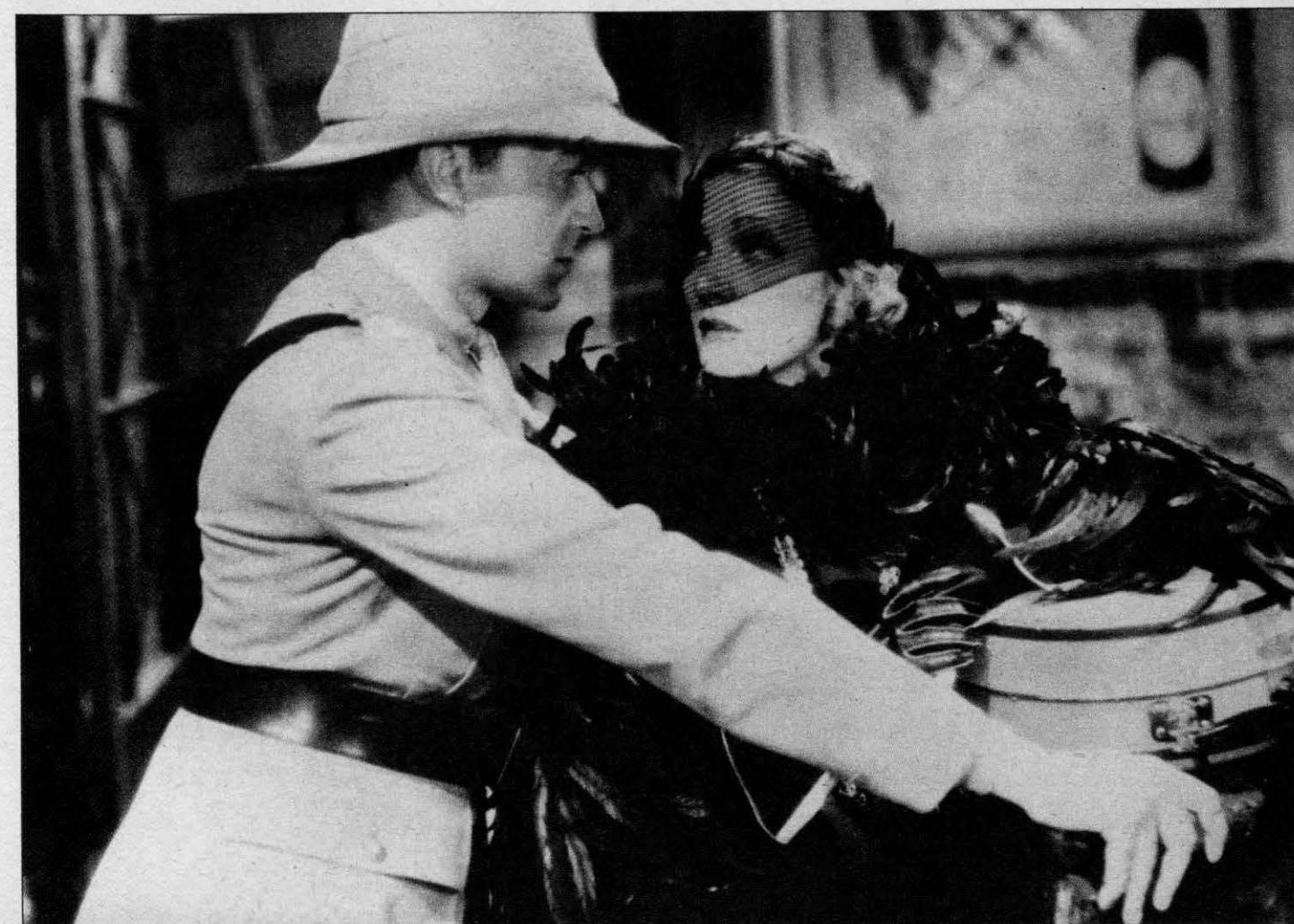
宝石泥棒ディートリッヒのこの妖艶さ『真珠の頸飾』(1936)



セビリヤの歌い女で 妖婦と噂されるコンチャ『西班牙狂想曲』(1935)



57歳にしてこの脚線美！『情婦』(1958)



中国大陸を走る特急列車で クライヴ・ブルック扮する英軍大尉は過去ある女“上海リリー”に再会した『上海特急』(1932)



女伯爵に扮し 話題の入浴シーン『鎧なき騎士』(英1937)

☆永遠の
ヤンキー青年 ゲーリー・クーパー



『海の魂』(1937)

永遠のヤンキー青年 ノッポで人がよくて照れ屋で健康的で、正義感が強く愛国心に燃えるさわやかなゲーリー・クーパーは、老になつても、『永遠のヤンキー青年』のイメージを失わなかつた。『ヨーク軍曹』に次いで二度目のオスカーを受賞した『真昼の決闘』のクーパーは、すでに五十歳、初老の保安官の役で、若き日のさつそつたるイメージこそなかつたが、『アメリカの良心』を一身に背負つて、澄んだ瞳の永遠のヤンキー青年の面影を失つてはいなかつた。けつして悪役を演じることのできなかつたスターだ。クーパー自身も、つねに『平均的アメリカ人』を演じることを心かけ、そう評価されることを望んだ。

マルレーネ・ディートリッヒと共演した『モロッコ』は、アメリカでは『ディートリッヒが主役で、クーパーが準主役というランクであつたが、日本のファンは承知せず、ランクを逆転させてしまつた。アラン・ドロンの場合と同じように、ゲーリー・クーパーをスターにしたのは、ある意味で日本のファンであつたとも言える。それほど、ゲーリー・クーパーの健全で清潔感にあふれた二枚目ぶりは日本人好みの毒のないタイプであつたということもなる。

一見無器用な感じで、ちよいとあみだにウエスタン・ハットをかぶつたカウボーイ姿がよく似合つた。(Y)

うぶでひとすじな外人部隊の若者トム・ブラウン『モロッコ』(1930)

「悪く思うなよ」のセリフをはやらせたちんびらギャングのキッド『市街』(1931)



クーパーはやっぱり西部劇 若き日のさっそうたるガンマン『テキサス無宿』(1930)



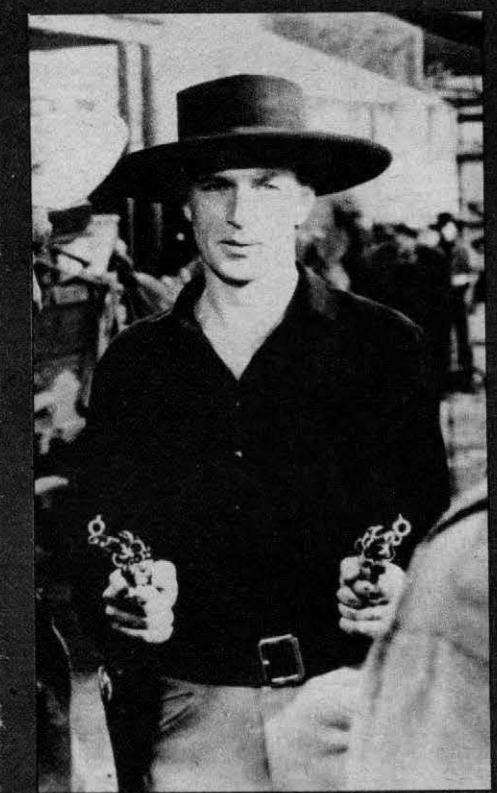
上海を舞台にした『將軍晩に死す』(1936)



スペイン戦争の義勇兵となったロバート『誰がために鐘は鳴る』(1943)



3人の無法者に1人で挑戦する『真昼の決闘』のクライマックス



『平原児』(1936) のワイルド・ビル・ヒコック



歯科医が貞淑な妻（フランセス・フラー）との愛を確認するまで『或る日曜日の午後』(1933)



初老の保安官役で2度目のオスカー『真昼の決闘』(ハイ・ヌーン) (1952)



民主主義をうたいあげる『群衆』(1940) バーバラ・スタンウィックと



無法者のテキサスの馬泥棒『西部の男』(1940)



ヘミングウェイの名作の映画化『戦場よさらば』(1932) 共演ヘレン・ヘイス



娘のようなオードリーとの恋『昼下りの情事』(1957)

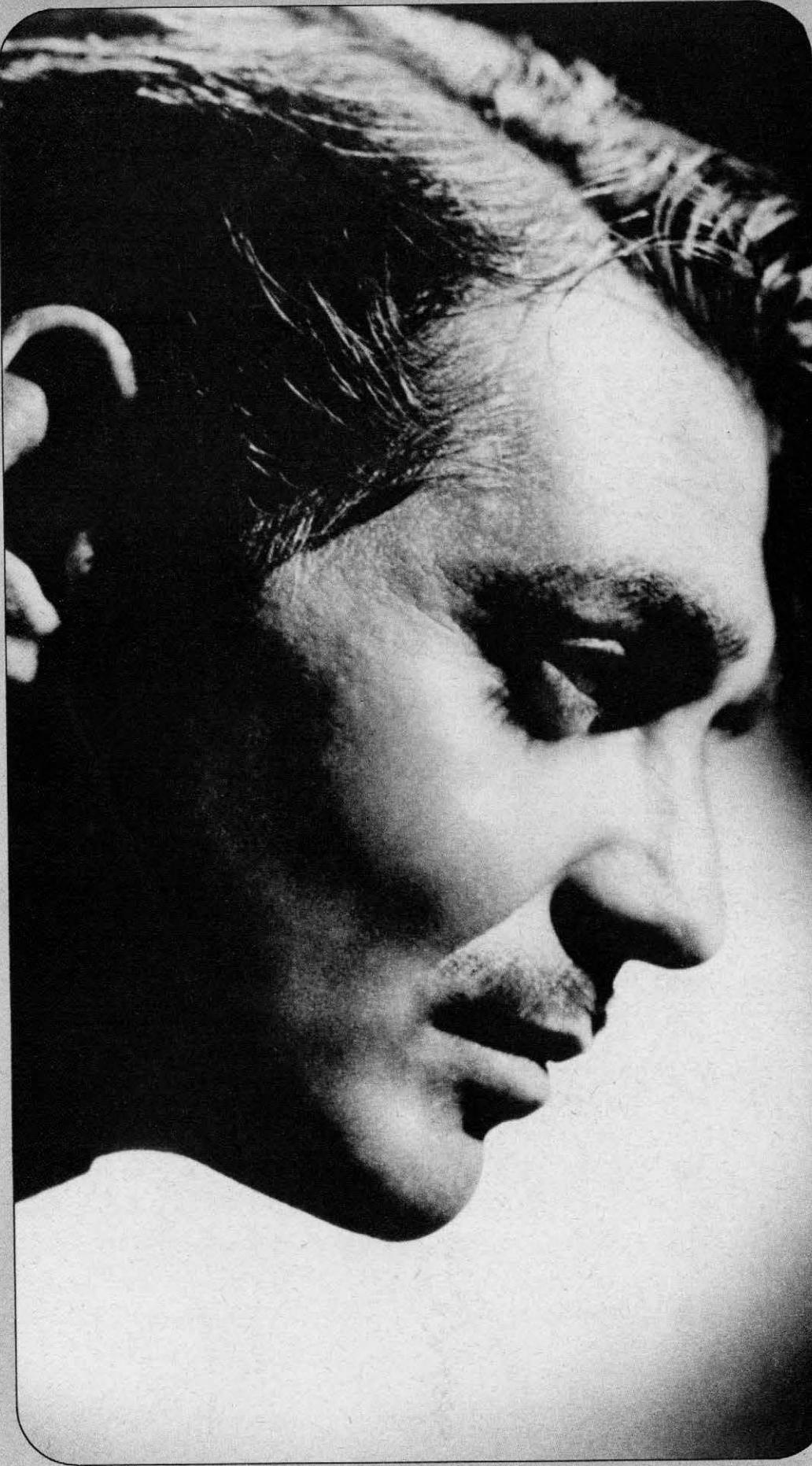


3人の無法者に1人で挑戦する『真昼の決闘』のクライマックス



第1次大戦の武勲者の実伝『ヨーク軍曹』(1941)でアカデミー主演賞 共演ジョン・レスリー

☆ハリウッド クラーク・ゲーブル



1945年（スナップ）



地下組織の若いボスに扮し ひげのない『自由の魂』(1931)



海の男で半裸のセクシーぶり 『南海征服（戦艦バウンティ号の叛乱）』(1935)



社長秘書ジョン・クロフォードを愛する牧場主 『私のダイナ』(1934)

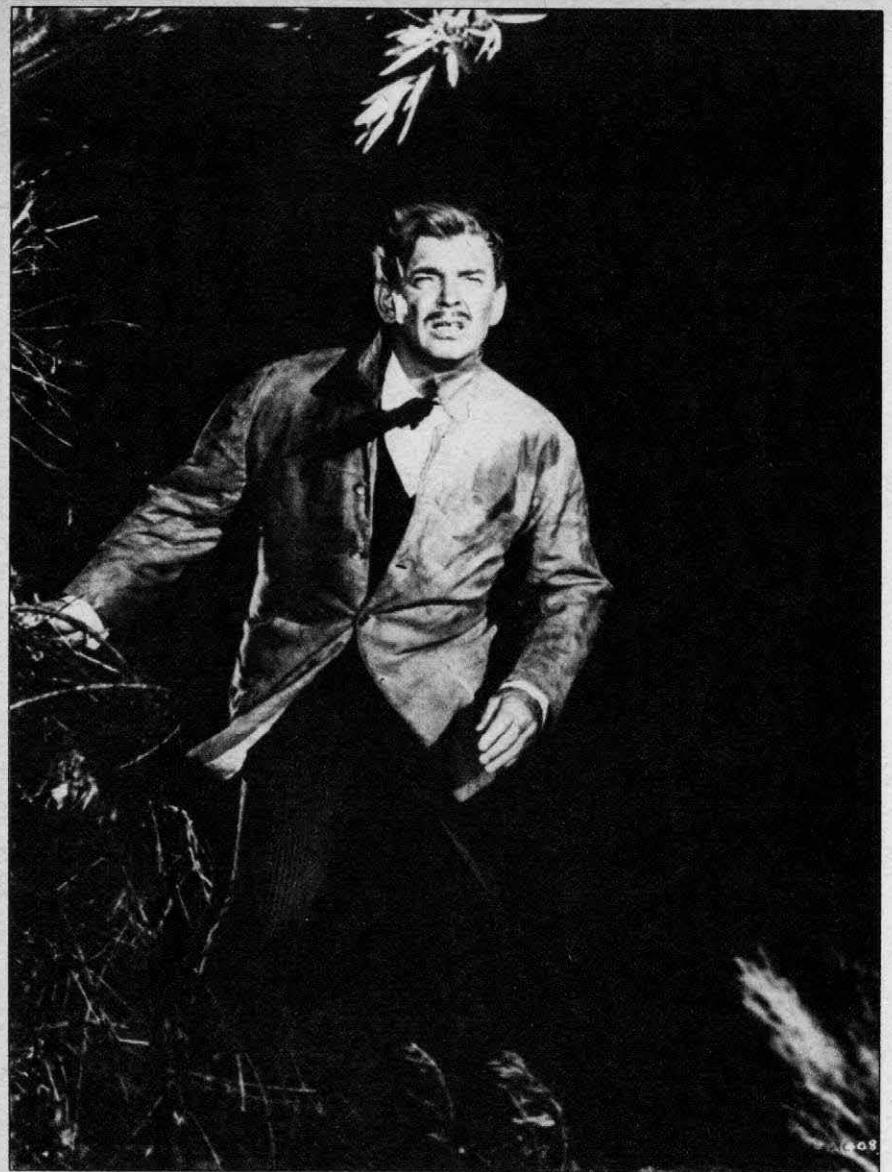


ゲーブルのめずらしいミュージカル・シーンは日本未輸入「魔か者の楽園」(1939)

ハリウッドのキング——というニックネームをクラーク・ゲーブルにつけたのは、ゲーブルの親友であつたラオール・ウォルシュ監督であった。『ながれ者』『南部の反逆者』といふ二本のラオール・ウォルシュ監督作品のクラーク・ゲーブルは、いずれも、『キング』すなわち“王様”とよばれるにふさわしいヒーローを演じた。『ながれ者』の原題は、「キングと四人のクイーン」。ゲーブルは、もちろん“キング”的役である。これはすでに一九五〇年代の半ばすぎ、すなわちはとんど晩年の作品のイメージだが、彼のキャラクタそのものが“ハリウッドのキング”にふさわしい重みをもつていた。一九六〇年代末にクラーク・ゲーブルが死んだ時、ハリウッドのリボータ

ーたちは、こそつて、“ハリウッドのキングが死んだ……”と書いて、その死を悼んだのであつた。

一九三〇年代、ギャング映画の悪役としてそのキャラクターをはじめた当初から、クラーク・ゲーブルは女性ファンにとってセックスト・アビールのシンボルであつた。『或る夜の出来事』で喜劇的才能をさらめさせ、アカデミー主演男優賞を受賞。やがて『風と共に去りぬ』というハリウッド史上最大の超豪華作品が、“キング”的名にふさわしいクラーク・ゲーブルのために企画・製作された。私生活でも“キング”的名に恥じない寛大さと正義感と統率力をもつていた男性だったそうだ。(Y)



10万ドルの金貨を追う『ながれ者』(1956) ますます男っぽい初老のゲーブル



富豪と奴隸女（イヴォンヌ・デ・カーロ）の愛『南部の反逆者』(1957)



ゲーブルの死後『面影』(1976) で映画化されたゲーブルとキャロル・ロンバード夫妻

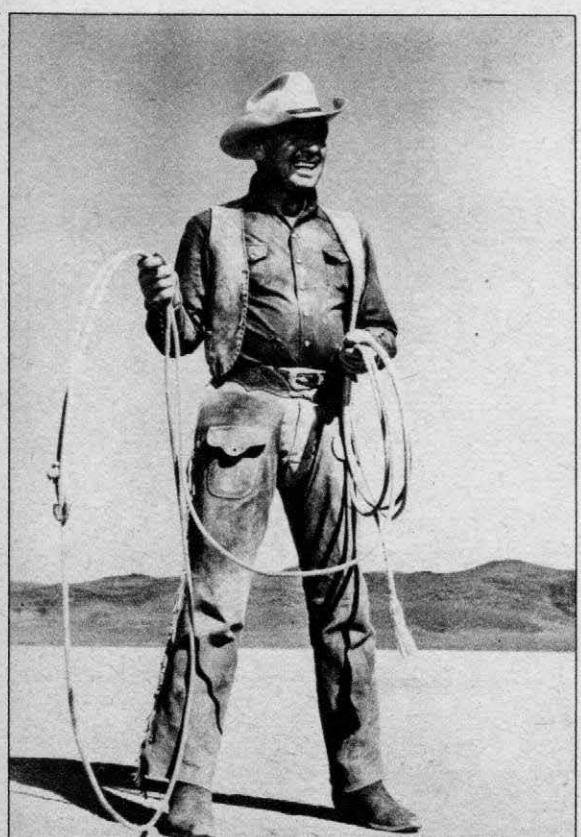


右手にガン・ホルダー 左手にカード『無法街』(1941) のイカサマ賭博師

Clark Gable (一九〇一～六〇)
年でヤレバ役の下舞台の端役、エキストラ、
失ふ結婚歴は『風と共に去りぬ』でオスカー受賞。
彼に暗い影は『風と共に去りぬ』でオスカー受賞。
ロンバードは『風と共に去りぬ』でオスカー受賞。
夫婦は『風と共に去りぬ』でオスカー受賞。
妻は『風と共に去りぬ』でオスカー受賞。
夫婦は『風と共に去りぬ』でオスカー受賞。
夫婦は『風と共に去りぬ』でオスカー受賞。



きわめつけ『風と共に去りぬ』(1939) のタラ農園でのラブ・シーン



69

この『荒馬と女』(1961) 完成4日後 他界した



アフリカのゴリラ狩りと三角関係『モガンボ』(1953) エヴァ・ガードナーと



令嬢（クローデット・コルベール）との愛の道中『或る夜の出来事』(1934) オスカー受賞作



多言無用 レット・バトラーとスカーレット・オハラ

68

☆踊るカップル

フレッド・アステア & ジンジャー・ロジャーズ



壁から天井へさかさまになって踊る有名な『恋愛準決勝戦』



シド・チャリシーと舞をみせた『バンド・ワゴン』(1953)



これはジェーン・バウエルとのデュエット『恋愛準決勝戦』(1951)



この『空中レビュー時代』(1933)によって黄金コンビが誕生した



「ザッツ・エンターテイメント PART 2」(一九七六)でもジーン・ケリーと踊りまくるすでに七十六歳だ



戦後再共演の「ブロードウェイのパークレイ夫妻」(1949)

Fred Astaire (一八九九—)
Ginger Rogers (一九一一—)
ともに舞台出身で、三〇年代初めから映画に出ていたが、三年『空中レビュー時代』で初共演してダンス場面を演じたのが好評で、三年にいたるまで九本の作品に共演し、踊るカップルとして人気を得た。それ単独でも話題作が多い。

「カッスル夫妻」と、珠玉のナンバーがならぶ。
一九三〇年代を代表するダンス・チームであると同時に、ドル箱コンビでもあった。軽快でさわやかなタップの音色が、この踊るカップルには欠かすことのできない要素だが、このコンビのイメージがつねに上流階級のアッショーン、社交界の恋愛遊戯、ソフィスティケーテッド・コメディの粋のセンスにささえられていたことを見るのがすむにはいかない。その意味では、ハリウッドの黄金時代のたわいのない夢にあふれたロマンティック・コメディであった。歌って踊れば、たちまち人生が明るくなるという、まさに楽天的なムードが、このダンシング・カップル的魅力であった。

踊らん哉！——まさにこれこそアステア&ロジャーズの魅力の力技である。(Y)



アステア&ロジャーズ最盛期の一作『艦隊を追って』(1936)



甘く軽快で、流れるようなデュエット。みごとに息の合ったコンビだった『カッスル夫妻』(1939)

歌つて、踊つて、笑わせて



トーキーならではの魅力 アル・ジョルスンの歌が聞こえる!『シンギング・フル』(1928)



エディ・カンターの『カンターの闘牛師』(1932)



トーキー第1作『ジャズ・シンガー』(1927) のアル・ジョルスン



パリジャンなまりで歌いしゃべるモーリス・シュヴァリエの代表作『ラヴ・パレード』(1929) 共演ジャネット・マクドナルド



マルクス兄弟はナンセンスな笑いの宝庫 これは『オペラは踊る』(1935) の「ぞくぞくご来室 押すな押すな」の傑出ギャグ



シュヴァリエとマクドナルドの小粋な『メリイ・ウイドウ』(1934)

一九二七年、アル・ジョルスンが「マイ・マイ……」と歌う「ジャズ・シンガー」をもつてトーキー時代がはじまた。舞台からや踊りや笑いの芸人たちが、ぞくぞくと映画入りした。昨日まで音を持たなかつたハリウッドは、いまや陽気な歌の都だ。にぎやかにぎやかである。(H)



W·C·フィールズも30年代の人気者「デーヴィッド・カッパー・フィールド」(1934)

ジエームズ・キャグニー

★汚れた顔の天使



ヤング俳優としての出世作『民衆の敵』(1931)



映画スターになってしまうギャング『スタア懲殺』(1933)



黒街にのしあがっていく若者『民衆の敵』



ギャングとたたかう「Gメン」(1935)にも主導した



今一つは『汚れた顔の天使』(1938)。共演ハンフリー・ボガート

汚れた顔の天使——というのは、ジエームス・キヤグニー主演のギャング映画の名作の題名で、じつはこの映画に出てくる不良少年たちが「デット・エンド・キッズ」を指しているのだが、いつのまにかキヤグニーそのひと時代名词になってしまった。『汚れた顔の天使』が世界中で最も愛されたジエームス・キヤグニーの映画なのだ。

『民衆の敵』から『白熱』に至るまで、キヤグニーくらいスピーディなアクションで世にも極悪非道な——しかもつねにマザー・コンブルックヌ気味のひねくれた——悪党やギャングを演じたスターはいなかつた。残忍な微笑の中に、多くの女性ファンが、やしさに飢えた悲しい男の顔を見た。

女性の顔にグレー・フルーツを押しつけたり(「民衆の敵」)、レディの尻を思いつきり蹴飛ばしたり(「拳闘のキヤグニー」)、若い女の髪をひつぱつて引きずりまわしたり(「スター悩殺」)、とにかくこのチビの大スターがやることは直情型で兇暴であつたが、その反面、母親にはひざまずいて泣きすがるという弱さをはげしく表現した。



これはボクサー役『栄光の都』(1941)で
アン・シェリダンと



『白熱』(1949)でヴァージニア・メイヨと



1920年代のギャングの一代記「彼奴は頽役だ！」(1939)でボガートと



ジョージ・ラフトと共に演じた囚人役『我れ暁に死す』(1939)



脱獄ギャングの兇暴さ『明日に別れの接吻を』(1950)



いなせなギャング役で人気のあったジョージ・ラフト『パワリー』(1933)

ガンジンギヤング俳優

一九三〇年代のハリウッドはギャング映画の時代でもある。ついさきのうまで新聞の社会面をにぎわしていたカボネやデリンシャーをモデルにしたギャング映画がつづき登場し、凶暴なギャングを演ずるキャグニー、ショーン・ラフート、エドワード・G・ロビンソンらのスターが誕生した。クーパーやゲーブルもギャング映画に出演したことがある。(H)



めずらしい西部劇『追われる男』(1955)



歌手ドリス・ディにつきまとうボス『情欲の悪魔』(1955)



ギャング映画の傑作『暗黒街の顔役』(1932) のポール・ムニ



に虫を噛みつぶしたようなエドワード・G・ロビンソン『夜の大統領』(1931)

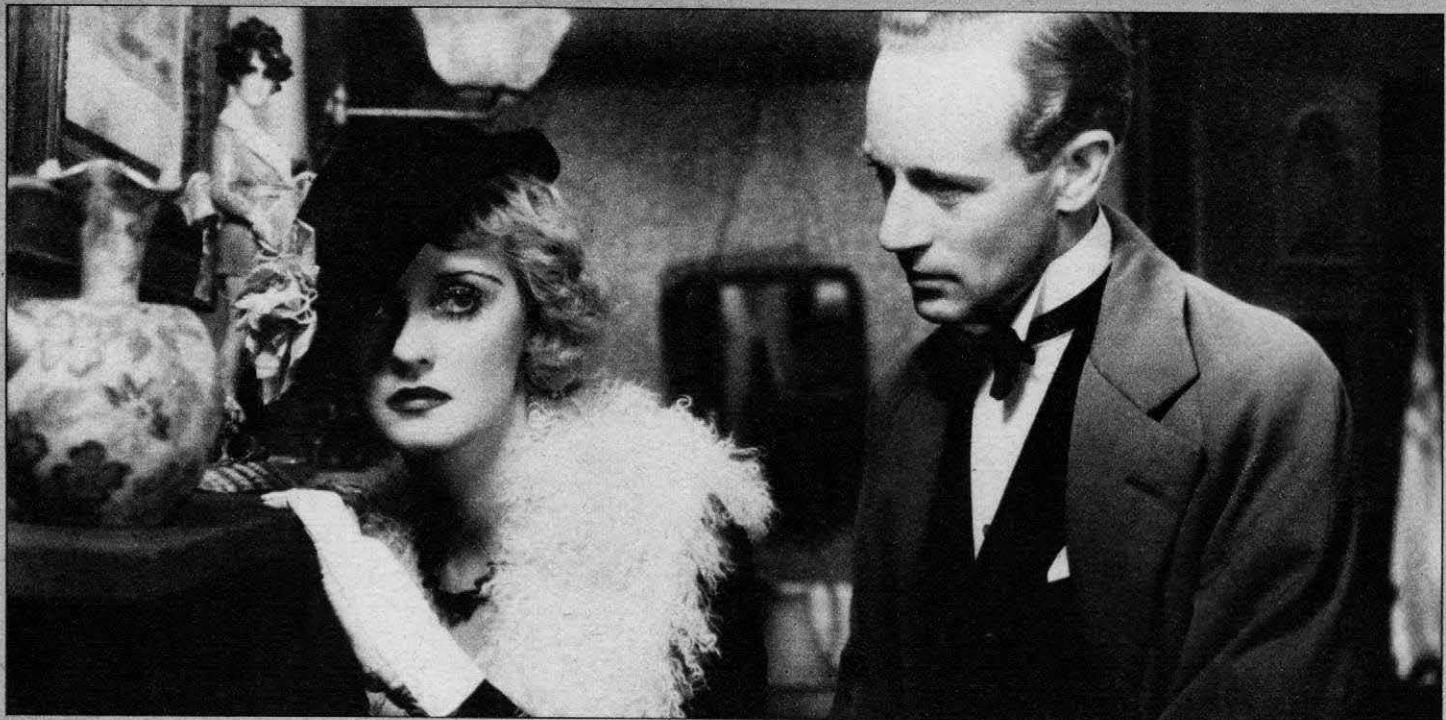


ギャング映画第1作『暗黒街』(1927) のジョージ・バンクロフト

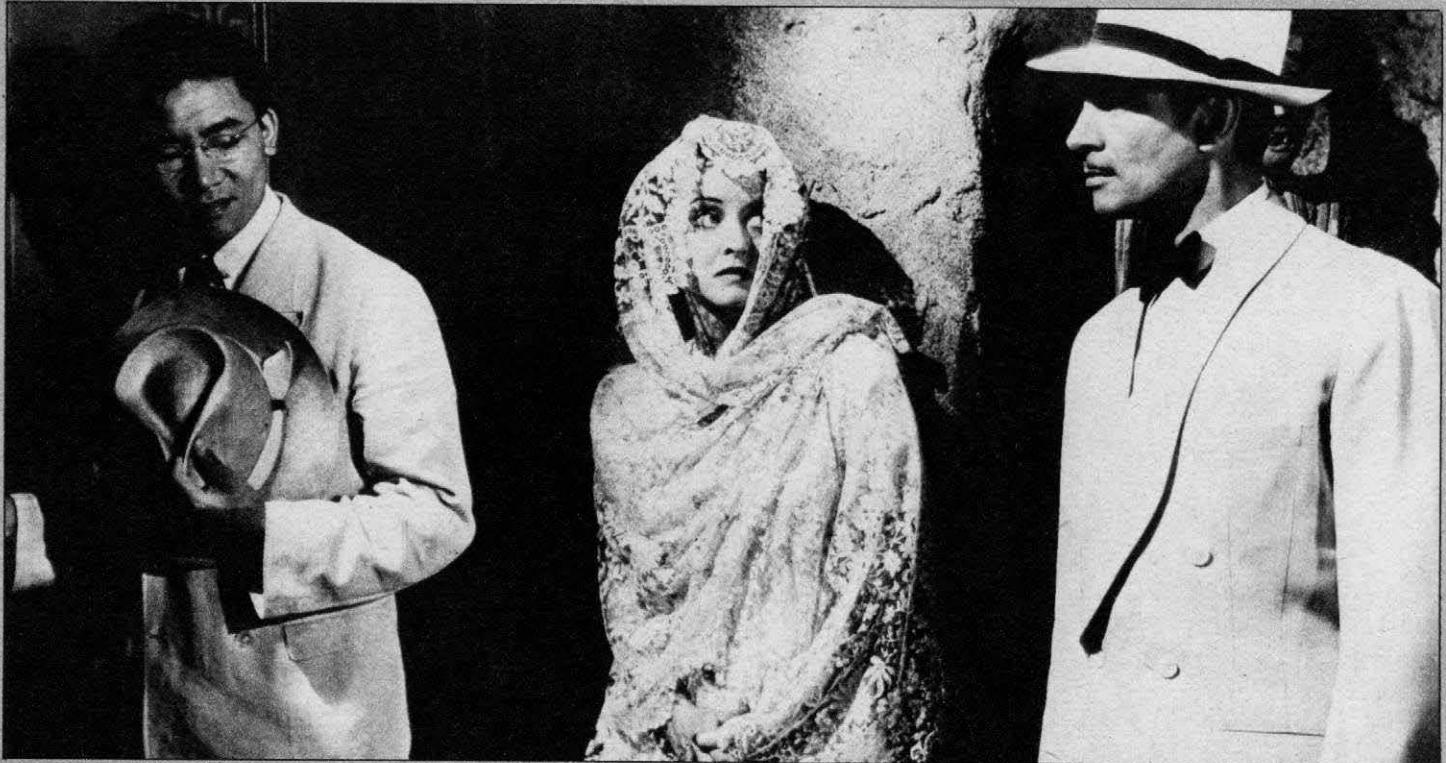


“歌と踊りの芸人”を称していたキャグニーは『ヤンキー・ドゥードル・ダンディー』(1942) でアカデミー賞を受賞した

ベティ・デイヴィス



モームの「人間の絆」の映画化『痴人の愛』(1934) の奔放なミルドレッド役は出世作 レスリー・ハワードと



これもモームの戯曲による『月光の女』(1940) ある男を殺害した人妻役で 一種の悪女である



『何がシェーンに起ったか?』(1962) でジョーン・クロフォードと



『イヴの総て』(1950) も代表作 M・モンローの顔も見える



アカデミー主演女優賞の『青春の抗議』(1935) 酒で身をもちくずしたもの女優がフランチャット・トーンの愛に助けられる

七五年の秋、ニューヨークとロンドンで、ベティ・デイヴィスのタペーなる公演があこなわれた。見た人の話によると、第一部は彼女の名演技の数々をつなぎあわせたアンソロジー・フィルム、第二部では彼自身が舞台上にあらわれ、歌舞でもなく芝居するでもなく、観客とのおしゃべりをくりひろげるという趣向だったそうだ。

それでも、思い出話を中心にしたおしゃべりが、じつにさまになつていたし、客席ともいごとにうちとけていた、とその人は言う。老いも若きも、ベティ・デイヴィスのことを知りつくしていく、伝説の名女優であることを再確認したそうだ。

ベティ・デイヴィスというと、戦後のファンは「何がシェーンに起つたか?」から「妖婆の家」にいたる一種の怪奇趣味の老娘役をすぐ思いだしてしまいますが、三〇年代から四〇年代にかけての名演技の数々は、いまでもリラックスになつてゐる。はじめのうちこそ、喜劇からミュージカルまで、そして平凡な娘役が専門だったが、三四四年に『痴人の愛』で演技力を買われてからは、売春婦、ギャングの情婦、殺人者など、汚れ役が多くなつた。他のスターたちがいやがつてやらないような悪女や汚女スター。と呼ぶこともある。他のスターたちがいやがつてやらないような悪女や汚女役にすすんで挑戦し、精緻な計算で自分のにしてしまうのである。演技力をもちながもれら、大スターの地位についたのは、この人が最初であろう。(H)



当り役の一つ『化石の森』(1936) レスリー・ハワードと



ギャングの情婦に扮した『札つき女』(1937)

★三人の演技派スター ジョーン・クロフォード



出世作『三人の踊子』(1925) ダンサー役はクロフォードの得意とするものだった



ジャズ・エイジを象徴するフラッパー役『踊る娘達』(1928)



"ジョニー・ギター"で有名な『大砂塵』(1954)



金に執着する女性の役も多い『大都会の女たち』(1959)

モームの原作を映画化した『雨』で三〇年代の性的デカダンスを代表するスターとなつたクロフォードは、でつかい目玉の放つ強烈な個性が、年とともに凄味をおびてくる。このころが彼女のスターとしての全盛期で、クーパーと共演した『今日限りの命』、ゲーブルと共演の『ダンシング・レディ』や『螢の光』などで、妖艶な美しさを開花させた。売りだし当時は、フラッパー・ガールとしてミュージカルなどにも出演し、MGMの代表的スターになつたが、アカデミー主演女優賞を獲得した日本未公開の『ミルドレット・ビアース』(一九四五)のころから、野心満々の演技派へ転じ、悪女役や、ドラマティックな女性映画でスターの座を守つた。ユーモレス

ク』『哀しみの恋』などが日本でも公開されているが、このころの代表作は、『ジョニー・ギター』の哀愁のメロディとともに、男まさりのカンさばきを見せた西部劇『大砂塵』が忘れられない。一方、実生活ではベブシコーラの副社長となつて、金銭にはこまかく一代で財産を築いたが、とても副社長の座におさまつてゐる人ではなく、三〇年代の好敵手だったベティ・ダイヴィスと老齢をさらして大競演した「何がジエーンに起つたか?」は、往時を知るファンには、まさに衝撃の一作で、女優執念に憑かれた二人の『女の闘い』は、鬼気せまるものがつた。その後も、恐怖映画に出演してファンをこわがらせている。(S)



当り役の一つ モーム原作『雨』(1932) のサディ・トンプソン



ゲーブル主演の『暗黒街に踊る』(1931) では記者の役



『初陣ハリー』(1926) ではハリー・ラングドンの相手役だった



二枚目 ラモン・ノヴァロとの恋愛物『シンガポール』(1929)

キヤサリン・ヘツプバーン



女優を志す金持娘 『ステージ・ドア』(1937)



舞台も映画も大ヒットの『フィラデルフィア物語』(1940)



中年のオールドミスに扮して いっそう洗練された魅力の『旅情』(1955)

ことし六十七歳——ジョン・ウエインと初の共演を実現させた『オレゴン魂』でも健在な姿を見せている。

『勝利の朝』『冬のライオン』『招かれざる客』での三度にわたるアカデミー主演女優賞の受賞は、アカデミー賞史上の記録で、彼女の演技派女優としての地位を不動のものとしているが、スペンサー・トレイシーとの名コンビ作『女性No.1』『アダム氏とマダム』などの“中性的な魅力”は、ハリウッド女優の中でも異色中の異色。美人とはいえないが、いまの個性派時代の先駆ともいいうべき強烈さだ。彼女の息の長い人気の秘密は、この個性がとてもN.O.W.だからだ。

ことに戦後は、『旅情』で、アメリカのハイ・

ミスが、ヴェネツィアで初めて体験した恋を名演して主題歌「サマータイム・イン・ヴェニス」とともにファンを酔わせた。思い出のくちなしの花を持つて駅頭にかけつけるロッサノ・ブラツィとの別れのラスト・シーンは、まさに名場面だった。

また、ハンフリー・ボガートとの共演で、気の強い女を演じ、アフリカの川を蒸気船でくだる冒険物語『アフリカの女王』での迫力ある演技も彼女ならではの魅力——『冬のライオン』では、ヘンリー二世時代の王位継承をめぐつて、王室の骨肉の争いを壮絶な演技で見せて、ここに演技派女優キヤサリンの真骨頂を發揮し、見るものを圧倒した。まだやる気十分で、いまも新作が作られている。(S)



初のオスカーを得た『勝利の朝』(1933)は女優志願の娘



『若草物語』(1933)の小説家志望の次女ジョーは活発な娘で、キャサリンのイメージにぴったり

スペンサー・トレイシー



結婚した新聞記者カップルのユーモラスなやりとり『女性No.1』(1942)はコンビの傑作



最後のコンビ映画『招かれざる客』(1967)では老夫婦



日本未公開の「バットとマイク」(1952)



パウエルとロイの夫婦役『巨星ジーグフェルド』(1936)



パウエルとロイと名犬アスターの『影なき男』(1934)



今日では名コンビというのはあまり存在しなくなってしまったが、黄金期ハリウッドでは呼び物の一つだった。なかでも私的にも無二の親友だったスペンサー・トレイシーとキャサリン・ヘップバーンのユーモラスなコンビは、九本もくられて、ファンを湧かせた。『影なき男』シリーズで夫婦探偵を演じたウイリアム・パウエルとマーナ・ロイも呼吸がぴたりだった。(H)



デビュー直後の暗黒街もの『速成成金』(1931)



2度目のオスカー『少年の町』(1938)のフランガン神父

Spencer Tracy (一九〇〇-一九六七)
ロードウェイの舞台から、二九年映画デビュー。はじめはギャングやタフガイ役が多くたが、三七年「*我は海の子*」、翌年「*少年の町*」で二年連続してアカデミー賞受賞。ノミネート回数八どいのは男優の最多記録。独特の風味をもった個性派のスターであった。(H)



キップリング原作『我は海の子』(1937)の船長役で2度目のオスカー



ひとり海とたたかう
『老人と海』(一九五八)も当り役



ジーン・ハーロー



ハーローの代名詞となった「プラチナ・ブロンド」(1931)



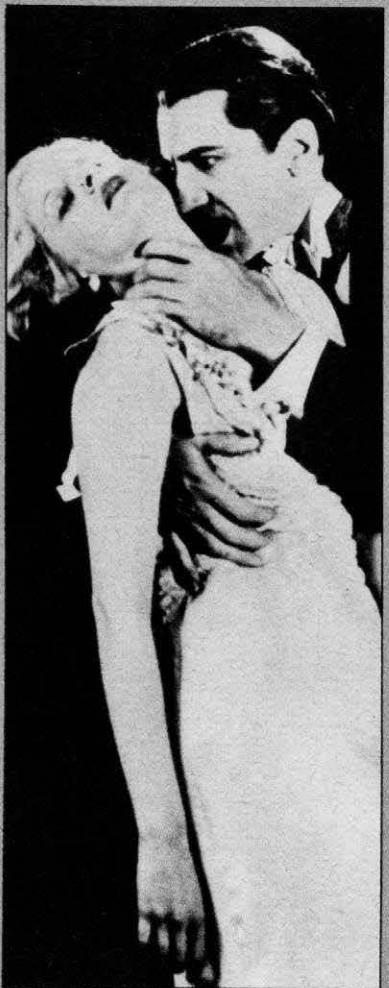
これもゲーブルと共に演じた『紅塵』(1932)



『晩餐八時』(1933)でマリー・ドレスラーと



こんなグラマーな秘書がいればゲーブルでなくとも浮気したくなる『妻と女秘書』(1936)



カーロフのフランケンシュタインの怪物



6代目ターザン ウィズミューラー

ここにもハリウッドの人気者



『ターザンの猛獣』(1939)も6代目の主演

ベラ・ルゴシの『魔人ドラキュラ』(1931)

一九三〇年代、黄金期のハリウッドからはこんな人気者も登場した。ターザンは無声映像でつくられていたが、六代目ジョニー・イズミュラーが「アーアーアー」と叫び声あげて人気沸騰した。ボリス・カーロフのフランケンシュタインの怪物、ヘラ・ルゴシの吸血鬼ドラキュラ、そしてあのキング・コングもこの時代の人気をさらつた。(H)

「プラチナ・ブロンド」といえば、ジーン・ハーローの代名詞。もちろん、まばゆいばかりの「プラチナ・ブロンド」の髪をしていたが、「プラチナ・ブロンド」という彼女の主演する映画も作られた。

一九三一年、ハリウッドきつての謎の大富豪ハワード・ヒューズに抜擢されて出た「地獄の天使」では、プラジャーンなしの豊かな胸のふくらみでファンを圧倒した。プラチナの女王、セックスのシンボルとして、全米に一斉で世界中に、その名をとどろかした。

ジーン・ハーローは、その輝くばかりの「プラチナ・ブロンド」で、ハリウッド映画史上にまたたく新しいヴァンプのイメージを出現させた。ハーロー以前の「ヴァンプ」はすべて黒褐色(あるいはむしろ黒)の髪の「毒婦」であった。「ヴァンプ」は「ヴァンパイア(吸血鬼)」から来ていることもあつたからにちがいない。黒髪はエキゾティックな官能的魅惑にも結び

ついていたらしく、セダ・バラにしても、二タ・ナルディにしても、エステル・ティラーにしても、黒髪(もしくは黒褐色の髪)の美女たちであつた。

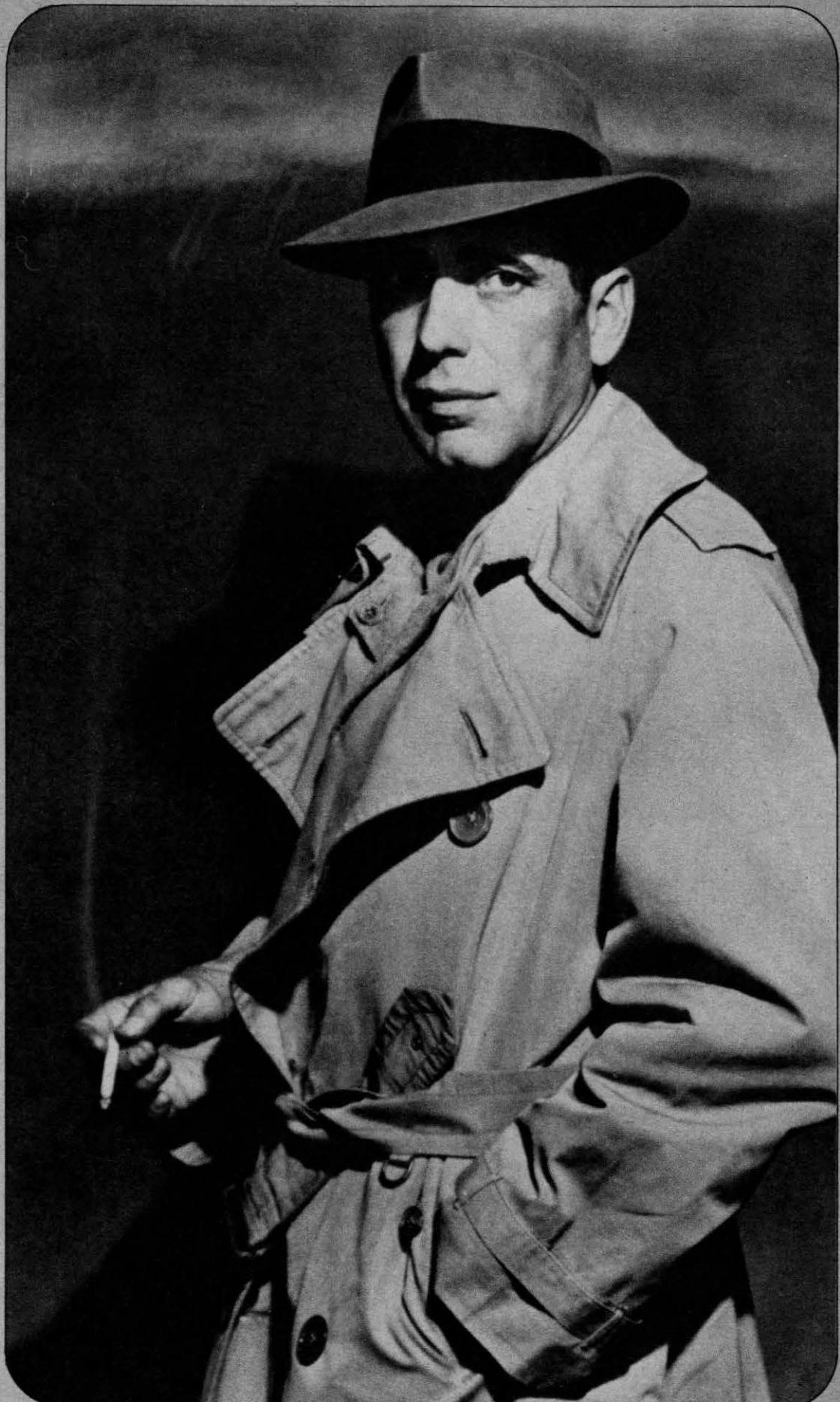
ジーン・ハーローが、その意味では、「ブロンドの肉体美」の模範を作つた。マリリン・モンローやブリジット・バルドーが褐色の髪を、ハーローに染めて成功するのは、もちろん、もつとあとの話だ。(Y)

Jean Harlow (一九一一年七月二日 - 一九三七年六月二十四日) 不幸な家庭に育ち、エキストラ稼業のち、一九三一年ハリウッドデビュー。製作の「地獄の天使」の娼婦役でセンセーショナルに売り出された。まばゆいばかりの「プラチナ」、豊かな乳房で三〇年代のセックス・シンボルとなつたが、二十六歳で病死。獵奇的なエピソードに囲まれた短い生涯だつた。



プラチナの女王 セックスのシンボル

☆ハーブボイルド・ハンフリー・ボガート



『カサブランカ』(1943)



『マルタの魔』(1941)といへば私立探偵サム・スペード

Humphrey Bogart (一八九九—一九五七) 舞台出演。はじめは無個性の若者役だったが、三十年代半ばからギャングの脇役として活躍をつくった。四十年代になると、个性を輝かせ、トップ・スターとなつた。四度目の妻ローレンとの愛も有名。

ハーブボイルド・ヒーロー——といえば、やはり、なんといっても、まずハンフリー・ボガートだ。タフなヒーローはたくさんいる。ダンディなヒーローもたくさんいる。だが、タフで、しかもダンディなヒーローとなると……ハンフリ・ボガートをおいて他にいないのである。『マルタの魔』の私立探偵サム・スペード、『三つ数える』の私立探偵フィリップ・マーローは、もちろん、ダーシー・ハメット、レイモンド・チャンドラーという二人の別々のハドボイルド小説の主人公であるにもかかわらず、ハンフリー・ボガートが演じることによつて、そのイメージが定着してしまつた。すくなくとも、フィリップ・マーローは、つい最近の『さらば愛しき女よ』のロバート・ミッチャムが出現するまでは、だれもボギーのイメージを崩せなかつた。

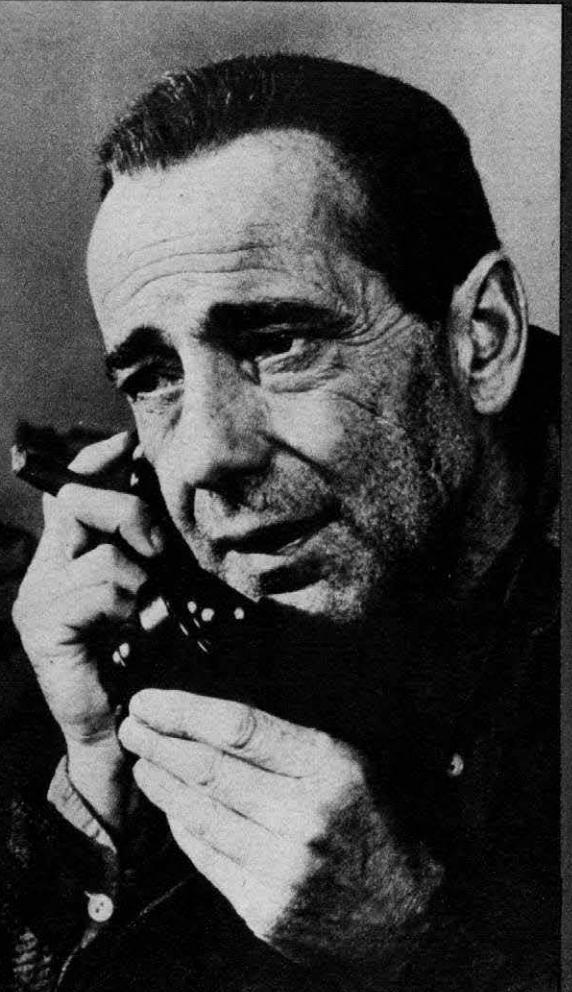
ハーブボイルド・ヒーローのボガードに欠かせない七つ道具だ。しかし、ボガートをボガートたらしめた永遠の名作は、「カサブランカ」であつた。タフでダンディなボガートが真にロマンティックなヒーローになつた決定的な映画であつた。



ハーブボイルド調の出世作となった「ハイ・シエラ」(1941)は日本未公開



ボギーの決定的名作 ロマンティックな魅力で女性ファンも陶酔させた『カサブランカ』



最後のギャング役『必死の逃亡者』(1955)



映画監督に扮して渋味を見せた『裸足の伯爵夫人』(1954) も名作の一つ



愛妻ローレン・バコールとはじめて出あつたのが ヘミングウェイ原作の『脱出』(1945)



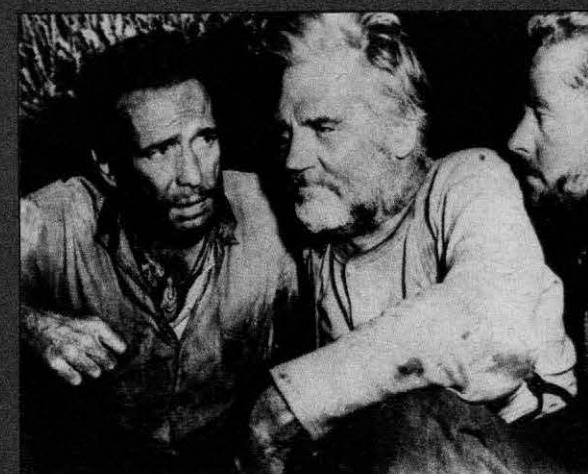
ギャングに占領されたホテルを救う『キー・ラーゴ』(1948) もハードボイルドの魅力にあふれていた



ヘップバーンと共に演の『アフリカの女王』(1951) の飲んだくれ船長でオスカー獲得



『三つ数えろ』(1946) といえば私立探偵マロー



名作『黄金』(1948) では黄金発掘に憑かれた男

ヘンリー・フォンダ



粘り強さと人間性をつらぬいた陪審員『十二人の怒れる男』(1957)



無実の罪に問われた前科者の悲劇『暗黒街の弾痕』(1937) 名女優シルヴィア・シドニーが愛妻役



「スミス都へ行く」、「素晴らしき哉、人生！」におけるジェームズ・スチュアートや、ジョン・フォード作品（『怒りの葡萄』、『荒野の決闘』、『ミスター・ロバート』など）のヘンリーフォンダは、アメリカン・デモクラシーの最も現れるナイトブルな精神そのものだつた。そのナイトブルな心が傷つけられた時、彼らは怒りをナイーブにぶちまけた。『怒りの葡萄』、『地獄への逆襲』、『十二人の怒れる男』のヘンリー・フォンダ、アンソニー・マン監督の西部劇（『ワインチエスター銃73』、『怒りの河』、『遠い国』など）のジェームズ・スチュアートが感動的なのも、まずそのナイトブルさゆえだつたのではないかと思われる。（Y）



『バルジ大作戦』(1965) のアメリカ中佐



きわめつけワイアット・アーヴ 『荒野の決闘』(1946)



名作『怒りの葡萄』(1940) では農民のたたかいと悲劇を

Henry Fonda(一九〇五) プロードウェイから一九三五年映画入り。ジョン・フォード作品で、好演ぶりを發揮し得しているが、アカデミー賞を一度も獲得していないのは奇妙といふ。夫ではない。五度の結婚歴があり、夫婦はあまりよくない。娘ジェーンは息子ピーターも映画スターとして活躍しているのは有名。

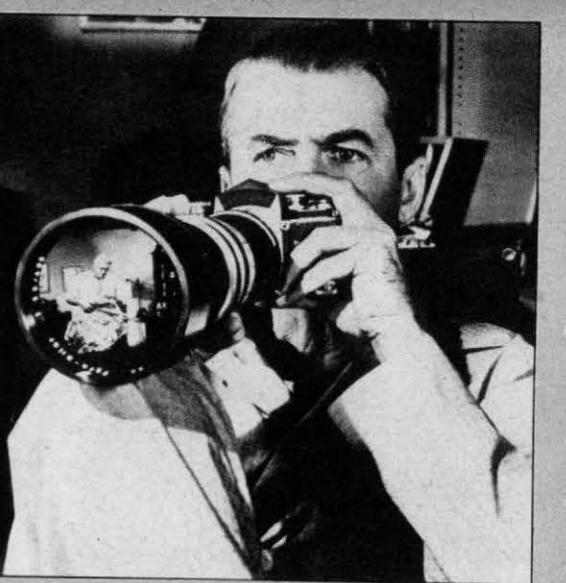


『若き日のリンカーン』(1939) もうってつけの役

ジエームズ・スチュアート



大きな白兎ハーヴェイの幻覚を見る「ハーヴェイ」(1950)



ヒッチコックの名作『裏窓』(1954)



『ウィンチェスター銃'73』(1950) の主人公は銃をとりもどすためたかう



大西洋横断飛行に夢を托した『翼よ！あれが巴里の灯だ』(1957)



『ファイヤークリークの決闘』(1968) では老保安官



完全犯罪をあはく『ロープ』(1948) の教授



議事堂で正義をつらぬく『スミス都へ行く』(1939)



誠実に生きんとする青年『素晴しき哉、人生！』(1946)



音楽と夫婦愛にみちた『グレン・ミラー物語』(1954) はジミーの暖い人柄をにじませた

ミッキー・ルーニー



ジュディ・ガーランドといえば『スター誕生』(1954) 歌とドラマの両面で彼女の魅力を生かしきった

ジュディ・ガーランドという名のスターが誕生したのは、一九三九年。『オズの魔法使』によってであった。はじめ製作者は人気頂だった名子役シャーリー・テンブルをドロシー役に考えていましたが、ジュディを起用することによって大成功し、彼女はアカデミー特別賞まで受けるほど話題となつた。一五八センチの小柄で、美人でもなかつたが、大きな瞳、チャーミングな容姿。しかもみごとな歌で四〇年代の人気者となつた一方のミッキー・ルーニーは子役として活躍していましたが、一九三七年からはしまつた。アンドイ・ハーディ。シリーズで、ますます人気をたかめた。アメリカの典型的な地方都市の判事の息子を主人公にした青春映画である。



十三歳、少年スターとして売りだしのミッキー・ルーニー（紐育・ハリウッド）（一九三三）



『スター誕生』で「スワニー」を歌うジュディ



子役スターのマーガレット・オブライエンと踊子ジュディの『若草の唄』(1944) 監督はのちにジュディの夫となったヴィンセント・ミネリ



『イースター・パレード』(1948) のアステアとジュディ



17歳のジュディの出世作『オズの魔法使』(1939)



6歳の名子役 シャーリー・テンプル『可愛いマーカちゃん』(1934)



『久遠の誓』（1934）でクーパーと共に演じた
テンプル



マーガレット・オブライエン 12歳のときの「若草物語」(1949) 右から2人目



99 6歳のオブライエンの初主演
『迷える天使』(1943)



ジョン・フォード監督によるテンプルの『軍使』(1937)

☆二ノ宮三役
シャーリー・テンプルとマーガレット・オブライエン

いつの時代にも可愛らしく、達者な子役はスクリーンの人気者である。シャーリー・テンプルは一九三〇年代、マーガレット・オブライエンは四〇年代に、およそ十年の差をもつて、おとな顔負けの人気を得た名子役であるが、そのあどけなさ、チャーミングさ、小憎らしさは、一枚看板の大スター並みであつた。(H)



ルーニー／シュディのコンビで30年代後半から40年代にかけて人気を呼んだ“アンディ・ハーディ”シリーズ。その1本『二人の青春』(1941)



“アンディ・ハーディ”シリーズの1つ『ブロードウェイ』(1941)



『青春一座』(1948) も2人のコンビ作

Mickey Rooney (一九一〇-) 芸人の子として生まれ、二歳から舞台に立ち、七歳から短編映画に出演。十四歳で MGM と契約し、少年スターとして『少年の町』や『少年スター』、『アーヴィング・ハイデイン』シリーズでは、人気を得る。同シリーズでは、八年アカデミー特別賞受賞は特異な脳役として活躍している。戦後は結婚歴五回。



★ハリウッドのドン・ファン

エロール・フリン



フリンの魅力はやはり剣戟『バラントレイ卿』(1935)

Errol Flynn (一九〇九—五九)
ころから冒険好きで探険隊に
参加いこのときの記録映画がきっかけで映画界入り、三五年『海賊
プラット』が大ヒット。軽快にし
てハンサムな剣戟スターとして四
不年代後半まで人気の座に。晩年
は五七年『陽はまた昇る』
が好評だったが、華やかさ
がえらぬまま世を去った。



西部劇スタイルも粹だった『サン・アントニオ』(1945)



『壯烈第七騎兵隊』(1941) のカスター将軍



海洋活劇『シー・ホーク』(1940)

エロール・フリンのひとつの頂点を行く作品となつた。ボクシングとジヤングルの探険で鍛えた彼の肉体は、スピーディで優雅でしかも耐久力があり、事実、その身軽さとユーモアは、ダグ・フース・フェアバンクス（特にその『ロビン・フッド』のイメージ）の後継者と評された。ハリウッドの活劇スターに必要欠くべからざる底抜けに明るい楽天的なムードを生来もち合っていたことが、色事師エロール・フリンを単なる“やけ男”的なイメージから救つていたともいえる。

『海賊プラット』『進め竜騎兵』『ロビン・フッドの冒險』『無法者の群』『カンサス騎兵隊』などなど……清潔感あふれる美女オリヴィア・デ・ハヴィランドがいつもパートナーであったことも、エロール・フリンにさわやかな活劇スターのイメージを与えるのに役立つたのではないかと思われる。（Y）

ハリウッドのドン・ファン——それは、エロール・フリンだ。美男の剣豪スターとして、『海賊プラット』『ロビン・フッドの冒險』『シー・ホーク』など、ハリウッド黄金期の海賊映画や剣豪映画の永遠のヒーローとなつたエロール・フリンだが、銀幕の中で美女を口説くごとく、私生活においても無類のブレイボーキーであり、色事師であつた。そんな公私相乱れる華麗な伝説的イメージの結晶が、『ドン・ファンの冒險』で、剣豪にして色豪のエ

みずみずしい剣俠『ロビン・フッドの冒險』(1938) でデ・ハヴィランドと



フリン剣戟場面のきわめつけ『ドン・ファンの冒險』(1948)



インディアンの矢をうける『勇魂よ永遠に』(1949) の1場面



『印度の放浪兒』はキップリング原作のキムの物語（一九四九）

ハリウッド 黄金期の 美男と美女



『円卓の騎士』(1952) のロバート・テイラーは戦前戦後を通しての二枚目の代表 相手役はエヴァ・ガードナー



『勝利』(1939) のタイロン・パワー 端整な美青年スターとして売りだすきっかけとなった 相手役はマデリン・キャロル



『ミニヴァー夫人』(1942) のグリア・ガースン(左)とテレサ・ライト ともに戦後の日本で人気があった



『椿姫』(1937) でガルボと共演のロバート・テイラー 美男美女画の極めつき



クロードット・コルベールは喜劇にうまい見せたが、これは『クレオパトラ』(1934) のあで姿



『三人姉妹』(1942) のバーバラ・スタンウィック(右) 悪女役では定評ある妖魔の美女



『地獄への道』(1939) のタイロン・パワー ジェシー・ジェームズを好演し西部劇にも意欲を見せた 共演ナンシー・ケリー



『嘆きの白薔薇』(1941) のロレッタ・ヤング 清潔な娘役で人気を集めた白薔薇のような人

ヴィヴィアン・リード

「神様、私は人を殺しても生きて見せます」と、南北戦争の戦乱のなかを雄々しく生きぬいたスカーレット・オハラ。愛するレット・バトラーを失い、「明日は明日の風が吹く……」タラに帰つてもう一度考えようと暮れなずむ南部の夕陽を浴びてスクリーンに消えて行つた「風と共に去りぬ」のスカーレット——ヴィヴィアンこそ、スカーレット・オハラを演じるために生まれてきた人。ノーブルな美しさと、誇り高い女の激しいバツシヨンを演じて、グレタ・ガルボとともに一代を築いた名女優——ヴィヴィアンは死すとも「スカーレットは永遠に生きる。

『哀愁』の可憐なバレリーナから、「アンナ・カレニーナ」の不倫の恋に泣く人妻アンナと、

作品の数こそ少ないが、ヴィヴィアンは緻密な演技でファンの心をとらえた。さしもの美しさも、寄る年波には勝てず、誇り高い女が、失われ行く美しさにいらだつ悲哀にみちた女の役を得意とするようになり、「欲望」という名の電車」「ローマの哀愁」「悪か者の船」などに主演し、演技力では抜群のスターだった。

夫だったローレンス・オリヴィエとの数々の名舞台で、舞台での仕事を本領としたが、もつと映画で、あの絶世の美しさをフィルムに刻んでおいてほしかった。晩年はオリヴィエと別れ、持病の結核で看どる人もなくロンドンのアパートでひつそりとなくなつた。佳命の最後には、思わず涙がである。(S)

Vivian Leigh (一九一三~六一) ロンドンの王立演劇学院に学んだイギリス娘。天性の美貌と演技力で舞台生活をはじめ、一九三四五年からイギリス映画に出演。名優として売出し中のローレンス・オリヴィエに従つて渡米し、「風と共に去りぬ」の大役を射止めた。その後はアメリカとイギリスで活躍したが、神経のもろい性格だった。



『風と共に去りぬ』(1939) のスカーレットは永遠に……



『哀愁』でも共演するロバート・テイラーと顔あわせの「響け凱歌」(1938)



若々しい初期の『間諜』(1937)



世界の女性ファンの涙をあつめた『哀愁』(1940)では薄幸のバレリーナを可憐に演じた キャンドル・クラブで「螢の光」にあわせて踊るシーンは陶酔に誘う名場面



アカデミー主演女優賞の「欲望という名の電車」(1951) も不朽の名演技



「ローラの高熱」(1961)では若さを失った女優の高熱をせつせつと……



幸せの絶頂だったとき、最愛の夫ローレンス・オリヴィエと……

☆ハリウッドの神童

オースン・ウェルズ

Orson Welles (一九一五—)
舞台俳優から三八年セントセーショナルなラジオ・ドラマ「火星人襲来」の製作で注目を集め、四一年監督として「市民ケーン」で天才とされた。彼二十六歳。わざわざ監督した「第三の男」(1949)は俳優ウェルズの持ち味を生かし切った。



アントン・カラスのツイターが奏でるあの名曲 あの名場面——『第三の男』(1949)は俳優ウェルズの持ち味を生かし切った



『マクベス』(1948)で監督・主演 シェイクスピアものに意欲を燃やした



新聞王ハーストをモデルにし 世界を震撼させた『市民ケーン』(1941)は26歳の若者の偉業

ハリウッドの神童——オースン・ウェルズはかつてそう呼ばれ、そしていまなおそう呼ばれるにふさわしい存在だ。全米をバニッシュ状態におどされた有名なラジオ放送「火星人襲来」以来、「ワンドー・ボーイ。(神童)の名で呼ばれ、ハリウッドに招かれて、わずか二十六歳で、自作自演の『市民ケーン』を撮つた。その意欲は、まさに驚異的である。世界の若き映画人に、強烈で新鮮な刺激を与えた作品もなかつた。

オースン・ウェルズが『市民ケーン』で描いた主人公、チャールズ・フォスター・ケーンは、ひとことで言えば、まことに傷つきやすい「巨人」であつた。幼年期の幸福な思い出——バラのつぼみ——を心に抱きつづけて崩れゆく巨大な怪物ケーン。それは、実生活のオースン・ウェルズそのひとのイメージと重なり合つて、ひとつ伝説になつた。前衛劇の演出家、俳優、魔術師、腹話術師、詩人、小説家——この万能かつ永遠の神童の怪物性にも、『やさしさ』というアキレスの腱がある。(Y)



カフカ原作の『審判』(1962)を監督も兼ねて



『ジェーン・エア』(1944)ではジョン・フォンテインと共に演



チャールトン・ヘストンと共に演じた『黒い薔薇』(1957)も監督を兼ねた



『わが命つきとも』(1966)では怪物的な演技で枢機卿を演じた



渡米第1作『別離』(1939)は妻ある音楽家(レスリー・ハワード)との忍ぶ恋のヒロイン

憤れ! 彼女は狂人の餌じきに『ジェキル博士とハイド氏』(1941)



たて! 聖ジョーン「ジャンヌ・ダーダーク」(一九四八) 彼女の憧れの役



『誰がために鐘は鳴る』(1943)

グレタ・ガルボが戦前を代表する北欧美人だとすれば、戦中出現した典型的北欧美人はインクリッド・バーグマンである。彼女の代表作『ガサブランカ』を見るまでもなく、品性、知性、感性をそなえた聰明な女優である。バーグマンの登場によつてメロドラマの甘さが格調あるものになるという例といえる。つまりバーグマンの魅力はさまざまな形でわれわれの中に飛びこんで来たのだ。それは艶麗とか妖艶とかまたあるいは絶世の美女とかそんな形容の当てはまる女優たちとは異なつたもので、じつに楚々とした美しさの中に輝きをみせていた。勇気とか情熱とか優しさという、精神から生ずるものに彼女の魅力があつたといえるだろう。『ガサブランカ』にしろ『誰がために鐘は鳴る』『ガス燈』あるいは『汚名』『サラトガ本線』などにしろ役柄が変わっても必ずやハッとするような美しさをみせる一瞬があつた。スクリーンを支配する大女優たる資格である。

清楚でかつ凜々しく、さらに情熱的に燃える恋多き女という真にヒロインとしてふさわしい優雅な女優として活躍したのだが、スターの持つ虚像としての価値観よりむしろ実像に近いものを感じさせる女優でもあつた。内面的な心映えの美しさから発せられる香氣は、彼女の持つみずみずしい理解と感性を伴つて画面にさわやかな落ち着きとか品性を持たせていたのだ。ハリウッド女優史の中でも最高にラブされた大女優である。(一)

★ドラマティック女優 バーグマン

Ingrid Bergman (一九一五) スウェーデンから渡米して三九年『別離』でアメリカ映画デビュー。四年『ガス燈』でアカデミー賞を受賞し大スターの地位を確立したが、夫ある身でイタリアの監督ロベルト・ロッセリーニと恋に陥ったためスキヤンダルの渦中に。五六年『追憶』で再度アカデミー主演賞受賞。第一線に復帰した。



パリはベル・エポックを舞台にしたロマン「恋多き女」(1956)



大人の男と女の恋のかけひきが粹だった『無分別』(1958)



若者のひたむきな愛に揺れる女ごころ『さよならをもう一度』(1961)



悲惨な過去を秘めた女の復讐が恐ろしい『訪れ』(1964)



バーグマン／ロッセリーニ・コンビの第1作『ストロンボリ』(1949)



アカデミー助演賞を受賞した『オリエント急行殺人事件』(1974)



2度目のオスカーを手にした『追憶』(1956)で再びハリウッドへ



時のさぎゆくままの調べも悲しい男女の出会いと別れ『カサブランカ』(1942) 夫役 ポール・ヘンリードと



カルバドスも懐しいレマルクの原作『凱旋門』(1948)は悲恋物語 シャルル・ボワイエと

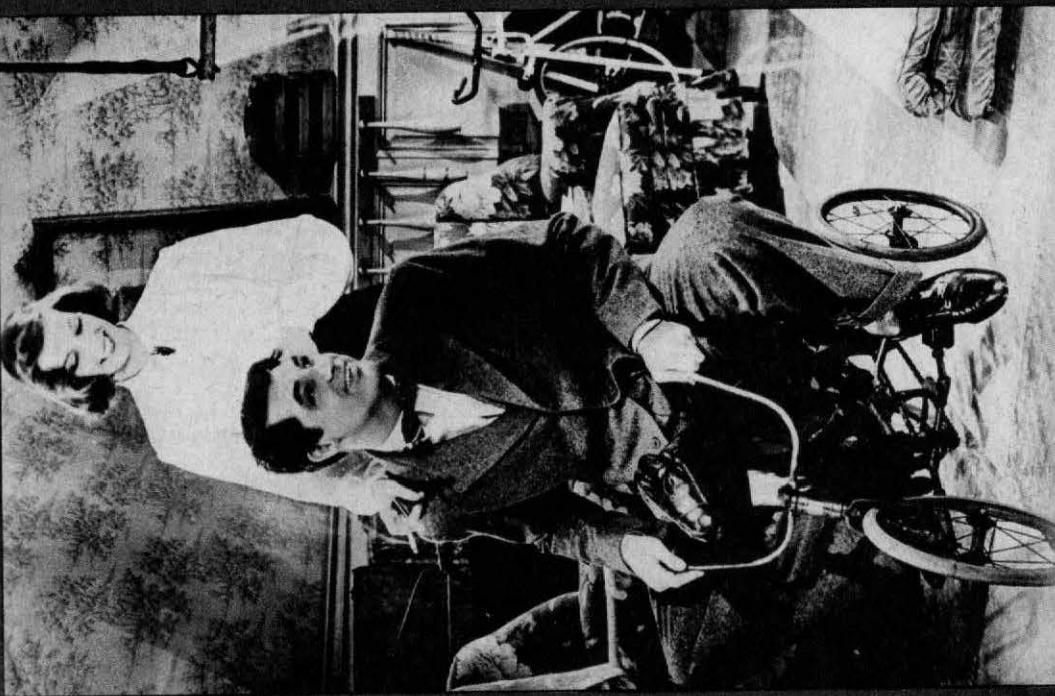
★ロマンティック・ロー

ケリリ・グラン



主な二枚目でありますから二やうておらす、都會的
洒脱な味をみせてくれたスターの一人。
女優殺しの二枚目は多いが、この人と共演した
女優はみんな素晴らしく見えるのはどうし
たことだろう。『めぐり逢い』(テホラ・カ)
『北北西に進路を取れ』(エヴァ・マリー・
セイント)『シャレー』(オードリー・ヘッジ
バーン)『泥棒成金』(クレス・クリー)
『活名』(インクリッド・バークマン)といった
た具合である。女優を最も美しく見せるヒッ
チコック監督が多用した原因もここいらにあ
るかも知れない。中年を過ぎてからも若いい

19世紀インドを舞台にした冒險活劇『ガンガ・ティン』(1939)

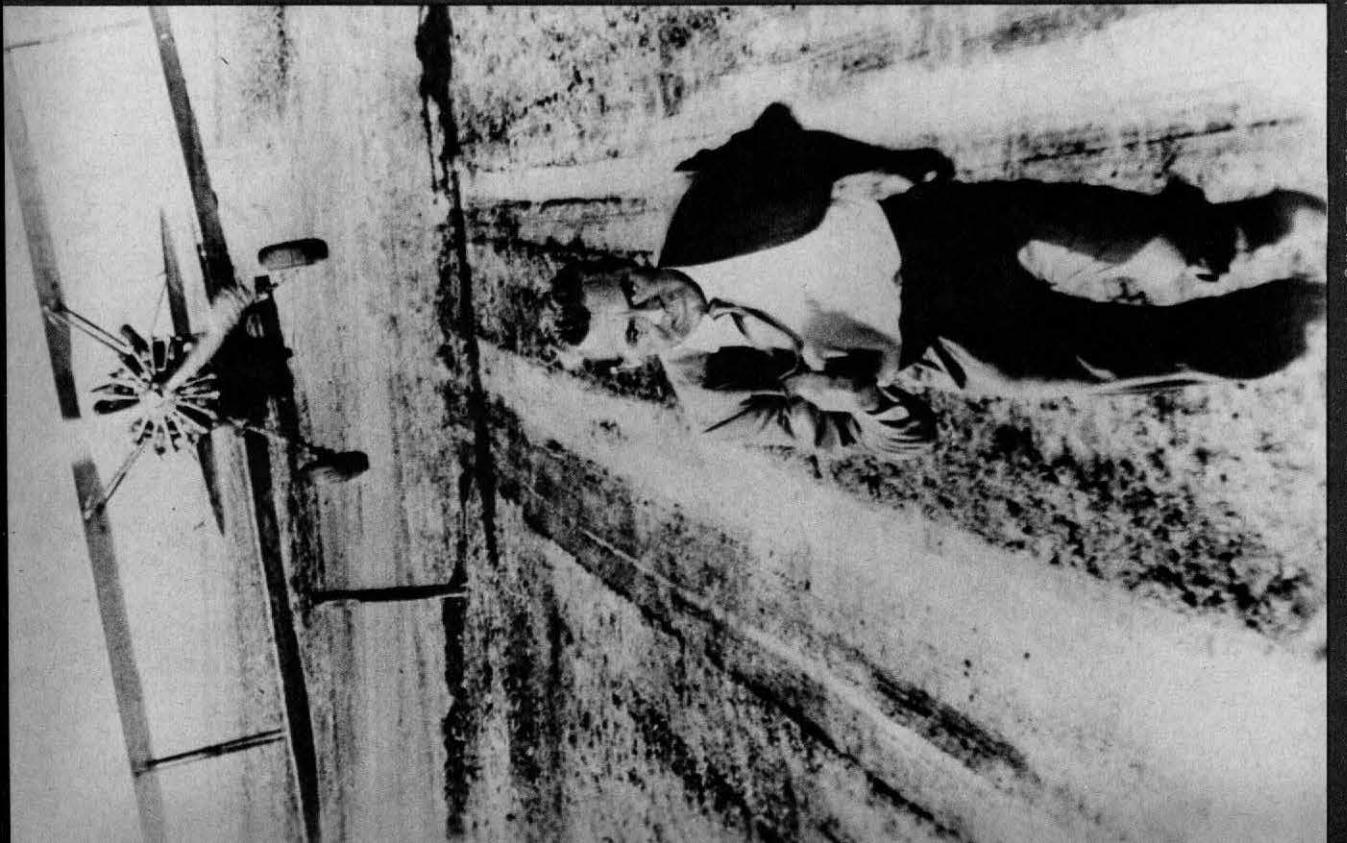


時とほどんじ変わりのない役脚が多い。とい
うより若い時から持っていた渋味が年老いて
かえつて若々しさを感じさせる伊達男。たた
かしこ自然とした風貌にもかかわらず平気で
ハシタ一枚の姿になつたりするユーモアにし
ばしば驚かされることもある。シリアルな作
品よりもウエットに重んだ明るい作品が多い
のもそのせいであろう。それでいながらジャ
ック・レモンのようにならないのは、さりげ
ない知性とか品の良さをただよわせる風格に
大スターとしての實様が秘められているから
だ。どんな型の女優が共演してもピクともし
ないフェミニスト振りを發揮するところに、
グラントの魅力が生きているのだ。(一)



無邪気な人殺し老練に悩まされた『毒薬と令嬢』(1944)

名作曲家コール・ポーターに扮した『夜も昼も』(1946)



突然事件に巻き込まれる男 ヒッチコックの『北北西に進路を取れ』(1959)

Cary Grant(一九〇四-) イギリスのアクロバット芸人としてブロードウェイの舞台上に進出。映画界入りは三二年「その夜」(日本未公開)。軽妙な二枚目半として売り出したのち、次第に洗練された渋い二枚目に移行。ヒッチコック監督の典型的な主人公であり、そのソレティケートッドな魅力で女性ファンを魅了した。

★セツクスの女神

エヴァ・ガードナー リタ・ヘイワース

はなやかに五〇年代を彩った二人の女優。セクシーな肢体で、ファンを狂気させた艶やかな大物。色っぽさのなかに気品をのぞかせたエヴァ・ガードナーと、姐御肌的な性格も見せたりタ・ヘイワース。ともに結婚・離婚のベテランだが、情熱のままに生き、そこに打算の見えないところが好ましい。思えば大物の時代だった。(一)



インド独立の動乱を描く「ボワニー分岐点」(一九五六年)での混血の美女

この程度の露出でも当時は大ショック



きわめつけ「裸足の伯爵夫人」(一九五四年)とりわけ圧巻。裸足のボレロ。



アフリカへ流れて来たショーン・ガール役の「モガンボ」(一九五三年)



人気絶頂

五〇年代半ばのエヴァ・ガードナー 三十?歳

Ava Gardner (一九二二年) モデル出身で、一九四二年に映画デビューし、四〇年代半ばから妖嬈的グラマーとして売り出す。ミッキー・ルーニー、フランク・シナトラなど、離婚歴三度。

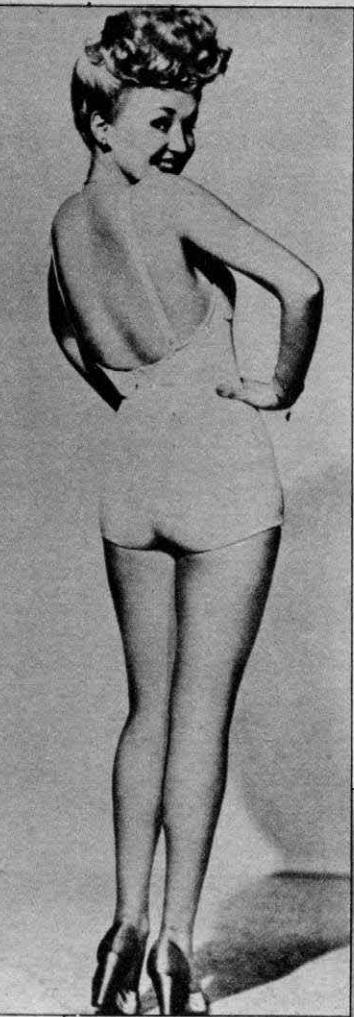
Rita Hayworth (一九一八年) ダンサー出身で、一九三五年から映画出演しているが、四〇年代半ばから強烈なセクス・アピールで人気を得る。インドの王子アリ・カーンはじめ、五度の離婚歴でも



世界的なプレイボーイ アリ・カーンと離婚後 変わらぬ妖艶さを見せた1953年のリタ・ヘイワース
『雨に濡れた欲情』(上)はモームの小説「雨」の映画化 (下)は まさにまり役「情炎の女サロメ」

ピンナップ・ガール

紳士は
グラマ
が好き



ピンナップ・ガールの第一号 脚線美のミュージカル女優ベティ・グレイブル

前線の兵士たちにとって、グラマー女優の写真は貴重な財産、そして大きなさめでもあつた。それは同時に、その時代の、女優の人気のバロメーターでもある。ここに集めた写真は、第二次大戦と、その前後のスターたち。必ずしもピンナップ・ガールばかりではないが、ひとつの時代を象徴するスターたちである。(K)



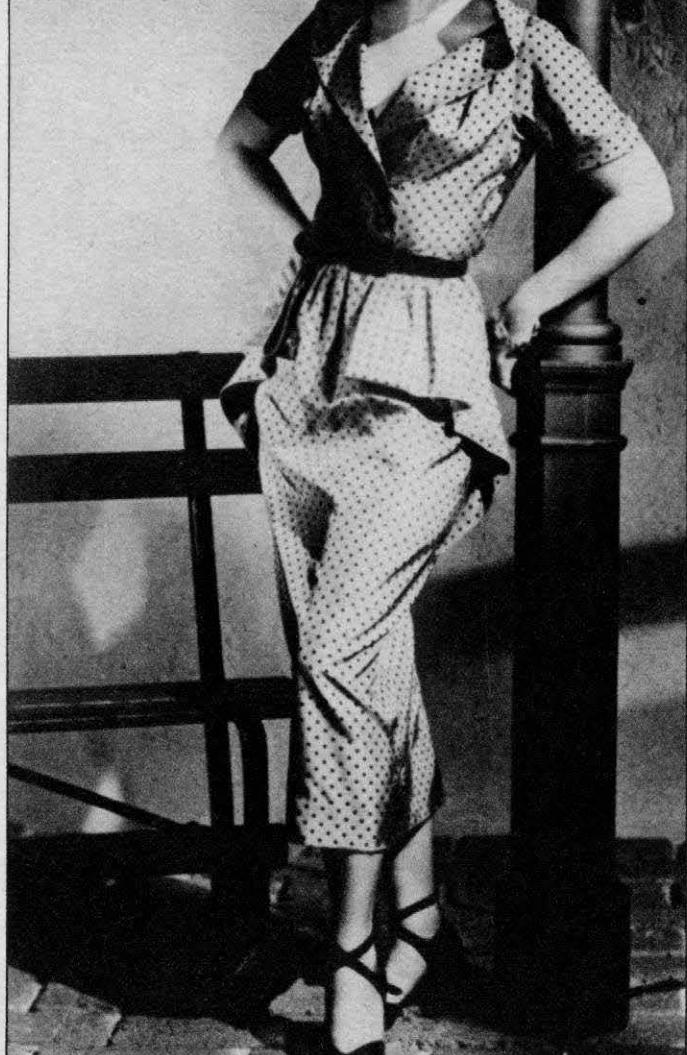
演技よりも まず肉体ありき ジェーン・マンスフィールド



ジェーン・ラッセルは歌と踊りにも才能を見せた
『紳士は金髪がお好き』(1953)

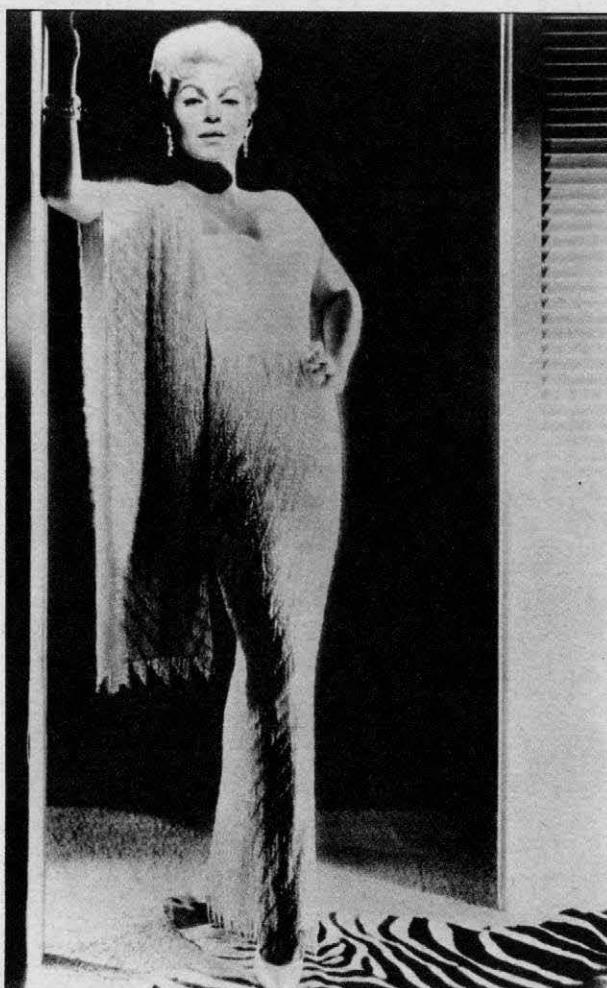


胸の大胆な露出(?)で検閲問題を起こした『ならず者』(1943)の
ジェーン・ラッセル(デビュー作)



117

終戦直後の映画ファンを熱狂させたヴァージニア・メイヨー



結婚・離婚・スキャンダルの女王でもあったラナ・ターナー



チャップリン3人目の妻となったボーレット・ゴダード



フォード映画にバラーランド 赤毛美人のモーリン・オハラ

116

★西部のデューラー★ジョン・ウェイン



『拳銃の町』(1944)



ピッグ・トレイル (一九三〇) 当時二十三歳



これは珍しいジョン・フォードの海洋劇『果てなき船路』(1940)



おなじみ『駅馬車』(1939) のリングー・キッド ジョン・ウェイン時代の始まりでもあった



当時の新鋭モンゴメリー・クリフトと共に演『赤い河』(1948)



酒場の歌姫ディートリッヒと恋を語った『妖花』(1940)

ジョン・ウェインの名を高めたのが、ジョン・フォード監督の『駅馬車』におけるリングー・キッドの役であつたのはいうまでもない。だが、それまでの彼はB級西部劇の俳優でしかなかつた。今やよき時代のハリウッドの香りを残しながら活躍しているスターは彼くらのものであろう。近ごろはハードボイルドものなどにも出演しているが、面白いことに彼は拳銃さばきにみせるスタイルが、なが年の習癖から西部劇スタイルそのままであることだ。

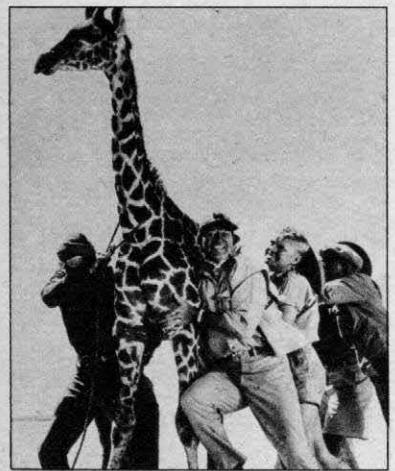
だが、そんなこと一つをとつても許せるばかりか逆にファンを喜ばせてしまうのも西部劇に対するギャリアとか西部劇を支えてきたジョン・ウェインの力量の大きさをしめすものだろう。赤いスカーフを巻いてライフル片手にしただけでジョン・ウェインの世界は出来上がる。無骨で口下手で曲がったことは大嫌いという男のイメージ。理屈で説得なんてとんでもない、いつも腕なくて説得してしまう荒っぽさ、女なんて尻をひつぱたけばなんどでもなるさ、てな調子の西部男を四〇年も続けていたのだから彼のファンにまでそれがしみついてしまうわけだ。ジョン・フォード、ハワード・ホークスという男一匹の強い監督にその魅力を生かされた時は存分の働きをみせるが、ちよつと間違えると単なるデクの棒になりがる。あたりにジョン・ウェインらしいことがあつた。自分で製作・監督・出演をした『アラモ』がその典型であることをみればジョン・ウェインの本領がなんたるかはおのず知れてくるのだ。(一)



恩師フォード監修 ジョン・ウェイン製作・監督・主演の『アラモ』(1960) テキサス独立の最初の戦いアラモ砦に向かうティヴィ・クロケット



退役まじかの守備隊の大尉ジョン・ウェイン インディアンを相手に最後の戦いを挑む もう若くはない男『黄色いリボン』(1949) は傑作だった



ダイナミックな野獣狩り『ハタリ!』
(1961)



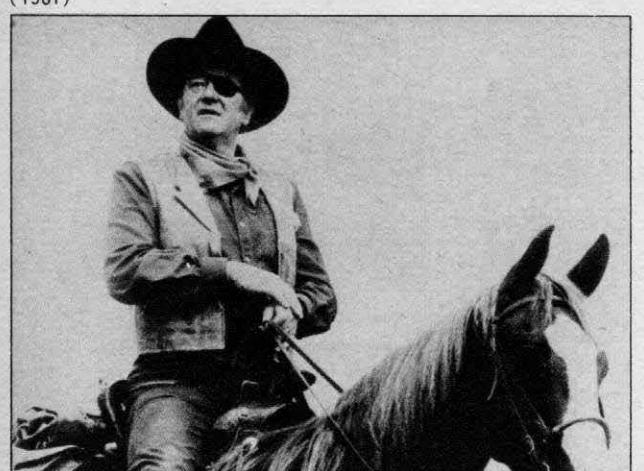
John Wayne (一九〇七-) が、フルバイトに撮影所の小道具係をやつたのが縁で、ジョン・フォード監督と親交をもち、一九二八年エキスパートとして映画入り。B級西部劇から「爵」の愛称を耀かす。映画の主人公として「デューク」として有名。名前は、父の愛犬の名。



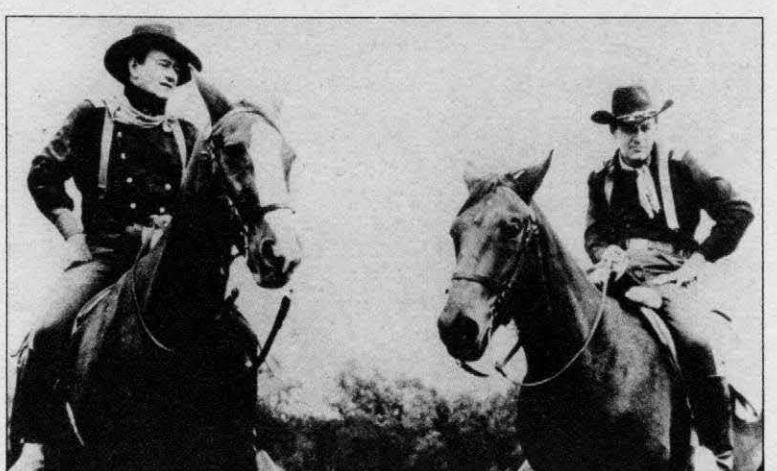
コマンチ族に妻子を殺され娘2人を誘拐された男の激しい憎悪『捜索者』(1956)



闘う騎兵隊将校の老境を描く『リオ・グランデの砦』(1950)



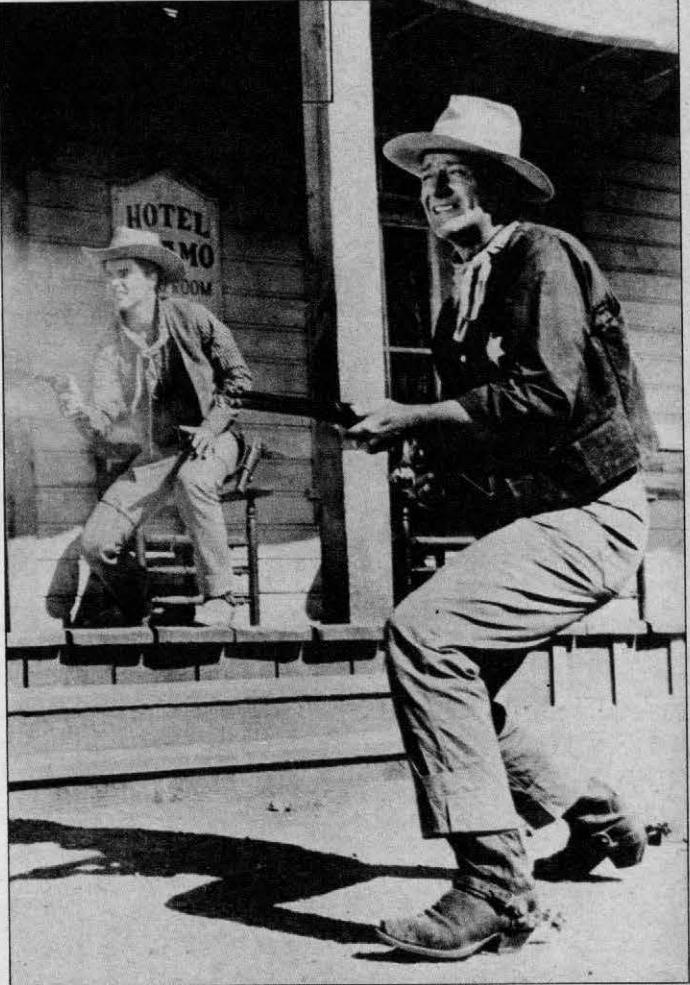
大酒飲み保安官でアカデミー賞『勇気ある追跡』(1969)



北軍の大佐になる南北戦争劇『騎兵隊』(1959) ウィリアム・ホールデン共演



アイルランド人気質を暖くユーモラスに『静かなる男』(1952)



豪快ハワード・ホークスの男の世界『リオ・ブラボー』(1959)

★ハンサムな まじめ男

グレゴリー・ペック

Gregory Peck (一九一六-) ブロードウェイの舞台に立ったのち、一九四四年映画デビュー。ハンサムなスターとしてたちまち志のトルマンが、強く謹直な性格をつらぬいていた。素顔はおだやかなのでジエントンの演技を得た。『白鯨』の大統領をどうしても演じてみたい。そうして、リングカーニバルで、リングカーニバルの関係書千冊を所蔵している。



空戦映画の傑作『頭上の敵機』(1949) 指揮官ペックは隊員に猛訓練をほどこし 対独空戦に向かう



どう猛なチャック・コナーズとの格闘もなつかしい『大なる西部』(1958)



独軍の基地爆破に向かう『ナバロンの要塞』(1961) の勇士たち



エヴァ・ガードナー共演『キリマンジャロの雪』(1952)



オードリー・ヘプバーンと『ローマの休日』(1953)



ヒッチcock・スリラー『白い恐怖』(1945)

大根役者といえば相場が決まっているほど、この人の大根振りは有名である。だが、なにもできない大根ではなく、なにもしなくていいという奇妙な味を見せてくれるのも、この人ならではのことだろう。こうなると大根も一流である。謹厳実直「石部金吉」を演じたら、この人の右に出る者はいないほど大真面目な人柄がスクリーンに反映して、頼もしいよう

がしさがあつて、実際に気がいいのだ。人柄を感じさせない清潔な感じ、これもまた人柄がある大根のゆえんである。そのかわり頑ぶりも相当なもので、これぞと思つたら絶対に曲げない信念の持ち主。こんなギャラクターではない。むしろ好感を抱かせるすが

曜日には鼠を殺せ』『白鯨』『レッド・ドーム』などて、その一徹振りを發揮している。ワイヤー監督の『大なる西部』のいいところは

人柄がスクリーンに反映して、頼もしいよう

な、こそばゆいような気持にさせてくれる。

ながいあいだスター稼業をしていて、この人

くらいのきいたセリフを何ひとつ吐いたこ

とのない人も珍しい。つまりシナリオにそれ

があつても、この人が口に出すと全く別な形に

変わってしまうほどの力量(?)を備えている

わけだ。だからといって嫌な気分にさせるス

トも、はまり役である。『アラバマ物語』

『日タ夕対固格』なども、はまり役である。

『アラバマ物語』『日タ夕対固格』なども、

はまり役である。『アラバマ物語』『日タ夕対固格』なども、はまり役である。

はまり役である。『アラバマ物語』『日タ夕対固格』なども、はまり役である。

はまり役である。『アラバマ物語』『日タ夕対固格』なども、はまり役である。

はまり役である。『アラバマ物語』『日タ夕対固格』なども、はまり役である。

はまり役である。『アラバマ物語』『日タ夕対固格』なども、はまり役である。

はまり役である。『アラバマ物語』『日タ夕対固格』なども、はまり役である。

はまり役である。『アラバマ物語』『日タ夕対固格』なども、はまり役である。

はまり役である。『アラバマ物語』『日タ夕対固格』なども、はまり役である。



モービー・ディックを捕えることに命をかける『白鯨』(1956) の船長



デビュー2作目 スターの地位を約束された『王国の鍵』(1945)



『白昼の決闘』(1948) では珍しく不良っぽい次男坊に扮し 混血の美女ジェニファー・ジョーンズを争う

ボブ・ホープ&ビング・クロスビー



ジェーン・ラッセルと『傑作腰抜け二挺拳銃』(1948)



ヴォードヴィルのスターの伝記『エディ・フォイ物語』(1955)のボブ・キャグニーとの踊り



ニューヨーク下町 オンボロ教会の牧師クロスビー アカデミー主演賞の『我が道を往く』(1944)



シリーズ第2作『アフリカ珍道中』(1941) ドロシー・ラムーアと3人一人食人種に食われそうになったりゴリラと闘ったり

ビング・クロスビー——歌手生活五十年、いまだ現役である。四二年の『スイング・ホーリー』で歌ったアーヴィング・バーリングの「ホワイト・クリスマス」は各国で親しまれてゐるが、ハリウッド喜劇界を代表するボブ・ホープとのコンビで始められた「珍道中の」は、当時の映画ファンにとつて忘れる事のできない傑作シリーズであつた。ハメを外すことにしては天下一のボブ・ホープに対抗しての熱演がうまくかみ合つて、どこで生まれたギャグの傑作は数えきれないほど多く、スクリーンから飛び出してくる勢いを持つてボンボンとはね回っていたものだ。オツにすましたクロスビーとその顔を見て、ただけで笑いを誘うホープの奇妙な顔合わせであったが、シリーズにみるそれは実にスマートなもので、それまでのドタバタ喜劇から脱皮した新しい喜劇性を打ち出していた。このシリーズの成功からディーン・マーティン、ジエリー・ルイスの「底抜けコンビ」シリーズが誕生したとみてもさしつかえなかろう。とにかくクロスビー、ホープ両者の八方破れの熱演は、一つのニュー・シネマであつたかも知れないのだ。それほど新鮮であり、また大きな感化を受けたことも事実である。とにかく工ンド・マークが出てから、まだやり合つてないなどという映画をそのとき初めて知つた驚きは大変なものだつた。(一)

田口 淳一(一九〇一) 一九二一年以来、美声の歌手として活躍し、三〇年代から四〇年代にかけて歌手のみならず、映画スターとしても人気のトップに立つた。ホープとの「珍道中」で大ヒットを飛ばし、四〇年代にクロスビーとともに、ぶん人気者となる。単独の「腰抜け二挺拳銃」もつとめ、おおかしい。アカデミー賞の司会を何回も受賞している。他の、持ち味を生かした「我が道を往く」ではオスカー受賞。

田口 淳一(一九〇一) 一九三三年から喜劇の舞台に立っているが、下積み時代は長かった。珍道中に立つていて、歌手のみならず、映画スターとしても人気のトップに立つた。ホープとの「珍道中」で大ヒットを飛ばし、四〇年代にクロスビーとともに、ぶん人気者となる。単独の「腰抜け二挺拳銃」もつとめ、おおかしい。アカデミー賞の司会を何回も受賞している。他の、持ち味を生かした「我が道を往く」ではオスカー受賞。



第6作『バリ島珍道中』(1952) 女王ラムーア



第3作『モロッコへの道』(1942) 密入国の人2人が宮殿の姫君をめぐって大騒動

ザ・シ・エンターテイナー

芸人の
世界



『バンド・ワゴン』(1953) のシド・チャーリーとフレッド・アステア



24時間の休暇をもらった3人の水兵がニューヨーク見物 『踊る大紐育』(1952) 博物館のシーン



『アニーよ銃をどれ』(1950) のベティ・ハットンとハワード・キール



『くたばれ！ ヤンkees』(1958) のゲ恩・ヴァードンとタブ・ハンター



作曲家シグ蒙ド・ロンバーグの伝記『わが心に君深く』(1954) ゲスト出演ケリーの名舞台の再現



『百万両の人魚』(1952) のエスター・ウィリアムズ



「ハイ・リリー・ハイ・ロー」でおなじみ レスリー・キャロンの『リリー』(1953) 共演メル・ファーラー

歌の専門家、踊りの専門家、そして演技の専門家。でも本当のエンターテイナーは、この三つを、すべてこなす。そう、本当の芸人たち。フレッド・アステア、ジーン・ケリー、フランク・シナトラ、レスリー・キャロン、まだまだいる、ダニー・ケイにドリス・ディ……。かつてスクリーンは、そんな芸人たちの宝庫だった。映画とは、まぎれもなく、芸能の一分野でもあることを、もういちど考えてみたい。(K)



ジーン・ケリーの『雨に唄えば』(1952) メイン・テーマを歌い踊るハイライト



『巴里のアメリカ人』(1951) のケリー 幻想のパレエ



フランク・シナトラとジーン・ケリーの『錨を上げて』(1945)



『上流社会』(1956) のフランク・シナトラとビング・クロスビー



ドリス・デイがソフィストケイトなコメディで大あたり。これはケーリー・グラントと見せた『ミンクの手ざわり』(1962)



ダニー・ケイ日本初登場の『虹を摑む男』(1947) 夢の中でのみ英雄になる気の弱い男。彼のあこがれはヴァージニア・メイヨ 右はポリス・カーロフ



『二人でお茶を』(1950)はD・デイとゴードン・マクレー



ウェスタン・ミュージカル『カラミティ・ジェーン』(1953) のドリス・デイ



アボット／コステロ凸凹コンビの日本初登場だった『凸凹お化け騒動』(1941)



マーティン／ルイス 底抜けコンビ日本初登場の『底抜け艦隊』(1952)



『あの手この手』(1954)では腹話術師のダニー・ケイ

ウイリアム・ホールデン



デイヴィッド・リーンの『戦場にかける橋』(1957)では 脱走成功的アメリカ人捕虜に



戦争アクション『コマンド戦略』(1967)では 特殊レインジャー部隊員に



131



サム・ペキンパーのヴァイオレンス『ワイルドバンチ』(1969)で初老のガンマン

ト・バイロット』『戦場にかける橋』などの軍人、『ブラボーフー砦の脱出』『騎兵隊』『ワイルドバンチ』にみる西部劇など、いずれもホールデンの持ち味を生かしたものである。特に『ピクニック』とか『麗しのサブリナ』『月蒼くして』『第十七捕虜収容所』はホールデンなくしては語れぬほどのいやれたソフト・タッチの感覚を發揮した作品であった。どちらかというと調子の良さ、そうな軽さを持ちながら、内に秘めた知性が三枚目になると呼ばんしているというあたりにホールデンの個性があるだろう。大体において陽性的作品になるので、最も日本人好みのスターだといえるだろう。適度な明るさに加えて嫌みのないインテリジェンス、キザにならない都會的性と、すべての条件においてセラリとした肌会いであるが、そこがまたホールデンの存在価値を高める決め手にもなっている。(一)

なんの変哲もない柔軟な顔でありながらみごとに二枚目を続けてきたスターである。しかし、その役柄たるや実に幅広く、なんでもこなすという器用さを持ち合わせた優等生でもある。例えば『サンセット通り』とか『第十七捕虜収容所』の如きビリー・ワイルダー監督に目をかけられるアカ抜けた雰囲気を持つている。それは『月蒼くして』や『ピクニック』にも存分に生かされて都会的イメージを作りあげてはいるけれど、女性の紅涙をしぶつた暮情『クリスマス・ツリー』とかシリアルス・ラマ『喝采』、あるいは『トコリの橋』『ロケット



戦後第一線に立つ前の西部劇『荒原の女』(1948) 共演ロレッタ・ヤング



『サンセット通り』につぐビリー・ワイルダー作品『第十七捕虜収容所』(1953) 演技派への確実な歩みをみせた



ジェニファー・ジョーンズと香港を舞台に『慕情』(1955) これで人気は最高潮



キム・ノヴァクと『ピクニック』(1955)

★戦後派の四人

マーロン・ブランド

Marlon Brando (一九二四年) 舞台の有望な若手の評判を背負つて映画界入り。五四年「波止場」でアカデミー主演賞を受賞してアビールと、反逆のイメージは頂点に達した。強烈なセツクス・アビールが、五〇年代ハリウッドに君臨したが、六〇年代に入つて不調となり、七年「ゴッドファーザー」の圧倒的名演で驚異の復活を果たす。



ジーンズに皮ジャン 集団でオートバイを走らせる50年代の反抗児『乱暴者』(1954)

●皮ジャンとブランド

皮のジャンパーは、映画草創期から下町のアシちゃんご愛用の衣装として登場していくが、とても印象的に着こなされたのは、「乱暴者」のマーロン・ブランドによってである。まだ、「ゴッドファーザー」の日が来るのも知らず、アクターズ・ステュディオが生んだ天才として世に出たばかりのブランドは、しなやかな肢体を皮のジャンパーに包み、むせかえるセックス・アビールを振りまいたのだ。

それでも、ブランドにはなんて皮が似合うのだろう。精悍ながらだとキリッと締まるハンサム（のときもあつたノダ）な顔に支配された皮のジャンパーは、草原を駆けめぐるけもののときめきを放ち、生命をよみがえらせる。ブランドが着たジャンパーは、彼の体臭と一緒に、ここに生命あるものとして精彩を放つのである。（W）

性描写で話題騒然の『ラストタンゴ・イン・パリ』(1972)

マフィアのボス『ゴッドファーザー』(1971)

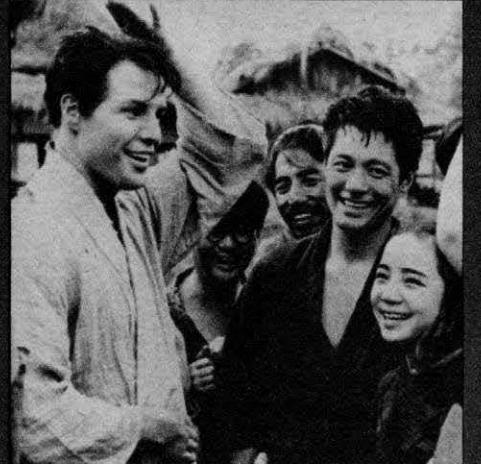
初めて歌った『野郎どもと女たち』(1955)

舞台から映画へ 大出世作『欲望という名の電車』(1951)

『ジュリアス・シーザー』(1953) ではアントニーに



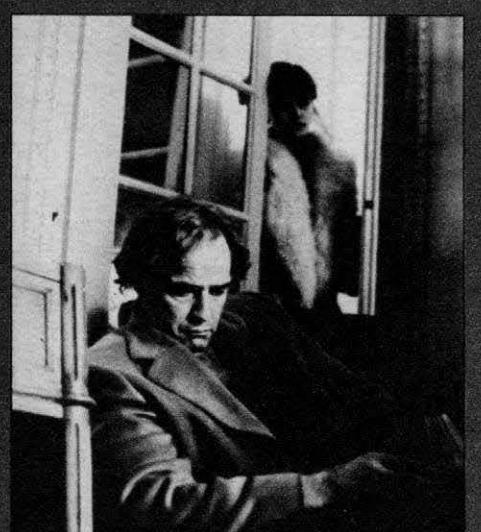
不正対しひとり立つ アカデミー主演賞の『波止場』(1954) 左はエヴァ・マリー・セント 初めての監督・主演作品『片目のジャック』(1960) 旧友の裏切りに報復する西部劇だった



沖縄ロケで『八月十五夜の茶屋』(1956)

戦後のハリウッドで最も個性的なスターはマリリン・モンローと、マーロン・ブランドにつきるであろう。ともに役柄が一貫していたことでも、その個性がいかに強烈であつたかがわかる。ねちっこいふてぶてしさになつたら、ブランドは天下一品。彼の出世作『欲望』という名の電車での鮮烈な印象は近作の『ミス・リ・ブレーク』に至るまで続いている。一つの型にはめて、作品による歴史を見てもみると、初期の作品『乱暴者』でワイルド・アド・ファンジエルという暴走族を演じ、チャンピラ集団のボスである。いつの間にか『ゴッドファーザー』といつまで続いている。アントニーのドンを演ずるに至つて、その演技は、やはりハリウッド上とはいえ、一つの線を持続して、役柄上といえ、一つの線を持続して、

あたかもその世界でのキャリア十分と思われるだけの力量とイメージを創り上げている。現代のスターは西部劇ならいざ知らず、現代のものでは実に珍しい存在であるはずだ。ブランドが演じてきた役柄や性格づけは、地なまでに頑強な精神力とか、ねばつきが身に宿る。若いつきには筋肉ではない個性がみられる。若い時から存在そのものがとても大きくみえたが、最近は、ますます風格がしみ出て無味な感じというか、凄味を加えてきた。その健在ぶりは、やはりハリウッドを支えている大物のひとりだ。（一）



性描写で話題騒然の『ラストタンゴ・イン・パリ』(1972)

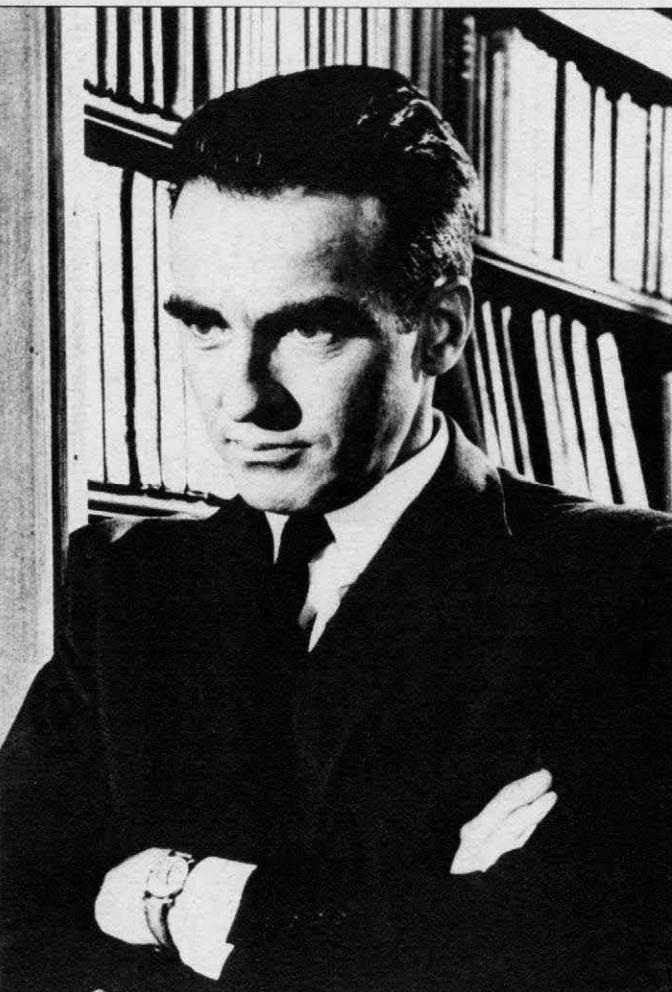
マフィアのボス『ゴッドファーザー』(1971)

初めて歌った『野郎どもと女たち』(1955)

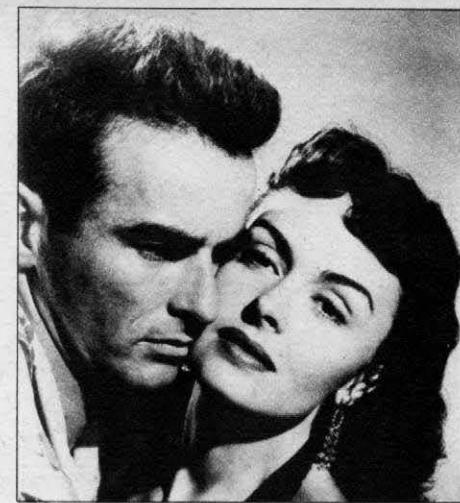
モンゴメリークリフト



『若き獅子たち』(1957) ではナチと戦う最前線のアメリカ兵に



リズ・テイラーとロマンスの噂も高かった『愛情の花咲く樹』(1957)



「地上より永遠に」(一九五三)でドナ・リードと

在でもあつた。だがその甘いマスクから発散する色気は從来の二枚目が持つていたセクシーナものとは異なつて、少年のごとき未成熟な部分から発散する魅力を感じさせる。

『地上より永遠に』で見せた意地つぱりな性格はそれだけに実に印象的であつた。前記の作品とヒッチコックの『私は告白する』、『エシーカの『終着駅』などが代表作になるが、四十六歳で死去。五〇年代での活躍は圧倒的なものを持っていたが、六〇年代に入つてからは自動車事故などによる障害のためバツとせず、單に内向的な面だけをのかせていた。そういう点でもマーク・ブランドとは好一対の存在であつた。(一)ブザン

Montgomery Clift(一九二〇一六) ブロードウェイの名子役から四八年『赤い河』でハリウッド入り。鋭い感受性と、端正な二枚目ぶりで五〇年代を代表するスターになり、個性が災してトラブルも多く、また、自動車事故による顔面負傷など、恵まれぬ晩年を過ごす。生涯独身を貫いている。



ハワード・ホークス監督『赤い河』(1948)でデビュー



モンティの人気急上昇した『女相続人』(1949)



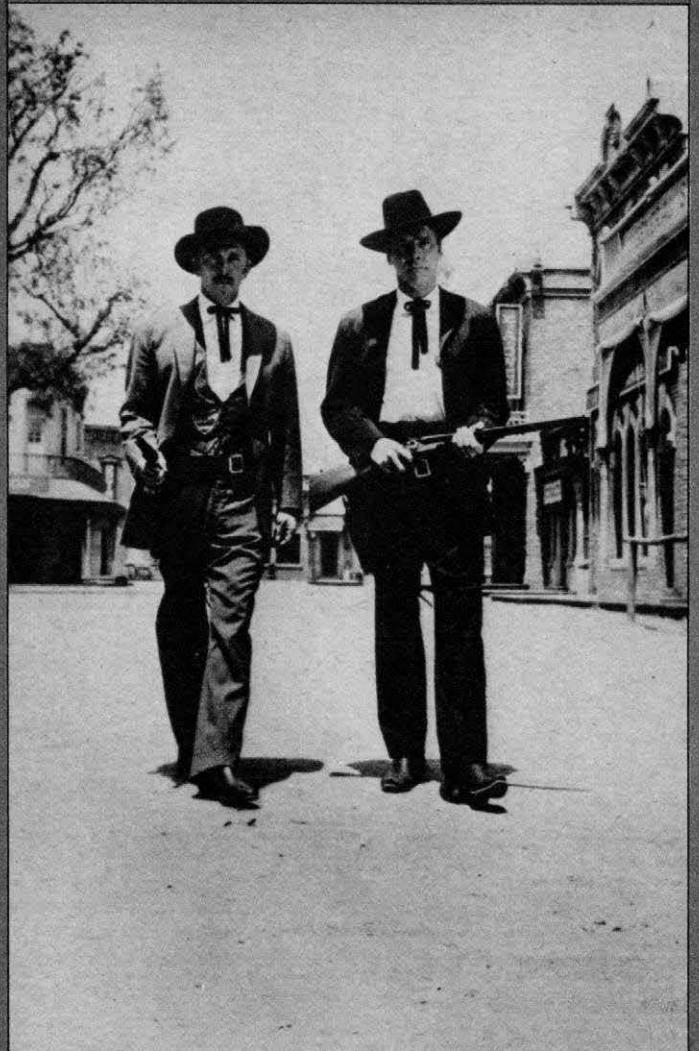
リズ・テイラーとアメリカ青年の野心を描く『陽のあたる場所』(1951)



ヒッチコックに請われてスリラー『私は告白する』(1953) でカソリックの神父に扮した 共演アン・バクスター

バート・ランカスター

★ 戦後派の四人



さっそうワイアット・アーフ『OK牧場の決闘』(1957)



ルーヴルの名画を守れ！ 鉄道員たちの総決起『大列車作戦』(1964)

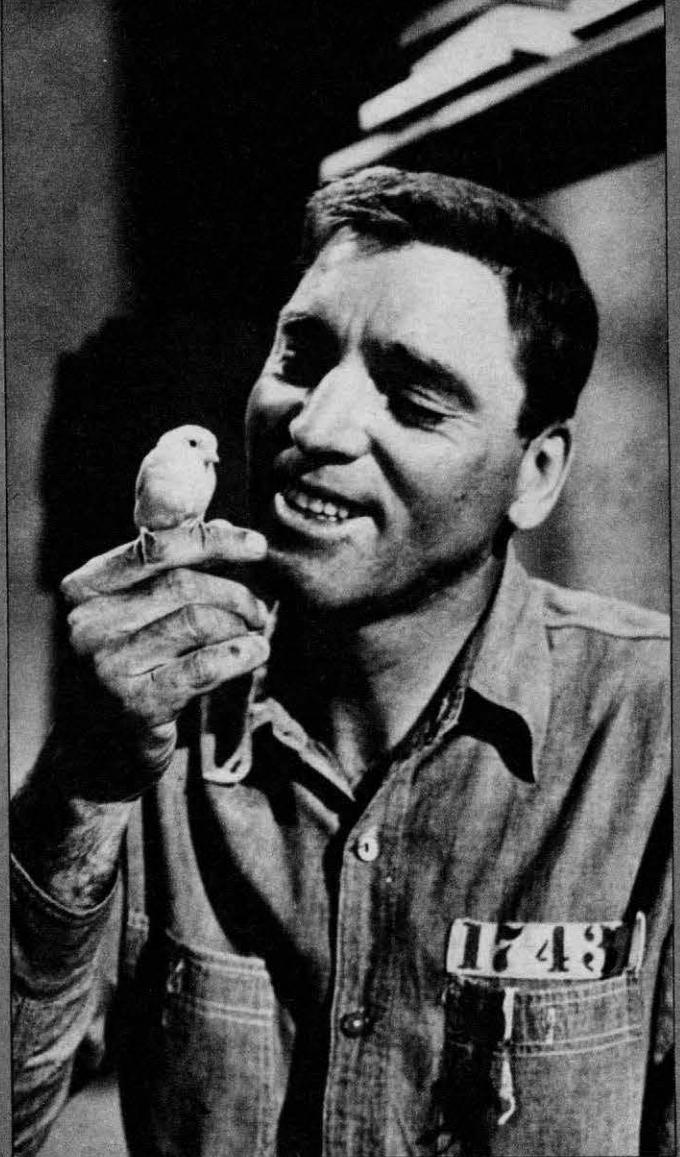


粗野な魅力で海賊船の船長『真紅の盗賊』(1952)



『真昼の暴動』(1947)では集団脱獄のリーダーに

Burt Lancaster (一九一三-) 四六年「殺人者」でデビューしたとき、すでに三二歳。スターの遅れを、スター・プロの走りでもつたヘクト・ヒルランカスター、プロの成功でカバー。六〇年「タルマ・ガントリー」でアカデミー賞受賞。六三年ヴィスコンティの『山猫』に出演するなど、幅の広い柔軟な姿勢が見事。



獄中の鳥類学者 実話の映画化『終身犯』(1961)



私生活面での知的な雰囲気とは裏腹に、スクリーンに登場するランカスター自身は、知性もなければ感性もない、あるいは本能のみという行動性を示すのだが、そのかわり強欲さとか野望を抱いた人物を演したらこれまた右に出る者がいないほどの味をみせてくれる。

「山猫」とか「成功の甘き香り」などでアクション・スター・ランカスターとは異なる特殊なキャラクターの存在を認識させてくれたのも、彼がアクションで築き上げた地位を確保する大きな要素となっている。まるでレス・展开をしてきた馬のごとき大きな鼻孔を広げ、そしてまた鉄格子くらいなら噛み切つてしまいそうな丈夫な白い歯をむき出しにして聟闢するランカスターではあるが、そうした表情ひとつがトレードマークになるスターもほとんどいなくなくなつたいま、実に貴重なスターといえるだろう。(一)

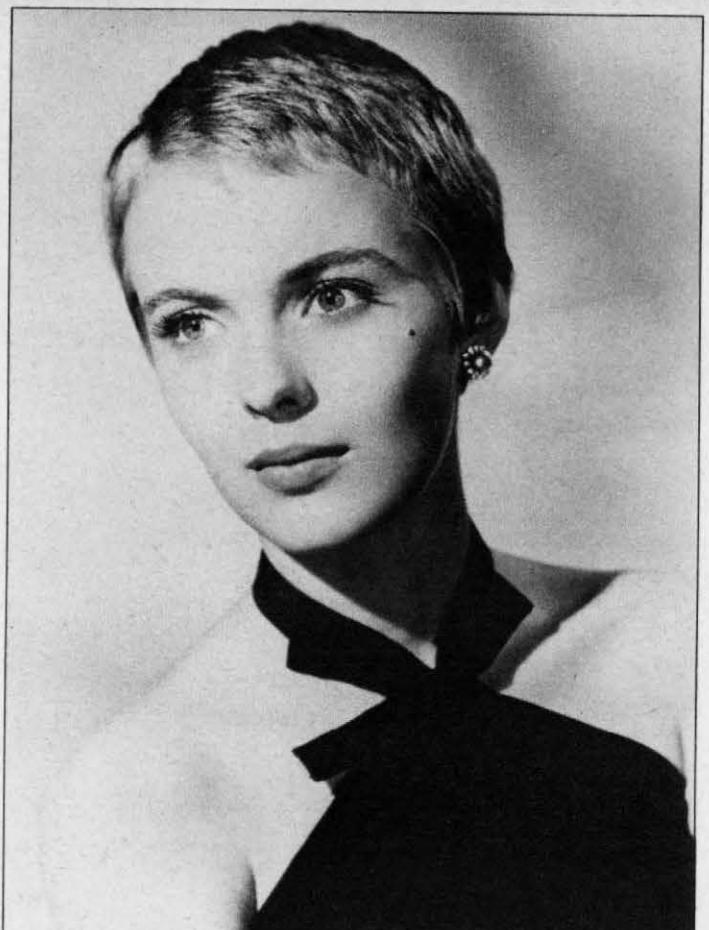


大物ゲーリー・クーパーと丁々発止の西部劇『ヴェラクルス』(1954)

個性的で華やかに



『愛情物語』(1955)で薄幸の美男美女タイロン・パワーとキム・ノヴァク



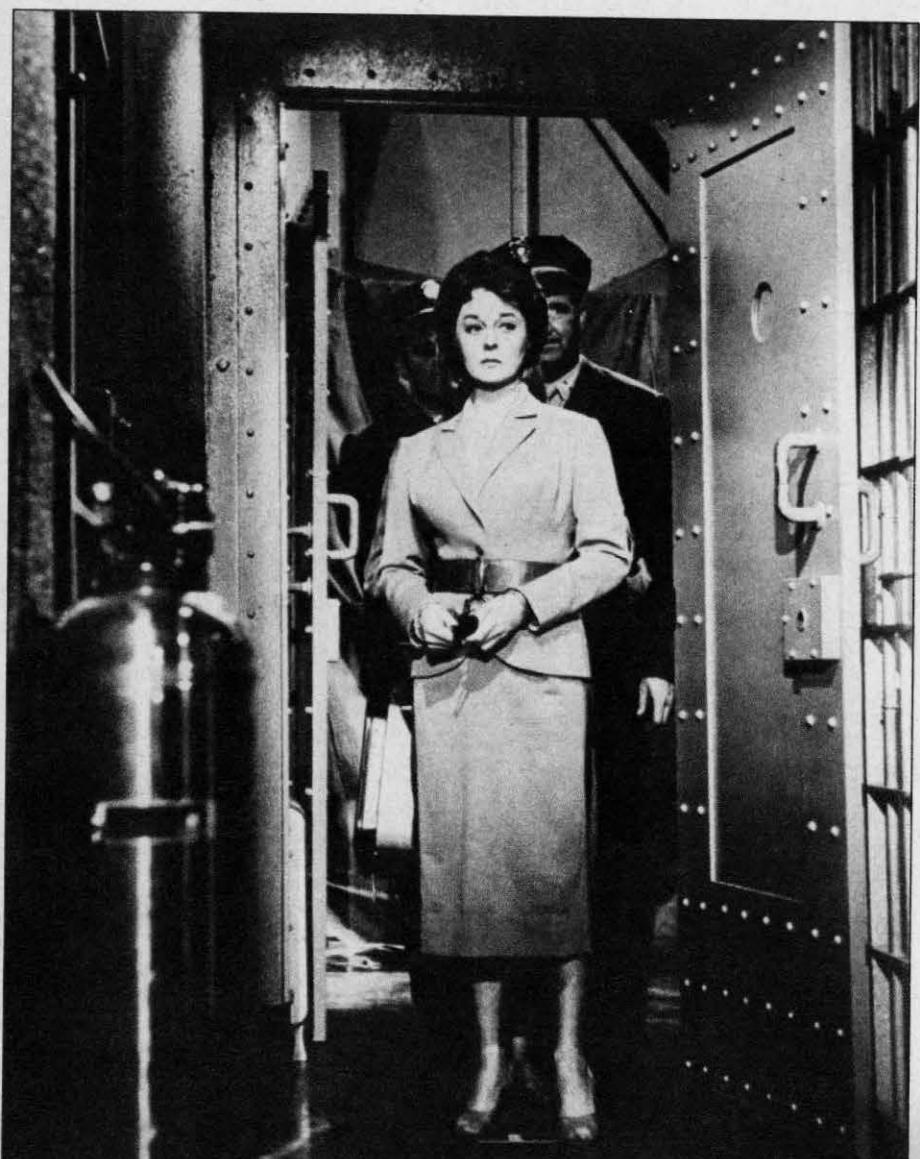
『悲しみよ こんにちは』(1957)でセシル・カットのジーン・セバーグ



しゃれ者デーヴィッド・ニヴィンと知性派デボラ・カー『悲しみよ こんにちは』(1957)より



『チャンピオン』(1949)で世に出たカーク・ダグラス



女死刑囚の実話「私は死にたくない」(1958)に賭けたスザン・ヘイワード

映画と風俗
セシル・カット
"セシル・カット"が、一九五八年に作られた『悲しみよ こんにちは』のヒロインセシルのヘア・スタイルであることは、よく知られています。そして、このヘア・スタイルは、一世を風靡したばかりでなく、ヘア・スタイルのバターンとして、映画を離れてヘア・モードの世界に定着した。いまでは、"セシル・カット"といえば『悲しみよ こんにちは』や、セシル役を演じたジーン・セバーグを想起出

すこともなく、"あのボーアッシュなヘア"なのである。

少年のように華奢な女性によく似合う"セシル・カット"は、残念ながらだれにでも似合

うというわけにはいかない。また、手入れが

面倒なところからその名ほど大流行したわけ

ではないが、優れた映画音楽がいつかスタン

ダード・ナンバーになるように、スタンダードなヘア・スタイルとして、永遠に残ること



『王様と私』(1956)でデボラ・カーと踊るユル・ブリッナー



悪役に新世界を確立したりチャード・ワイドマーク『街の野獣』(1953)



『シェーン』(1953)のアラン・ラッドは股旅西部劇永遠のヒーローだ

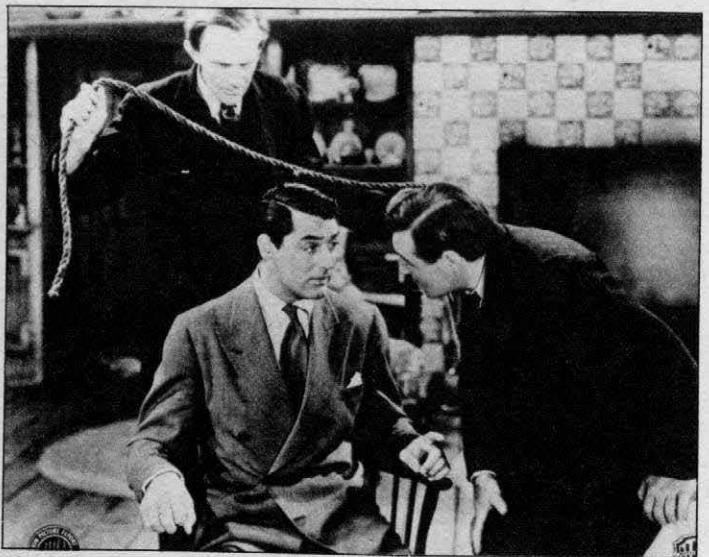
とりわけ戦後、リアリズムの世界に目を向けてハリウッドは、従来のものさしとは、ひと味ちがう個性的なスターを、たくさん世に送り出した。同時に、いわゆる美男美女が、異な役柄に挑みだしたもの、大きな特徴のつてある。それは作品にヴァラエティを持たせ、さらに大きな豊かさを、とどけてくれるのである。(K)

★ 脇役ありて映画は楽し ☆

①



ジャック・ブキャナン(左)はギンギラギンのオーバー派『バンド・ワゴン』でアステアを悩ます演出家を怪演した



ピーター・ローレ(右)は特異な容貌を生かして活躍した『毒薬と老娘』では殺人狂を整形手術した医師



『マルタの鷹』にはピーター・ローレも出演
大小性格俳優の対決がみものだった



「無法者の群」のブルース・キャボット(右から3人目)西部の町の悪がしこいボスが役どころ



マイク・マズルキ(中)は元レスラーの肉体と貴録で主役をおびやかす『凸凹持ち逃げ騒動』



謎の大男シドニー・グリンストリート『マルタの鷹』で
黄金像争奪戦に一役買う



『西部の男』のドリス・ダヴェンポートはフロンティアの健康美人



懐しのビヤ樽おばさんハティ・マクダニエル
『風と共に去りぬ』で忠実な召使いに



『チャップリンの独裁者』のジャック・オーキーはムッソリーニがモデル 悪夢の時代を再現した

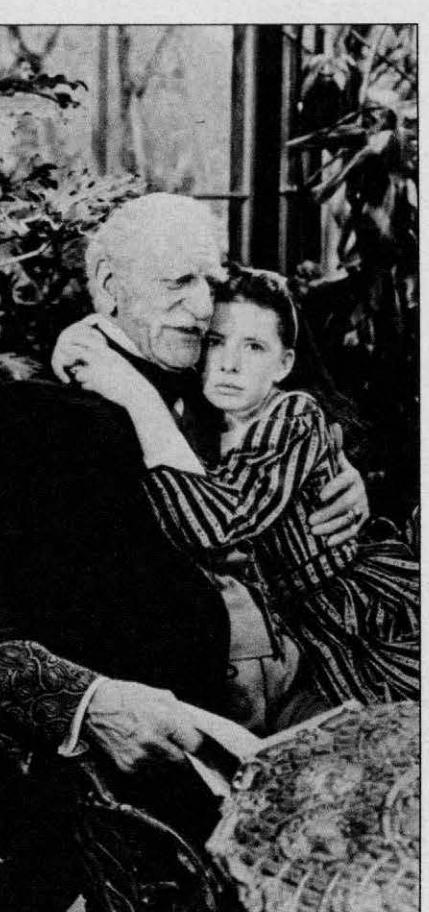


善意の理解者 良き隣人『打撃王』のウォルター・ブレナン
暖かくクーパーを見守る

映画を料理にたとえると、すぐれた脇役は調味料にあたる。ただし添加物をいつさい含まない天然のまろやかな味でなければならぬ。人生の年輪が演技のはしばしにじみ出で、わずか数カットの出番でも心に残ることが望ましいのである。実際、脇役のおかげで記憶に残る映画は少なくない。

私の場合、「カサブランカ」がそれにあたり、ハンフリー・ボガートもイングリッド・バーグマンも、クロード・レインズとのからみで脳裏に浮かぶ。つまり、思い出の名シーンには必ずレイinzが顔を出していて、主役だけではない。レイinzのいの「カサブランカ」なん……である。脇役にもさまざまのタイプがあるから、すべ

てがレイinzのようにはいかない。が、その場合も、料理の隠し味のように、表にあらわれないで映画を香り高いものにしている。私たち、毎日の生活と同じように、スクランブルたくさん脇役と出会い、別れる。彼らの大部分は、一瞬のうちに視界を通りすぎが、そうしたむなしさが人生のある部分を象徴してはいないだろうか? 一期一会が、人生の定めなら、私たちと脇役の出会いは、主役との上映時間中べつたりのつきあいより、アリティがある。そして脇役調味料論も、つまりは、わが人生論の一環なのである。ご紹介する名脇役のひそみにならない、私もいつかまろやかな味を、と願いつづ……ふたたび、脇役は映画の調味料である。(増淵健)



『拳銃の報酬』でのエド・ベグリー(中)には
老勝負師の面影がある



『荒野の決闘』のジョン・アイアランド
やせぎすで口も八丁手も八丁のタイプ



『レベッカ』 ジュディス・アンダースン(右)の死
のささやき 恐ろしいですね 怖いですね



おとぼけ弁護士チャールズ・ロートンが活躍
する『情婦』は 文字どおり人を食った映画



『第十七捕虜収容所』のロバート・ストラウス
(左) ごついが愛嬌のあるマスクで売る



腹にイチモツの策士をやらせると天下一品『カサブランカ』のクロード・レインズ(右)は警察署長



皆の夫に会いに行くけなげな将校夫人ルイーズ・プラット『駅馬車』
の忘れ得ぬ佳人である



脇役になってもボリス・カーロフ(右)の怖さは変わらない『虹を掴む
男』でも主人公を大いに苦しめた



エドマンド・グエン(左)は『三十四丁目の奇蹟』で現代のサンタクロースに 心やさしい理想主義者



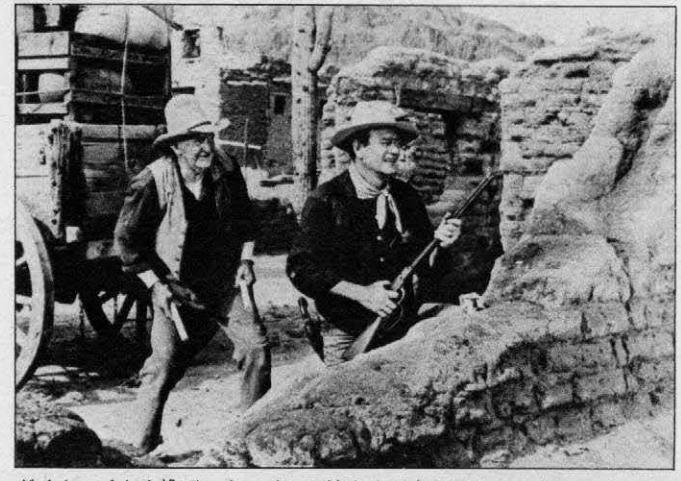
フロラ・ロブソン(右から2人目)は苦労人のおばさまがびったり『嵐ヶ丘』では乳母



古代史劇の暴君はピーター・ユスティノフの独壇場『クオ・ヴァディス』
ではネロ



エイキム・タミロフ(右)は善玉をやってもすご味がある
『誰がために鐘は鳴る』ではゲリラの首領



ダイナマイトを投げ ウエインに協力する老助手ウォルター・ブレナン
『リオ・フラボー』でやる気十分



アーサー・ケネディは ひねくれ者をやらせると第一級『チャンピオン』
ではカーク・ダグラスの兄になった



ワード・ボンド(左)は悪役からスタート 年をとってから頼り甲斐のある
好々爺が持ち役に『若き日のリンカーン』



一見好々爺のレオ・G・キャロル(右から3人目)『砂漠の鬼將軍』で
ロンメル將軍を扇動する



『我が道を往く』のパリー・フィッツジェラルドは教会を再建する老神父
に ひょうひょうたる持ち味



これぞ悪役! レミントン・リボルバーをふりまわしゲーリー・クーパー
にせまつた『ダラス』のスティーヴ・コクラン(左)

★スクリーンの女王

エリザベス・テイラー



『若草物語』(1949)ではお洒落な3女エミーに、当時17歳だった



このころはまだ純情可憐。ウェディング・ドレスで『花嫁の父』(1950)



フィッツジェラルドの小説から『雨の朝巴里に死す』(1954)



デビュー3本目。12歳で出演の『シェーン・エア』(1944)



モンティとの『陽のあたる場所』(1951)



Elizabeth Taylor (一九三二) ロンドン生まれのイギリス人だが、一家とともにハリウッドへ移ったのが縁で十歳にして子役として映画デビューし、天性の美貌で五〇年に前後からトップ・スターの地位を確立。さまざまなゴシップにいふれど、戦後スターとして、いまなお話題がない。

MGMの人気スター ミッキー・ルーニーと『緑園の天使』(一九四四)



『クレオパトラ』(1963)



初めてオスカーをとった『バターフィールド 8』(1960) 4度目の結婚相手エディ・フィッシャーとの共演でコールガール役だった



脱体制の女流画家『いそしき』(1965) このころ相手役はバートンばかり



政情不安な中米ハイチを舞台に バートンと『危険な旅路』(1967)



古典に挑んだ『じゃじゃ馬ならし』(1967)

二作「家路」では、早くも少女スターの地位を約束され、「若草物語」では、もう一人前の女優だった。「花嫁の父」「陽のあたる場所」「黒騎士」——「若いころの、ビートン」と張りつめたような、あの美しさはどうだろう。まさに輝くような美しさ。子役からの完全な脱皮。そんな彼女が、きれいいくめの装いから清潤あわせのみ、それでなおかつ頂点をめざし始めたのは五〇年代の終りからである。「バターフィールド 8」で初のオスカーをとり、「バートンと四本目の共演作『バージニア・ウルフなんかこわくない』で二度目の受賞。しかもよごれ、狂気のごとき熱演を見せながらも、スターとしての華やかさだけは失わない。女王の、女王たるゆえんである。(K)



ジミー・ディーンの最後の作 大河ドラマ『ジャイアンツ』(1956)



輝くような美しさ M・クリフト共演『愛情の花咲く樹』(1957)



バートンとの2本目『予期せぬ出来事』(1963)



ポール・ニューマンと テネシー・ウィリアムズの『熱いトタン屋根の猫』(1958)

エリザベス・テイラーリーといえば、まずは結婚離婚の派手な話題。十八歳でコンラッド・ヒルトン二世と挙式以来、七年暮れの十二月四日、元アメリカ海軍長官ジョン・ウォーナー氏まで、六人、七回結婚というレコード・ホルダである。しかも二存知リチャード・バートンとは、二度結婚という、ていねいさ。私生活での華やか話題が、あまりに先行しきるがゆえに、女優としての真価が、つい忘却されがち。これが、とりわけここ数年の彼女の大きなマイナス。だが、キャリアをちよつとチェックすれば、すぐわかることだが、彼女くらい常に第一線を、しかも長期にわたって歩み続けた女優は少ない。彼女は十歳のとき、小さな役で初めて顔を出し、第

★輝ける妖精
オードリー・ヘップバーン



『ローマの休日』(1953)



「魅惑のワルツ」にのってバリジェンヌのアヴァンチュール『昼下りの情事』(1957) お相手はゲリー・クーパー



ファッション界に大革命 第2作『麗しのサブリナ』(1954)



赤道下のコンゴで看護尼になった『尼僧物語』(1959)



メル・ファーラーの演出で まさに妖精『緑の館』(1958)

●サブリナ・シユーズ
オードリー・ヘップバーンの名を聞くと、彼女の全盛期（一九五〇年代後半から六〇年代はじめ）に流行った「おどろきコツベパン」という駄じやれめいた言葉をおもい出す。こんな言葉が多く人の口の端に登ったこともわかるとおり、オードリー・ヘップバーンの存在は、単に映画スターであることをこえて、より社会現象的存在だったのだ。

ヘップバーン・スタイルといえば、ヘア・スタイルであり、アリアーヌ巻きは、スカーフの巻き方。シャレード・グラスは、サングラスで、サブリナ・シユーズとはノッボの彼女が『麗しのサブリナ』で履いていたヘンコな靴。そして、それプラス、パリのデザイン、ジヴァンシーのドレスをすてきに着こなすオードリーは、今までいうところの、ファッションのオビニオン・リーダーだった。ヘップ履き、というおばさん愛用のつっかけも、語源はどうやら彼女のようである。(W)

映画と風俗

Audrey Hepburn (一九二九)
バレリーナから映画入り。五三年
『ローマの休日』でスターになり、
妖精スターとして、ことに日本
での人気は絶対的なもので二十余年
にわたってトップ・クラス。メ
ディアで「ローラー」といわれ、
神科医と離婚後、ローラーと離婚。
七年に八年ぶりにスクリーンを
離れた。七年に八年ぶりにカ
クした。



世間の口が人生を狂わせる 珍しくリアルな『暁の二人』(1962) 恋人役はジェームズ・ガーナー



さしもの妖精も いさか年月を感じさせた『いつも2人で』(1967)



ウィリアム・ホールデンと『パリで一緒に』(1964) 仮装舞踏会の場



意表をついて盲目の妻に『暗くなるまで待って』(1967)



ついにイライザは大使館の舞踏会へ『マイ・フェア・レディ』(1964)



パリを舞台にハイ・センスなスリラー『シャレード』(1963)



伯爵家の令嬢ナターシャを気品で見せた『戦争と平和』(1956)

今こうして『ローマの休日』に始まるオードリーの足跡をみていると、この人が、驚くばかりに美しかったことに、改めて気がつく。本当に、この世の人とは思えないほどである。妖精と言われているくらいなのだから、それは当然なのだけれど、妖精などという存在を、はるかに越えた輝きである。

この輝きが、ごくふつうの、人間の輝きに変わつたのは『いつも2人で』あたりからだろう。おそらく、この映画でオードリーは初めて、人間のマイナーな面を見せたはずである。『暗くなるまで待つて』、そして『ロビン・マリアン』——いま、ようやくにオードリーは、ごくふつうの人間の輝きと、人間の弱さと、それから、実によくある人間のダメな

面を見せたような気がする。だが妖精が天上がり舞い降りたつていいではないか。私たちも、また老いていく。何かがオードリーに起つたつていよいよではないか。たとえオードリーに何が起きようとも、かつて私たちが築いた神話が、くずれてしまうわけではない。そんなことで、くずれてしまう神話なら、くずれてしまえばいいではないか。オードリーが、かつて確実に持つた、この世のものは思えない、あの輝き。それは決して消えはない。もし、それを消してしまったら、それは私たちの、これまでの生そのものを消してしまうことになる。何故なら、かつて私たち、確かにオードリーとともに歩いたのだから。(K)



『パリの恋人』(1957) ではピートニクなダンス・ナンバーを披露



いつもながらファッションは圧倒的『ティファニーで朝食を』(1961)

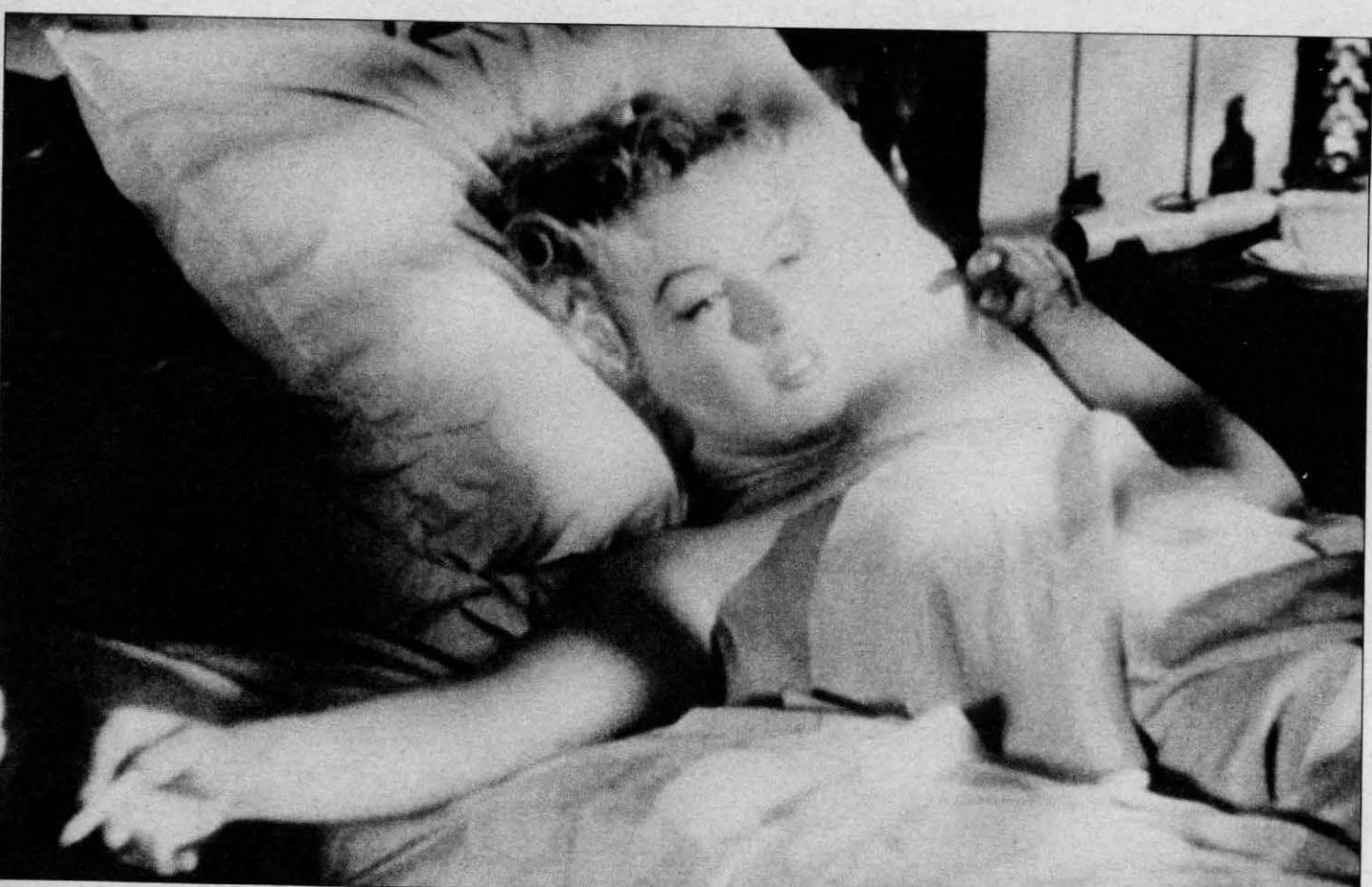
★帰らざる肉体
マリリン・モンロー



オムニバス『人生模様』(1952) ではチャールズ・ロートンと



ジェーン・ラッセルとセクシー旋風『紳士は金髪がお好き』(1953)



153

滝も壯觀なら モンロー・ウォークもまた大評判だった『ナイアガラ』(1952) 当時マリリン26歳



情婦役で注目された『アスファルト・ジャングル』(1950)



『七年目の浮氣』(1955)



クラーク・ゲーブルと『荒馬と女』(1961) ともに最後の作品となった



『恋をしましよう』(1960) ではセクシーな踊りを

Marilyn Monroe
 (一九二六年六月一日生)
 私生児としての暗い生き方。
 モデルからハリウッドのスターへ。
 虚像に傷つき、ノイローゼが生じた。
 三度の死へと、波瀾の一生を送った。
 荒馬と女』(1961) ともに最後の作品となつた。



演技派をめざした『バス停留所』(1956)



ローレンス・オリヴィエと恋を語った『王子と踊子』(1957)



いまや歴史的な名シーン 『七年目の浮気』(1955) より



ロバート・ミッチャム共演『帰らざる河』(1954) 酒場のグラマー歌手マリリンがギターかかえて歌ったテーマ曲が大ヒット

マリリン・モンロー、ノーリターン映画のセックス表現がどんなに進んでも、マリリン・モンローを越えるセックス・シンボルは現われない。今日のセックス・スターたちがいかに露わなポーズをとつても、「七年目の浮気」の地下鉄の風でスカートを翻らせるモンローを凌駕するエロスのイコンとはならぬ(ちなみに、都会のビルの谷間に突風が発生することを、学者の間で「モンロー効果」と呼ぶそうだ。もちろん、このシーンに由来しているのである)。マリリン・モンローはエロスの女神であった。私生児として生まれ、幼女期に中年男からイタズラされ、十六歳で結婚したが、すぐに離婚、スターとなつてからも、アメリカを代表するプロ・スポーツ選手、大作家と、結婚、離婚をくり返す、寝るときはシャンネルNo.5しか身につけない……彼女の人生のすべての細部が、セックスの女神としてのモンローの神話に組みこまれた。それがハリウッドであつた。無名時代の全裸写真は、彼女が全身全霊をセックスに奉じたスターであるとの証明書となつた。それ以上の証明は無用だつた。ハリウッドは、マリリン・モンローの巨大な神話をつくり上げた。世界中の男たちの願望を一個の現人神に集約したのだつた。ハリウッドのスターはモンローだけではない。ハリウッドのスター神話も帰らない。だからこそマリリンは永遠の祭壇に祭られたのである。(U)



コメディエンヌの味も見せた『百万長者と結婚する方法』(1953) 共演ローレン・バコール



歌と踊りと脚線美と『ショウボート』(1951)
素敵な商売はない

☆優美なる白鳥

グレース・ケリー

Grace Kelly(一九二八年) フィラデルフィアの上流階級の娘として生まれたが女優を志願し、ニューヨークの舞台に端役出演したところ、五二年に抜擢され映画デビュー。のべ一本の作品に主演したが、五六年モナコのレー二工にて見染められて結婚。カムバッタの話が何度かあつたが実現しない。



『白鳥』(1955) は貴族の娘グレースが家庭教師ルイ・ジュールダンをあきらめて皇太子に嫁ぐ話だった。このあとモナコ国王との婚約発表



最後の作品『上流社会』(1956) でシナトラと



『泥棒成金』ではニースの海岸で水着姿も見せた



ヒッチコックに請われて『ダイヤルMを廻せ!』(1954) 大抜擢ゲリー・クーパーの『真昼の決闘』(1952) に

グレースフル・グレース(優美なる白鳥)——グレース・ケリーとモナコ国王レー二工三世との結婚は、世紀の結婚といわれ、世界中をにぎわした。この「世紀の結婚」なる言葉は、それに先立つウインザーロイヤル一家、マリリン・モンローとジョーン・ディマジオの結婚の際にもつかわれた。前者は王室関係、後者は芸能関係である。グレースとレー二工三世の場合はその二つをいっしょにしたものであつた。この結婚はエドガール・モラン(スターの著者)が言うように「王とスター」と神話的類似をはつきりと示した。映画スターから王妃へ——しかし、その身の変転はグレース・ケリーなら当然というふうにも、わたしたちの目にうつった。彼女がスターと

して築いた神話が現実になつただけの話で、「白鳥」の題名とおり優美なイメージは、ストップ・モーションをかけられたように、そこでそのまま固着したのであつた。「スターをして王に祀り上げる。二〇世紀は、王をまた、スターに仕立てあげる。(モラン)。グレース・ケリーは、スターから別のスターへと変身した、まさに「世紀のスター」であつた。彼女の「グール・ビューティ」、白鳥のようなエレガンスは、その裏に、生身の血の温かさを感じさせるセクシーな魅惑を秘めていた。この彼女の本当の魅力、セックストとそれを包むユーモアを最もよく引き出したのが「ダイヤルMを廻せ!」『裏窓』『泥棒成金』のヒットだつた。(U)



ケーリー・グラントと南仏のサスペンス『泥棒成金』(1955)



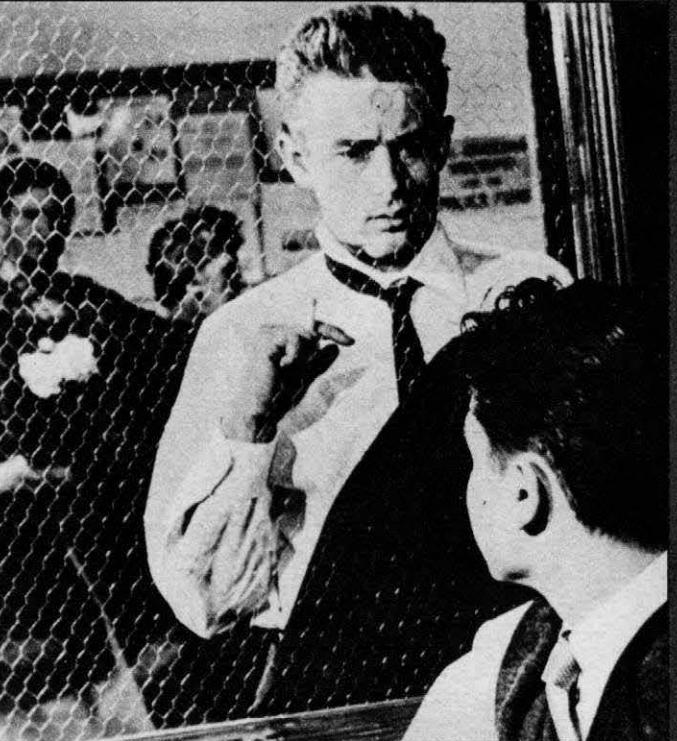
地味ながら舞台人の妻を演じてオスカー『喝采』(1954)



再びヒッチコック作品『裏窓』(1954) ジェームズ・スチュアートと



ジエームズ・ディーン



「エデンの東」(1955) これ1作で50年代の寵児に ジミー・ディーンの この眼千両 共演ジュリー・ハリス (下2枚も同作品)



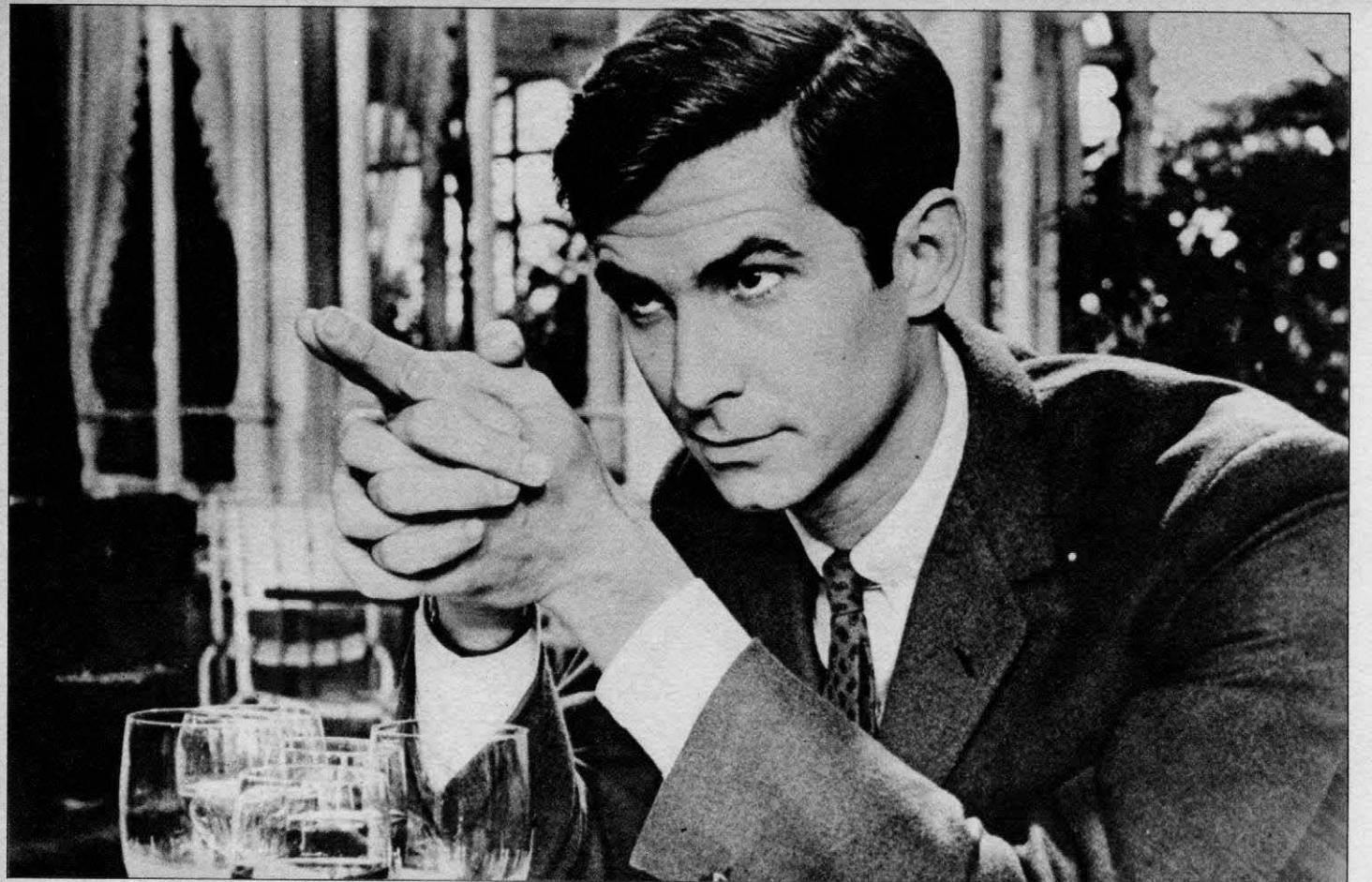
グループのひとりナタリー・ウッドと愛が芽生えて(『理由なき反抗』) 第2作『理由なき反抗』(1955)も大好演で人気は決定的に

新人のデビューとしては空前にして絶後といふ評価を受けたのも当然である。わが国では「エデンの東」が公開され、ジエームズ・ディーンの話題を持ちきりだつた最中に、突然死を迎ってしまったのだから。その死がいかに衝撃的であつたにしろ、やはり桁外れの大物であつたことは間違いない。新人のまま、あつというまに去つてしまつたにもかかわらず、ハリウッドを代表する大スターとして、今まで、その神話的な存在が絶えず話題になつてゐるのだから。

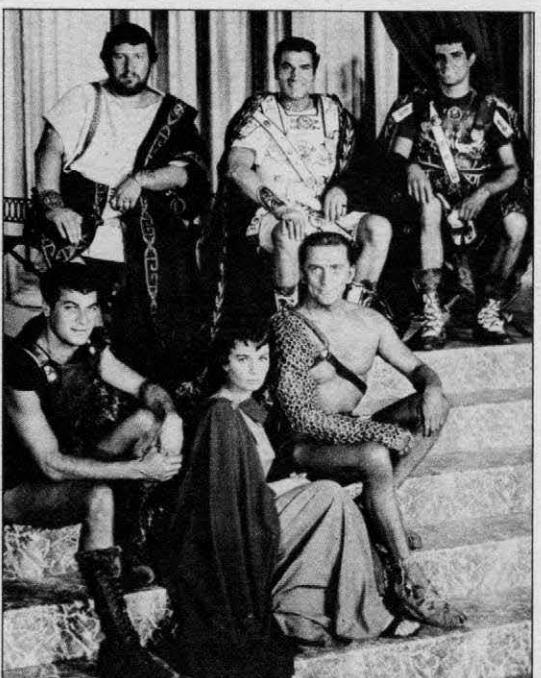
かつてハリウッドのヒーローたちは何ごともめげぬ強固な意志を貫くことによつて成立していた。これに対してジエームズ・ディーンはしたがられた者の屈折した心情を、かくくなし守り通すという青春像によつてヒーローになつた。これは新しいタイプのスターである。同情されることを拒否しつも同情されてしまうという特異な個性が実に新鮮であった。スクリーンという魔術が見せてくれた。虚構の世界にあつては、ナマナマしい現実感と存在感を發揮して新しい映画の誕生に対する期待感を抱かせるに十分な迫力があつた。それが不可能なハリウッドでもある。(一)

James Dean (一九三一~五五) 演劇青年から、五〇年エキストラとして映画へ。ニューヨークへ出て演技の勉強をしているときにイエードン監督にみどりめられ、「エデンの東」に抜擢され、センセーションな話題を呼ぶ。ついで二作に主演したが、五五年九月三十一日、愛車の激突事故で二十四歳の生命を終えた。

最後の一枚目



サガンの世界『さよならをもう一度』(1961) パーキンスは年上の女イングリッド・バーグマンの心を波立たせた



『スパルタクス』(1960) のカーティス (左端)



軽いコメディはハドソンの独壇場『男性の好きなスポーツ』(1964)



ロック・ハドソンは明るい二枚目『武器よさらば』(1957)



禁じられた恋『死んでもいい』(1962) のパーキンス



じっくりと芝居を見せた『ジャイアンツ』(1939) のハドソン



『のっぽ物語』(1960) の人気学生アンソニー・パーキンス

★脇役ありて映画は楽し★

②

私の映画の部屋

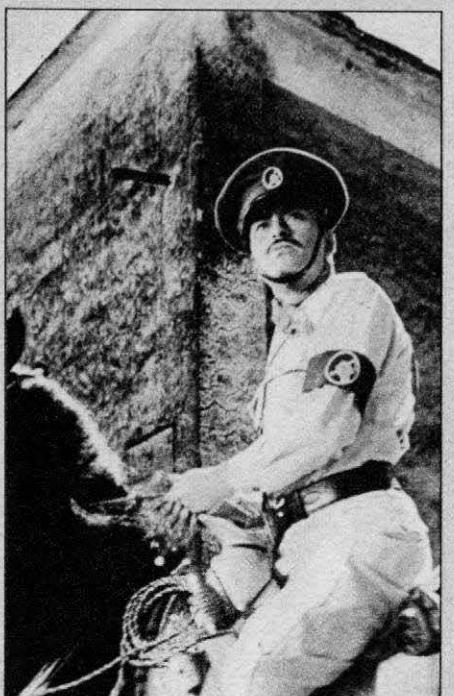
正・続・続々

チャップリンの世界、ジエームス・ディーン…懐かしの名場面をリリード！
淀川長治のRadio名画劇場
TBSの人気番組「淀川長治のRadio名画劇場」
で、あにじな淀川節をそのまま再現。
「世界の黒沢明」「男の世界」「ギャング映画」
など話題沸騰のスクリーンエッセイ集！

好評発売中 各¥1,200

TBSブリタニカ

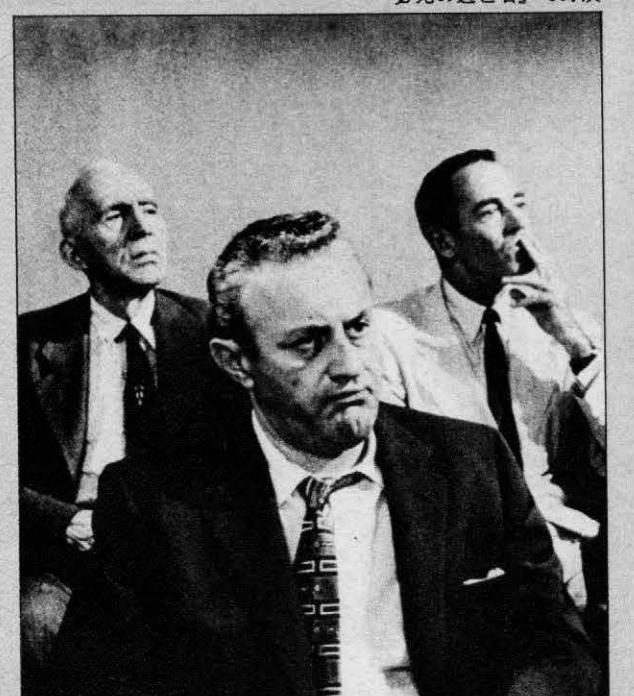
東京都千代田区三番町28-1 秀和二番町ビル 招待東京1-131334



『逃亡者』のペドロ・アルメンダリス 無神論者の警官がびったりのクールな性格演技



しっかり者の中年夫人ならお任せ 『静かなる男』のミルドレッド・ナトウイック（中）



リー・J・コップ（中）は偏執狂的性格を演じて第一人者 『十二人の怒れる男』では有罪を主張する陪審員



劇場に隠然たる力を持つ劇評家ジョージ・サンダース（右） 『イブの紹介』でみせた俗物インテリの印象鮮烈



『ハスラー』のパイパー・ローリーはポール・ニューマンとの恋に傷ついた



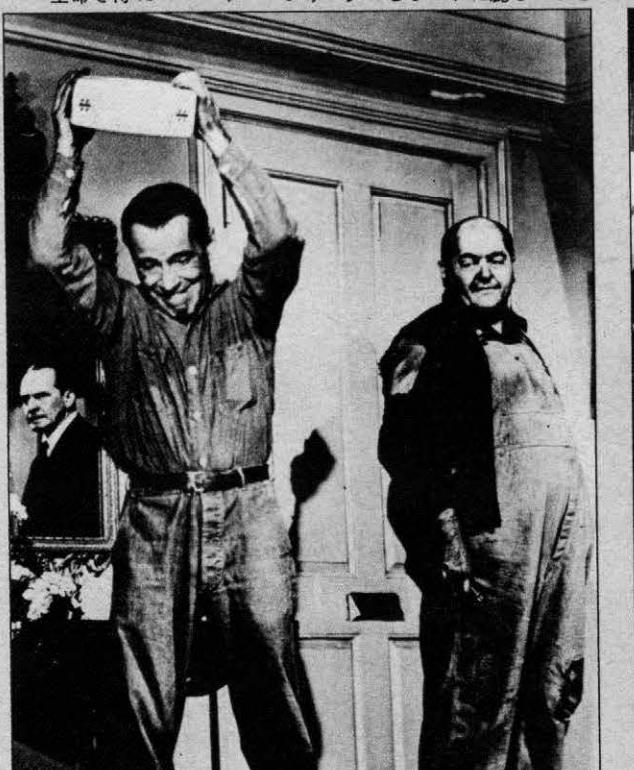
脇役時代のピーター・フォーク（中）はチンピラ専門 『ポケット一杯の幸福』



ジャッキー・グリースン（右）は一芸に秀でた人間だけがもつ迫力を全身で表現 『ハスラー』



キャシー・ダウンズ（右）は『荒野の決闘』で永遠の生命を得た ヘンリー・フォンダの心ひかれた麗しのひと



太鼓腹が売りもの（？）のロバート・ミドルトン 『必死の逃亡者』で好演



コーヒーを飲み黒手袋をはめると 殺しの準備OK ジャック・パランス（中）は『シェーン』で名をあげた



アーネスト・ボーグナインは悪役に限る！『大砂塵』ではあのスターリング・ヘイドンがタジタジ

「オスカー」を8通りで ご覧になりませんか？

暖かい部屋でお食事がすんだ後は、ご家族のかたと懐しい映画をご覧になつたら如何？美味しいモンブランに花が咲くかもしませんよ。



■ポセイドン・アドベンチャー

夢の大客船、ポセイドン号が海底地震の大津波により転覆。床に散るシャンデリア、ステンド・グラスに驚愕する人、その地図を劇場そのままの迫力でお楽しみいただけます。フィルム購入をご希望の方は、書留送料として600円切手を添えて現金書留にてお申し込みください。

●カラー・磁気サウンド版
●96m/16分 ●¥14,800

提供：20世紀フォックス映画会社

■ビートルズ： ワシントンD.C.コンサート(1964)

1964年、初のアメリカ上陸で会場は興奮の嵐。キミにひと昔前の彼らの活躍を観せてあげたい。フリーズ・ブリーズ・ミー、サイスト・ミ・シャウト他10曲以上の歌が抽入されています。フィルムの購入をご希望の方は、書留送料として600円切手を添えて現金書留にてお申し込みください。

●白黒・磁気サウンド版
●240m/40分 ●¥25,000

■ジュネス企画

〒150 東京都渋谷区道玄坂2-10-7
新大富ビル9階 ☎ 03(463)8750

新カタログ・要300円切手



ウィンターズがいじらしかった『陽のあたる場所』ふとっちょおばさんの22年前



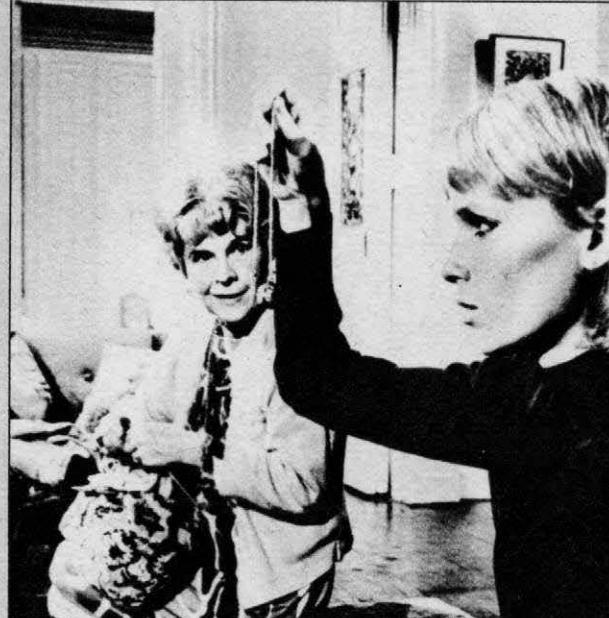
『ポセイドン・アドベンチャー』の熱演は今も語り草 シエリー・ウインターズ(左)



心やさしい娼婦ドナ・リード しつとりした持ち味を生かした『地上より永遠に』



ハーバート・ロム(右)は行動派ボスのイメージ ちょっと軽薄なのが特徴 「戦争と平和」ではナポレオン



ルース・ゴードン(左)はハッスルおばあちゃん『ローズマリーの赤ちゃん』ではミア・ファローを魔族にひっぱりこむ



『エアポート'75』のジョージ・ケネディ



エドマンド・オブライエン(左)は新人女優を探す宣伝マン『裸足の伯爵夫人』でのシニカルなキャラクターで名をあげた



エディ・アルバート(左から2人目)は『ローマの休日』で恋のあと押し好人物のヤンキーおじさんが十八番の役どころ



カール・マルテン(左)のトレードマークは団子鼻 アクの強い演技で主役を食ってしまう『波止場』では珍しく正義派の神父



『ジェニーの肖像』のエセル・バリモア ライオナルの妹で名門バリモア家に生まれた



古い西部への挽歌を奏でた『白昼の決闘』でライオナル・バリモア(左)は老牧場主になった

★面白うて、やがて悲しき…

ジャック・レモン&シャーリー・マックレーン



コンビの最高作、やがて悲しき『アパートの鍵貸します』(1960)



『あなただけ今晚は』(1963) 英国紳士に変装のレモン



ニール・サイモン原作の喜劇『おかしな二人』(1968) のレモン



夫婦で日々酔いしれる『酒とバラの日々』(1962) のレモン



レモンの大型喜劇『グレート・レース』(1965) ピーター・フォークも共演



ベル・エポックのパリを再現『カン・カン』(1960) のシャリー



パリの裏町カサノヴァ横丁『あなただけ今晚は』は心優しき街角のお姐さんと、どうしてもヒモになりきれない男の話だった

ジャック・レモンとシャーリー・マックレーン。この二人は、いつもコンビを組んでいたわけではないのに、「アパートの鍵貸します」、これ一本あるがゆえに、永遠にとどまる、そんな二人である。ビリー・ワイルダー作品でもう一本「あなただけ今晚は」もあるが、なんどいつもアパートの鍵貸しますにつける。

自分の部屋の鍵を上役に貸して、情事の場を提供していた彼。上役のあほえめてたくなり、ボンボンと出世していた彼。上役の情事の相手が自分の恋人とも知らず、自分はとてもいいことをしているのだと思いこんでいた彼。サラリーマン悲喜劇の変型だが、ジャック・レモンも、シャーリー・マックレーンも、どんなにおかしいことをやっていても、それが悲しさにつながってしまう、そうチャップリン・タイプの俳優なので、この悲哀は実にうまく出た。

ジャック・レモンが、おはことして、よくやるキャラクターは、とにかく表向さずうずうしく、それを押しまくるというタイプが多い。だが、その実、なんとモ기가弱くて、もうどうしようもないという……。そこから、わき出する笑いである。マックレーンとなると、これはもう完全に悲劇女優である。あの顔からしてすでに、へそをかいているみたいではないか。面白うて、やがてかなしきなんとやら……。二人の映画をみていると、日本の、こんな表現を思い出してしまうのである。(K)

Jack Lemmon (一九二五-) 芸人から五四年に映画デビューし、喜劇的な脇役から主役へ。親しみのある独特的の持ち味で人気を得る。監督作品もある。

チャーレトン・ヘ斯顿



セルシ・B・デミルの聖書からの物語『十戒』(1956) モーゼ役のヘ斯顿は紅海を真二つに割ってみせた

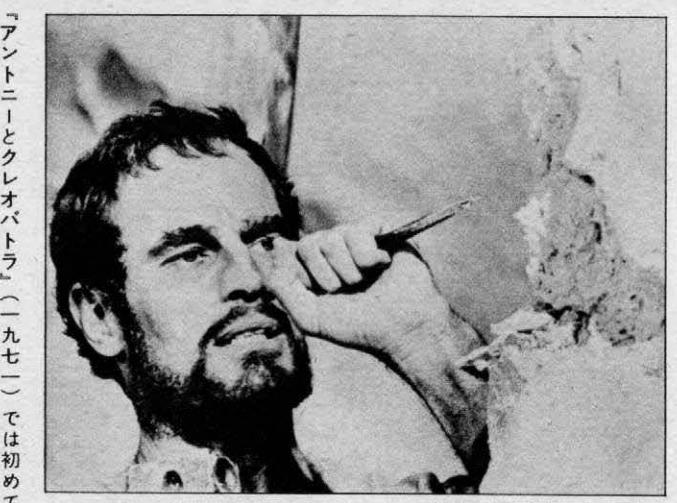
人類ナンバー・ワン——「ナンバーワン物語」という題のヘ斯顿の映画があつたが、彼は常に、ナンバー・ワンというか代表選手的な晴れがましさがつきまとっている。特にアタマが切れそうのところではなく、際立つてハンサムなのでもなく、腕力・行動力も彼に勝る者がないというわけではない。しかし、檜舞台にのぼるのは彼でなくてはならない。スマートな者は、むしろ晴れの場に出ることの損得を計算して身を避けるのだろう。武骨さの皮膚が義務と責任の筋骨を包んだヘ斯顿こそ、やはり代表選手——ナンバー・ワンにふさわしいのだ。

『十戒』のモーゼに扮し、紅海を切りひらいて以来、チャーレトン・ヘ斯顿は歴史劇の偉大なるヒーローとして一世代を画してきた。『ベン・ハー』『エル・シド』『北京の55日』『偉大な生涯の物語』『華麗なる激情』『大将軍』『力』『ツーム』『ジュリアス・シーザー』『アントニとクレオパトラ』……まったく、人類の代表選手のような活躍ぶりであった。『猿の惑星』では人類と猿の間をつなぐミッキング・リングを演じるかと思われた、というのは冗談だが、このSFのヒット以来、ヘ斯顿はガラリと未来志向に転じた。しかし代表選手たることは相変わらず、ハイジャック、食糧危機、大地震、飛行機事故などなどの、現から未来に向けての危機に、人類を代表して闘いを挑んでいる。

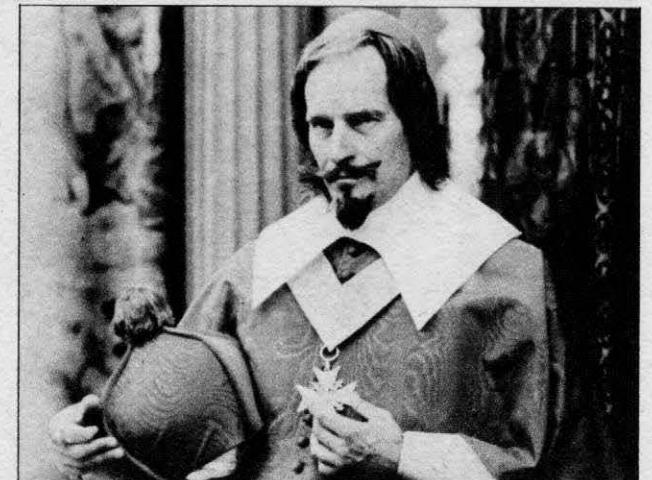
(U)



戦車競走のスペクタクル 母や妹への思い オスカー受賞の『ベン・ハー』(1959)はやっぱり彼の代表作だ



ローマ法王と葛藤するミケランジェロの『華麗なる激情』(1965)



『三銃士』(1973)では腹黒の枢機卿リシュリューに



スペインの英雄の生涯『エル・シド』(1961)



予言者ヨハネになった『偉大な生涯の物語』(1965)



実力派スター

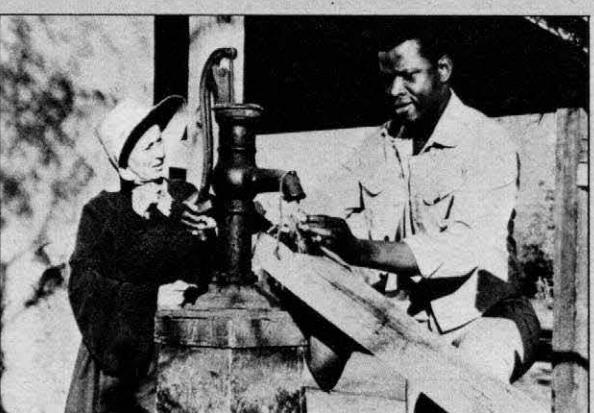
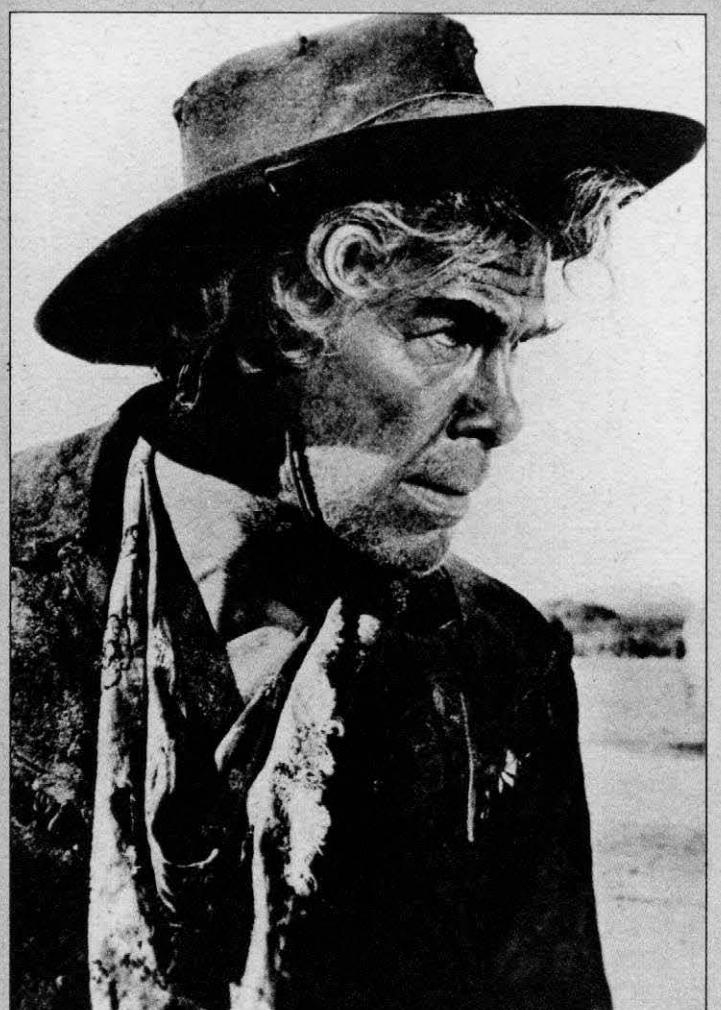
悪役出身から
黒人俳優まで



シドニー・ボワチエ(左)の切れ者刑事と まったくダメな警察署長ロッド・スタイガー 『夜の大捜査線』(1967)は黒人優位の秀作だった



『パットン大戦車軍団』(1970)のジョージ・C・スコット(右) 狂熱の軍人を演じてアカデミー賞 でも彼は受賞を拒否

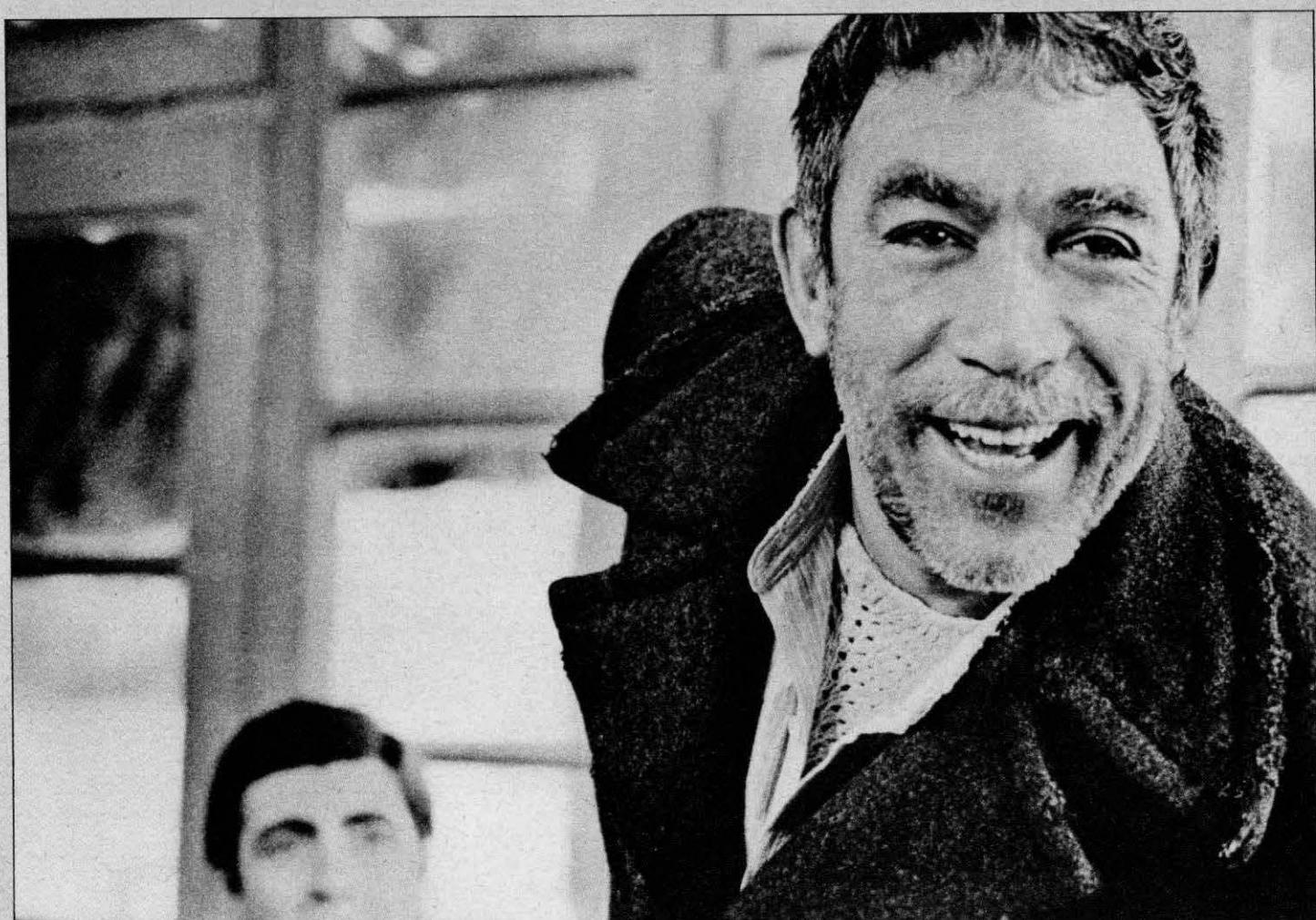


ボワチエが黒人初のアカデミー主演賞『野のユリ』(1963)



エジプト出身 『ゲバラ!』(1969) の
オマール・シャリフ

ここに並んだ六人の男たち。いずれも息の長い実力者ばかりである。ひとくせも、ふたくせもありそうな男たち、そしてツラがまえ。映画のリアリズムは、こういう男たちを徴用し、作品の面白さを倍加させた。従来の、スターのワクには、はまらない。いや、ワクそのものを変革させた、そんな新しい時代のスターたちである。(K)



『その男ゾルバ』(1965)のアンソニー・クイン 土着の人間のしづとさを見せるとき彼の力量は最大に発揮される

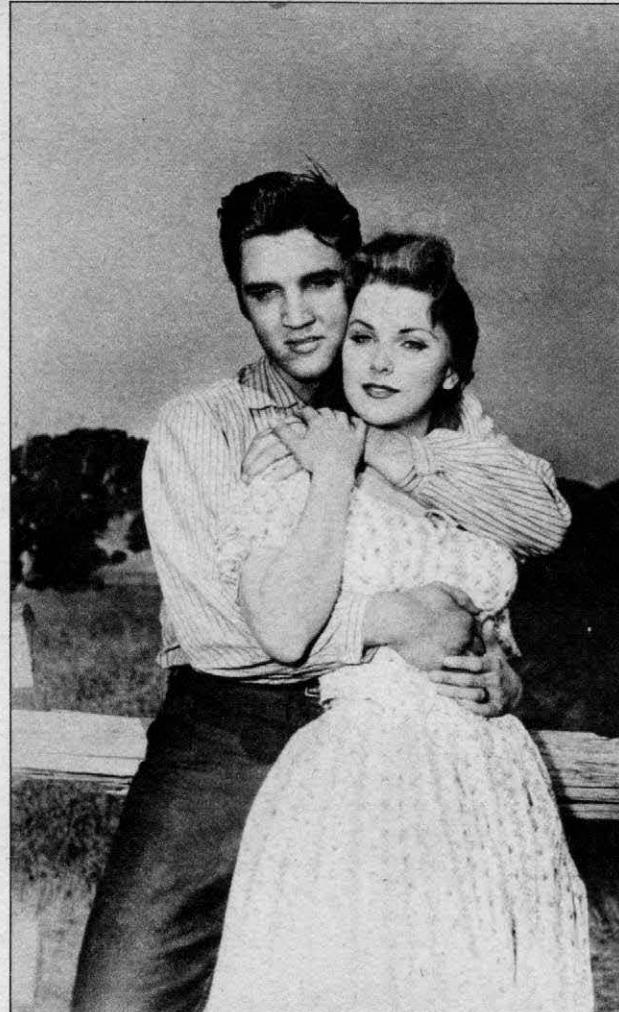
エンターテインメントの後継者



『サウンド・オブ・ミュージック』(1965) のジュリー・アンドリュース



『メリー・ポピンズ』(1964) はジュリー・アンドリュースの第1作



エルヴィスのスクリーン初登場『やさしく愛して』(1956)



チャールストンもにぎやかに ジュリー『モダン・ミラー』(1967)



アン=マーグレットはつらつ そして エルヴィス・プレスリー・ミュージカルの最高作『ラスベガス万歳!』(1963)



ロック歌手の徹兵をテーマに『バイ・バイ・バーディ』(1963) これもアン=マーグレット好演

「ザッツ・エンタテインメント」を飾った半
ラ星の如き芸人さんたち。彼らの後継者とし
て、かつての時代の子、そしていま時空を越
えたエルヴィスと、同じ年だが少女時代から
の芸界育ちジュリー・アンドリュースなどを
あげてみた。彼らがスクリーンで歌い、そし
て踊るとき、映画の世界は、より豊かなもの
になるだろう。(K)

★好敵手＝ツイン・タワーリング・スター

ポール・ニューマン vs スティーヴ・マックィーン



ハードボイルド探偵ルー・アーチャー『動く標的』(1966)



非情な勝負師の世界『ハスラー』(1961)



イスラエル建国のエピソード『栄光の脱出』(1960)



ポール・ニューマンの出世作『傷だらけの栄光』(1956)



「傷だらけの栄光」で、ちょっとからんで18年、別の道を歩きながら再び顔を合わせた『タワーリング・インフェルノ』(1974)

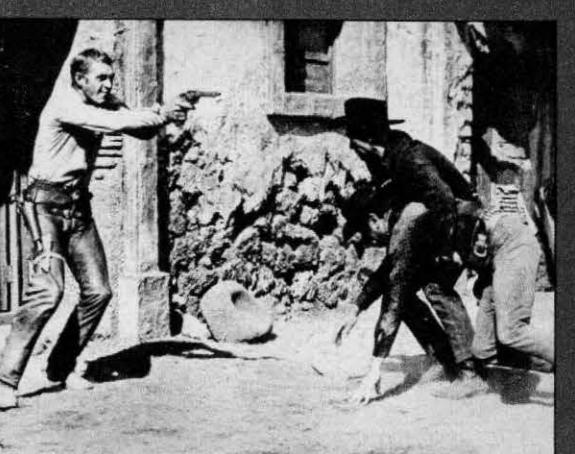


胸に蝶のいれずみ 脱獄こそわが人生『バビロン』(1973)



若き西部の反逆児『ネバダ・スミス』(1966)

静かなる男の旅だち『ジュニア・ボナー』(1972)



のちのスターが勢ぞろいした『荒野の七人』(1960)

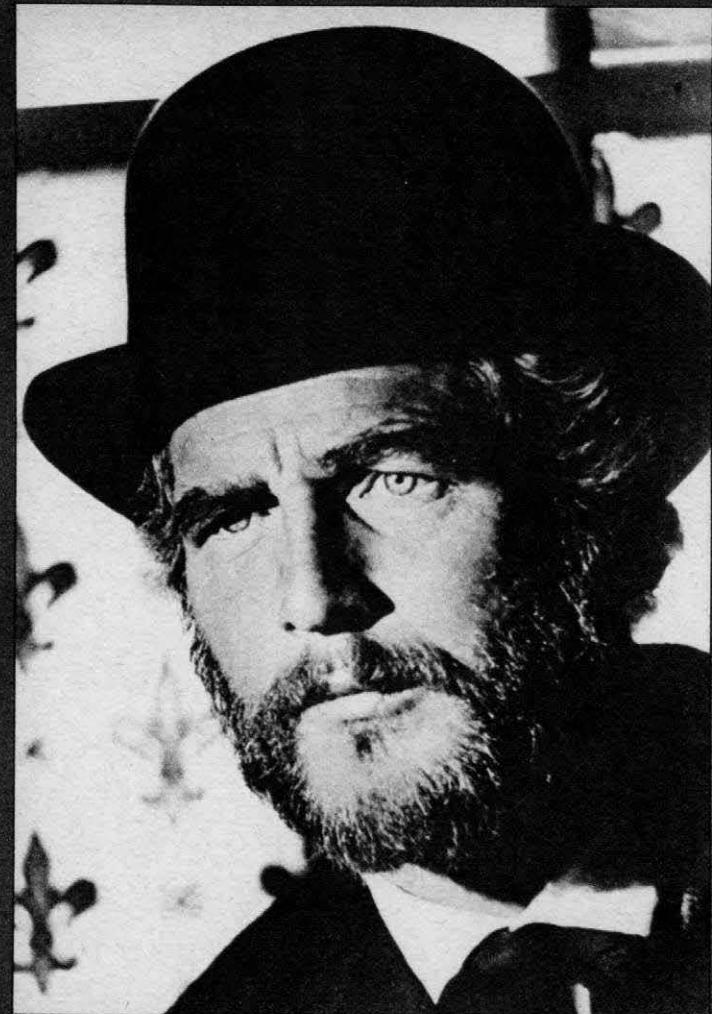


スティーヴ・マックィーンの評価きまる『大脱走』(1963)

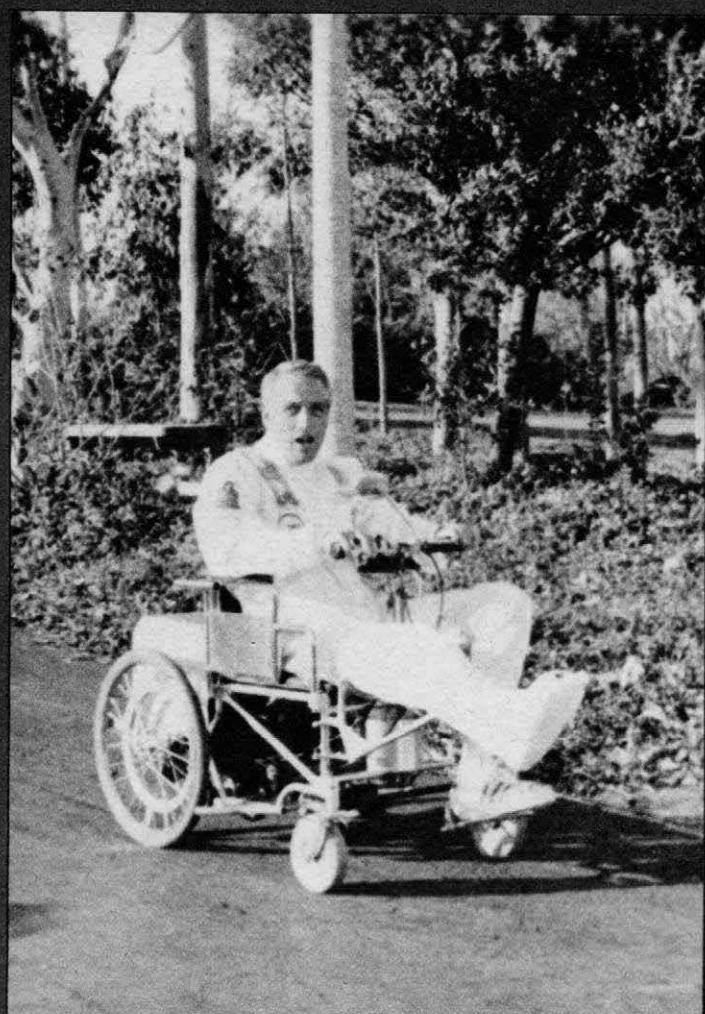
ツイン・タワーリング・スター——パニック超大作『タワーリング・インフェルノ』で、東西大横綱の取組みといった感じで競演したポール・ニューマンとステイーヴ・マックィーンは、ふたむかし前に一度同じ映画に出たことがあったが、その『傷だらけの栄光』では、主演スターのニューマンに、ホンのチョイ役のマックィーンがナカイフで挑みかかっていた。その齧闘のかいあつてか、その後この邦題『傷だらけの栄光』のイメージはマックィーンがニューマンから奪いとつてしまつた感がある。ともにアクターズ・ステュディオ出身の俳優として、反逆的ヒーローとして、ふたりはマックィーンが許さず、離婚。彼女のカムバックを許さず、離婚のウサが流れている。

Steve McQueen (一九三〇) 生後六ヵ月で両親が離婚。母が再婚した父となじめず、非行少年となつたが、軍隊生活を終えてネイヴ・アーフィット・ブレイハウスで演劇を学ぶようになつて立ち直る。『V-拳銃無宿』でスターに。一度離婚。女優アリ・マクロードと再婚。彼女のカムバックを許さず、離婚のウサが流れている。

トニーを気どつていると評され、『エデンの東』の役をディーンと争つて敗れたニューマンは、ブランドの亞流とおとしめられた。しかし、60年代にはいつて、ふたりはついに独自の帝国を築き上げたのだった。反抗的ヒーローの神器のはいつた箱から、彼らは別々の物を持ち出していつたようである。彼の刑務所内でのすごし方などなどを比べてみれば、差異はおのずと明らかであろう。ニューマンは知性とユーモアを、マックィーンは力のやり方、『バビヨン』と『暴力脱獄』『大脱走』と『脱走大作戦』の脱走方法、『スティーヴ』と『シンシナティ・キッド』のボーラーのやり方、『バビヨン』と『暴力脱獄』の刑務所内でのすごし方などなどを比べてみれば、差異はおのずと明らかであろう。ニューマンは知性とユーモアを、マックィーンは獸性と執念を、それぞれ持ち出していくのであった。(U)



西部の叙事詩 開拓期の判事を描く『ロイ・ビーン』(1972)



特別出演の『サイレント・ムービー』(1976)では車椅子のカー・チェース



風格が粹ににじみ出た魅惑の『スティング』(1973)



ニュー・シネマ西部劇 快調『明日に向って撃て!』(1969)



よく動きまわる刑事『ブリット』(1968)はマックィーンの代表作のひとつ

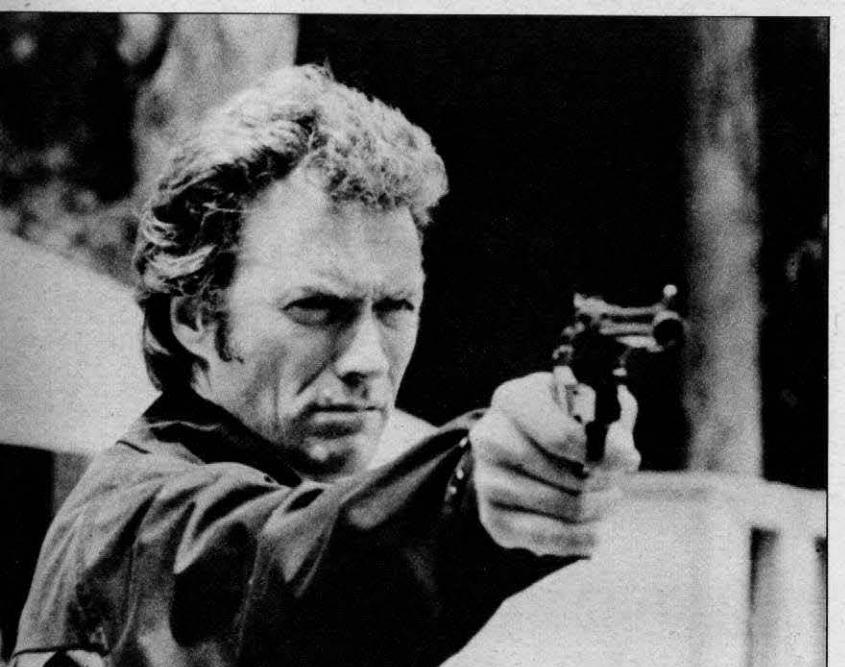


スピード狂マックィーンが24時間レースに挑んだ男の闘い『栄光のル・マン』(1971)

クリント・イーストウッド



寡黙に、だが無類に強く イーストウッドの『夕陽のガンマン』(1965)



イーストウッドのきわめつけ 刑事『ダーティ・ハリー2』(1973)



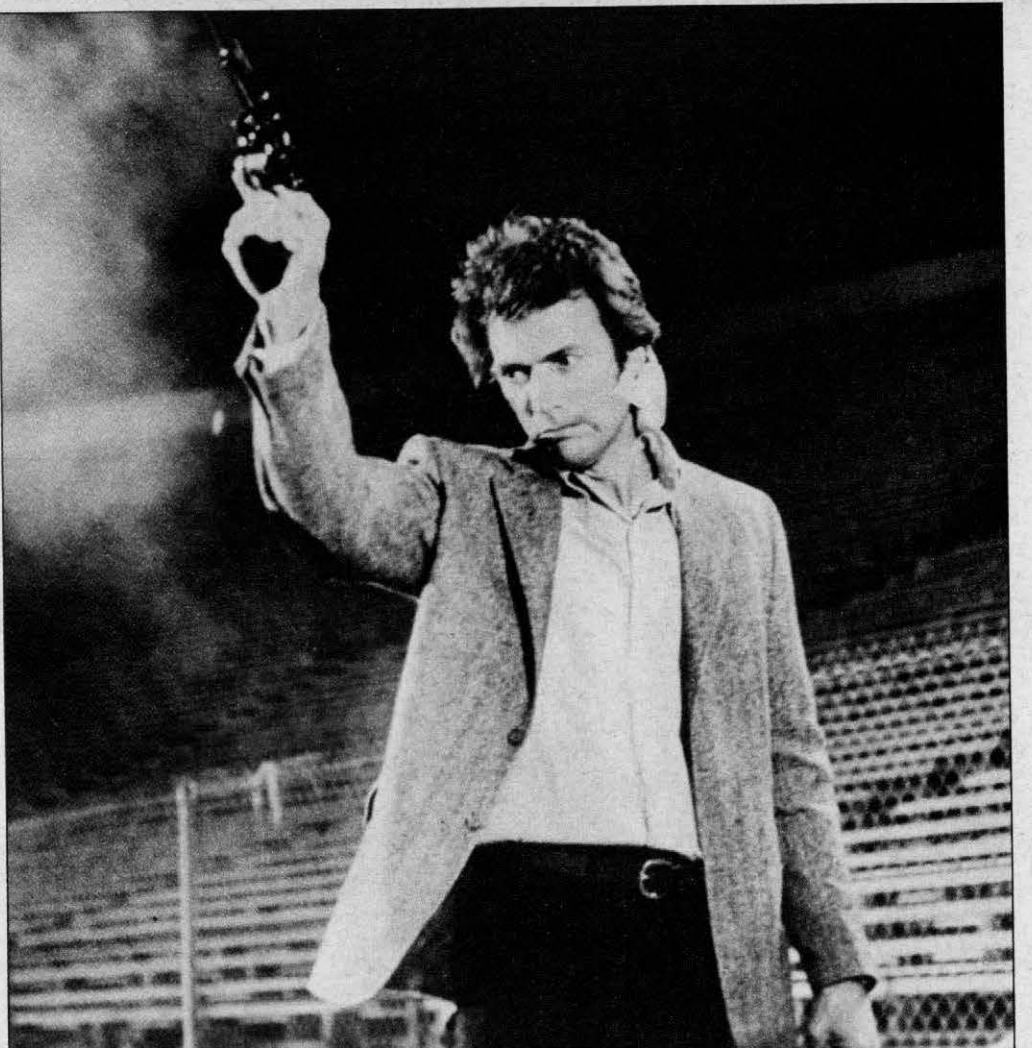
ブロンソンのアクション『軍用列車』(1975)



『大脱走』(1963)はブロンソンにとっても記念作だ



マフィアの組織のすべてを告白した『バラキ』(1972)



マカロニからハードボイルドへ『ダーティ・ハリー』(1971)は新しいイーストウッドを確立した

Charles Bronson (一九二〇) アメリカ正統派アクションを貫く二人のタフ・ガイ——正統派のアクションスターとは腕っぷしが滅法強く、行動的であることはもちろんだが、ます何よりも寡黙であらねばならない。連続とアクション映画に出演し、次から次へと危機をのりこえて、そしてファンの支持を勝ち取るために、沈黙は金という鉄則を守らねばならない。アクションヒーローは、ファンに向かつて愛を求めるそぶりを見せてはならないのである。

『さらば友よ』でブロンソンは、ただ「イヤー」と呻くのみだった。『荒野の用心棒』でイーストウッドの口は、ちびたシガーツをつなぎとめておくためにだけつかわれていた。ブロンソンのロヒゲ、イーストウッドの不精ヒゲは、彼らをヒーローにするために必要な「口かせ」

なのかも知れなかつた。ヒゲは口に代わつて、能弁に彼らのアイデンティティに関する何かを物語つた。このヒゲが、かえり、彼に、悪役上がりの、行動性に富んだ男ぐさのイメージを与えた。太いヒゲは、『ホワイト』と『ダーティ』の間の一線となつた。悪役・わき役時代にはなかつたこのヒゲが、かえり、彼に、悪役上がりの、行動性に富んだ男ぐさのイメージを与えた。一方、イーストウッドは、ヒゲを捨て、44マグナムを彼のスポーツマンとする。により、いつそうダーティな行動力を強化した。『ローハイド』の白い帽子は、トン・シーゲル監督との出会いの映画『マンハッタン無宿』で都会のハキタメに脱ぎ捨てたのだつた。(U)



まだB級時代のブロンソン いかにもゴツイ『機関銃ケリー』(1958)

★脇役ありて映画は楽し★

③



男の体臭がにおう硬骨漢 悪役もうまいロバート・ライアン
『ダラスの熱い日』



ベビー・フェースのマイクル・J・ポラード(左)は『俺たちに明日はない』で売り出した



チャールズ・ピックフォード(左)は西部に根をはやした生活人のイメージ『テキサスの五人の仲間』



ガラガラ声のキャロル・チャニングは『モダン・ミリー』で大奮闘 舞台では主役スター



マルセル・ボズフィー(右)はフランスのギャング映画の常連だった『フレンチ・コネクション』でアメリカ進出大成功



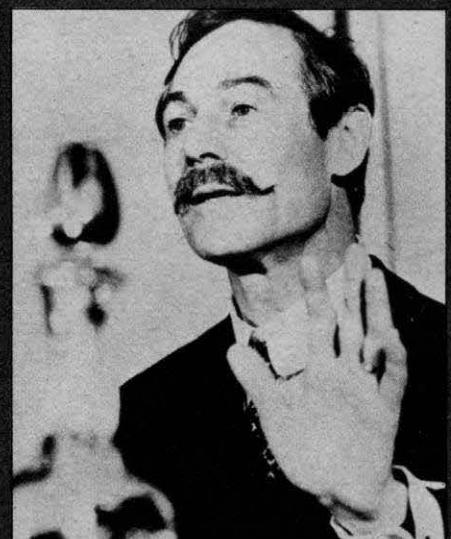
『引き裂かれたカーテン』の謎の老女リラ・ケドロヴァ ジュリー・アンドリュースもハテナ?



『ベビイ・ドール』でヒロインを口説くイーライ・ワラック ねっこさが身上



『ウェスト・サイド物語』を支えたのはこの脇役2人 ジョージ・チャキリス(左)とリタ・モレノ



ジョゼフ・ワイズマンは教祖的な人物に扮する
と抜群『バラキ』ではマフィアの首領



『ウェスト・サイド物語』はジョージ・チャキリス(中)を主役の座に引き上げた。といってそのことが彼に必ずしも幸運をもたらさなかったのは皮肉である。栄光のひとは今どこに?

名作映画にも似た
へ確かな味わい



ブルックボンドアルミ包装ティーバッグは、ブレンンドしたての繊細な香りと味を、そのまま密封。フレッシュそのもの。



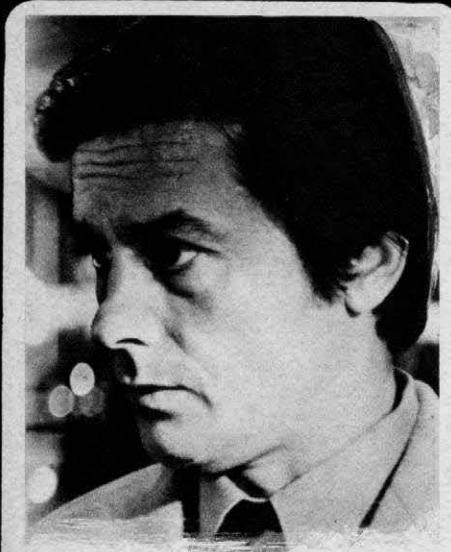
香りと味が調和した
「セイロン」……20袋入 ¥350
独特の気品ある香り
「ダージリン」……20袋入 ¥350

世界でいわばん愛されている……
ブルックボンド紅茶

LONDON ENGLAND

www.brookebond.com

'77へ向ってゴージャスに
世界の傑作群で彩る
東映洋画
ピューティフル・セレクト11



●カラー作品／フランス映画 COMME UN BOOMERANG
ブーメランのように

監督ジョゼ・ジョヴァンニ 出演アラン・ドロン／シャルル・ヴァネル

●カラー作品／イタリア映画 LEZIONI PRIVATE
課外授業

監督ヴィットリオ・デ・システィ 出演キャロル・ベイカー他

●カラー作品／アメリカ映画 CANNONBALL
キャノンボール

監督ボール・バーテル 出演デヴィッド・キャラダイン他

●カラー作品／イタリア映画 BLUFF
ブラッフ

監督セルジオ・コルブッチ 出演アドリーア・チェレンターノ／コリンス・クレイバー
●カラー作品／アメリカ映画 DEATH RIDERS
デス・ライダー

製作デヴィッド・アダムス／フィル・タッカーハークー ドキュメント

●カラー作品／アメリカ映画 THIS IS AMERICA
アメリカ大陸の恥部

監督ロマノ・ヴァンダーブー ドキュメント

●カラー作品／ソビエト映画 BLOKADA 2
レニングラード解放戦

監督ミハイル・エルショフ 主演ユーリー・サローミン

●カラー作品／フランス映画 POLICE PYTHON 357
ポリス・ピトン357

監督アラン・コルノー 出演イフ・モンタン／シモース・シヨーレ

●カラー作品／アメリカ映画 DEATH STUNT
デス・スタント

スタントマン総出演

●カラー作品／フランス映画 VOYAGE TO THE EDGE OF THE WORLD
地の果てへの旅

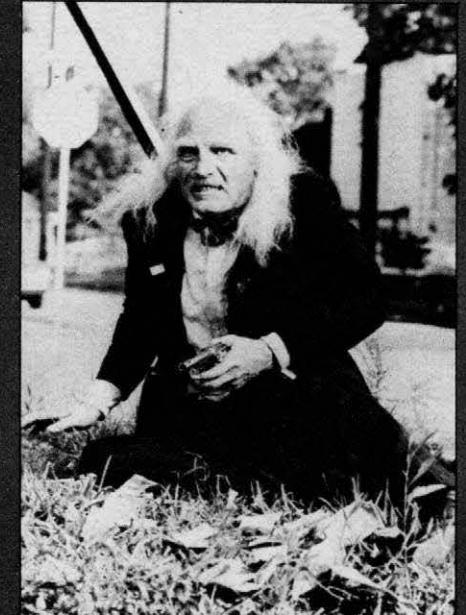
監督ジャック・イ・クスター ドキュメント

●カラー作品／イタリア映画 SWEPT AWAY
スウェプタウェイ

監督リナ・ウェルトミュラー 出演ジャン・カルロ・ジャンニーニ



『ダーティ・ハリー』の動機なき殺人者アンディ・ロビンソン(右)は現代のアメリカを象徴するキャラクターといえる 恐るべき役!



『Bird★Sht』のステイシー・キーチ 奇想天外映画の車椅子怪人



最近は主演作品もあるジョー・ドン・ベイカー(左)『突破口!』の殺し屋がすごい



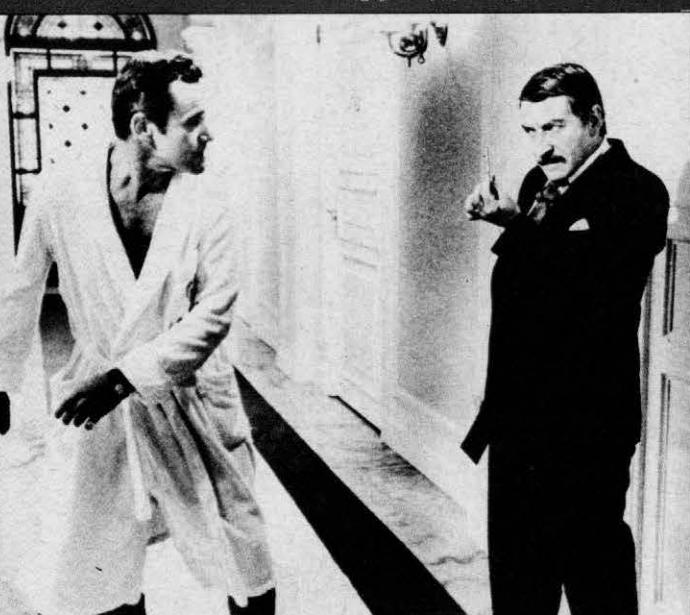
サリー・ケラーマンはブラック・ユーモア映画『M★A★S★H』の紅一点



人気上昇エド・ローター(右) まともな役が多くなってきた『ロリ・マドンナ戦争』



『キャバレー』のヘルムート・グリーム(左)は同性愛の男爵 悪夢の時代の退廃的なムードを表現



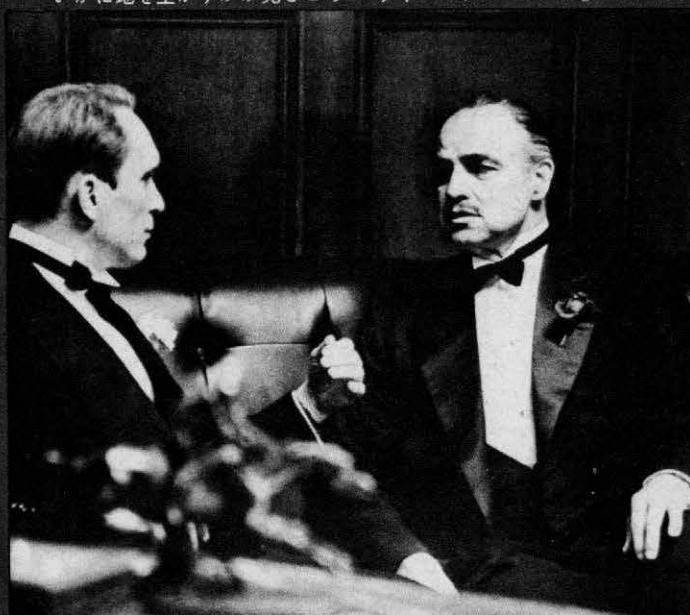
イタリア人でもないくせにイタリア人を演じると抜群の変な俳優クラウド・レヴィル(右)『お熱い夜をあなたに』



女の業を実感させる得難い女優クロリス・リーチマン『ラスト・ショー』



ギョロ目のおっさんマーティ・フェルドマン(中)いかに演技するかよりいかに地を生かすかが見どころ『サイレント・ムービー』の巨玉商品



ロバート・デュヴァル(左)は『ゴッドファーザー』のようにクールで思慮深い役がぴったり ブランドの有能な参謀役



『わかれ道』のマーティ・メリア(中)は人種的偏見の犠牲者 外国映画の子役はどうしてああ自然なのだろう

ジエーン・フォンダ



父親を殺され復讐決意の大姐御「キャット・バルー」(1965)

唯美的世界から政治闘争の場へ——『バーバレラ』におけるジエーン・フォンダの美しさは異常なものがあった。彼女をとり囲む、S.F.的怪奇世界はグロテスクな生物や風景に満ちあふれていて、彼女はそのなかに狂い咲いた鮮かな花弁をもつた花のようであつた。バーバレラの白く長い脚は、地を這う醜怪な宇宙生物を蹴散らし、その手にかかった光線銃は、ほしいままに美の光線をまき散らした。実は、その世界で彼女こそ異常な存在なのであつた。彼女は、美的モンスターであつた。

デビュー以来、父ヘンリーに似ていることだけが話題にされ、ハッピしなかつたジエーンは、ロジエ・ヴァディムとの出会いによって美しい蝶に脱皮した。『輪舞』『獲物の分け前』『バーバレラ』『世にも怪奇な物語』での美は結実した。彼女とヴァディムの美の帝国では、しかし、ジエーンはもうひとつの世界を求めてヴァディムのもとを去つた。七年にFTA(ファック・ジ・アーミー)慰問劇団を率いて世界中をまわり、日本にも立ち寄つた彼女は、やはり美しかつた。彼女は父ヘンリーが『暗黒街の弾痕』や『怒りの葡萄』で示した、理想主義的な反抗的なイメージを、スクリーンからとび出して、現実の世界で演じてみせた。

急進的政治活動の場にもスターという花の移植が可能であることを、ジエーン・フォンダは示した。(リ)

Jane Fonda (一九三七) 名優ヘンリーを父に、ピーターを弟にもつ二世スターだが、六〇年に映画入りして以後、フランスに渡つてロジエ・ヴァディム監督と結婚。政治運動にめざめて離婚し、反戦運動家のトム・ヘイドンと再婚。変身につぐ変身で、激動の時代をみごとに生きぬく。『コールガール』でアカデミー主演賞獲得。



アカデミー賞をとったセクシーなサスペンス『コールガール』(1971)



マラソン・ダンスに生の執念をみせる『ひとりぼっちの青春』(1969)



『人形の家』(1973) のノラは時代をこえて 開士シェーン・フォンダにはふさわしい



ニール・サイモンの戯曲『裸足で散歩』(一九六七) ではちょっぴりセクシーに



『裸足で散歩』はニューヨークの新婚夫婦の話

フェイ・ダナウエイ

★哀しき女の性

Faye Dunaway (一九四一)
職業軍人の子としてフロリダ州に生まれ、イリア・カザンに出逢って舞台へ、六六年に映画入り。エドワード・マッローヤンなどとの恋愛歴の後、七四年にミシェル・ジエギーと結婚。舞台じこみの演技力と、戻り窓的な生



血で血を洗う『チャイナタウン』(1974)のラストは迫力いっぱい この作品でまた新しい面をみせた



『三銃士』(1973)では腹黒い妖艶夫人



レットフォードとアメリカの裏面『コンドル』(1975)

●ボニールツク

「たちに明日はない」でフェイ・ダナウェイふんするヒロインのボニー・バークが着ていたドレスの数々をさす。

カートの世界に、突然出現したミモレ丈。それはまさに、おとな女のためのものであり、おとなの女は、やはり、おとなしくしたほうが多い、という一種の警告であったのだ。優雅で、なまめかしく、そしてしどけなく……。

一九三〇年代の衣装を適当に今ふうにアレンジしたボニー・ルックはこの役のために十キロもやせたという、フェイ・ダナウエイにともよく似合って、おしゃれな世界中の女性に鮮烈な印象を残したのだつた。(W)

溝喜さの美字——「俺たちに明日はない」は、ラストの、マシンガンの銃弾が雨霰と降りそそいでふたつの青春のいのちを散らしていくシーンが、やはり鮮烈な印象なのだが、ファースト・シーン——ボニーが登場する、けだるい暑さのたれこめた部屋の中のシーンも、それに勝るとも劣らない強烈なインパクトがあつた。フェイ・ダナウエイは、この田舎町の暑さの中で、全裸でベッドから起き上がりつてきた。窓の外のクライドと初めて眼と眼を見交わしたボニーの汗に濡れた、少し骨はつた背中は、溝喜さの匂いを香わしく発散してやまなかつた。「俺たちに明日はない」は、生き急いだ青春の記録であるが、また、不能な青年と淫蕩な女のやさしく哀しい愛のコリ

ーダ。でもあるのだ。ここで、フェイ・ダナウエイは完全に勝利を手におさめる。
『俺たちに明日はない』の鮮烈な工口ティック・ショット以来、フェイ・ダナウエイはさまざまな女性像を演じ分けてきたが、彼女が演じるヒロインの身内には常に淫蕩の血が底流し、それが哀しい女の性として表わされるとき、彼女はロマンチシズムとリアリズムを同時に体現した。

私生活においても、彼女はイリア・カザン、ジエリート・シャツツ・バーク（監督）、マルチエロ・マストロヤンニ、ハリス・コーリン（俳優）、ビーター・ウルフ（歌手）と恋の遍歴を重ね、イリュージョンとリアリティの間に橋を架けている。（U）



無数の弾丸に倒れ壮烈なラスト『俺たちに明日はない』(1967)



ボニーとクライド（ウォーレン・ビーティ）の短いが真に生きた人生



「アレンジメント」(1969) の社長秘書役では強烈な淫蕩さを見せた

ロバート・レッドフォード



バーブラ・ストライサンドと赤狩りを背景としたアメリカの青春「追憶」(1973)



「夕陽に向って走れ！」(1969)ではインディアン青年を追う保安官

は愛ね近舞かい社牛乳屋から石油を握りあて石油、会
ユ妻たは台はずわば成り上り者、の父どうまつが行
タ州の政治映画で映画入り。二歳での製作、思ふける。
青春時代はヨーロッパを放浪。二歳での結婚も、思ふける。
は愛ね近舞かい社牛乳屋から石油を握りあて石油、会
ユ妻たは台はずわば成り上り者、の父どうまつが行
タ州の政治映画で映画入り。二歳での製作、思ふける。
は愛ね近舞かい社牛乳屋から石油を握りあて石油、会
ユ妻たは台はずわば成り上り者、の父どうまつが行
タ州の政治映画で映画入り。二歳での製作、思ふける。

Robert Redford (一九三七)
は愛ね近舞かい社牛乳屋から石油を握りあて石油、会
ユ妻たは台はずわば成り上り者、の父どうまつが行
タ州の政治映画で映画入り。二歳での製作、思ふける。
青春時代はヨーロッパを放浪。二歳での結婚も、思ふける。

限りなく透明に近いヒーロー——さきとおったブルーの瞳、明るい金髪のレッドフォードのマスクは、白いアメリカを代表する美貌である。レッドフォードの整ったルックスは、それだけでは今日のスターに十分な条件とはならない。むしろ、それはそのままではすぎる、信用のおけない白々しさに映つてしまつただろう。しかし、レッドフォードは『逃亡地帯』を走り抜けて、わたしたちの前に現われた。彼はそこで、反抗的に「ロー」の大先輩マーラン・ブランドに護られながらも、無惨に射殺された。彼は、集団ヒスティリーに冒された社会のいけにえとなつたのだった。このスクリーンの上の最初の死は、スター

として成熟していく彼に、原初的体験の記憶の悪夢としていつもつきまとつて離れないのだった。その敏速な行動と健脚は、逃走に用いられた。南米の山中にまでひたすら逃げまくり、あるいはロッキーの雪の中に沈黙をして棲んだ。社会に対する懷疑、集團意思を代表することの忌避——言つてしまえば、シラケ。だが、それをレッドフォードほど美しい表現した者はいなかつた。彼の美貌は美しく逃走者というアイデンティティのなかに活用された。そして、その逃走者としての前歴が、レッドフォードを、いまアメリカ民主主義の良心をイメージするスターとして信用のにおける存在にしているのである。(U)



舞台でも同じ役を演じた『裸足で散歩』(1967)



ハリウッドの内幕もの『サンセット物語』(1966)



189



1920年代アメリカの風俗をとらえて『華麗なるギャツビー』(1974)



世紀の巨編!! 世紀の サウンドトラック盤!!



キングコング King Kong



〈LP〉YX-7032 ¥2,500
★豪華カラー ポスター付

SIDE · 1 SIDE · 2

序曲●●とらわれているコング
メイン・テーマ ドワンのバラード●●キングコングショー
謎のスカル島●●暗黒のニューヨーク
キングコングのテーマ●●ニューヨーク世界貿易センタービル
水中の女神●●最後の闘い
コングの恋入/コングVS大蛇●●エンド・タイトル
置(わな)●

〈シンプル〉YT-4010￥600
〈カートリッジ〉TYP-3001￥3,000
〈カセット〉TYC-4001￥2,600

Tam

発売元■東宝レコード株式会社



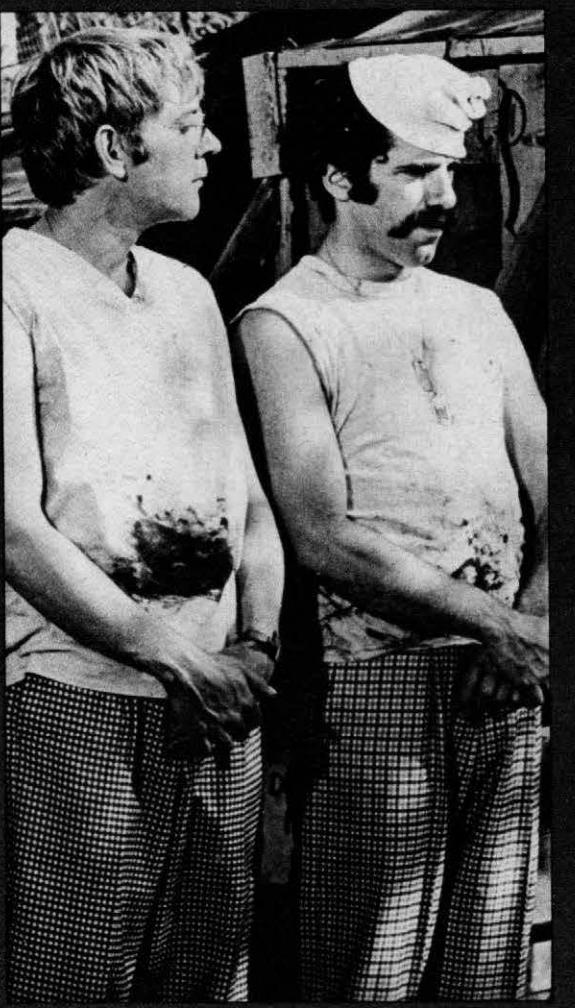
製作も兼ねた『俺たちに明日はない』(1967) のクライドはウォーレン・ビーティの青春そのもの



『ファイブ・イージー・ビーセス』(1970) のジャック・ニコルソンとカレン・ブラック



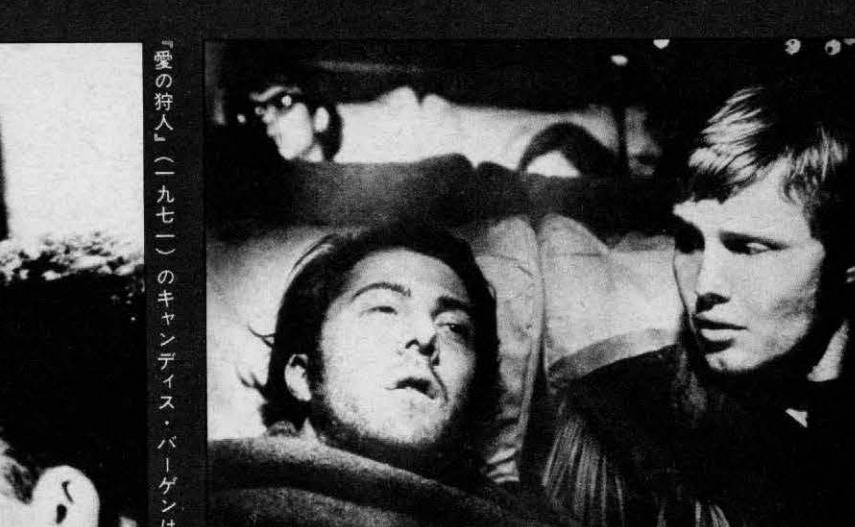
かかしのように放浪する若くもない男『スケアクロウ』(1973)のジーン・ハックマン



ドナルド・サザーランドとエリオット・グールドにとって『M★A★S★H』(1970) のフーテン軍医は出世作



ダスティン・ホフマンとキャサリン・ロスの斬新な魅力『卒業』(1967)



ホフマンとジョン・ヴォイト『真夜中のカーボーイ』(1968)



『ローズマリーの赤ちゃん』(1968) のミア・ファロー

卷之二十一

感動しきり…
甦る名場面が
生きる！

オリジナル・サウンド 貴重盤



オリジナル・サウンドトラック・スコアによる
カサブランカ
ハンフリー・ボガードの世界

●SX-88 ¥2,500

カサブランカ／渡辺翠翠／黄金／三つ数えろ／ケイン号の叛乱／脱出／第二の妻／隠しのサブリナ／ザ・レフト・ハンド・オブ・ゴッド／サハラ戦車隊／ヴァージニアの血潮／キー・ラーゴ



オリジナル・サウンドトラック・スコアによる映画音楽の巨匠たち
摩天楼
マックス・スタイナーの世界

●SX-90 ¥2,500

ワーナー・ブラザース映画ファンファーレ～情熱的輪路／キング・コング／

サトガ本線／進み危険兵／他全10曲



オリジナル・サウンドトラック・スコアによる映画音楽の巨匠たち
追想
アルフレッド・ニューマンの世界

●SX-91 ¥2,500

20世紀フォックス映画ファンファーレ～百万長者と結婚する方法／征服への道／嵐が丘／海の男／他全10曲



オリジナル・サウンドトラック・スコアによる映画音楽の巨匠たち
レベッカ
フランツ・ワックスマンの世界

●SX-92 ¥2,500

MGM映画ファンファーレ～フィルムアート語／炎と剣／陽のあたる場所／サンセット大道／他全8曲

RCA Records and Tapes
発売元/RVC株式会社

演技力と甘さをもちあわせたアル・バシーノ『スケアクロウ』(1973)



『キャバレー』(1972) を最高作とするライザ・ミネリは歌も踊りも芝居もよしの万能の大物



『おもいで夏』(1971) のジェニファー・オニールはセクシーなおとな魅力



濡れたような瞳と黒い髪がたまらない『経験』(1969) のジャクリーン・ビセット

鼻のバーブラ・ストライサンドの喜劇『おかしなおかしな大追跡』(1971)

この五ページにあげたのが、ニュ！シネマ後のすべてのスターではない。映画ファンなら、たちどころにこのくらいのスターの名前をあげられるだろう。では、現代はスターはスターはどこへ行く

溢漫時代なのだろうか。逆である。いわゆるスター・スターは五指に足りないくらいかいなし、そのスターの質も黄金時代とは変わってきていている。映画と個性がうまくかみあえばたちまちスターになれるし、うまくかみあかないとき、それが実生活でもそうした思想をうなぎ、それがスターしたるものとのアイデンティティのイメージは、かつての神話時代とすこり変わってしまったのである。スターはどこへ行くのであるか？(H)

スパー・スターは五指に足りないくらいかいなし、そのスターの質も黄金時代とは変わってきていている。映画と個性がうまくかみあえばたちまちスターになれるし、うまくかみあかないとき、それが実生活でもそうした思想をうなぎ、それがスターしたものとのアイデンティティのイメージは、かつての神話時代とすこり変わってしまったのである。スターはどこへ行くのであるか？(H)

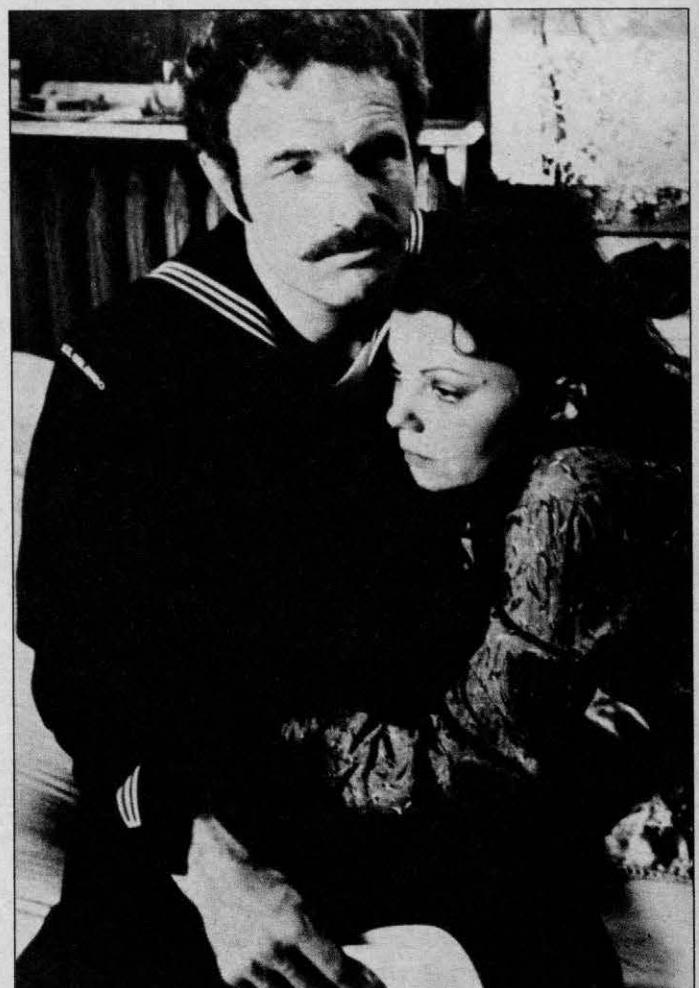


『脱出』(1971) でセックス・アピールを見せたバート・レイノルズ

『ある愛の詩』(1970) のライアン・オニールとアリ・マックロー



『ふたり自身』(1973) のシビル・シェパードはいかにも割り切った美女



懐しの映画主題歌

アカデミー賞音楽部門主題歌賞受賞作品(1934~1975)



1934年

The Continental (コンチネンタル)
作曲: コン・コンラッド
作詞: ハーブ・マジソン



現在最も期待されている男ロバート・デニーロ『ゴッドファーザー PART II』(1974)について主演作が目白押し



『ファミリー・プロット』(1976) のブルース・ダン



『ラスト・アメリカン・ヒーロー』(1973) のジェフ・ブリッジス



* 卷末の「年表」を除き、日本で劇場公開された映画作品は「」で包み、それ以外のものは「」を付した。

「ラスト・ショー」(一九七一)で演技力もみとめられた
ティモシー・ボトムズ



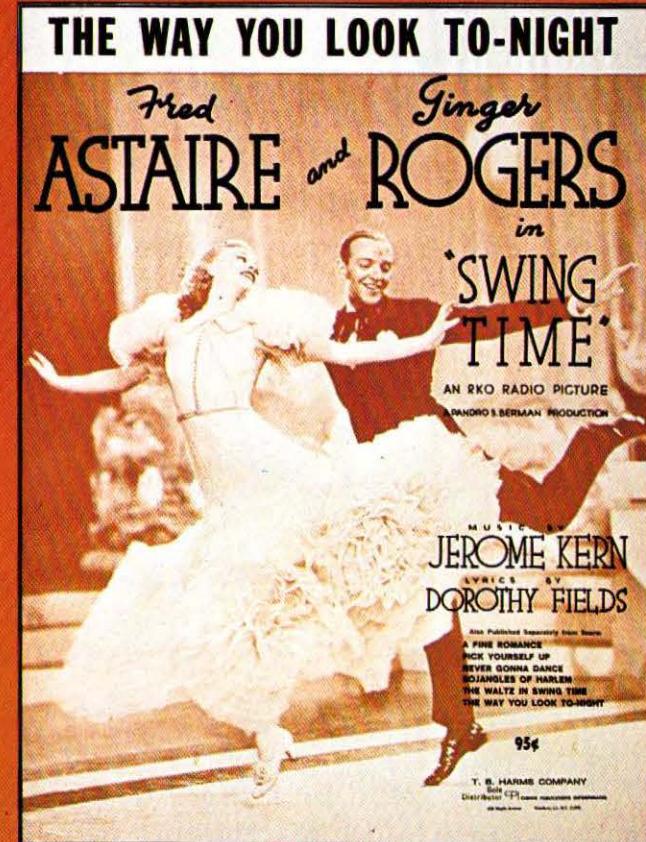
『明日に処刑を……』(1972) のデイヴィッド・キャラダイൻ

映画がサウンド時代を迎えてから、今年でちょうど五十年。それまでのサイレント映画時代にも短編トーキーは幾つかあったようだが、歌やせりふを入れた劇映画としては、昭和二年に制作された、アル・ジョルスン主演の『ジャズ・シングガード』が、トーキー映画の幕開けとされている。

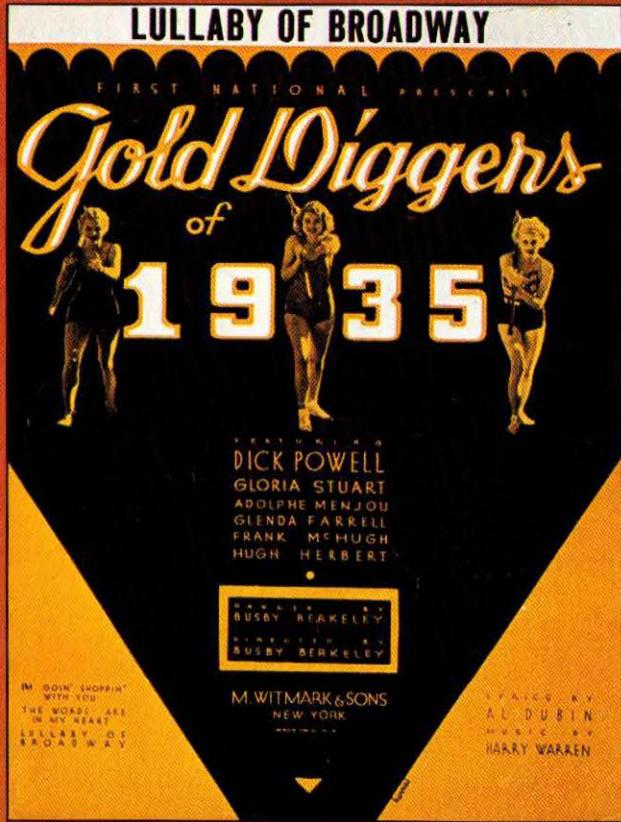
今日いうところの映画主題歌は、当然のことながら、トーキーの産物である。アカデミー賞が設定されたのが、トーキー時代突入とほぼ歩調を合わせた昭和三年(一九二八)のこと。六年後の昭和九年に、音楽部門の賞が加えられた。主題歌賞とベスト・スコア賞である。主題歌賞授賞の対象は全米一般公開を目的に制作された商業映画で、該当年度の元日から十二月三十日までの間に、ロサンゼルスで一週間以上連続興業を行なった三五ミリまたは七〇ミリ映画に使われた、歌詞つきの曲ということがなつていて。それも、映画用の録音前に舞台や放送などで使われていない、その映画のためのオリジナル・ソングでなければならぬ。選抜方法は、映画芸術アカデミー会員の投票により五曲以内のノミネート曲が選ばれ、その中の一つが受賞曲となる。過去四〇二年の受賞曲四十二曲すべてのオリジナル楽譜の表紙をここにご紹介してみた。



1939年 Over the Rainbow (『オズの魔法使』)
作曲=ハロルド・アーレン
作詞=E・Y・ハーバーク



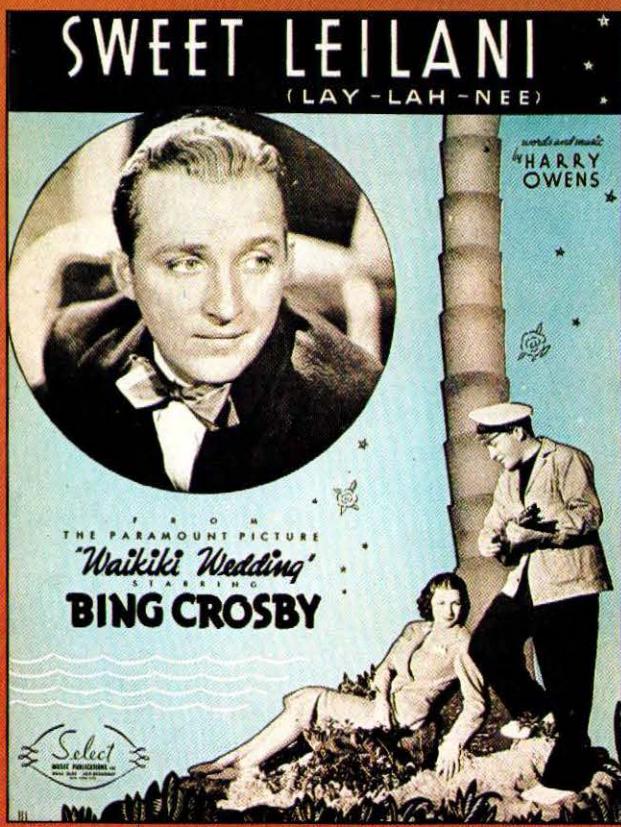
1936年 The Way You Look To-night (『有頂天時代』)
作曲=ジェローム・カーン
作詞=ドロシー・フィールズ



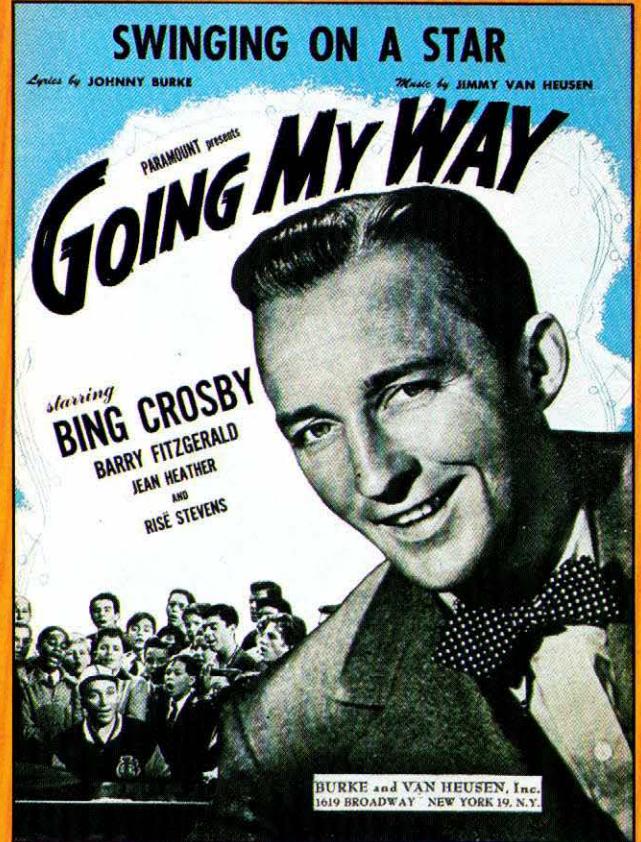
1935年 Lullaby of Broadway (『ゴールド ディガース』)
作曲=ハリー・ウォーレン
作詞=アル・デュービン



1938年 Thanks for the Memory (『三八年の大放送』)
作曲=ラルフ・レインジャー
作詞=レオ・ロビン



1937年 Sweet Leilani (『ワイキキの結婚』)
作曲・作詞=ハリー・オーウェンズ



1944年 Swinging on a Star (『我が道を往く』)
作曲=ジェームズ・ヴァン・ヒューセン
作詞=ジョニー・バーク



1945年 It Might As Well Be Spring (『ステート・フェア』)
作曲=リチャード・ロジャーズ
作詞=オスカー・ハマースtein 2世

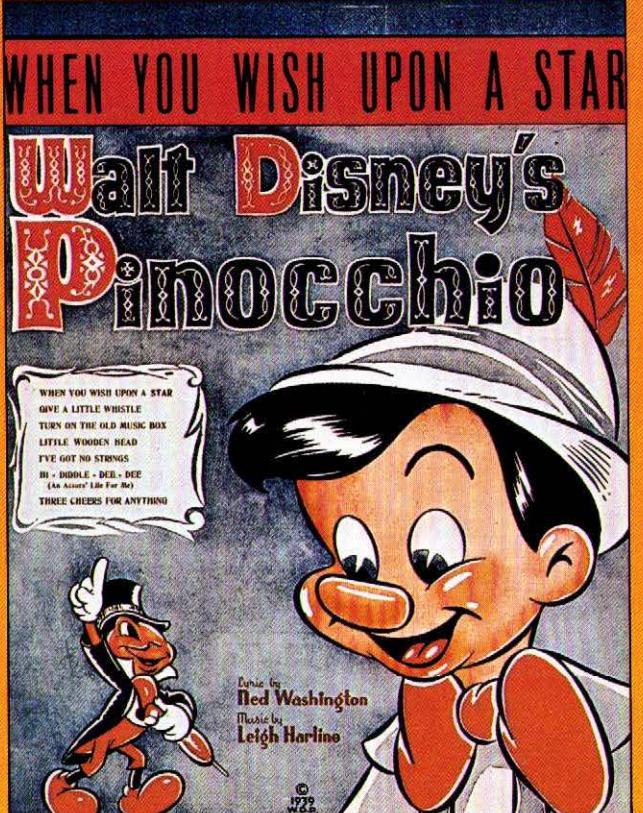


1943年 You'll Never Know (『Hello Frisco, Hello』)
作曲=ハリー・ウォーレン
作詞=マック・ゴードン

られないのは、当時のわが国の状況と比べて、大きな差を感じられる。毎年のクリスマスに欠かすことのできない「ホワイト・クリスマス」は、昭和十七年のミュージカル映画で、歌のビング・クロスピー、踊りのフレッド・アステアという、二大スターを組み合せた「スティング・ホテル」から生まれた。「虹の彼方に」はジュディ・ガーランドの出世作であるばかりでなく、ポピュラー・スタンダードになっている。ビング・クロスピーの「ワイキキの結婚」からの「スイート・レイラニ」は、オスカー史上、唯一のハワイアン・ソングである。漫画映画から初めての受賞曲となったのは、昭和十五年の、「ビノキオ」の主題歌。今まで漫画から出たのは、昭和二十二年の「南部の唄」を合わせて二回だけである。『ブロードウェイの子守唄』、「想い出のパリ」(「雨の朝巴里に死す」)、「ホワイト・クリスマス」の三曲は、のちにおのの曲名をタイトルにした映画が作られている。また、「虹の彼方に」はジュディ・ガーランドの、「サンクス・フォー・ザ・メモリー」はボブ・ホープのおののショーンのテーマ曲となっている。



1944年 The Last Time I Saw Paris (『Lady Be Good』)
作曲=ジェローム・カーン
作詞=オスカー・ハマースtein 2世



1940年 When You Wish Upon A Star (『ピノキオ』)
作曲=リー・ハーライン
作詞=ネッド・ウォシントン



1942年 White Christmas (『スイング・ホテル』)
作曲・作詞=アーヴィング・バーリン

昭和九年の第一回アカデミー賞の記念すべき受賞作品に選ばれたのは、名ダンス・コンビで鳴らしたフレッド・アステアとジンジャー・ロジャーズ。デビュー当初の作品『離婚狂想曲』中のダンス・ナンバーで、歌はロジャーズがうたい、二人で踊った。『離婚狂想曲』という原題に近い邦題は、実は五、六年前に、日本の深夜テレビに出たときの題で、昭和十年に日本初公開されたときは、歌の名をそのままとつて、「コンチネンタル」という映画名だった。離婚を奨励するような原題では、当時の日本の風潮に合わなかつたため、「コンチネンタル」になつたという説もあるが、この歌がいかに売りものだつたかを物語るものでもある。フレッド・アステアとジンジャー・ロジャーズの映画は、このころから盛んに作られ、彼らの歌と踊りのナンバーは、その後しばしばオスカー候補になつた。実際にオスカーをとつた曲は、昭和十一年の「今宵の君は」でのちにレターメンでヒット(昭和三十六年)したりして、今日ではスタンダード・ソングとなつている。

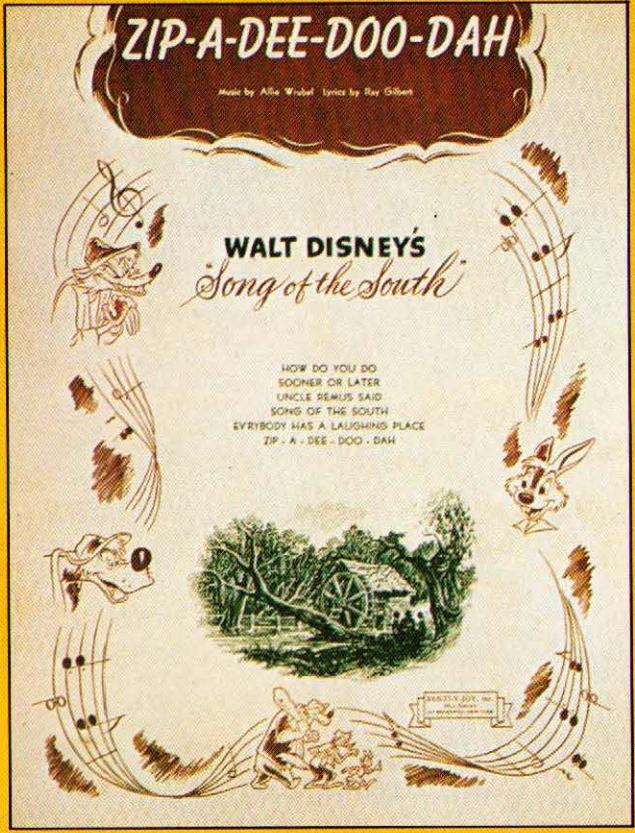
昭和十年から二十年までといえば、戦前・戦中を経て終戦の年までの十年間だが、その間のオスカー・ソングに、戦時色がほとんどみだらなかったといふが、この歌がいかに売りものであつたかを物語るものであろう。フレッド・アステアとジンジャー・ロジャーズの映画は、このころから盛んに作られ、彼らの歌と踊りのナンバーは、その後しばしばオスカー候補になつた。実際にオスカーをとつた曲は、昭和十一年の「今宵の君は」でのちにレターメンでヒット(昭和三十六年)したりして、今日ではスタンダード・ソングとなつている。



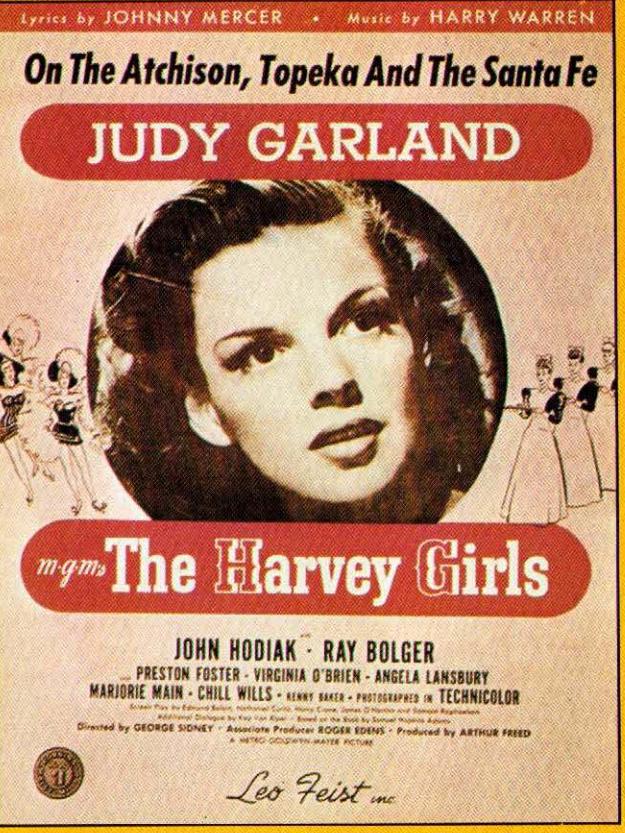
1951年 In the Cool, Cool, Cool of the Evening (『Here Comes the Groom』)
作曲=ホーキー・カーマイクル
作詞=ジョニー・マーサー



1950年 Mona Lisa (『別働隊』)
作曲・作詞=レイ・エヴァンズ,
ジェイ・リヴィングストン



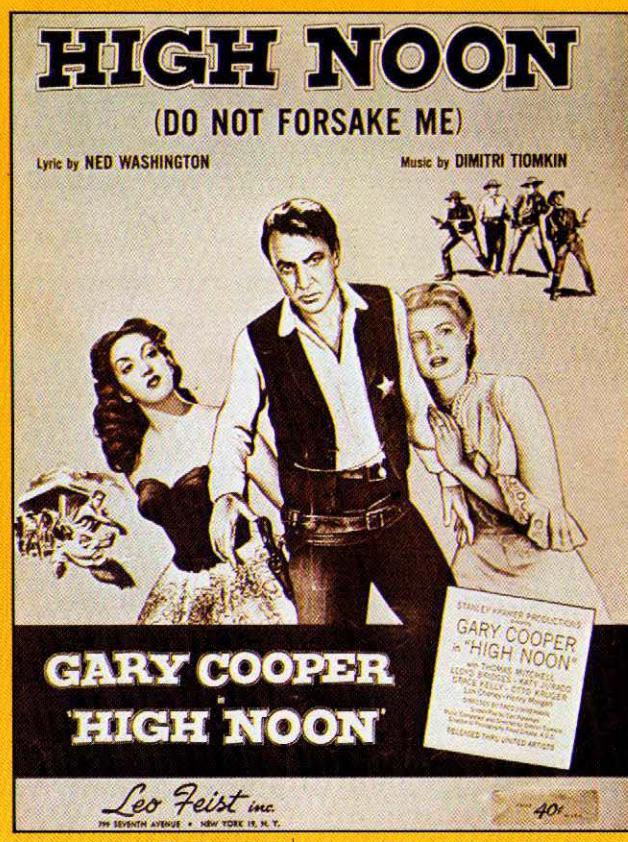
1947年 Zip-a-Dee-Doo-Dah (『南部の唄』)
作曲=アリー・ルーベル
作詞=レイ・ギルバート



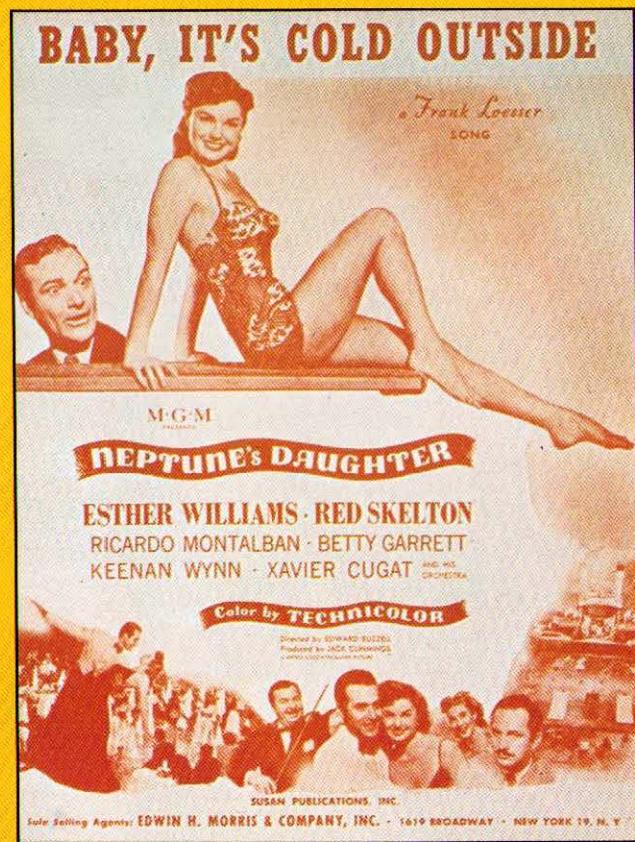
1946年 On the Atchison, Topeka and Santa Fe (『The Harvey Girls』)
作曲=ハリー・ウォーレン
作詞=ジョニー・マーサー



1953年 Secret Love (『カラミティ・ジェーン』)
作曲=サミー・フェイン
作詞=ポール・フランシス・ウェブスター



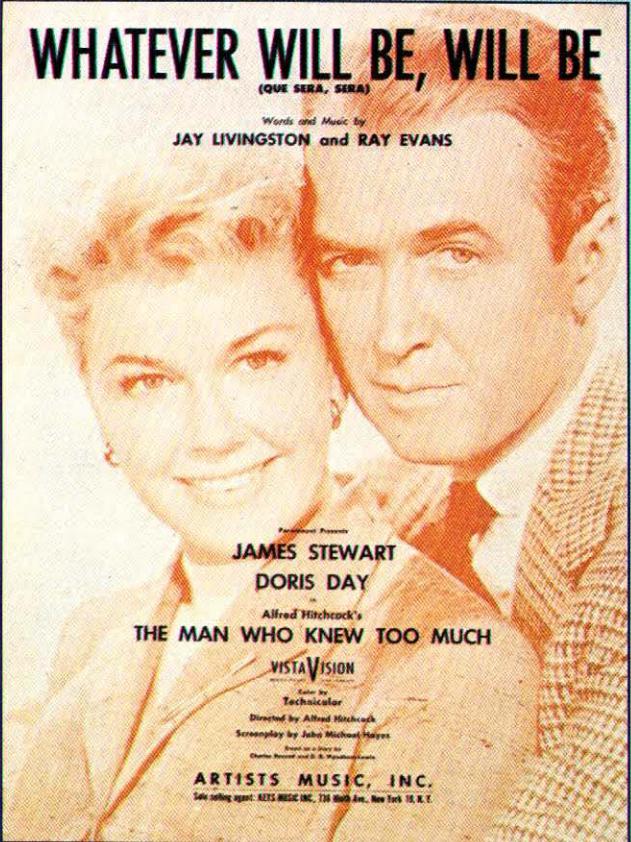
1952年 High Noon (『真昼の決闘』)
作曲=ディミトリ・ティオムキン
作詞=ネット・ウォシントン



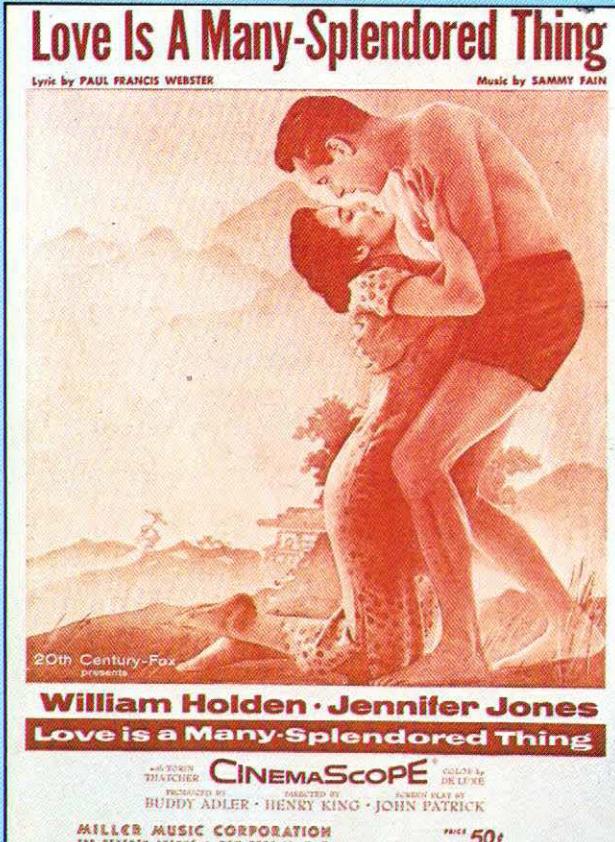
1949年 Baby, It's Cold Outside (『水着の女王』)
作曲・作詞=フランク・レッサー



1948年 Buttons and Bows (『腰抜け二挺拳銃』)
作曲・作詞=ジェイ・リヴィングストン,
レイ・エヴァンズ



1956年 Whatever Will Be, Will Be(Que Sera, Sera)
(『知りすぎていた男』)
作曲・作詞=レイ・エヴァンス、ジェイ・リヴィングストン



1955年 Love Is A Many-Splendored Thing (『慕情』)
作曲=サミー・フェイン
作詞=ポール・フランシス・ウェブスター

この四ページに並んでいるのは、昭和二十一年から三十一年までのオスカー・ウイナーである。この十一本の作品中、「ハーヴィ・ガーリズ」と「ヒア・カムス・ザ・グルーム」を除く九本がわが国でも上映され、「ボタンとリボン」「モナ・リザ」「ハイ・ヌーン」「シークレット・ラブ」「慕情」など、ヒットした歌も多く、おなじみのはず。アラン・ドロンが出ていた映画「別働隊」は、さほど評判にもならなかつたが、劇中、バルチザンの合図の口笛として印象的に扱われた「モナ・リザ」は、「シンデレラ姫」の中の「ビビディ・バビディ・ブー」や、マリオ・ランザの「ビー・マイ・ラブ」を凌いでオスカーを獲得、映画とは直接関係のないナット・キング・コール吹込みのレコードで大いにはやつた珍しい例。ゲリー・クーパーの「真昼の決闘」に、テックス・リッターの激しい声で流れた「ハイ・ヌーン」は、「腰抜け二挺拳銃」や「カラミティ・シェーン」のよう、西部を舞台にしたコメディやミュージカルは別として、本格的西部劇主題歌として、初めての受賞曲といってよい。「水着の女王」でエスター・ウイリアムズとリカルド・モンタルバン、そしてレッド・スケルトンとベティ・ギャーレットが掛け合いで歌つた「お外は寒い」は、面白い歌ではあつたが、オスカー・ソングには「愚かなり我が心」のほうがふさわしいというのが、当時の一般の評価であった。「ボタンとリボン」は、ジーン・ラッセルとボブ・ホープの傑作コメディでボブが歌つたものだが、わが国でも、ダイナ・シヨアのレコードや、あやしげな歌詞の替え歌がはやつた。アカデミー主題歌賞を生んだ映画で黒白からカラーに移ったのが「ホワイット・クリスマス」、「スター誕生」から大型スクリーンになるのは、昭和二十九年のシネマスコープ作品「愛の泉」から。この年、「愛の泉」の受賞に異論はないが、「ホワイット・クリスマス」から「眠れぬ夜は」、「スター誕生」から「去り行く君ゆえ」の有力なノミネートがあつた。この二曲とも、最近のTV放映版「ホワイット・クリスマス」、「スター誕生」からはずされていたのは、どうしたことか。「慕情」は、イントロのメロディが、ブッチーのオペラ「蝶夫人」のアリア「ある晴れた日に」に似ていると騒かれたが、一部似た施律になつたとしても、すばらしい新曲に違ひはないが、授賞対象として支障はなかった。この間に、ドリス・ディが歌つた曲「シークレット・ラブ」「ケ・セラ・セラ」の二曲が選ばれている。



1954年 Three Coins in the Fountain (『愛の泉』)
作曲=ジュール・スタイン
作詞=サミー・カーン

ROBBINS MUSIC CORPORATION
700 SEVENTH AVENUE · NEW YORK 15, N.Y.

PRICE 50¢
IN U.S.A.

A vertical movie poster for "Days of Wine and Roses". The top half features the title in large, flowing cursive script. Below the title is a black-and-white photograph of actors Jack Lemmon and Lee Remick. Lemmon is on the left, smiling, wearing a dark suit and white shirt. Remick is on the right, looking towards him with a slight smile, wearing a patterned dress. The background behind the photo is divided into three horizontal bands of different colors: black at the top, orange in the middle, and red at the bottom. To the left of the photo, the names of the stars, "Jack Lemmon and Lee Remick", are printed vertically. To the right, the music credit "Music by HENRY MANCINI" and the lyrics credit "Words by JOHNNY MERCER" are listed. At the bottom, the quote "In 'Days of Wine and Roses'" is written in a stylized font, followed by the names of the stars and production details.

1962年 Days of Wine and Roses (『酒とバラの日々』)
作曲=ヘンリー・マンシーニ
作詞=ジョニー・マーサー

A black and white movie poster for "Breakfast at Tiffany's". The top half features a large, stylized title "MOON RIVER" in red letters, with "Words by JOHNNY MERCER · Music by HENRY MANCINI" below it. To the right, the text "From the Paramount Picture" is visible. The central figure is Audrey Hepburn as Holly Golightly, wearing a dark dress with a ruffled collar and a pearl necklace, holding a cigarette holder. The bottom half contains the main title "BREAKFAST AT TIFFANY'S" in large red letters, with "is funny... extraordinary... glamorous as Holly Golightly" written above it. In the bottom right corner, there is a small illustration of a man and a woman walking down a street, with three musical notes floating above them. The bottom of the poster includes the names of the cast: GEORGE PEPPARD, PATRICIA NEAL, BUDDY EBSEN, MARTIN BALSAM, and MICKEY ROONEY. It also mentions "BLAKE EDWARDS · MARTIN JUNIOR · RICHARD SHIFFORD · GEORGE TREVOR · MUSIC BY HENRY MANCINI · DIRECTED BY ALEXANDER KODAK · A PARAMOUNT PICTURE · TECHNICOLOR®". The bottom edge features "FAMOUS MUSIC CORPORATION • 1619 Broadway • New York, N. Y. 10019".

1961年 Moon River (『ティファニーで朝食を』)
作曲=ヘンリー・マンシーニ
作詞=ジョニー・マーサー

A movie poster for the film "Gigi". The title "GIGI" is at the top in large, bold, black letters. Below it, "MGM presents An Arthur Freed Production" is written. To the left, "Lyrics by Alan Jay Lerner" is written above a stylized illustration of a woman's face. To the right, "Music by Frederick Loewe" is written. The main title "GIGI" is repeated in large, red, stylized letters across the center. Below the title, there is a black and white illustration of a group of people dancing. At the bottom, the text reads "Published Separately from the Score" followed by a list of songs: "DANCE MEANINGFUL", "I'M GLAD (I'M NOT YOUNG ANYMORE)", "THE DREAMERS", "OPEN YOUR HEART", "I BELIEVE IN YOU", "THE WALTZ AT MARRAKESH", "YOU'RE THE ONE", and "TAKE A PRAYER FOR ME TONIGHT". A small note at the bottom right says "A RARE JOKE THE PARISIAN".

1958年 Gigi (『恋の手ほどき』)
作曲=フレデリック・ロー
作詞=アラン・ジェイ・ラーナー

A black and white movie poster for "All the Way". The title "ALL THE WAY" is at the top in large red letters. Below it, "Words by SAMMY CAHN" and "Music by JAMES VAN HEUSEN" are written. The central figure is Frank Sinatra, wearing a tuxedo and bow tie, looking upwards with his hands raised. To his left is a circular portrait of Mitzi Gaynor and Eddie Albert. To his right is a circular portrait of Jeanne Crain. A large white rectangular box contains the text: "From the Paramount Picture", "FRANK SINATRA", "MITZI GAYNOR · JEANNE CRAIN", "EDDIE ALBERT", "in", "The Joker Is Wild", "A CHARLES Vidor Production", "BEVERLY GARDENS JACKIE COOGAN", "Directed by CHARLES VIDOR", "Produced by SAMUEL J. BHISKIN", "Screenplay by OSCAR SAUL", "From a book by ART COHN", "Based on the Life of Joe E. Lewis", "A Paramount Release", and "VISTAVISION". At the bottom, it says "PARSON MUSIC CORP."

1957年 All the Way (『抱擁』)
作曲=ジェームズ・ヴァン・ヒューセン
作詞=サミー・カーン

A movie poster for "Mary Poppins". At the top left is a silver Oscar statuette. To its right, the text reads "ACADEMY AWARD WINNER for BEST SONG of the YEAR!" above "CHIM CHIM CHER-EE". Below that, it says "By RICHARD M. SHERMAN and ROBERT B. SHERMAN". In the center, it says "WALT DISNEY'S" above the title "MARY POPPINS" in a large, dotted font. Below the title, it says "The Academy Award Winning Musical Score". The main image shows a close-up of the faces of Julie Andrews (as Mary Poppins) and Dick Van Dyke (as Bert). Julie Andrews has blonde hair styled up and is smiling broadly. Dick Van Dyke is wearing a striped bowler hat and has a more reserved, slightly smiling expression. At the bottom left, there's a small logo for "WONDERLAND MUSIC COMPANY" with musical notes. At the bottom right, it says "Walt Disney" and "Mary Poppins". Below that, it lists the stars: "JULIE ANDREWS · DICK VAN DYKE · DAVID TOMLINSON · GLYNIS JOHNS · ED WYNN".

1964年 Chim Chim Cher-ee (『メリー・ボビンズ』)
作曲・作詞＝リチャード・M・シャーマン、
ロバート・B・シャーマン

A movie poster for "Call Me Irresponsible". The title is at the top in large, bold, black letters. Below it, smaller text reads "WORDS BY SAMMY CAHN · MUSIC BY JAMES VAN HEUSEN". A small logo for "Paramount Pictures" is visible. The central image shows Jackie Gleason in a dark suit, looking upwards and slightly to his right. In the lower left foreground, there's a chaotic scene with several people and a small plane, suggesting a comedy mishap. The poster has a decorative border.

1963年 Call Me Irresponsible (『パパは王様』)
作曲=ジミー・ヴァン・ヒューゼン
作詞=サミー・カーン

1960年 Never on Sunday (『日曜はダメよ』)
作曲・作詞=マノス・ハジダキス
英詞=ビリー・タウン

A black and white movie poster for "A Hole in the Head". The title is at the top in large red letters. Below it, the lyrics are by Sammy Cahn and the music by James Van Heusen. The poster features a man in a suit dancing with a woman in a white dress. To the left, there's a stylized graphic of a person's head with names of the cast: Frank Sinatra, Edward G. Robinson, Eleanor Parker, Carolyn Jones, Thelma Ritter, and Keenan Wynn. The bottom right corner has the United Artists logo.

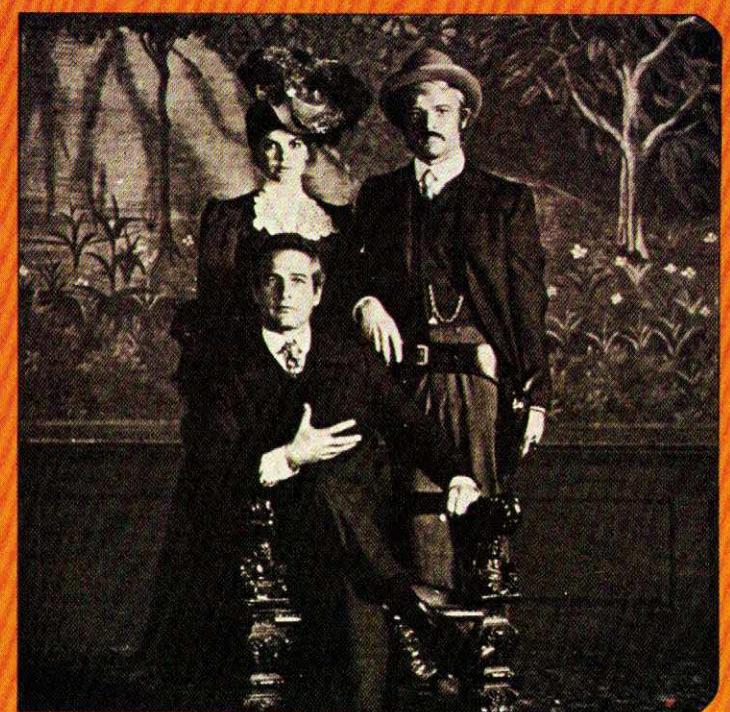
1959年 High Hopes (『波も涙も暖かい』)
作曲＝ジェームズ・ヴァン・ヒューセン
作詞＝サニー・カーン

X52026b (From the 20th CENTURY-FOX Film 'BUTCH CASSIDY AND THE SUNDANCE KID')

RAINDROPS KEEP FALLIN' ON MY HEAD

Lyric by HAL DAVID

Music by BURT BACHARACH



20TH CENTURY-FOX PRESENTS
PAUL NEWMAN
ROBERT REDFORD
KATHARINE ROSS

"BUTCH CASSIDY AND THE SUNDANCE KID"

A GEORGE ROY HILL-PAUL MONASH PRODUCTION
Starring STROTHÉR MARTIN, JEFF COREY, HENRY JONES
EXECUTIVE PRODUCER PAUL MONASH - PRODUCED BY JOHN FOREMAN
DIRECTED BY GEORGE ROY HILL - WRITTEN BY WILLIAM GOLDMAN
MUSIC COMPOSED AND CONDUCTED BY BURT BACHARACH
A NEWMAN-FOREMAN PRESENTATION - PANAVISION® - COLOR BY DELUXE



ACADEMY
AWARD
WINNER

1969年

Raindrops Keep Fallin' on My Head
(明日に向って撃て!)
作曲 ハート・バカラック
作詞 ハル・ディヴィッド

Columbia Pictures and Carl Foreman present
VOCAL

BORN FREE

Lyric by Don Black

Music by John Barry



1966年 Born Free (『野生のエルザ』)

作曲=ジョン・バリー
作詞=ドン・ブラック

LOVE THEME FROM "THE SANDPIPER"

(The Shadow Of Your Smile)

Lyric by PAUL FRANCIS WEBSTER

Music by JOHNNY MANDEL

METRO-GOLDWYN-MAYER AND FILMWAYS
ELIZABETH TAYLOR
RICHARD BURTON
EVA MARIE SAINT
IN MARTIN RANSOHOFF'S PRODUCTION



1965年 The Shadow of Your Smile (『いそしき』)

作曲=ジョニー・マンデル
作詞=ポール・フランシス・ウェブスター

ACADEMY AWARD WINNER

THE WINDMILLS OF YOUR MIND

THEME FROM 'The Thomas Crown Affair'

Lyric by MARILYN and ALAN BERGMAN

Music by MICHEL LEGRAND



1968年 The Windmills of Your Mind (『華麗なる賭け』)

作曲=ミシェル・ルグラン
作詞=アラン & マリリン・バーグマン

United Artists

UNITED ARTISTS MUSIC CO., INC.

NEW YORK, N.Y.

85c

RECORDED IN U.S.A.

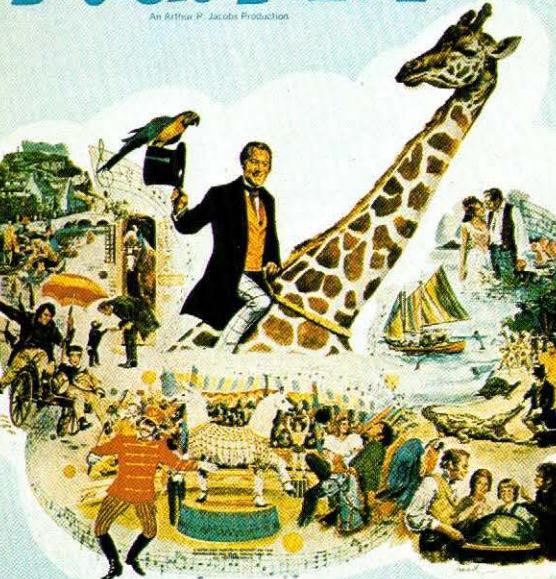
TALK TO THE ANIMALS

Words and Music by LESLIE BRICUSSE

DOCTOR DOLITTLE

20th Century Fox presents

An Arthur P. Jacobs Production



1967年 Talk to the Animals (『ドリトル先生不思議な旅』)

作曲・作詞=レスリー・ブリカッス

ヒ・シ・カ・パ・人・サ・イ

★製作・監督(前作に続き) 監修 ブレイク・エドワーズ ★

キヤクもスケールも100倍になつて
日本列島を笑いの洪水で沈没させます
世界が待った最新作
公開はもうすぐ!

ヒンコパンサイン

★カラー作品★

1972年 **"THE PINK PANTHER STRIKES AGAIN"**
共同製作トニー・アダムス・●音楽・シルヴィー・マンシーニ
脚本ブレイク・エドワーズ/フランク・ウォルドマン
United Artists ユナイテッド映画
A Transamerica Company

陽春全国縦断ロードショウ
みゆき座 新宿文化
渋谷文化 横浜相鉄

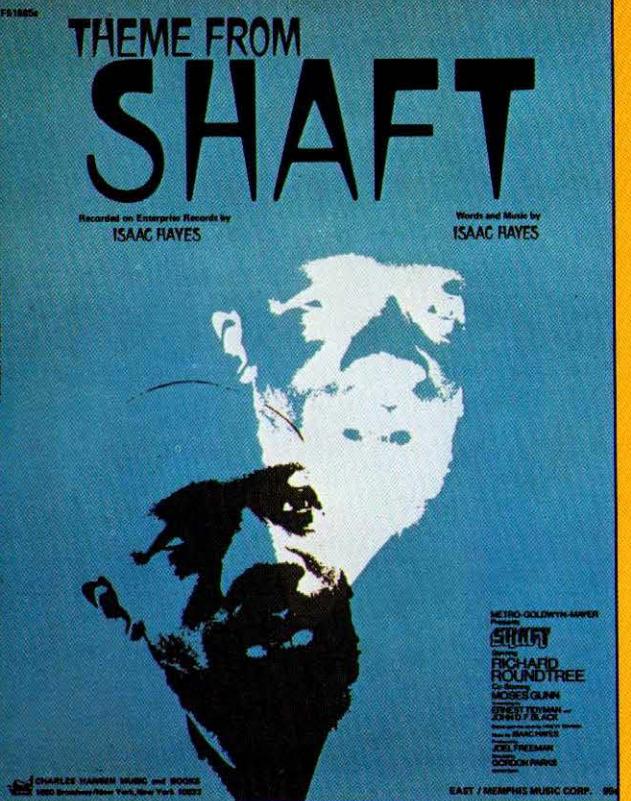
ご存知フルーツ・ミッセイ部が100人の殺し屋に狙われた、今度ばかりは絶対絶命。



1972年 **Morning After (『ボセイドン・アドベンチャー』)**

作曲=ジョエル・ハーシュホーン
作詞=アル・カシャ

過去六回の受賞曲は、まだ記憶に新しいところ。それ以前とは傾向ががらりと変わつて、ボビュラー・ソングや流行リズムの影響がみられよう。「ふたりの誓い」は、人気デュエット、ザ・カーベンターズが歌つて、ビッグ・ヒット。ソウル・ミュージックが映画音楽の分野にも進出。アイザック・ヘイズの「黒いジャガー」が、リズム&ブルース、ソウルを通じて初のオスカー・ソングとなつた。もともこの年、昭和四十六年は、「コッチおじさん」ほかの対抗作品がいずれも弱く、主題歌不作の年でもあつた。バニッシュ映画大流行を反映させたのが、「ボセイドン・アドベンチャー」の「モーニング・アフター」と「タワリング・インフェルノ」。いずれも、モーリン・マクガヴァーンが歌つたもので、それまで無名だった彼女を一躍スター歌手にしてしまつた。その間にバーブラ・ストライサンドが歌つて「追憶」が入つたが、これは久しぶりにオーソドックスなラブ・バラッドであった。そして一番新しいところが「ナッシュビル」の「アイム・イージー」。バー・ブラの「ファニー・レディ」やダイアナ・ロスの「マホガニー物語」のテーマを退けての受賞で、カントリー・ソングの底力をを見せた一幕であつた。



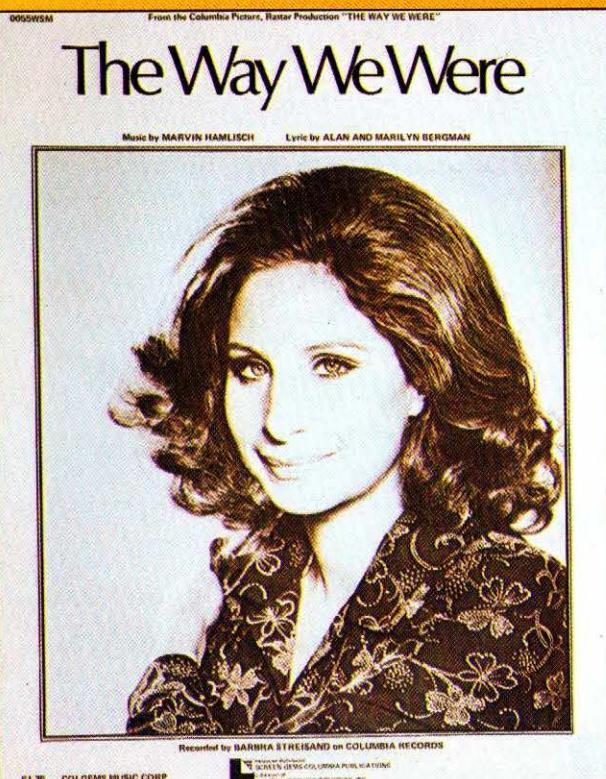
1971年 **Theme from 'Shaft' (『黒いジャガー』)**
作曲・作詞=アイザック・ヘイズ



1970年 **For All We Know (『ふたりの誓い』)**
作曲=フレッド・カーリン
作詞=ロブ・ウィルソン/アーサー・ジェームズ



1974年 **We May Never Love Like This Again (『タワーリング・インフェルノ』)**
作曲・作詞=アル・カシャ, ジョエル・ハーシュホーン



1973年 **The Way We Were (『追憶』)**
作曲=マー・ヴィン・ハムリッシュ
作詞=アラン & マリリン・バーグマン

オスカーの50年

構成=野口久光



アカデミー賞受賞映画 1927~76年

『オリエント急行殺人事件』で3度めのオスカーを手にしたイングリッド・バーグマン

アカデミー賞半世紀の歩み

映画ファンにとってたのしみな、そして気がもめることの一つに毎年行なわれる“アカデミー賞”的ある。毎年四月に前年度最良の作品をはじめ、監督、主演男女優、脇役男女優、シナリオ・ライターから撮影監督、作曲家に到る数多くの部門賞がハリウッドで発表と式典を兼ねて行なわれてきた。アメリカではその模様が全米にテレビで中継放送され、新聞も大きく報道する。その結果は日本にも翌日新聞に載り、映画や娯楽雑誌は写真とともに受賞のスナップなどを華やかに紹介するのがいつからかしきりになつていて。

“アカデミー賞”的賞牌にある“オスカー像”も映画ファンにおなじみであるが、この映画界の世界的な行事も一九七七年には発足以来五十年を迎えようとしている（一九七七年の春である）。そこでひと足早いことになるが、アカデミー賞の半世紀を写真と記録にして振りかえつてみようというわけである。同時に、そもそもアカデミー賞というものが、いつたいどういう組織体がどういうやり方で“賞”を決めるのかということを改めてご紹介することにしよう。

まず、“アカデミー”という略称で呼ばれている組織だが、そのフル・ネームは“アカデミー・オブ・モーション・ピクチュア・アーツ・アンド・サイエンシズ”つまり、映画芸術および科学振興会”とでもいべき組織団体、協会で、アメリカでの略称はAMPAS（アンバス）である。

この協会の創立は今から五十年前の一九二七年で、当時そしてその後も長い間 MGM の社長、会長をつとめてきた故ルイス・B・メイヤーがハリウッドの主な会社の首脳、第一線の監督、スター、技術関係者に呼びかけて設立、映画の芸術性を高め、科学面でのより一層の研究、進歩を目指す推進機関としてスタートしたのだった。発足当時のメンバーは三十

4071ISM

From The Motion Picture "NASHVILLE"

I'M EASY

Words and Music by KEITH CARRADINE

ACADEMY
AWARD
WINNER



abc Music

AMERICAN BROADCASTING MUSIC, INC.
LION'S GATE MUSIC CO. / EASY MUSIC

\$1.50

1975年 I'm Easy (『ナッシュビル』)
作曲・作詞=ケイス・キャラダイン

作品賞『つばさ』(技術効果賞)

主演男優賞 エミール・ヤニングス(『肉体の道』『最後の命令』)

主演女優賞 ジャネット・ゲイナー(『第七天国』『街の天使』)

監督賞 フランク・ボーザージ(『第七天国』) ルイス・マイルストン(『美人国二人行脚』)

「作品賞候補」『最後の命令』『裏切者』『第七天国』(脚本賞)『肉

体の道』

〔以下、本欄では、多くの授賞部門のうち主要項目だけを掲げ、他部門でも受賞した作品は括弧内にそれを示した。〕

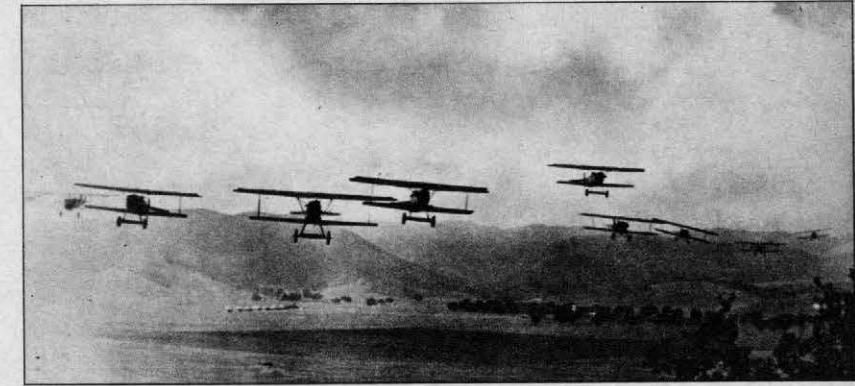
内



第1回の作品賞の栄を獲得した『つばさ』(W.A.ウェルマン監督)



名優ヤニングスはV.フレミングの『肉体の道』(写真)とスタンバーグ『最後の命令』で主演賞を



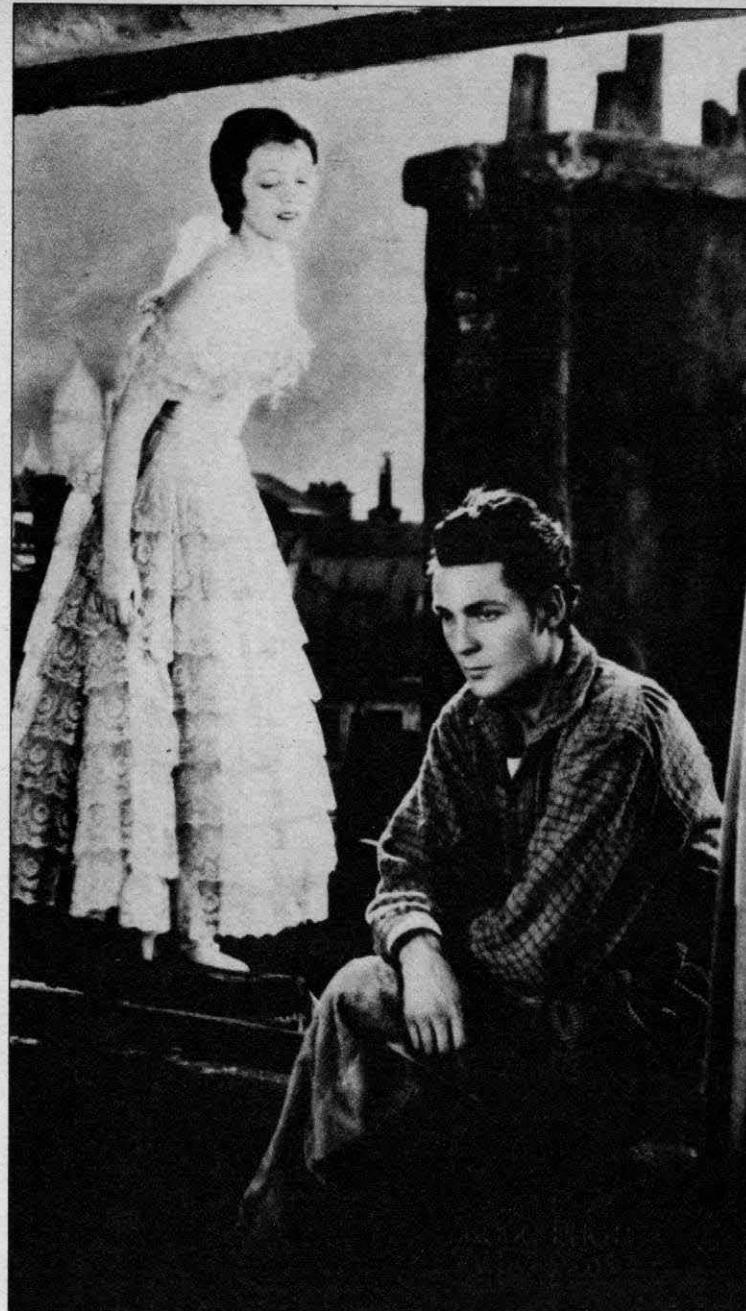
航空シーンなど 当時としては画期的な撮影効果をみせた『つばさ』は技術効果賞も

六人、初代会長は無声映画時代の大スター、ダグラス・フェアバンクス(シニア)だった。その資金はハリウッドの映画会社、メンバーが持ち寄り、会合や専門家の研究会などのために会場を提供したり、大規模なフィルム・ライブラリー、資料館を充実して行くことであった。そこにはハリウッド映画の芸術性を高め、技術面での新しい開発研究という立派な趣旨とともに、アメリカ映画の芸術性、映画産業の力を世界に誇示したいというもう一つの目的もあつたわけで、それが翌一九二八年から年中主催行事として行なわれるようになつた優秀作品、すぐれた監督、俳優、技術者などを選出、授賞する「アカデミー賞」である。

第一回の「アカデミー受賞」は、一九二八年に前年からその年にかけての作品を対象に初代メンバーとその推薦による選出委員によって選ばれ、式典もAMPAS内部で行なわれたほど地味なハリウッド映画界内輪の行事であつたが、結果の発表は大きな反響を呼び、翌二九年からは一般の要望に応えて授賞式の模様がラジオによつて放送されるようになった。そして、AMPASのメンバーも増え、現在は約三千人の会員を擁するに至つている。このメンバーの中から選ばれた専門委員により候補作品、受賞候補者が選ばれ、作品の選出は全員の投票によつて決められ、授賞式当日まで伏せられ、式場ではじめてその決定を発表するという方法がとられている。

「アカデミー賞」は発足数年にして世界映画界でも最も多くの人々、ファンの関心的となつたが、テレビ時代に入った一九五三年からは式典がテレビで中継放送されるようになり、一九六七年からはカラーで放送されるようになつて、アメリカでは最高の視聴率を記録しているという。

本来、映画芸術・技術の向上、映画の教育性、文化性の高揚を目的として発足したAMPASではあるが、アカデミー賞の行事はアメリカを代表する産業、企業の一つであるハリウッド映画界の人材のなかか



監督賞を受けたF.ボーザージ『第七天国』 左=ジャネット・ゲイナー 右=チャールズ・ファレル

第一回のアカデミー賞が発表された一九二八年(昭和三年)は映画が発明されてから三十三年間続いたサイレント映画時代の最後の年となつた。すでに二年前からワートナーが試作的なトーキーを発表し、前の年の秋に公開したバート・トーキーの劇映画『ジャズ・シンガーア』はセンセーショナルな話題を呼んでいたが、ハリウッドのほとんどの大会社幹部は、トーキーに対する異常な反響を一時的な現象とみて、ワーナーのあとを追おうとはしなかつた。

一九二七年から二八年にかけての優秀映画、ヒット作品みると、第一回アカデミー作品賞をとった『つばさ』をはじめ、『暴力団』のほかにも、ムルナウの『サンライズ』、『ジャズ・シンガーア』とともに特別賞をあくられたチャップリンの『サ

ークス』などが封切られている。大多数の映画人やファンは、音のない映画こそ映画に最もふさわしい形式であると信しきっていた。十三部門のアカデミー賞受賞者、作品もまさにサイレント映画の黄金時代の成果と呼ぶのにふさわしいものであつた。

ところが一年後の一九二八—二九年度の第二回アカデミー受賞作品や人材をみると、大多数がトーキー作品とその出演者に一変している。つまりハリウッドの大会社は、一九二八年後半にいつせいにサイレント映画の製作を中止し、トーキー制作に切りかえたのである。

第一回に『最後の命令』と『肉体の道』で主演男優賞をとったドイツ出身のエミール・ヤニングスは、英語がまともにしゃべれないためにトーキー俳優として失格、翌年にはドイツ

ら最もすぐれたアーティスト、技術者を毎年選んで賞を贈ることによって業界人にいい刺激を与えるとともに、映画企画家にとって最も大切な商品であるスターや監督のイメージを国内外で高めようといふねらいもあり、それがこの半世紀のあいだに並々ならぬ成果をあげてきたといえよう。

「アカデミー賞」の受賞部門は発足当時臨時の特別賞を入れて十三部門であったが、年とともに部門を増やし、細分化ってきて、一九三三年まではなかつた音楽部門も一九三四四年にはあらたに設立され、編曲賞と主題歌賞がおくられることになった。また、はじめは対象がアメリカ映画に限っていたが、これも一九三八年からは外国映画も対象に加えるようになった。しかし、後に一九四七年からは外国映画賞として独立した部門がつくられている。

ハリウッドの業界人によつて選出されるということから「アカデミー賞」は娯楽性に重きをおいた作品や人材が選ばれる傾向があることは否めないが、五十年を振りかえつてみると、そこによい意味にも悪い意味にもアメリカ映画像がはつきりと描き出されることはたしかである。

無声映画黄金時代がほとんど突如消え去るとしていた一九二八年は、実はトーキー時代の夜明けだった。その第一回の特別賞受賞がトーキーの試作的な第一作『ジャズ・シンガーア』と、その後もトーキーに反対し続けたチャップリンに贈られたのはなかなか意味深長であるとおもう。アカデミー賞はこうしたハリウッド始まって以来の激動期に歴史的なスタートを切つたのだった。(野口)



レマルクのベストセラーを映画化して監督賞・作品賞に輝いた『西部戦線異状なし』(L・マイルストン)

1929
～30
第3回

作品賞 「西部戦線異状なし」
主演男優賞 ジョージ・アーリス(「ディスレリ」)
主演女優賞 ノーマ・シラード(「結婚双紙」)
監督賞 ルイス・マイルストン(「西部戦線異状なし」)
「作品賞候補」 「ビッグ・ハウス」(脚本賞・録音賞)「ディスレリ」
「結婚双紙」「ラブ・パレード」



監督賞を贈られた『情炎の美姫』(F・ロイド)

1928
～29
第2回

作品賞 「プロードウェイ・メロディ」
主演男優賞 ウォーナー・バクスター(「懐しのアリゾナ」)
主演女優賞 メアリー・ピックフォード(「コケット」)
監督賞 フランク・ロイド(「情炎の美姫」)
「作品賞候補」 「アリバイ」(ハリウッド・レビュー)「懐しのアリゾナ」
「愛國者」(脚本賞)



「ディスレリ」(A・E・グリーン)で19世紀英國の政治家にふんし主演賞を受けたジョージ・アーリス



R・Z・レナード監督『結婚双紙』で主演女優賞を贈られたノーマ・シラード
左はチェスター・モリス



トーキー西部劇『懐しのアリゾナ』(R・ウォルシュ／I・カミングズ)のウォーナー・バクスター(右)とエドマンド・ロウ



「コケット」(S・テイラー)で主演女優賞を受けたピックフォード(右)



作品賞受賞作『プロードウェイ・メロディ』(E・グールディング)のアニタ・ペイジ(左)とベッシー・ラヴ



1931
～32

第5回

作品賞 「グランド・ホテル」
主演男優賞 フレドリック・マーチ (『ジー・キル博士とハイド氏』)
主演女優賞 ウオーレス・ビアリー (『チャンプ』)
監督賞 ヘレン・ヘイズ (『マデロンの悲劇』)
「作品賞候補」 フランク・ボーザージ (『バッド・ガール』)
「作品賞候補」 『人類の戦士』 ハット・ガール (脚本賞)
「チャンプ」 (脚本賞) 『特種社会面』 君とひととき (脚本賞)
特急 (撮影賞) 『陽気な中尉さん』

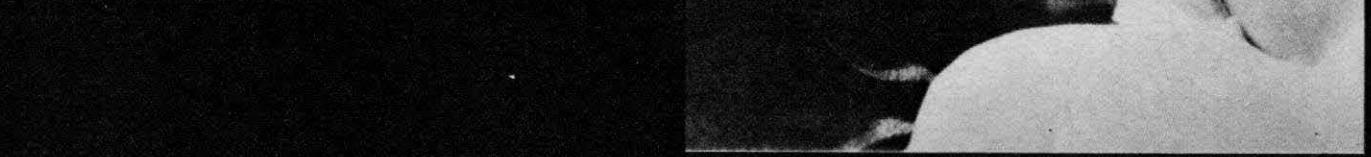
V・baumのベストセラーによる『グランド・ホテル』(エドマンド・クールディング監督)はグレタ・ガルボとジョン・バリモアの豪華な顔あわせ



『バッド・ガール』でF・ボーザージは再び監督賞を



R・マムーリアン監督によりハイド氏と化したフレドリック・マーチ 左はミリアム・ホブキンズ



ヘレン・ヘイズ(右)が主演女優賞を贈られた『マデロンの悲劇』(E・セル・ワイン監督)は彼女の夫チャールズ・マッカーサーのシナリオによるもの



3つのオスカーを得た『シマロン』(W・ラグ尔斯監督) リチャード・ディックス(右)は主演男優賞にノミネートされた



C・ブラウンの『自由の魂』で主演男優賞を受けたライオネル・バリモアはジョン・バリモアの兄 右はノーマ・シアラー



かつてチャップリンの『醜女の深情』で主演していたマリー・ドレスラー (1869~1934) は 受賞時61歳だった



『スキ比イ』のジャッキー・クーパー(左)とロバート・クーガン

1930
～31

第4回

作品賞 『シマロン』(脚本賞・美術監督賞)
主演男優賞 ライオネル・バリモア (『自由の魂』)
主演女優賞 マリー・ドレスラー (『惨劇の波止場』)
監督賞 ノーマン・タウログ (『スキ比イ』)
「作品賞候補」 『女性に捧ぐ』 (『犯罪都市』) 『スキ比イ』 トレイダ
「！ホーン』

作品賞 『シマロン』(脚本賞・美術監督賞)

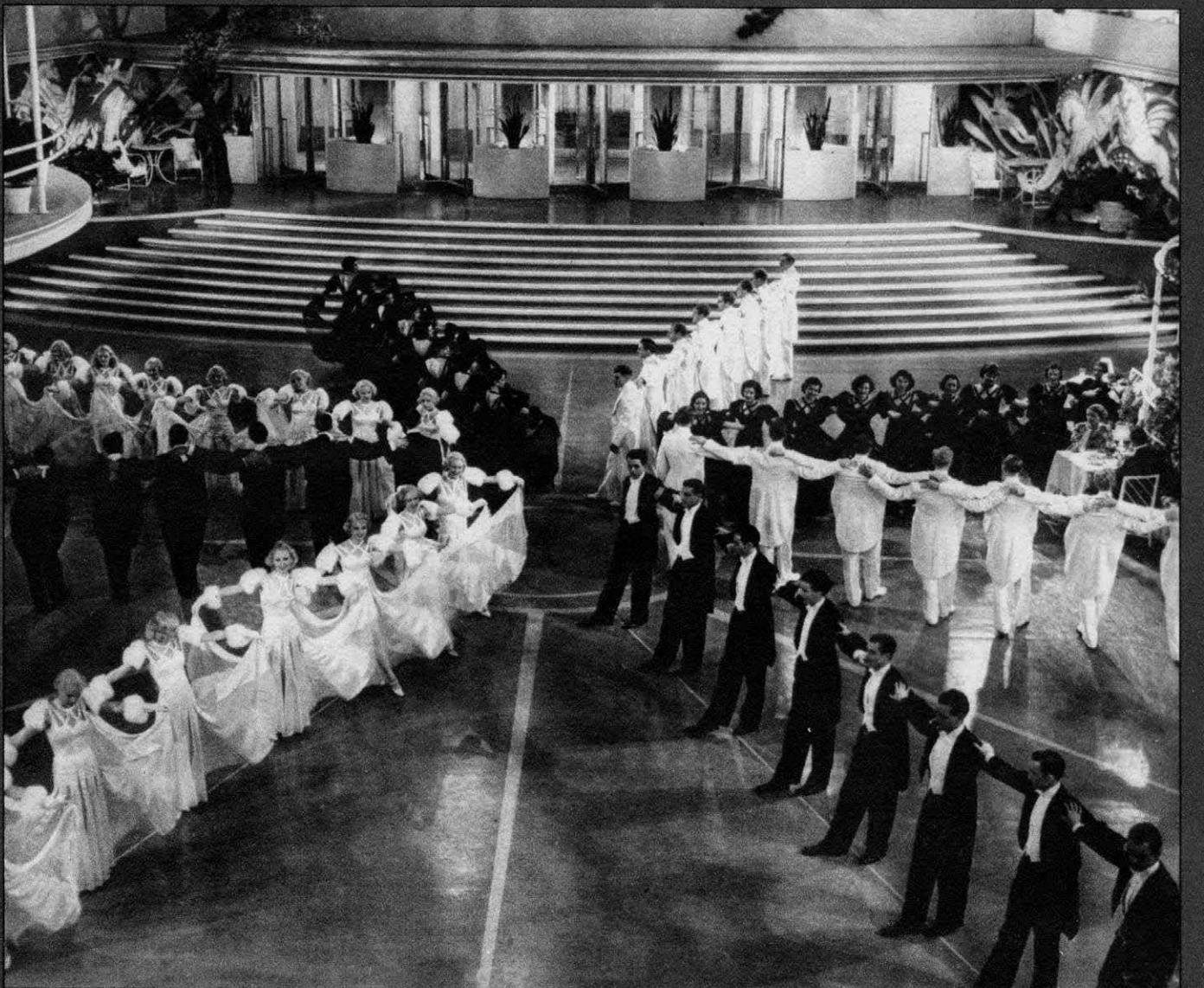


1934

第7回

作品賞『或る夜の出来事』(脚本賞・録音賞)
主演男優賞 クラーク・ゲーブル(『或る夜の出来事』)
主演女優賞 クロードット・コルベール(『或る夜の出来事』)
監督賞 フランク・キャブラ(『或る夜の出来事』)
「作品賞候補」『白い蘭』『クレオバトラ』(撮影賞)『お姫様大行進』
『コンチネンタル』『これがアメリカ艦隊』『ロスチャイルド』『模倣の人生』『恋の一夜』(音楽賞)『影なき男』『奇傑パンチヨ』『ホワイット・パレード』

この年のおもなオスカーをさらった『或る夜の出来事』のクラーク・ゲーブルとクロードット・コルベール



『カヴァルケエド』に主演したクライヴ・ブルックはイギリス出身のベテラン(右はダイアナ・ヴィニヤード)



A・コルダ監督「ヘンリー八世の私生活」でイギリス人として初の主演男優賞を受けたチャールズ・ロートン



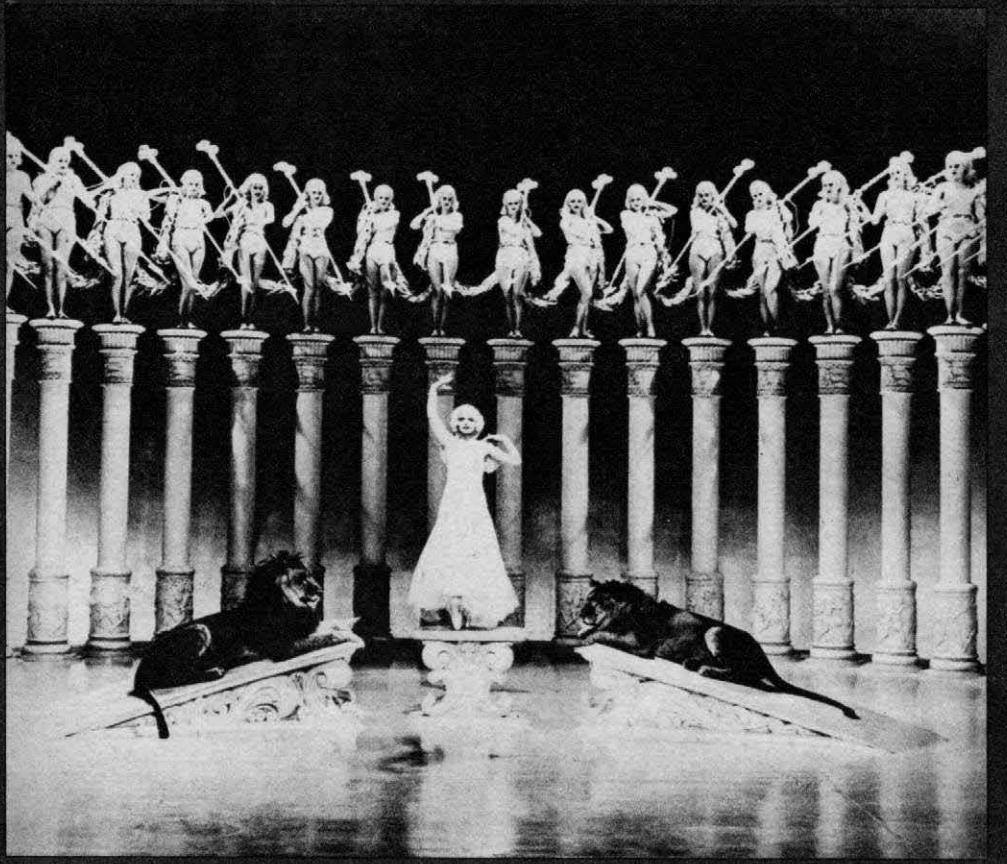
映画入りして3本目の『勝利の朝』(L・シャーマン監督)で見事オスカーを手にしたキャサリン・ヘップバーン 右はダグラス・フェアバンクスJr

1932
～33
第6回

作品賞『カヴァルケエド』(美術監督賞)
主演男優賞 チャールズ・ロートン(『ヘンリー八世の私生活』)
主演女優賞 キャサリン・ヘップバーン(『勝利の朝』)
監督賞 フランク・ロイド(『カヴァルケエド』)
「作品賞候補」『戦場よさらば』(撮影賞・録音賞)『四十二番街』『仮面の米国』『一日だけの淑女』『若草物語』(脚本賞)『ヘンリー八世の私生活』『永遠に微笑む』『妻は別よ』『アメリカ祭』

1936

第9回



豪華な踊りと音楽で作品賞を贈られた『巨星ジーグフェルド』(R・Z・レナード監督)



『科学者の道』(W・ディーターレ) でバストゥールにふんした主演賞のポール・ムニ



監督賞『オペラ・ハット』 ゲーリー・クーパー(左)とジーン・アーサーが主演していた

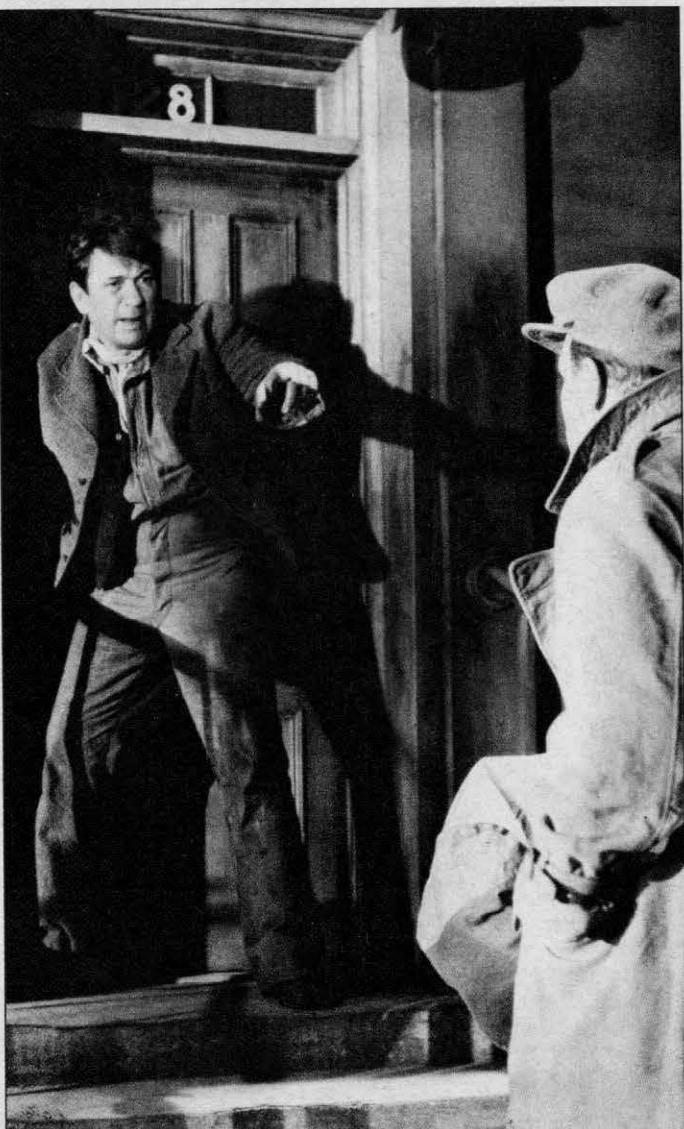
ウィーン生まれのルイゼ・ライナーは
翌年も『大地』(S・フランクリン監督)でオスカーを得た

作品賞『巨星ジーグフェルド』
主演男優賞 ポール・ムニ(『科学者の道』)
主演女優賞 ルイゼ・ライナー(『巨星ジーグフェルド』)
助演男優賞 ウォルター・ブレナン(『大自然の凱歌』)
助演女優賞 ゲイル・ソンダーガード(『風雲兒アドヴァース』)
監督賞 フランク・キャブラ(『オペラ・ハット』)

「作品賞候補」『風雲兒アドヴァース』(撮影賞・編集賞・音楽賞)『孔雀夫人』(美術監督賞)『結婚クーデター』『オペラ・ハット』『ロミオとジュリエット』『桑港』(録音賞)『科学者の道』(脚本賞)『二都物語』



作品賞受賞のF・ロイド監督『戦艦バウンティ号の叛乱』でのクラーク・ゲーブル(右)とチャールズ・ロートン



『青春の抗議』(A・グリーン監督)でオスカーを得た
若き日のベティ・デイヴィス



監督賞受賞作品『男の敵』で主演賞を受けたヴィクター・マクラグレン

1935

第8回

作品賞『戦艦バウンティ号の叛乱』(戦前の邦題は『南海征服』)
主演男優賞 ヴィクター・マクラグレン(『男の敵』)
主演女優賞 ベティ・デイヴィス(『青春の抗議』)
監督賞 ジョン・フォード(『男の敵』)
「作品賞候補」『乙女よ嘆くな』『踊るブロードウェイ』『海賊プラッド』『孤児ダビッド』『男の敵』(脚本賞・音楽賞)『噫無情』『ベンガルの槍騎兵』『真夏の夜の夢』(撮影賞・編集賞)『浮かれ姫君』(録音賞)『人生は四十二から』

作品賞『戦艦バウンティ号の叛乱』(戦前の邦題は『南海征服』)

1937

第10回

作品賞『ゾラの生涯』(脚本賞)

主演男優賞 スペンサー・トレイシー(『我是海の子』)

主演女優賞 ルイゼ・ライナー(『大地』)

助演男優賞 ジョゼフ・シルドクラウト(『ゾラの生涯』)

助演女優賞 アリス・ブライディ(『シカゴ』)

監督賞 レオ・マッケリー(『新婚道中記』)

「作品賞候補」『新婚道中記』『我是海の子』『デッド・エンド』『大地』

(撮影賞)『シカゴ』『失われた地平線』(美術監督賞・編集賞)『オーケー』

ストラの少女』(音楽賞)『ステージ・ドア』『スター誕生』(脚本賞)



V・フレミング監督『我是海の子』で主演賞を受けたスペンサー・トレイシー
右はフレディ・バーソロミュー



『ゾラの生涯』で文豪にふんしたポール・ロビンソン



作品賞・脚本賞の『ゾラの生涯』(監督=W・ディーターレ
脚本=J・ラバー)で助演賞を得たJ・シルドクラウト

1938

第11回

作品賞『我が家の楽園』

主演男優賞 スペンサー・トレイシー(『少年の町』)

主演女優賞 ベティ・デイヴィス(『黒蘭の女』)

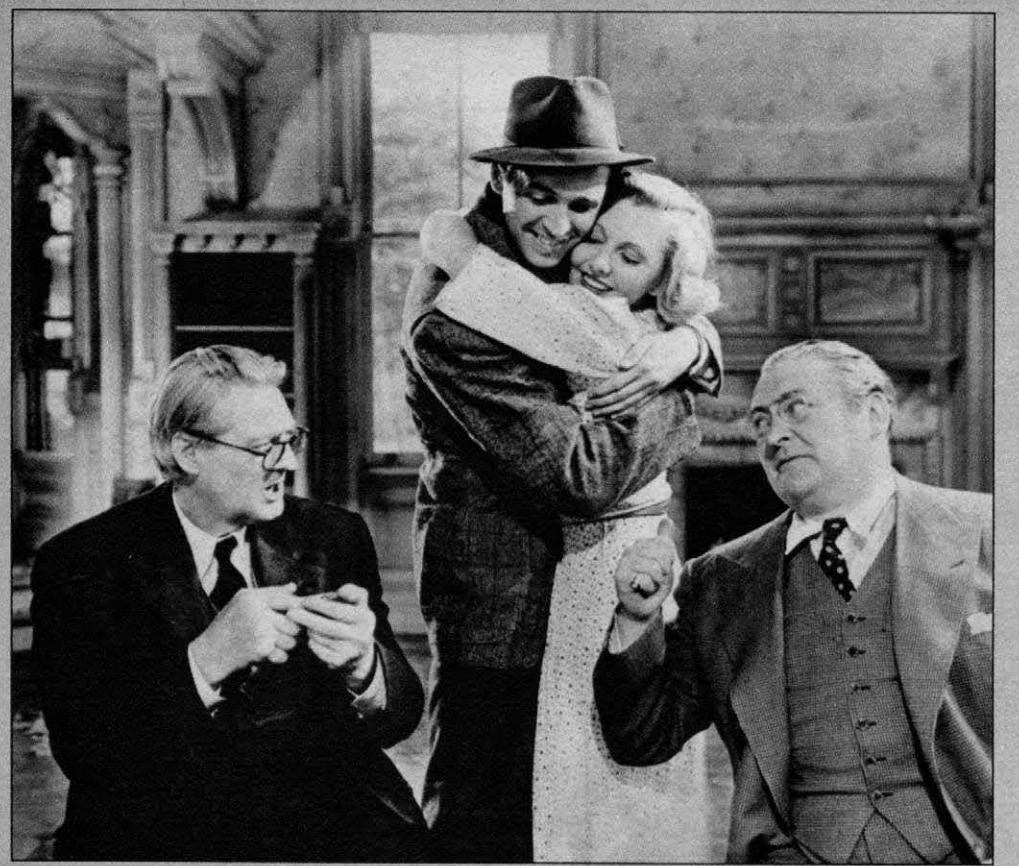
助演男優賞 ウォルター・ブレナン(『ケンタッキー』)

助演女優賞 フェイ・ベインター(『黒蘭の女』)

監督賞 フランク・キャブラ(『我が家の楽園』)

「作品賞候補」『ロビン・フッドの冒險』(美術監督賞・編集賞・音楽賞)

『世紀の楽園』(音楽賞)『少年の町』(脚本賞)『城砦』『四人の姉妹』『大いなる幻影』『黒蘭の女』『ビッグ・マリオン』『テスト・バイロット』



『我が家の楽園』 左からライオネル・バリモア ジェームズ・スチュアート ジーン・アーサー エドワード・アーノルド



223 ベティ・デイヴィスはW・ワイラー監督『黒蘭の女』で再度受賞



N・タウログの『少年の町』で主演賞を得たスペンサー・トレイシーとミッキー・ルーニー



監督賞を受賞した『新婚道中記』(L・マッケリー)
ケイリー・グラント(左)がアイリーン・ダンと



主題歌賞『ワキキの結婚』(F・タトル監督)
のビング・クロスビー(右)とシャーリー・ロース

1939

第12回

作品賞『風と共に去りぬ』(脚本賞・撮影賞・美術監督賞・編集賞)

主演男優賞 ロバート・ドーナット(「チップス先生さようなら」)

主演女優賞 ヴィヴィアン・リー(「風と共に去りぬ」)

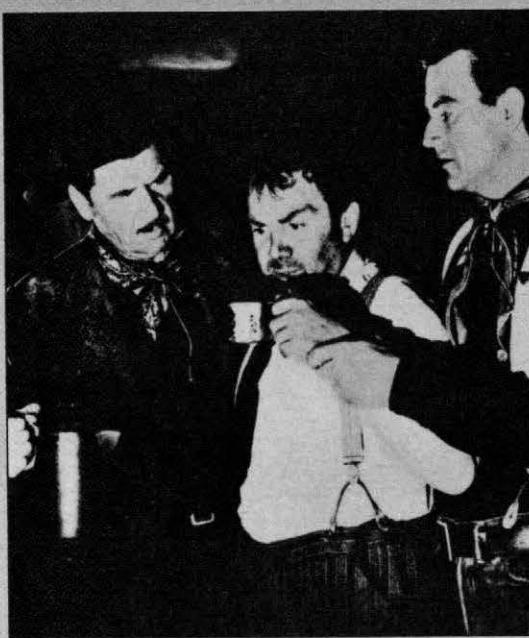
助演男優賞 トマス・ミッケル(「駅馬車」)

助演女優賞 ハッティ・マクダニエル(「風と共に去りぬ」)

監督賞 ヴィクトー・フレミング(「風と共に去りぬ」)

「作品賞候補」『愛の勝利』『チップス先生さようなら』『選ばれ』『スミス都へ行く』(脚本賞)『二ノチカ』『甘日鼠と人間』『駅馬車』(音楽賞)

『オズの魔法使』(音楽賞)『嵐ヶ丘』



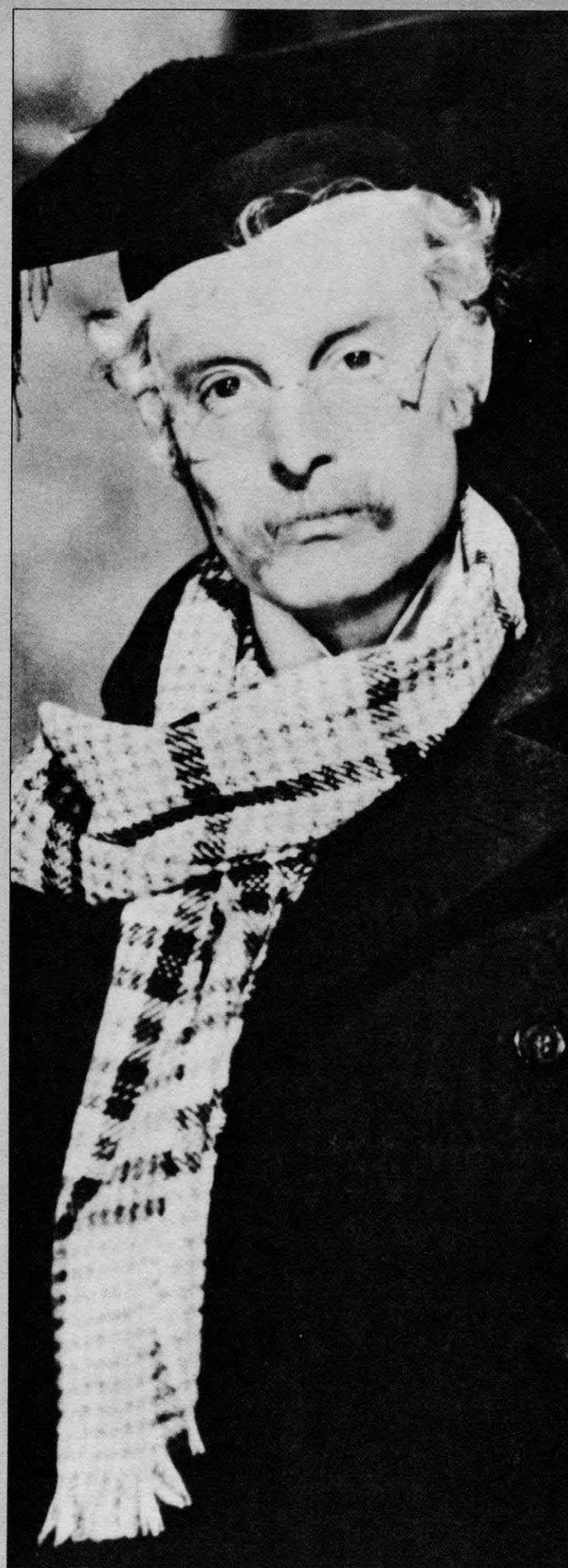
J・フォード監督『駅馬車』でトマス・ミッケル(中央)は飲んだくれの医師を演じて助演賞を贈られた
右端はジョン・ウェインのリンゴ・キッド
左はリンゴを追う役人のジョージ・パンクロフト



大作『風と共に去りぬ』で主演女優賞を贈られた
ヴィヴィアン・リー パトナー役のクラーク・ゲーブルと



『風と共に去りぬ』の一場面 右端が助演女優賞のハッティ・マクダニエル 左端のトマス・ミッケルは『駅馬車』で助演男優賞を受けた



S・ウッド監督『チップス先生さようなら』に主演してオスカーを得たロバート・ドーナット

一九三九年(昭和十四年)のハリウッドはトーキー時代に入つて十一年目、この十年間に無声映画の約束事、形式を頑強に固執したのはチャップリンただひとりだった。その『モダン・タイムス』(一九三六年)で実ははじめて歌い、トーキーへの関心を示し、次の『チャップリンの独裁者』(一九四〇年)では六分にわたる大演説をぶつたのだった。

一九三三年から一九四三年までの十一年間は作品賞候補は毎年十本ずつ選ぶことになっていたが、一九三九年から太平洋戦争の始まった一九四一年までの三年間の候補作品をみると、映画がトーキー初期に目立った舞台裏から完全に脱皮し、技術的にも作品の内容も充実した作品が出揃つた時代だったことを改めて痛感せられる。

一九三九年に十の部門でアカデミー賞をとつた『風と共に去りぬ』は大衆娯楽映画の歴史的傑作であるとともに、ハリウッドの人力、資力の強大さをこんにち見ても改めて感じさせられるこの時代の象徴的な傑作といえよう。同じ年にアカデミー作品賞を逸した候補作品にはフォードの『駅馬車』、ヴィクトー・ラの『嵐ヶ丘』、キャップラの『スミス都へ行く』をはじめ、『チップス先生さようなら』『二ノチカ』『甘日鼠と人間』『駅馬車』(音楽賞)『オズの魔法使』(音楽賞)『我等の町』『恋愛手帖』など、こんにち名作とされている作品が多く含まれている。

『風と共に去りぬ』は大衆娯楽映画の歴史的傑作であるとともに、ハリウッドの人力、資力の強大さをこんにち見ても改めて感じさせられるこの時代の象徴的な傑作といえよう。同じ年にアカデミー作品賞を逸した候補作品にはフォードの『駅馬車』、ヴィクトー・ラの『嵐ヶ丘』、キャップラの『スミス都へ行く』をはじめ、『チップス先生さようなら』『二ノチカ』『甘日鼠と人間』『愛の勝利』など、こんにち名作とされている作品が多く含まれている。

続く一九四年がまたすごい。受賞作はフォードの『わが谷は緑なりき』だったが、それを上回る名作オースン・ウエルズの『市民ケーン』をはじめ、ヒッチコックの『断崖』、ヴィクトー・ラの『偽りの花園』、ジョン・ヒューストンの出世作『マルタの鷺』ほか『塵に咲く花』『ヨーク軍曹』『わが道は遠けれど』『幽霊紐育歩く』『暁を戻せ』が候補作品にあがつている。これは、ハリウッドが無声からトーキー製作に踏み切つた一九二九年秋にウォール街を突然襲つた経済恐慌が尾を引いた、五年余にわたる不況の時代を、ようやく乗り切つて好況時代を迎えたアメリカの経済力、アメリカ人の精神的な成長、ゆとりの表われともみられるが、この時代の作品は今見ても立派な作品が少なくない。(野口)

1940

第13回

作品賞『レベッカ』(撮影賞)

主演男優賞 ジェームズ・スチュアート(『フィラデルフィア物語』)

主演女優賞 ジンジャー・ロジャーズ(『恋愛手帖』)

助演男優賞 ウォルター・ブレナン(『西部の男』)

助演女優賞 ジエーン・ダーウェル(『怒りの葡萄』)

監督賞 ジョン・フォード(『怒りの葡萄』)

「作品賞候補」『凡て此の世も天国も』(海外特派員)『恋愛手帖』『チャップリンの独裁者』『月光の女』『果てなき船路』『我等の町』『フィラデルフィア物語』(脚本賞)



ダンスで売ってきたジンジャー・ロジャーズが『恋愛手帖』(S・ウッド)で初めてドラマの分野で認められ 主演賞を獲得



『怒りの葡萄』で助演賞を贈られたJ・ダーウェル(左から3人目)



作品賞にノミネートされた『凡て此の世も天国も』(A・リトヴァーク)でのシャルル・ボワイエとベティ・ディヴィスの顔合わせ



G・キューカー監督『フィラデルフィア物語』で主演賞を受けたジェームズ・スチュアート(右はキャサリン・ヘップバーン)



ヒッチcock渡米第1作『レベッカ』は作品賞と撮影賞を 左からローレンス・オリヴィエとジョン・フォンテーン



J・フォードの監督賞作品『怒りの葡萄』に主演したヘンリー・フォンダ



オースン・ウェルズ（右）が監督・主演した『市民ケーン』は脚本賞受賞 シナリオはウェルズとハーマン・マンキーウィッツ



J・ヒューストンの初監督作品『マルタの鷹』（作品賞候補）でハンフリー・ボガートがサム・スペード探偵に



H・ホークス監督の伝記映画『ヨーク軍曹』で主演男優賞を得たゲーリー・クーパー（左）



6つの賞を獲得したフォード監督『わが谷は緑なりき』 ドナルド・クリスピ（左）は老炭坑夫役で助演賞を



ヒッチコック監督『断崖』で夫のケイリー・グラントが自分を殺そうとしていると思うに至った人妻の役でジョーン・フォンテインが主演賞に



『わが谷は緑なりき』 坑夫の娘モーリン・オハラと彼女を愛する牧師のウォルター・ビジョン

作品賞『わが谷は緑なりき』（撮影賞・美術監督賞）
主演男優賞 ゲーリー・クーパー（『ヨーク軍曹』）
主演女優賞 ジョーン・フォンテイン（『断崖』）
助演男優賞 ドナルド・クリスピ（『わが谷は緑なりき』）
助演女優賞 メアリー・アスター（『偉大な嘘』）
監督賞 ジョン・フォード（『わが谷は緑なりき』）
【作品賞候補】『塵に咲く花』（美術監督賞）『市民ケーン』（脚本賞）
『幽霊紳士を歩く』（脚本賞）『偽りの花園』『マルタの鷹』『わが道は遠けれど』『ヨーク軍曹』（編集賞）『断崖』（装置賞）

1942

第15回

作品賞『ミニヴァー夫人』(撮影賞・脚本賞)
 主演男優賞 ジェームズ・キャグニー(ヤンキー・ドウードル・ダンディ)
 助演男優賞 ボール・ルーカス(ラインの監視)
 助演女優賞 ジエニファー・ジョーンズ(聖處女)
 監督賞 ウィリアム・ワイラー(ミニヴァー夫人)
 「作品賞候補」『インヴェーダーズ』(脚本賞)、『嵐の青春』『すばらしきアンバースン家の人々』『バイド・バイバー』『打撃王』『心の旅路』
 「町の話題』『ウェーク島』『ヤンキー・ドウードル・ダンディ』(音賞)



多くのオスカーに輝く『ミニヴァー夫人』(W・ワイラー)で主演女優賞を受けたグリア・ガースン(右)



作品賞にノミネートされた『誰が為に鐘は鳴る』(S・ウッド監督)のゲーリー・クーパーとイングリッド・バーグマン

1943

第16回



作品賞・監督賞そして脚本賞受賞の『カサブランカ』(M・カーティス監督)でのイングリッド・バーグマンとハンフリー・ボガート



ブロードウェイでのヒット作を映画化した『ラインの監視』(H・シュムリン監督)で米反ナチ活動家を演じて主演賞を受けたボール・ルーカス(右)



ルルドの奇蹟を描いた『聖處女』(H・キング監督)で聖女ベルナデットにふんしオスカーを得たジェニファー・ジョーンズ

ジェームズ・キャグニー(左)は
 「ヤンキー・ドウードル・ダンディ」
 (M・カーティス監督)で主演男優賞を





B・ワイルダー監督「失われた週末」はアルコール中毒の恐るべき世界を描きあけて多くのオスカーを獲得した



『失われた週末』でアル中の作家を演じて主演男優賞を受けたレイ・ミランド



音楽賞の『錨を上げて』はG・シドニー監督のミュージカル

『我が道を往く』の続編『聖メリイの鐘』(L・マッケアリー) の
ビング・クロスビーとイングリッド・バーグマン

1945

第18回

作品賞 「失われた週末」(脚本賞)
主演男優賞 レイ・ミランド(『失われた週末』)
主演女優賞 ジョーン・クロフォード(『ミルドレッド・ピアース』)
助演男優賞 ジェームズ・ダン(『ブルックリン横丁』)
助演女優賞 アン・リヴエア(『緑園の天使』)
監督賞 ヒリー・ワイルダー(『失われた週末』)
【作品賞候補】『錨を上げて』(音楽賞)、『聖メリイの鐘』(録音賞)
『ミルドレッド・ピアース』(白い恐怖)(音楽賞)



作品賞・監督賞・脚本賞の『我が道を往く』(L・マッケアリー監督)で主演賞のビング・クロスビー(右)と助演賞のバリー・フィツジェラルド



『我が道を往く』で下町の悪童を合唱やスポーツで善導する副牧師クロスビー



C・オデットが監督した「孤独な心のほか何もない」で助演賞のエセル・バリモア(中央) 左はケイリー・グラント 右はバリー・フィツジェラルド

1944

第17回

作品賞 「我が道を往く」(脚本賞)
主演男優賞 ビング・クロスビー(『我が道を往く』)
主演女優賞 イングリッド・バーグマン(『ガス燈』)
助演男優賞 バリー・フィツジェラルド(『我が道を往く』)
助演女優賞 エセル・バリモア(『孤独な心のほか何もない』)
監督賞 レオ・マッケリー(『我が道を往く』)
【作品賞候補】『深夜の告白』(ガス燈)(美術監督賞)、『君去りし後』(音楽賞)、『ウイルス』(脚本賞、撮影賞、美術監督賞、録音賞、編集賞)

G・キューカー監督のスリラー『ガス燈』で主演賞を受けた
イングリッド・バーグマン 左は珍しく悪役のボワイエ



オスカーを3つ獲得したE・カザン監督「紳士協定」で主演のグレゴリー・ペック（左）



演技にうちこむ余りオセロさながら女を殺し自殺する俳優を演じた『二重生活』(G・キューカー監督)で主演賞のロナルド・コールマン



主題歌賞の『南部の唄』(W・ディズニー)

235

1947

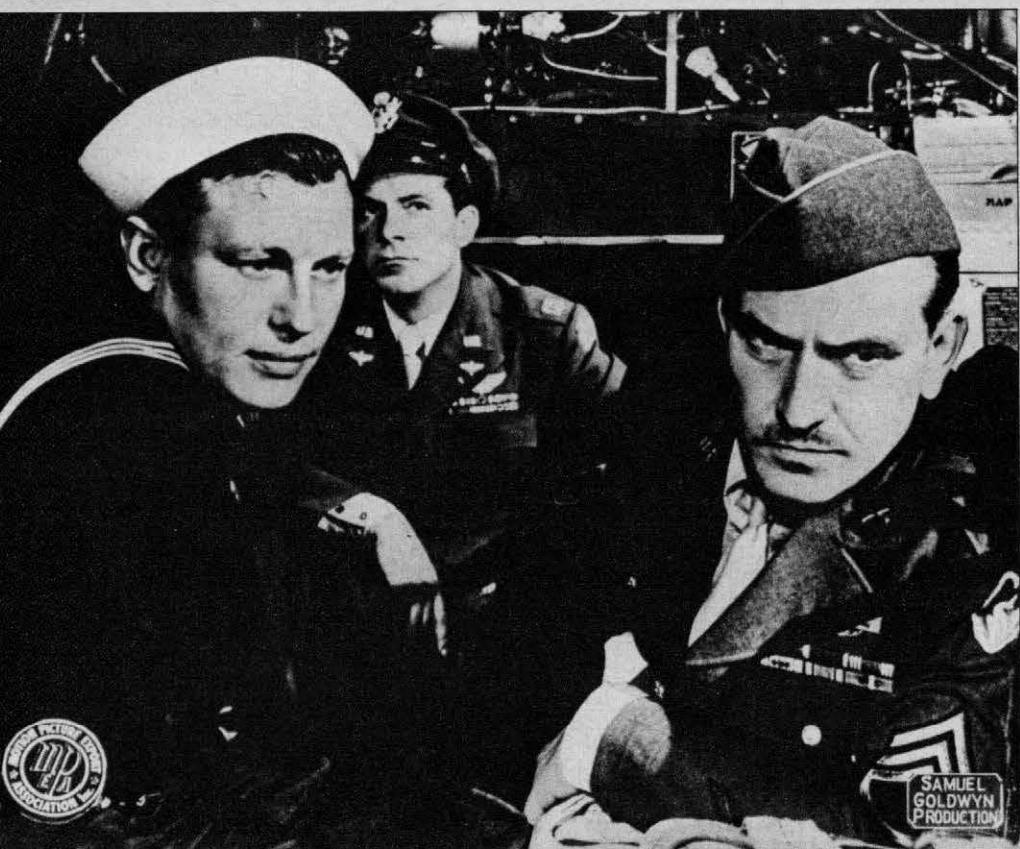
第20回

作品賞 「紳士協定」
主演男優賞 ロナルド・コールマン(『二重生活』)
主演女優賞 ロレッタ・ヤング(『ミネソタの娘』)
助演男優賞 エドマンド・グウェン(『三十四丁目の奇蹟』)
助演女優賞 セレスト・ホーム(『紳士協定』)
監督賞 イリア・カザン(『紳士協定』)
作品賞候補 「気まぐれ天使」(録音賞)、「十字砲火」、「大いなる遺産」(撮影賞・美術監督賞)、「三十四丁目の奇蹟」(脚本賞)

「我等の生涯の最良の年」(脚本賞・編集賞・音楽賞)
主演男優賞 フレドリック・マーチ(『我等の生涯の最良の年』)
主演女優賞 オリヴィア・デ・ハヴィランド(『遙かなる我が子』)
助演男優賞 ハロルド・ラッセル(『我等の生涯の最良の年』)
助演女優賞 アン・バクスター(『刺刀の刃』)
監督賞 ウィリアム・ワイラー(『我等の生涯の最良の年』)
作品賞候補 「ヘンリー五世」(素晴らしき哉！人生)、「刺刀の刃」
「仔鹿物語」(撮影賞・美術監督賞)

「我等の生涯の最良の年」(脚本賞・編集賞・音楽賞)
主演男優賞 フレドリック・マーチ(『我等の生涯の最良の年』)
主演女優賞 オリヴィア・デ・ハヴィランド(『遙かなる我が子』)
助演男優賞 ハロルド・ラッセル(『我等の生涯の最良の年』)
助演女優賞 アン・バクスター(『刺刀の刃』)
監督賞 ウィリアム・ワイラー(『我等の生涯の最良の年』)
作品賞候補 「ヘンリー五世」(素晴らしき哉！人生)、「刺刀の刃」
「仔鹿物語」(撮影賞・美術監督賞)

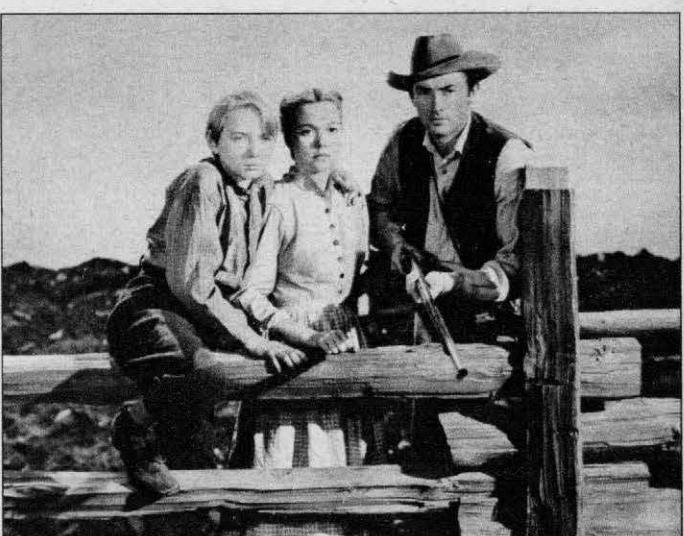
236



作品賞ほか多くのオスカーに輝く『我等の生涯の最良の年』(W・ワイラー)で主演賞のフレドリック・マーチ(右)と助演賞のハロルド・ラッセル(左)



『遙かなる我が子』(M・ライゼン監督)でオリヴィア・デ・ハヴィランドは少女から中年までを演じて主演賞を



C・ブラウンの『仔鹿物語』は撮影賞などを得た 右から農夫グレゴリー・ペック 妻ジェーン・ワイマン 息子クロード・ジャーマンJr



モーム原作の『刺刀の刃』(E・グールディング監督)で助演女優賞のアン・バクスター 左はタイロン・パワー

237

1946

第19回

『ミネソタの娘』(H・C・ボッター監督)で主演女優賞のロレッタ・ヤング
左は恋人の代議士になるジョゼフ・コットン

237

1948

第21回

作品賞 「ハムレット」(美術監督賞・衣装デザイン賞)

主演男優賞 ローレンス・オリヴィエ(「ハムレット」)

主演女優賞 ジーン・ワイマン(「ジョニイ・ベリンダ」)

助演男優賞 ウォルター・ヒューストン(「黄金」)

助演女優賞 クレア・トレヴァー(「キー・ラーゴ」)

監督賞 ジョン・ヒューストン(「黄金」)

「作品賞候補」『ジョニイ・ベリンダ』『赤い靴』(美術監督賞・音楽賞)

『蛇の穴』(録音賞)『黄金』(脚本賞)



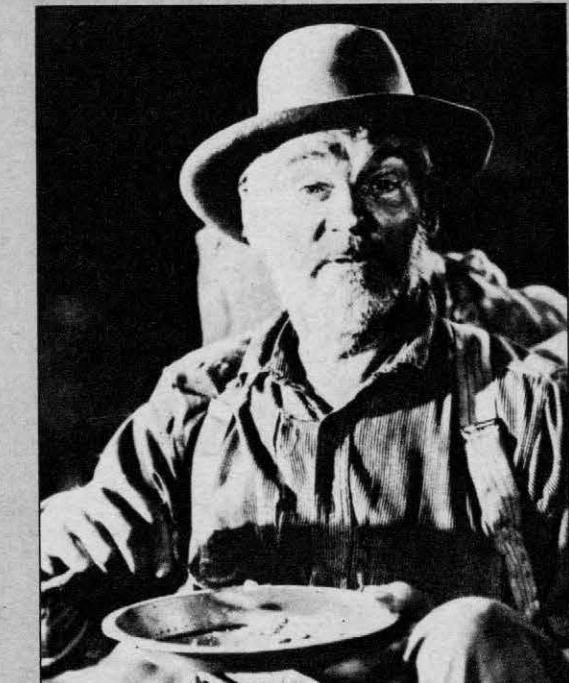
3つのアカデミー賞に輝いたJ・ヒューストン監督の『黄金』(脚本はヒューストン自身とロバート・ロッセン、ハンフリー・ボガート(左)は砂金ゆえに身を滅ぼす)



『ジョニイ・ベリンダ』(J・ネグレスコ監督)で主演女優賞を受けたジーン・ワイマン



美術賞・音楽賞のバレエ映画『赤い靴』(M・パウエル監督) アントン・ウォールブルック(右)と主演したイギリスのバレリーナ モイラ・シアラー



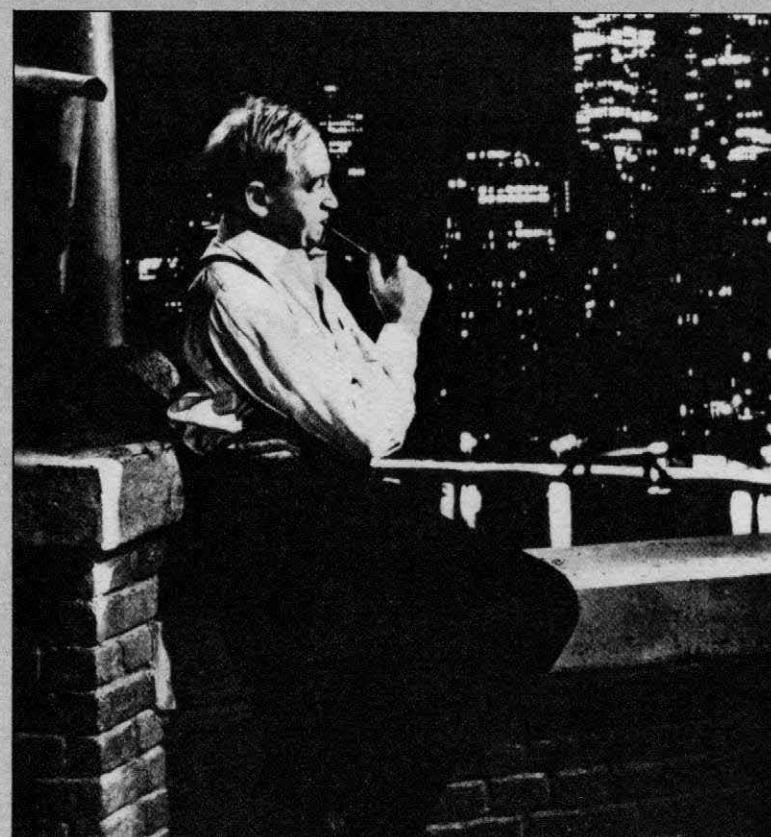
息子の監督賞受賞作『黄金』で助演男優賞を贈られたウォルター・ヒューストン



ヒューストンの『キー・ラーゴ』で助演賞のクレア・トレヴァー(中央) 左はハンフリー・ボガート



『ハムレット』を監督・主演し多くのオスカーを得たローレンス・オリヴィエ



ジュールズ・ダッシュ監督のオール・ロケ作品『裸の町』(撮影賞・編集賞)で主役の老警部を演じたバリー・フィツ杰ラルド

一九四八年(昭和二十三年)は第三次大戦が終わつて三年目、日本が緒戦の大戦果と思い込んでいた真珠湾奇襲はアメリカ人の戦意を駆り立てる効果のほうがはるかに大きかつた。映画製作の資材にも事欠く有様だった日本とは反対に、ハリウッドは、前線の将兵慰問のためのオール・カラーの娯楽映画、ミュージカル映画を量産していた。反ナチ映画や対日戦を扱つた作品も少なくはなかつたが、戦時中の三年間にアカデミー賞をとつた作品が『ミニ・ヴァー夫人』(一九四一年)、『力サブランカ』(一九四三年)、『我が道を往く』(一九四四年)といふ、むしろ地味な心境的な作品なのが注目される。

『ミニ・ヴァー夫人』は戦時下のイギリスの田舎町の微妙な人間関係を描いた作品であり、『力サブランカ』は反ナチ映画というよりもロマンティックな恋愛映画の秀作というべきもの、

『我が道を往く』はおんぼろ教会に赴任した副牧師が持ち前の機智とユーモアで教会をとりまくもめ事や人間関係をうまくまとめてしまうという心温まるヒューマン・ストーリーで、戦争さなかの作品とはおもえない。これらの作品を戦後になつて見せられたわれわれは、こういう作品がアカデミー賞をとつたところにもアメリカ人の心のゆとりを感じさせられたのだった。

それはそれとして、戦争が終わつた年の受賞作『失われた週末』(一九四五年)がまたアル中の話というのもおもしろい。翌年の『我等の生涯の最良の年』は三人の復員兵の生きざまをリアルに描き、間接的に戦争を描いていたが、これはアメリカ映画には珍しい国策映画、国民映画の匂いがしていった。

『ミニ・ヴァー夫人』は戦時下のイギリスの田舎町の微妙な人間関係を描いた作品であり、『力サブランカ』は反ナチ映画といつてもロマンティックな恋愛映画の秀作というべきもの、

『我が道を往く』はおんぼろ教会に赴任した副牧師が持ち前の機智とユーモアで教会をとりまくもめ事や人間関係をうまくまとめてしまうという心温まるヒューマン・ストーリーで、戦争さなかの作品とはおもえない。これらの作品を戦後になつて見せられたわれわれは、こういう作品がアカデミー賞をとつたところにもアメリカ人の心のゆとりを感じさせられたのだった。

それはそれとして、戦争が終わつた年の受賞作『失われた週末』(一九四五年)がまたアル中の話というのもおもしろい。翌年の『我等の生涯の最良の年』は三人の復員兵の生きざまをリアルに描き、間接的に戦争を描いていたが、これはアメリカ映画には珍しい国策映画、国民映画の匂いがしていった。

『ミニ・ヴァー夫人』は戦時下のイギリスの田舎町の微妙な人間関係を描いた作品であり、『力サブランカ』は反ナチ映画といつてもロマンティックな恋愛映画の秀作というべきもの、



2年連続して監督賞を受けたマンキーウィツの『イヴの総て』。左からセレスト・ホルム、ヒュー・マーロー、ベティ・デイヴィス

1950 第23回

作品賞『イヴの総て』(脚本賞・衣裳デザイン賞・録音賞)
主演男優賞 ホセ・ファーラー(『シラノ・ド・ベルジュラック』)
主演女優賞 ジュディ・ホリディ(『きのう誕生』)
助演男優賞 ジョージ・サンダース(『イヴの総て』)
助演女優賞 ジョゼフィン・ハル(『ハーヴェイ』)
監督賞 ジョゼフ・L・マンキーウィツ(『イヴの総て』)
【作品賞候補】
『サンセット大通り』(脚本賞・美術監督賞・音楽賞)
『花嫁の父』(V・ミネリ)、『シラノ・ド・ベルジュラック』(M・ゴードン)、『イヴの総て』(J・L・マンキーウィツ)、『三人の妻への手紙』(J・L・マンキーウィツ)、『頭上の敵機』(H・キング)、『女相続人』(オリヴィア・デ・ハヴィランド)、『戦場』(R・ロッセン)、『花嫁の父』(V・ミネリ)、『シラノ・ド・ベルジュラック』(M・ゴードン)、『三人の妻への手紙』(J・L・マンキーウィツ)、『頭上の敵機』(H・キング)、『女相続人』(オリヴィア・デ・ハヴィランド)



『オール・ザ・キングスメン』(R・ロッセン)で主演賞を受けたプロドリック・クロフォード(右)



B・ワイルダーの名作『サンセット大通り』に主演のグロリア・スワンソン(左)



『イヴの総て』のアン・バクスター(右)とジョージ・サンダース



ディーン・ジャガー(左)はH・キング監督『頭上の敵機』で助演賞を、右はグレゴリー・ペック



W・ワイラー監督『女相続人』で再び主演女優賞を得たオリヴィア・デ・ハヴィランド

1949 第22回

作品賞『オール・ザ・キングスメン』
主演男優賞 プロドリック・クロフォード(『オール・ザ・キングスメン』)
主演女優賞 オリヴィア・デ・ハヴィランド(『女相続人』)
助演男優賞 デイーン・ジャガー(『頭上の敵機』)
助演女優賞 マーセデス・マッケンブリッジ(『オール・ザ・キングスメン』)
監督賞 ジョゼフ・L・マンキーウィツ(『女相続人』)
【作品賞候補】
『戦場』(脚本賞・撮影賞)、『女相続人』(美術監督賞・衣裳デザイン賞・音楽賞)、『三人の妻への手紙』(脚本賞・頭上の敵機)(録音賞)

1951

第24回



J・ヒューストン監督『アフリカの女王』で主演男優賞を贈られたハンフリー・ボガート キャサリン・ヘップバーンと



イリア・カザン監督『欲望という名の電車』で助演女優賞を受けたキム・ハンター（左）マーロン・ブランド（中央）の妻でヴィヴィアン・リー（右）の妹を演じた



監督賞『陽のあたる場所』（G・スティーヴンズ）のエリザベス・テラーとモンゴメリー・クリフト



外国映画賞を得た『羅生門』（黒沢明）の三船敏郎と加東大介



多くのオスカーをかちえた『巴里のアメリカ人』（V・ミネリ）のバリ娘レスリー・キャロンとアメリカ人ジーン・ケリー

『巴里のアメリカ人』の舞踊シーン ご存知ガーシュインの音楽に
ジーン・ケリー振付け 中央はジョルジュ・ゲタリー

作品賞『巴里のアメリカ人』(脚本賞・撮影賞・美術監督賞・衣裳デザイン賞・音楽賞)
主演男優賞 ハンフリー・ボガート(『アフリカの女王』)
主演女優賞 ヴィヴィアン・リー(『欲望という名の電車』)
助演男優賞 カール・マルデン(『欲望という名の電車』)
助演女優賞 キム・ハンター(『欲望という名の電車』)
監督賞 ジョージ・スティーヴンズ(『陽のあたる場所』)
「作品賞候補」『暁前の決断』『陽のあたる場所』(脚本賞・撮影賞・衣裳デザイン賞・編集賞・音楽賞)
『電車』(美術監督賞)『クオ・ヴァディス』(欲望という名の電車)
『ロ生門』(日) 外国映画賞

1952

第25回

作品賞

『地上最大のショウ』(脚本賞)

主演男優賞

ゲーリー・クーパー(『真昼の決闘』)

主演女優賞

シャーリー・ブース(『愛しのシバよ帰れ』)

助演男優賞

アンソニー・クイン(『革命児サバタ』)

助演女優賞

グロリア・グレアム(『悪人と美女』)

監督賞

ジョン・フォード(『静かなる男』)

「作品賞候補」

『真昼の決闘』(編集賞・音楽賞)『黒騎士』『赤い風車』(美術監督賞・衣装デザイン賞)

『愛しのシバよ帰れ』(『静かなる男』撮影賞)

『外国映画賞』『禁じられた遊び』(仏)



C・B・デミル監督のサーカス映画『地上最大のショウ』の団長チャールトン・ヘストンと一座の花形ベティ・ハットン



F・シンネマン監督『真昼の決闘』(再公開のタイトルは『ハイ・ヌーン』)で主演賞のゲーリー・クーパー



『革命児サバタ』(E・カザン)でサバタ(マーラン・ブランド)の兄を演じたアンソニー・クイン(左)は助演賞を受けた



『愛しのシバよ帰れ』(ダニエル・マン)で主演女優賞のシャーリー・ブース(左から2番目)。左はパート・ランカスター。右端はテリー・ムーア

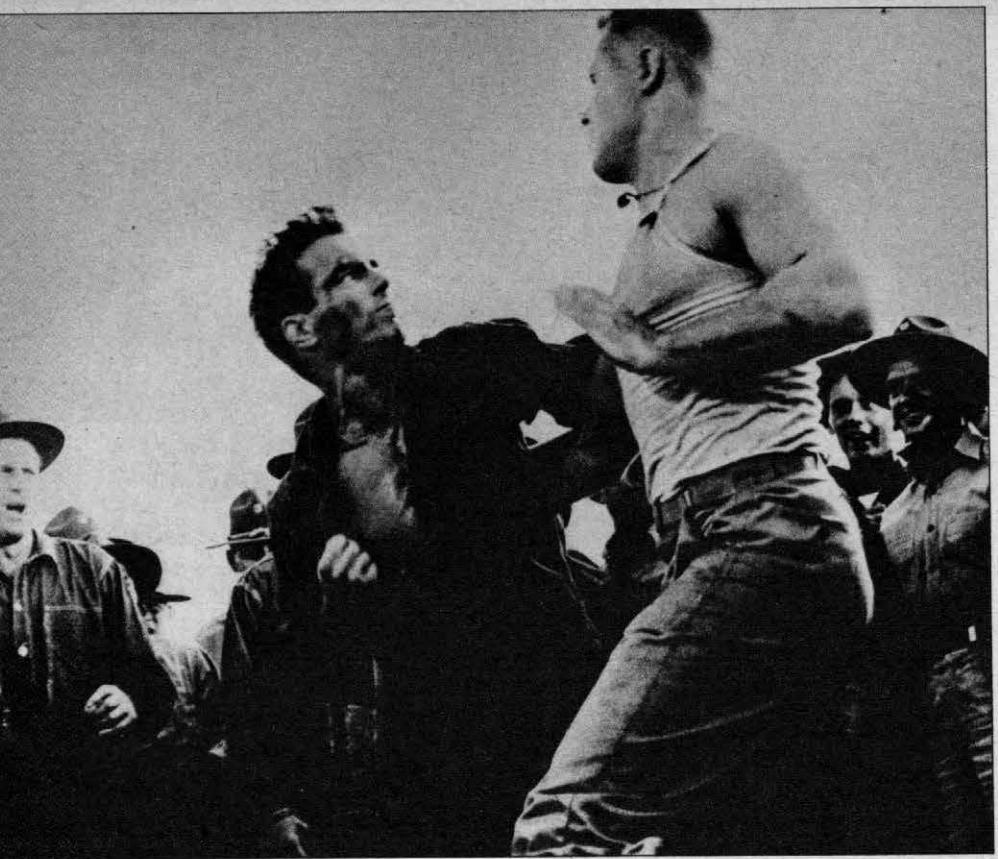


『禁じられた遊び』(R・クレマン)のプリジット・フォッセー

1953

第26回

作品賞 『地上より永遠に』(脚本賞・撮影賞・録音賞・編集賞)
 主演男優賞 ウィリアム・ホールデン(『第十七捕虜収容所』)
 主演女優賞 オードリー・ヘップバーン(『ローマの休日』)
 助演男優賞 フランク・シナトラ(『地上より永遠に』)
 助演女優賞 ドナ・リード(『地上より永遠に』)
 監督賞 フレッド・ジンネマン(『地上より永遠に』)
 [作品賞候補] ジュリアス・シーザー(『美術監督賞』)「聖衣」(美術監督賞・衣裳デザイン賞)
 [作品賞候補] ローマの休日(『脚本賞・衣裳デザイン賞』)
 外国映画賞 『地獄門』(日)



軍隊の内幕を描いたF・ジンネマン監督『地上より永遠に』でのモンゴメリー・クリフト(中央)の格闘シーン

『ローマの休日』(W・ワイラー)
のオードリーとG・ベック

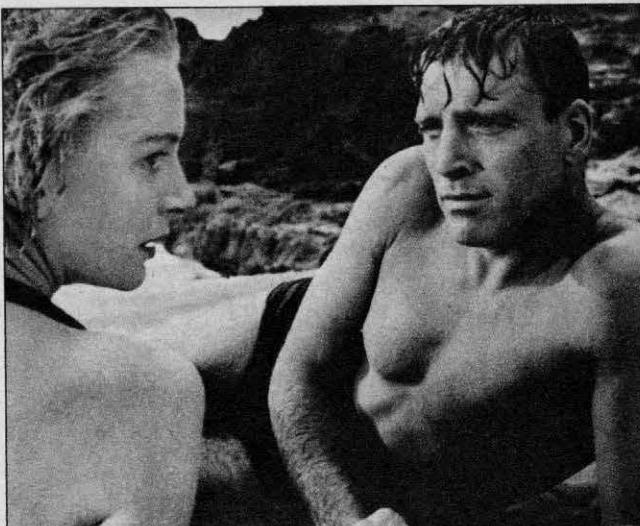
『シェーン』(G・スティーヴンズ)のアラン・ラッドとブランドン・デ・ヴィルデ



『地上より永遠に』で助演賞を獲得したフランク・シナトラ(右)



B・ワイルダー監督『第十七捕虜収容所』で主演賞を受けたウィリアム・ホールデン(中央)



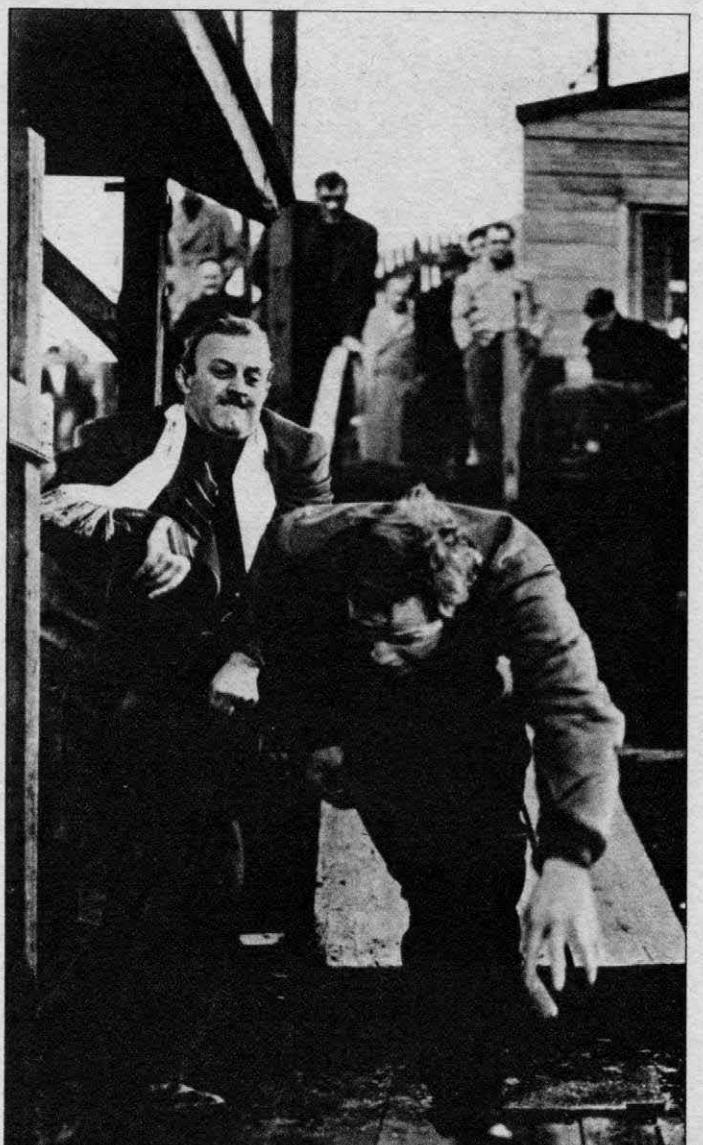
『地上より永遠に』で隊長の妻デボラ・カーとできているパート・ランカスター

1954

第27回

ボスが牛耳る沖仲士の世界をあばいた『波止場』(E・カザン)でマーロン・ブランド(中央)の恋人役を演じ
助演女優賞を受けたエヴァ・マリー・セイント

『喝采』(G・シートン)で歌手ビング・クロスビー(左)を立ち直らせる妻を演じてグレース・ケリーが主演賞を

J・L・マンキーウィツ監督『裸足の伯爵夫人』で助演男優賞
のエドモンド・オブライエン 右は主役のエヴァ・ガードナー

『波止場』のボスのリー・J・コップ(左)とブランドの格闘場面

1955

第28回

作品賞『マーティ』(脚本賞)

主演男優賞 アーネスト・ボーグナイン(『マーティ』)

主演女優賞 アンナ・マニヤー(『バラの刺青』)

助演男優賞 ジャック・レモン(『ミスター・ロバーツ』)

助演女優賞 ジョー・ヴァン・フリート(『エデンの東』)

監督賞 デルバート・マン(『マーティ』)

「作品賞候補」『慕情』(衣装デザイン賞・音楽賞)『ミスター・ロバーツ』『ビクニックス』(美術監督賞・編集賞)『バラの刺青』(撮影賞・美術監督賞)

外国映画賞『宮本武蔵』(日)



『エデンの東』(E・カザン)でジェームズ・ディーン(右)の母親役で助演賞を贈られたジョー・ヴァン・フリート

デルバート・マン監督第1作『マーティ』で主演男優賞のアーネスト・ボーグナイン
右は母親役のエスター・ミンチオッティ『ミスター・ロバーツ』(J・フォード/M・ルロイ)で助演賞を受けた
ジャック・レモン 下はウィリアム・パウエル『バラの刺青』(ダニエル・マン)でイタリアのアンナ・
マニヤーが主演女優賞に 右はパート・ランカスター

一九五〇年代のアメリカ映画、ハリウッドの状況を今かえりみると、三〇年代後半の霸氣、四〇年代のあわただしい戦時、戦後の作品にみられたヒューマニズムが希薄な気がしてならない。戦後の戦勝気分、インフレ・ムードのなかで、四〇年代の末近く、戦争のために棚上げになっていたテレビの実用化時代が到来、映画産業にとって由々しい問題を投げかけたのだった。テレビそのものもはじめは珍しかったが、スリーズ番組、旧作映画の放映は、映画館で映画を見るのに駐車場さがしや高い駐車料金を払わなければならなかつたアメリカの都会で、茶の間に娯楽物やスポーツ鑑賞ができるテレビは映画にとって大きな脅威となつた。ふつうの映画ではもうお客様を呼べない……といふので、一九五一年には『シネマ』が登場、五年には『シネマスコ

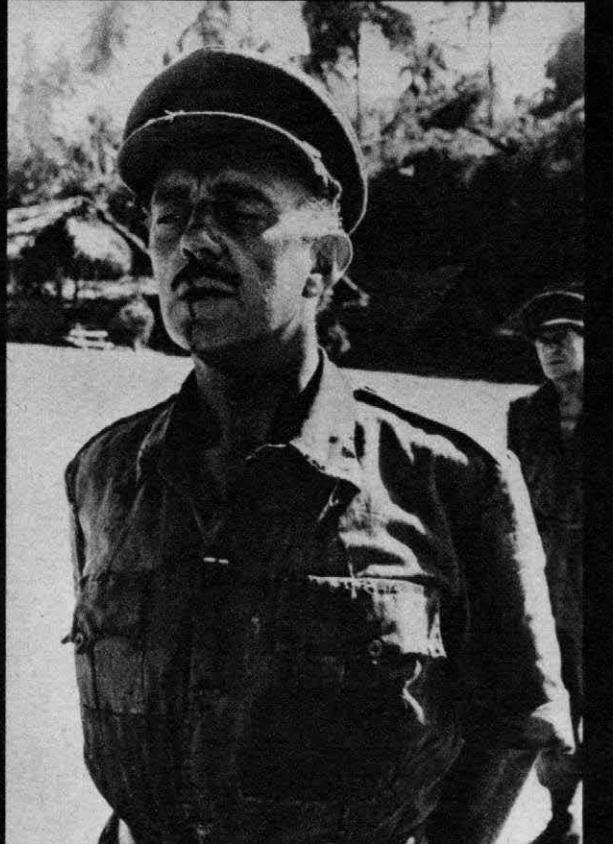
プ』(シネスコ)方式のワイド映画がつくられ、さらには『ヴィスタビジョン』、『70ミリ』超ワイド映画などが次々に登場したのも、すべてテレビ攻勢に対する巻きかえし作戦のあらわれだつた。しかし、ワイド・スクリーン映画をはじめて見た時には驚嘆の声をあげたファンも、二度三度と見て行くうちにその大きさに馴れて驚かなくなつた。それでもワイド・スクリーンを効果的に生かせとはかり、スペクタクル映画がさんざんを作られたのもこの五〇年代のことである。もちろんカラーフィルムを映画館で見始めた。その手この手で、映画ファンを映画館へ釘つけにしようとした時代でもあつたが、五〇年代の受賞作品に『地上より永遠に』(一九五三年)、『波止場』(一九五四年)、『マーティ』(一九五五年)、『戦場にかける橋』(一九五七年)の四作品は質的にも上々として、『巴里のアメ

リカ人』(一九五一年)、『地上最大のショウ』(一九五一年)、『八十日間世界一周』(一九五六六年)、『ベン・ハー』(一九五九年)の受賞はこれらの年の作品の貧困をあきらかに物語っている。しかしむしろ受賞を逃した作品のなかに『陽のあたる場所』(一九五一)、『欲望という名の電車』(一九五一)、『真昼の決闘』(一九五二年)、『シェーン』(一九五三年)、『ミスター・ロバーツ』(一九五五年)、『ビクニックス』(一九五五年)、『十二人の怒れる男』(一九五七年)など質的に高い作品があつた。先音響はステレオと、あの手この手で、映画ファンを映画館に釘つけにしようとした時代でもあつたが、五〇年代の受賞作品に『地上より永遠に』(一九五三年)、『波止場』(一九五四年)、『マーティ』(一九五五年)、『戦場にかける橋』(一九五七年)の四作品は質的にも上々として、『巴里のアメ

リカ人』(一九五一年)、『地上最大のショウ』(一九五一年)、『八十日間世界一周』(一九五六六年)、『ベン・ハー』(一九五九年)の受賞はこれらの年の作品の貧困をあきらかに物語っている。しかしむしろ受賞を逃した作品のなかに『陽のあたる場所』(一九五一)、『欲望という名の電車』(一九五一)、『真昼の決闘』(一九五二年)、『シェーン』(一九五三年)、『ミスター・ロバーツ』(一九五五年)、『ビクニックス』(一九五五年)、『十二人の怒れる男』(一九五七年)など質的に高い作品があつた。先音響はステレオと、あの手この手で、映画ファンを映画館に釘つけにしようとした時代でもあつたが、五〇年代の受賞作品に『地上より永遠に』(一九五三年)、『波止場』(一九五四年)、『マーティ』(一九五五年)、『戦場にかける橋』(一九五七年)の四作品は質的にも上々として、『巴里のアメ



「イヴの三つの顔」(N・ジョンソン)
で主演賞のジョアン・ウッドウォード



多くのオスカーを獲得した『戦場にかける橋』(D・リーン)で
主演賞のアレック・ギネス

1957

第30回

作品賞 『戦場にかける橋』(脚本賞・撮影賞・編集賞・音楽賞)
 主演男優賞 アレック・ギネス(『戦場にかける橋』)
 主演女優賞 ジョアン・ウッドウォード(『イヴの三つの顔』)
 助演男優賞 レッド・バトンズ(『サヨナラ』)
 助演女優賞 ナンシー・梅木(『サヨナラ』)
 監督賞 ディヴィッド・リーン(『戦場にかける橋』)
 「作品賞候補」 「青春物語」『サヨナラ』(美術監督賞・録音賞)
 「人への怒れる男」『情婦』
 外国映画賞 『カビリアの夜』(伊)



『戦場にかける橋』のワン・シーン 中央は早川雪州



J・ウェルヌ原作『八十日間世界一周』(M・アンダースン)はトッドAOシステムによる大型画面の娯楽作品



監督賞受賞作『ジャイアンツ』(G・スティーヴンズ)の
ジェームズ・ディーンとマーセデス・マッケンブリッジ



『追憶』(A・リトヴァク)で再度オスカーを得たイングリッド・バーグマンとユル・プリンナー



『八十日間世界一周』の一場面 左からシャーリー・マクレーン ディヴィッド・ニーウィン カンティンフラス



ミュージカル『王様と私』(W・ラング)で主演賞受賞のユル・プリンナー
右はデボラ・カー

1956

第29回

作品賞 『八十日間世界一周』(脚本賞・撮影賞・編集賞・音楽賞)
 主演男優賞 ユル・プリンナー(『王様と私』)
 主演女優賞 イングリッド・バーグマン(『追憶』)
 助演男優賞 アンソニー・クイン(『炎の人ゴッホ』)
 助演女優賞 ドロシー・マローン(『風と共に散る』)
 監督賞 ジョージ・スティーヴンズ(『ジャイアンツ』)
 「作品賞候補」 「友情ある説得」『ジャイアンツ』『王様と私』(美術監督賞・衣裳デザイン賞・録音賞・音楽賞)
 外国映画賞 『道』(伊)

（日本語訳）

1958

第31回

作品賞『恋の手ほどき』(脚本賞・撮影賞・美術監督賞・衣裳デザイン賞・編集賞・音楽賞)

主演男優賞 デイヴィッド・ニーヴン(『旅路』)
主演女優賞 スーザン・ヘイワード(『私は死にたくない』)
助演男優賞 バール・アイヴズ(『大いなる西部』)
助演女優賞 ウエンディ・ヒラー(『旅路』)

監督賞 ヴィンセント・ミネリ(『恋の手ほどき』)
「作品賞候補」『メイム叔母さん』『熱いトタン屋根の猫』『手錠のままの脱獄』(脚本賞・撮影賞)『旅路』

外国映画賞 『ぼくの伯父さん』(仏)



『旅路』(デルバート・マン)で助演女優賞を受けたウェンディ・ヒラー
右はパート・ランカスター



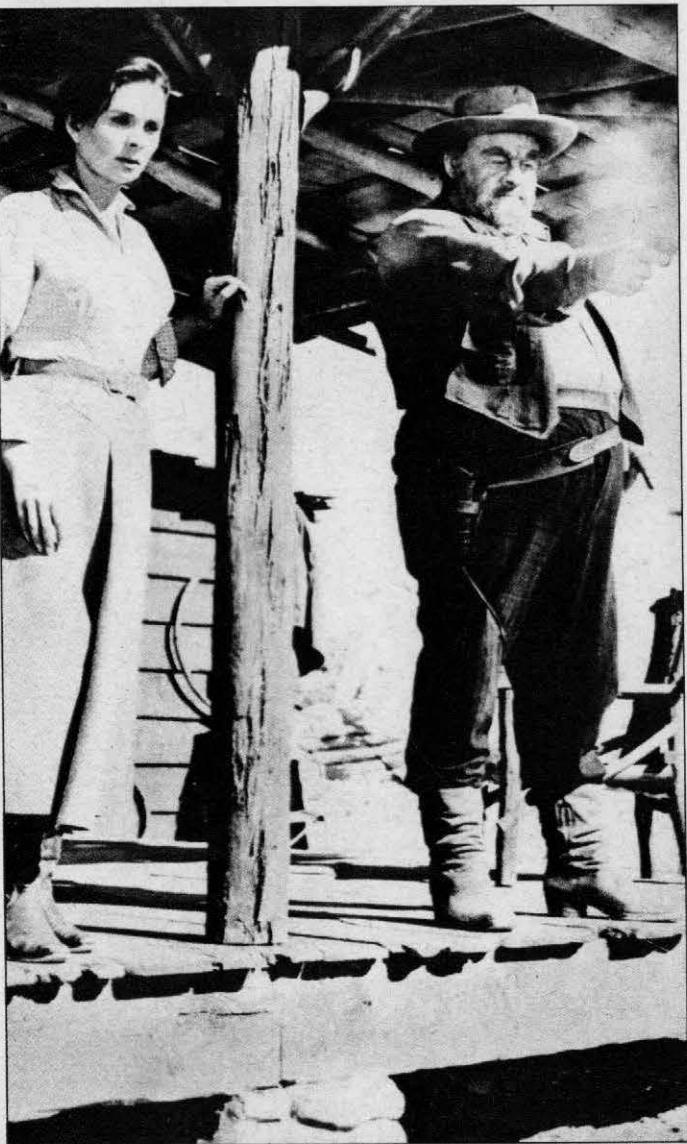
『私は死にたくない』(R・ワイズ)で無罪を叫ぶ死刑囚を演じたスザン・ヘイワードが主演女優賞に



ミュージカル映画『恋の手ほどき』(V・ミネリ)で歌うモーリス・シュヴァリエ
とハーミオン・シンゴルド



『旅路』で主演賞のデイヴィッド・ニーヴン 左はデボラ・カー



『大いなる西部』(W・ワイラー)で助演男優賞のバール・アイヴズ
左はジーン・シモンズ



『恋の手ほどき』 左からルイ・ジュールダン
レスリー・キャロン モーリス・シュヴァリエ

1959

第32回



イギリス映画『年上の女』(J・クレイトン)で主演女優賞を贈られたジモーヌ・シニョレ 左はローレンス・ハーヴェイ



『アンネの日記』でアンネを演じたミリー・パーキンスと恋人役リチャード・ベイマー



衣裳賞を受けた『お熱いのが好き』(B・ワイルダー)のジャック・レモン(左)とマリリン・モンロー



『アンネの日記』(G・スティーヴンズ)でシェリー・ウィンターズ(右)は助演賞を



主題歌賞を獲得したF・キャブラ『波も涙も暖かい』のフランク・シナトラ(左)



W・ワイラー監督のスペクタル『ベン・ハー』は多数のオスカーを獲得した



『ベン・ハー』で主演賞を受けたチャールトン・ヘ斯顿

作品賞 ベン・ハー (撮影賞・美術監督賞・衣裳デザイン賞・サウンド賞・編集賞・特撮効果賞・音楽賞)
主演男優賞 チャールトン・ヘ斯顿 (『ベン・ハー』)
主演女優賞 ジモーヌ・シニョレ (『年上の女』)
助演男優賞 ヒュー・グリフィス (『ベン・ハー』)
助演女優賞 シエリー・ウインターズ (『アンネの日記』)
監督賞 ウィリアム・ワイラー (『ベン・ハー』)
「作品賞候補」『或る殺人』『アンネの日記』(撮影賞・美術監督賞)
『尼僧物語』『年上の女』(脚本賞)
外国映画賞 『黒いオルフェ』(仏)

1960

第33回

作品賞『アパートの鍵貸します』(脚本賞・美術監督賞・編集賞)

主演男優賞 パート・ランカスター(『エルマー・ガントリー』)

助演男優賞 エリザベス・ティラー(『バターフィールド8』)

助演女優賞 ピータード・ユースティノフ(『スバルタカス』)

エリザベス・ティラー(『バターフィールド8』)

監督賞 ビリー・ワイルダー(『アパートの鍵貸します』)

「作品賞候補」『アラモ』(サウンド賞)『アパートの鍵貸します』

本賞)『息子と恋人』(撮影賞)『サンダウナーズ』

外国映画賞『処女の泉』(スウェーデン)



ビリー・ワイルダーの『アパートの鍵貸します』のジャック・レモン



『エルマー・ガントリー』(R・ブルックス)の売春婦役で助演賞を受けたシャーリー・ジョーンズ(右)



『エルマー・ガントリー』(R・ブルックス)の売春婦役で助演賞を受けたシャーリー・ジョーンズ(右)



主題歌賞を受けた『日曜はダメよ』(J・ダッシュ)の陽気な娼婦メリナ・メルクリー



16mm版劇映画のご案内

日本の映画はもとより外国の映画もたくさん集めて、皆様方のご利用をおまちしております。映画鑑賞会のご計画がたちましたらご相談ください。

●当社在庫リスト御請求ください。

●旅愁

TEL 名古屋
052-221-1691代
TEL 一宮
0586-77-2655代

CKフィルム・ライブリー

中部日本教映 株式会社

-本社 名古屋市中区栄1の2 東宝ビル4F 一宮分室 一宮市若竹1丁目5号

『バターフィールド8』(ダニエル・マン)でコールガールを演じて主演女優賞を受けたリズ

254

作品賞 「ウエスト・サイド物語」(撮影賞・美術監督賞・衣裳デザイン賞)

主演女優賞 マクシミリアン・シェル(「ニュールンベルグ裁判」)

主演男優賞 ソフィア・ローレン(「ふたりの女」)

助演男優賞 ジョージ・チャキリス(「ウエスト・サイド物語」)

助演女優賞 リタ・モレノ(「ウエスト・サイド物語」)

監督賞 ロバート・ワイズ、ジェローム・ロビンズ(「ウエスト・サイド物語」)

「作品賞候補」 「ファニー」「ナバロンの要塞」(特撮効果賞)「ハスラー」(撮影賞・美術監督賞)「ニュールンベルグ裁判」(脚本賞)

外国映画賞 「鏡の中にある如く」(スウェーデン)



S・クレイマー監督の大作『ニュールンベルグ裁判』



ミュージカル『ウエスト・サイド物語』で助演女優賞のリタ・モレノ(中央)



V・デ・シカ監督『ふたりの女』でソフィア・ローレンが主演賞に



『ナバロンの要塞』(J・L・トンプソン)のアンソニー・クイン(手前)とグレゴリー・ペック(後ろ)



『ウエスト・サイド物語』助演男優賞のジョージ・チャキリス(中央)

一九六〇年代に入るとハリウッドは往年の映画王国ハリウッドとは様相が変わってきた。映画会社という大資本をバックにした企業体が華やかなスターをつくり、専属としてかかえ、特約映画館の上映スケジュールに合わせて映画を定期刊行物か、美しく包装された食料品のように送り込むというシステムは通用しなくなってきた。才能のあるプロデューサーや監督、映画制作に意欲的な、資力をもつ一流のスターが、作りたい映画を作る時代に入ったのである。といってもアメリカのことだから、作りたい映画とはいえ興行者がソッポを向くような独りよがりの作品を作ろうなどという物好きはない。

松った入场料に値するのしさか、恐怖かスリルか、驚きを与える新鮮な映画でなければならないことは誰だつて百も承知である。

一九六〇年代の目立つた作品傾向は、70ミリ方式による大作

と素材やテーマの新しさ、カラー・フィルムの革命的な感光度の向上、倍率の高いズーム・レンズの完成などによる撮影時の好条件によって従来のセット撮影中心主義から屋外シーンのロケーション撮影と併行して屋内撮影も実物の屋内で行なうようになり、技術、表現の面で映画が新しい視野を拓いてきたことも注目しなければならない。

一九六〇年代の新しい作品傾向のなかで特に目立つのは、質の高い大作ミュージカル映画が数こそ少ないが六〇年代を通じてアカデミー作品賞を毎年のようにさらっていることである。

すなわち、六一年の『ウエスト・サイド物語』、六四年の

『マイ・フェア・リディ』、六五年の『サウンド・オブ・ミュージック』、六八年の『オリバー!』がそれであり、才

スラーを逸した候補作にも『ミュージック・マン』(一九六二)

年)、『メリーポピンズ』(一九六四年)、『ドリトル先生の不思議な旅』(一九六七年)、『ファニー・ガール』(一九六八年)、『ハロー・ドーリー!』(一九六九年)などがあつた。またすぐれた劇映画の大作としてはディヴィッド・リーンの『アラビアのロレンス』(一九六一年)、『ドクトル・ジバゴ』(一九六五年)の二作にとどめを刺すが、失敗作・悪作の声もある『クレオパトラ』(一九六三年)、それにシネラマ方式による最初の劇映画といふれ込みの『西部開拓史』(一九六二年)までが興行界で幅を利かせた。

しかし中級・小粒の作品に『卒業』(一九六七年)、『明日に向って撃て!』(一九六九年)、『その男ゾルバ』(一九六四年)、『アルフィー』(一九六六年)、『俺たちに明日はない』(一九六七年)、『冬のライオン』(一九六八年)など記憶すべき作品が少なくなかった。(野口)

1962 第35回

作品賞 アラビアのロレンス（撮影賞・美術監督賞・サウンド賞・編集賞・音楽賞）
主演男優賞 グレゴリー・ペック（アラバマ物語）
主演女優賞 アン・バンクロフト（奇跡の人）
助演男優賞 エド・ベグリー（渴いた太陽）
助演女優賞 パティ・デューク（奇跡の人）
監督賞 デイヴィッド・リーン（アラビアのロレンス）
「作品賞候補」 史上最大の作戦（撮影賞・特撮賞） ミュージック
マン（音楽賞） 戦艦バウンティ（アラバマ物語）（脚本賞・美術監督賞）
外国映画賞 シベールの日曜日（仏）



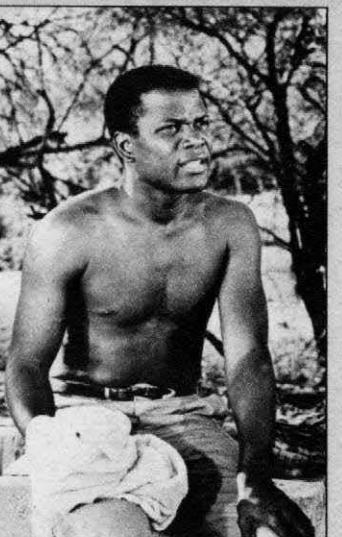
デイヴィッド・リーン監督が英雄ロレンス（ピーター・オトゥール）の波乱の半生を雄大に描いた『アラビアのロレンス』



イギリスの新しい才能を示した『トム・ジョーンズの華麗な冒険』（T・リチャードソン監督）



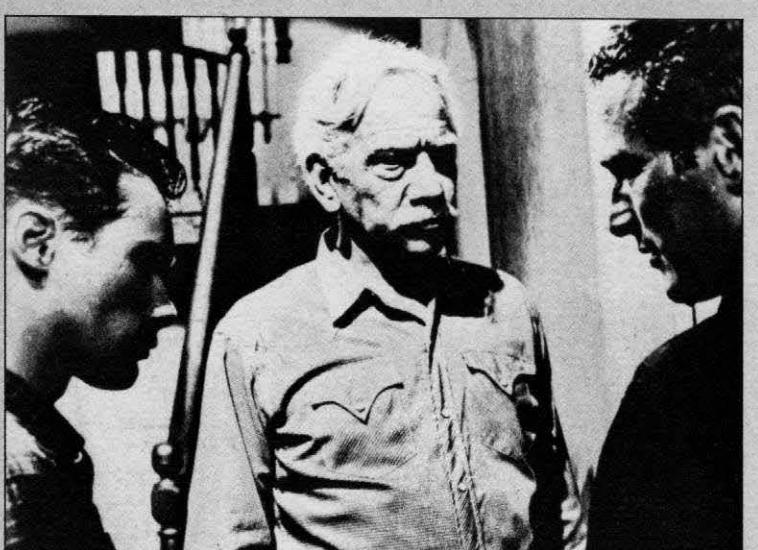
『予期せぬ出来事』のM・ルサフォード



『野のユリ』のシドニー・ボワチエ



『ハッド』（M・リット監督）のパトリシア・ニール



テキサスを舞台にした『ハッド』 中央がメルヴィン・ダグラス

1963 第36回

作品賞 『トム・ジョーンズの華麗な冒険』（脚本賞・音楽賞）
主演男優賞 シドニー・ボワチエ（『野のユリ』）
主演女優賞 パトリシア・ニール（『ハッド』）
助演男優賞 メルヴィン・ダグラス（『ハッド』）
助演女優賞 マーガレット・ルサフォード（『予期せぬ出来事』）
監督賞 トニー・リチャードソン（『トム・ジョーンズの華麗な冒険』）
「作品賞候補」 アメリカ・アメリカ（美術監督賞） クレオバトラ（撮影賞・美術監督賞・衣装デザイン賞・特撮効果賞）
（脚本賞・サウンド賞・編集賞） 野のユリ（脚本賞・サウンド賞・編集賞）
『西部開拓史』（伊）



各国のスターが熱演したスペクタクル戦争映画『史上最大の作戦』は往時の激戦を迫力をもって再現していた



『奇跡の人』のアン・バンクロフト（右）とパティ・デュークの熱演



『アラバマ物語』で弁護士を演ずるグレゴリー・ペック



1964

第37回

作品賞『マイ・フェア・レディ』(撮影賞・美術監督賞・音楽賞・サウンド賞)

主演男優賞 レックス・ハリスン(『マイ・フェア・レディ』)

主演女優賞 ジュリー・アンドリュース(『メリーゴーリング』)

助演男優賞 ピーター・ユスティノフ(『トブカビ』)

助演女優賞 リラ・ケドローヴァ(『その男ゾルバ』)

監督賞 ショージ・キューカー(『マイ・フェア・レディ』)

「作品賞候補」『ベケット』(脚本賞)『博士の異常な愛情』(メリーゴーリング)

『ボビンズ』(編集賞・音楽賞)『その男ゾルバ』(撮影賞・美術監督賞)

外国映画賞『昨日・今日・明日』(伊)



ヒット・ミュージカルを映画化した『マイ・フェア・レディ』(G・キューカー監督) 踊っているのが
レックス・ハリスンとオードリー・ヘップバーン



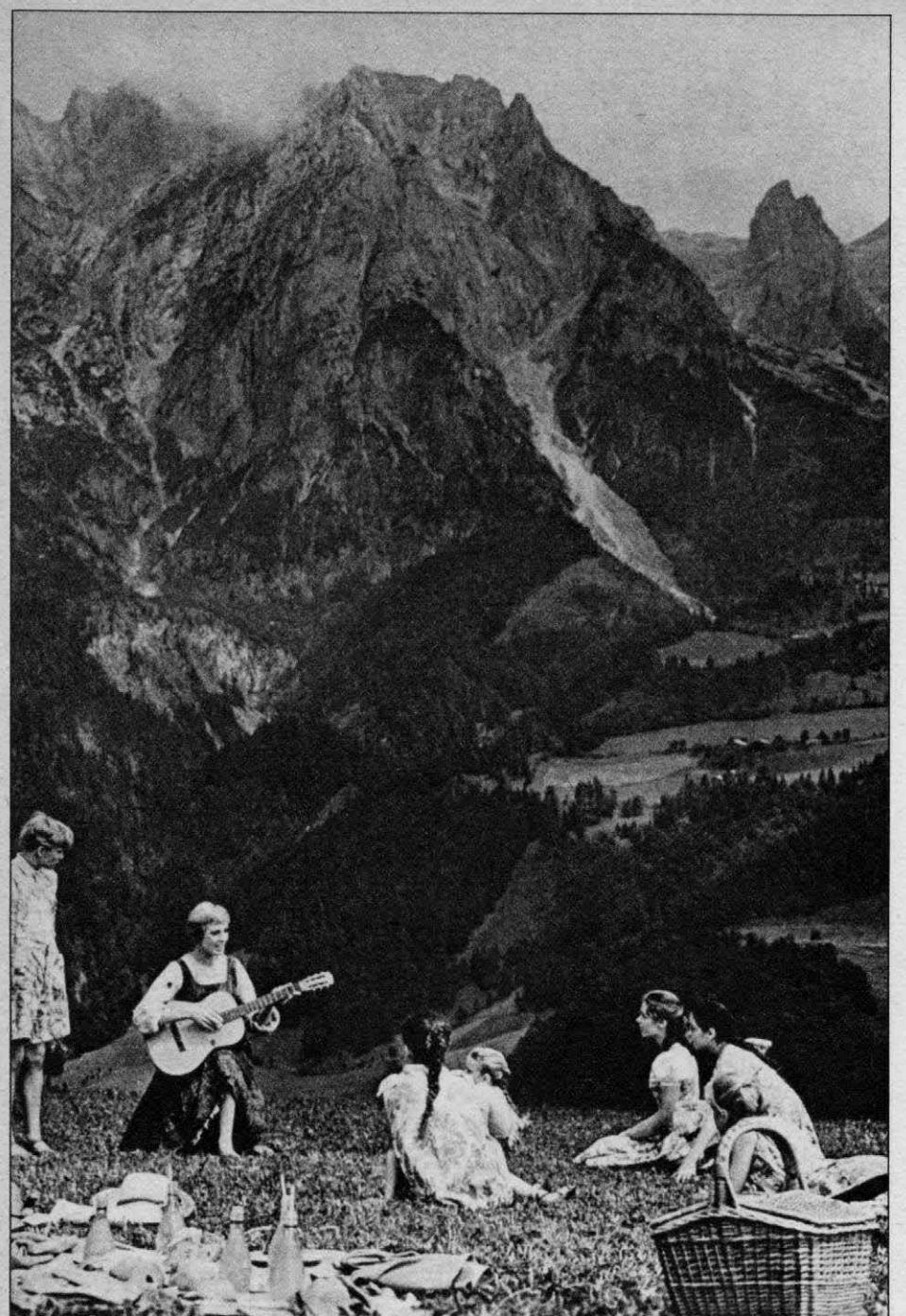
『その男ゾルバ』のリラ・ケドローヴァ(手前)



『博士の異常な愛情』

1965

第38回



O・ハマースタインとR・ロジャーズの最後のミュージカルの映画化『サウンド・オブ・ミュージック』(R・ワイズ監督) 左から2人目が好演のジュリー・アンドリュース



『キャット・バルーン』のリー・マーヴィン



主題歌で音楽賞を得た『いそぎ』



パステルナークの小説をD・リーン監督が映画化した『ドクトル・シバゴ』

作品賞『サウンド・オブ・ミュージック』(編集賞・音楽賞・サウンド賞)

主演男優賞 リー・マーヴィン(『キャット・バルーン』)

主演女優賞 ジュリー・クリスティ(『ダーリング』)

助演男優賞 マーティン・バルサム(『千人の道化師たち』)

助演女優賞 シエリ・ウインターズ(『いつか見た青い空』)

監督賞 ロバート・ワイズ(『サウンド・オブ・ミュージック』)

「作品賞候補」『ダーリング』(脚本賞・衣裳デザイン賞)『ドクトル・シバゴ』(脚本賞・撮影賞・美術監督賞・衣裳デザイン賞)『黒か者の船』(撮影賞・美術監督賞)

外国映画賞『大通りの店』(チエコ)

1966
第39回

作品賞『わが命つきとも』(脚本賞・撮影賞・衣裳デザイン賞)

主演男優賞 ポール・スコフィールド(『わが命つきとも』)

主演女優賞 エリザベス・テイラー(『バージニア・ウルフなんかこわくない』)

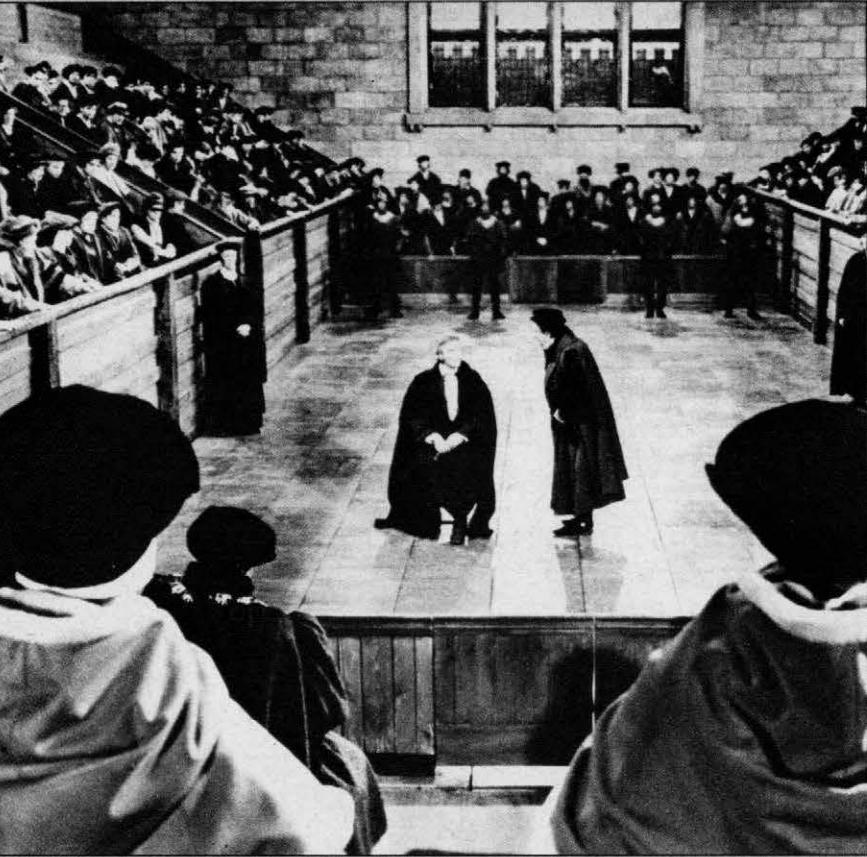
助演男優賞 サンディー・デニス(『バージニア・ウルフなんかこわくない』)

助演女優賞 フレッド・ジンネマン(『わが命つきとも』)

「作品賞候補」『アルフィー』『アメリカ上陸作戦』『砲艦サンバロー』

『バージニア・ウルフなんかこわくない』(撮影賞・美術監督賞・衣裳デザイン賞)

外国映画賞『男と女』(仏)



この年のアカデミー各賞のほか数々の国際賞を獲得した『わが命つきとも』 中央にひざまづいているのがポール・スコフィールド

1967
第40回



監督賞に輝いた『卒業』 左から主演のキャサリン・ロスとダスティン・ホフマン

作品賞『夜の大捜査線』(脚本賞・編集賞・サウンド賞)
主演男優賞 ロッド・スタイガード(『夜の大捜査線』)
主演女優賞 キャサリン・ヘップバーン(『招かれざる客』)
助演男優賞 ジョージ・ケネディ(『暴力脱獄』)
助演女優賞 エステル・バースンズ(『俺たちに明日はない』)
監督賞 マイク・ニコルズ(『卒業』)
「作品賞候補」『俺たちに明日はない』(撮影賞)『ドリトル先生不思議な旅』(特撮視覚効果賞)『卒業』『招かれざる客』(脚本賞)
外国映画賞『監視された列車』(チエコ)



『俺たちに明日はない』のエ斯特ル・バースンズ(左から2人目)



『夜の大捜査線』N・ジュイスン監督のロッド・スタイガード(左)



主題歌賞を得た『ドリトル先生不思議な旅』



『招かれざる客』(S・クレイマー監督)のキャサリン・ヘップバーン



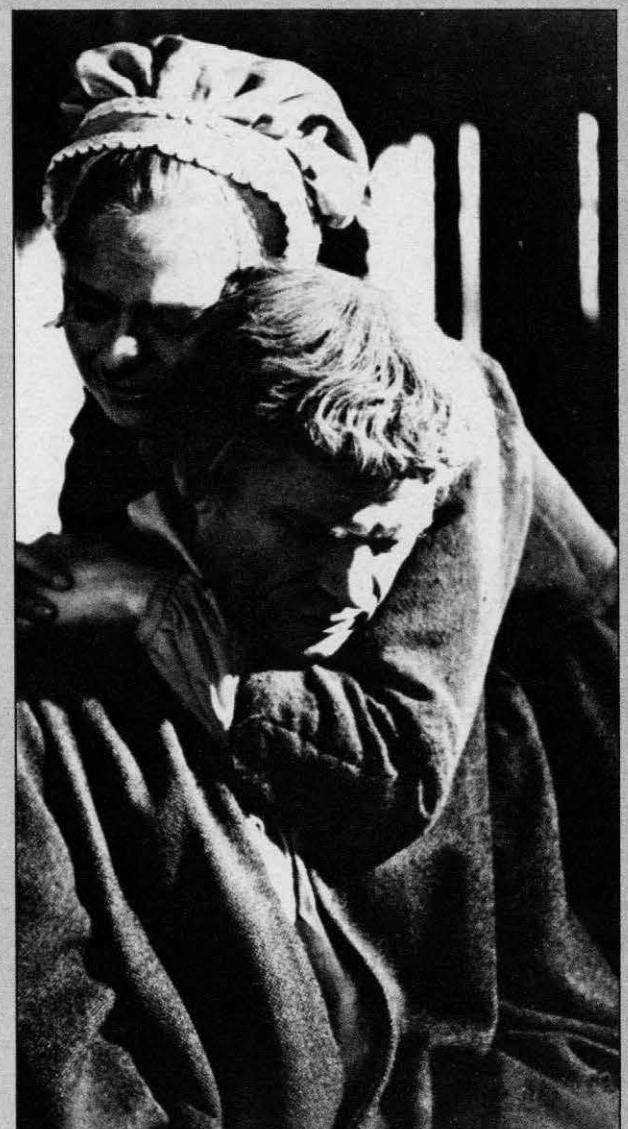
『バージニア・ウルフなんかこわくない』のエリザベス・テイラー(左) トリチャード・バートン



主題歌賞の『野生のエルザ』



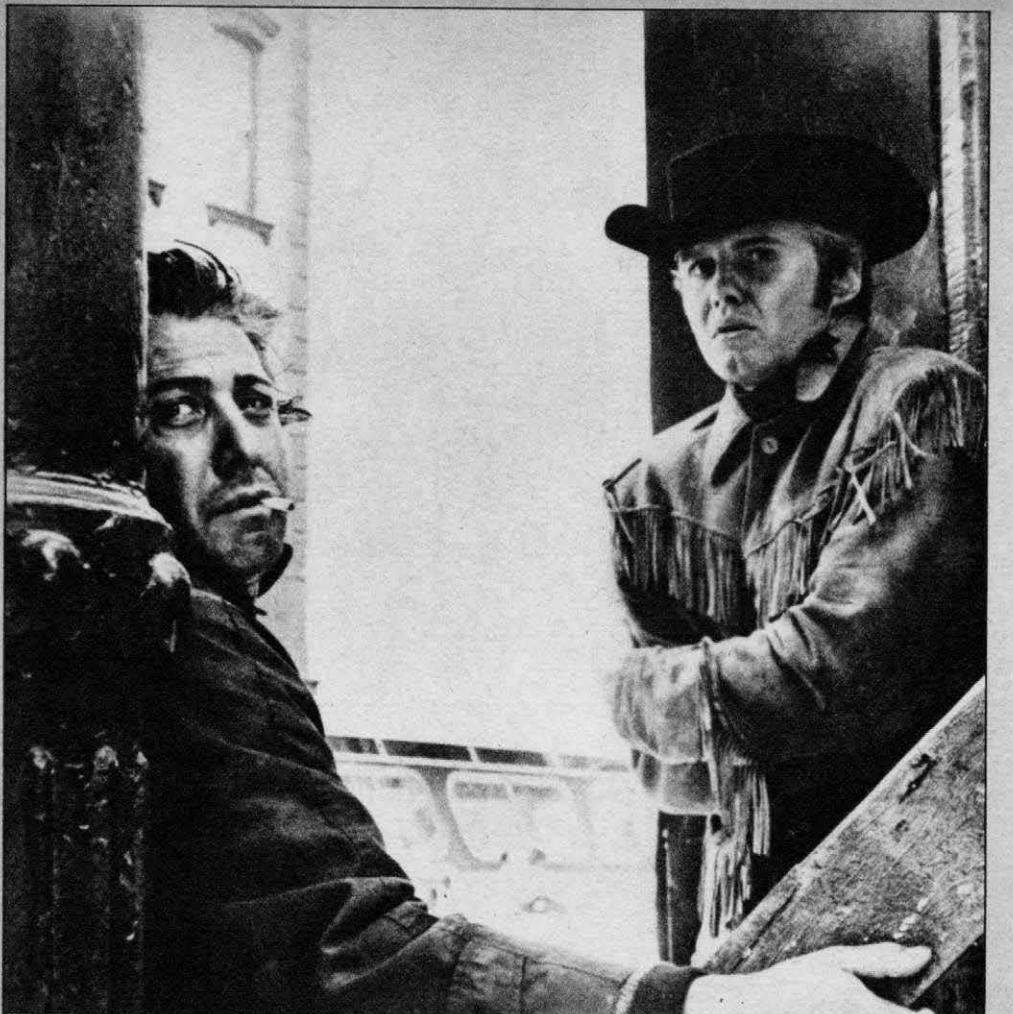
助演女優賞に輝くサンディー・デニス



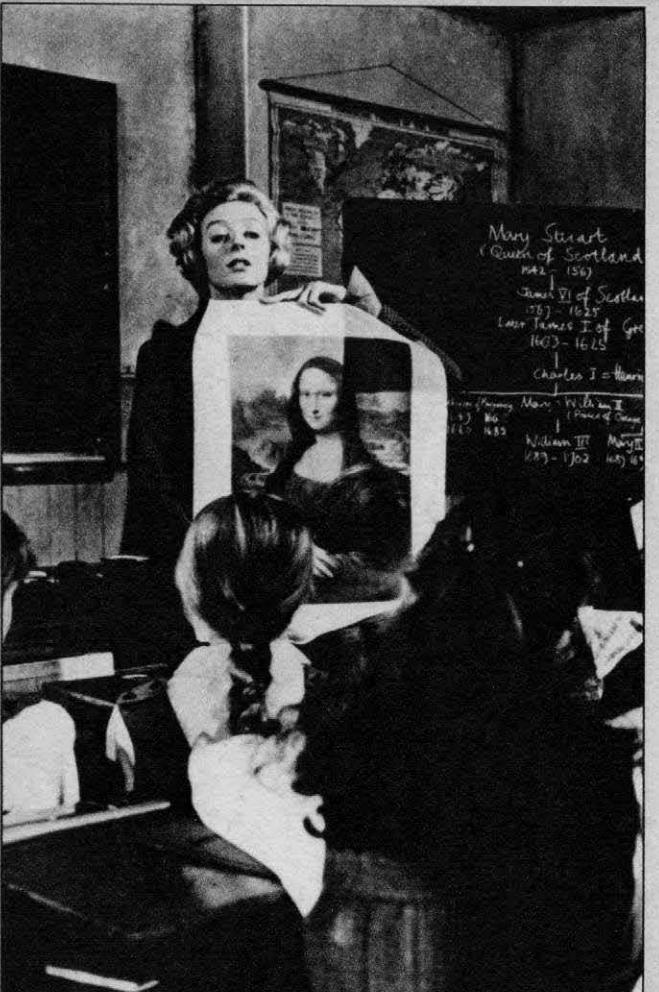
手前がポール・スコフィールド(『わが命つきとも』)

1969

第42回



イギリスのシェリングジャー監督の渡米第1作『真夜中のカーボーイ』が作品・監督賞に輝いた ダスティン・ホフマン（左）とジョン・ヴォイト



名作・舞台劇の映画化『ミス・ブローディの青春』のマギー・スミス



『勇気ある追跡』の片目の保安官 ジョン・ウェイン



W・ゴールドマン脚本 G・ロイ・ヒル監督の『明日に向って撃て!』

作品賞 「真夜中のカーボーイ」(脚本賞)
主演男優賞 ジョン・ウェイン(『勇気ある追跡』)
主演女優賞 マギー・スミス(『ミス・ブローディの青春』)
助演男優賞 ギグ・ヤング(『ひとりぼっちの青春』)
助演女優賞 ゴールディ・ホーン(『さぼてんの花』)
監督賞 ジョン・シェリングジャー(『真夜中のカーボーイ』)
「作品賞候補」 「一〇〇〇日のアン」(衣装デザイン賞)『明日に向って撃て!』(脚本賞・音楽賞)
「作品賞候補」 「ハロー・ドーリー!」(美術監督賞)
音楽賞・サウンド賞 『Z』(編集賞)
外国映画賞 『Z』(アルジェリア=仏)

1968

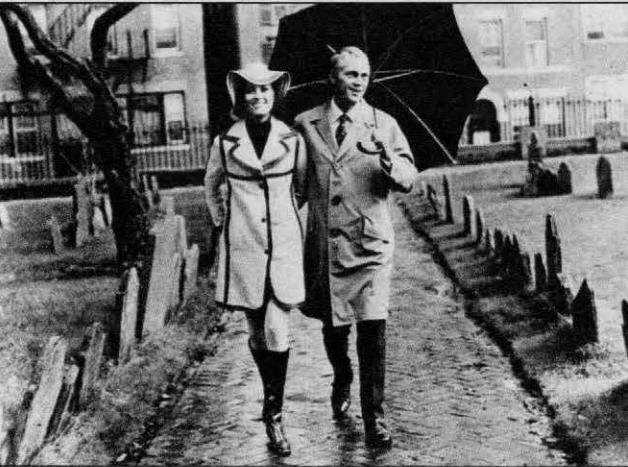
第41回



ディッケンズの原作が舞台になったミュージカルの映画化『オリバー!』



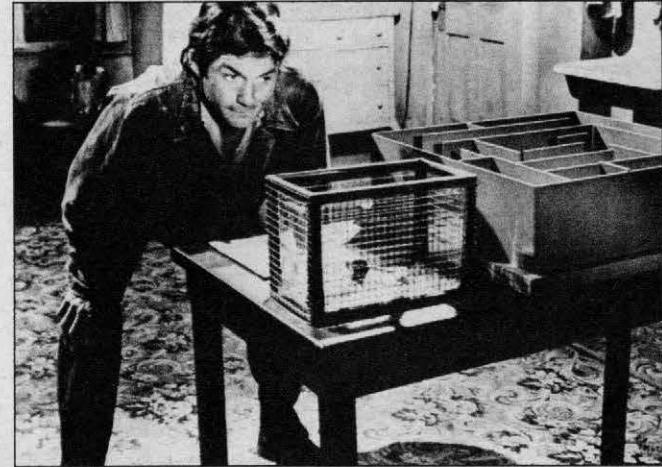
主演女優賞を二分はされたがキャサリン・ヘップバーンの受賞は3度目



主題歌賞は『華麗なる賭け』



『オリバー!』に主演のマーク・レスター（右から2人目）



『まごころを君に』(ラルフ・ネルソン監督)のクリフ・ロバートソン

1968

第41回

作品賞 『オリバー!』(美術監督賞・音楽賞・サウンド賞)

主演男優賞 クリフ・ロバートソン(『まごころを君に』)
主演女優賞 キャサリン・ヘップバーン(『冬のライオン』) バーブラ・ストライサンダー(『ファニー・ガール』)

助演男優賞 ジャック・アルバートソン(『主題はバラ』)
助演女優賞 ルース・ゴードン(『ローズマリーの赤ちゃん』)
監督賞 キャロル・リード(『オリバー!』)

「作品賞候補」 『ファニー・ガール』『冬のライオン』(脚本賞・音楽賞)
『レー・チャエル』『ロミオとジュリエット』(撮影賞・衣装デザイン賞)
外国映画賞 『戦争と平和』(ソ連)

1970

第43回

作品賞『パットン大戦車軍団』(脚本賞・美術監督賞・編集賞・サウンド賞)

主演男優賞 ジョージ・C・スコット(『パットン大戦車軍団』)

主演女優賞 グレンダ・ジャクソン(『恋する女たち』)

助演男優賞 ジョン・ミルズ(『ライアンの娘』)

助演女優賞 ヘレン・ヘイズ(『大空港』)

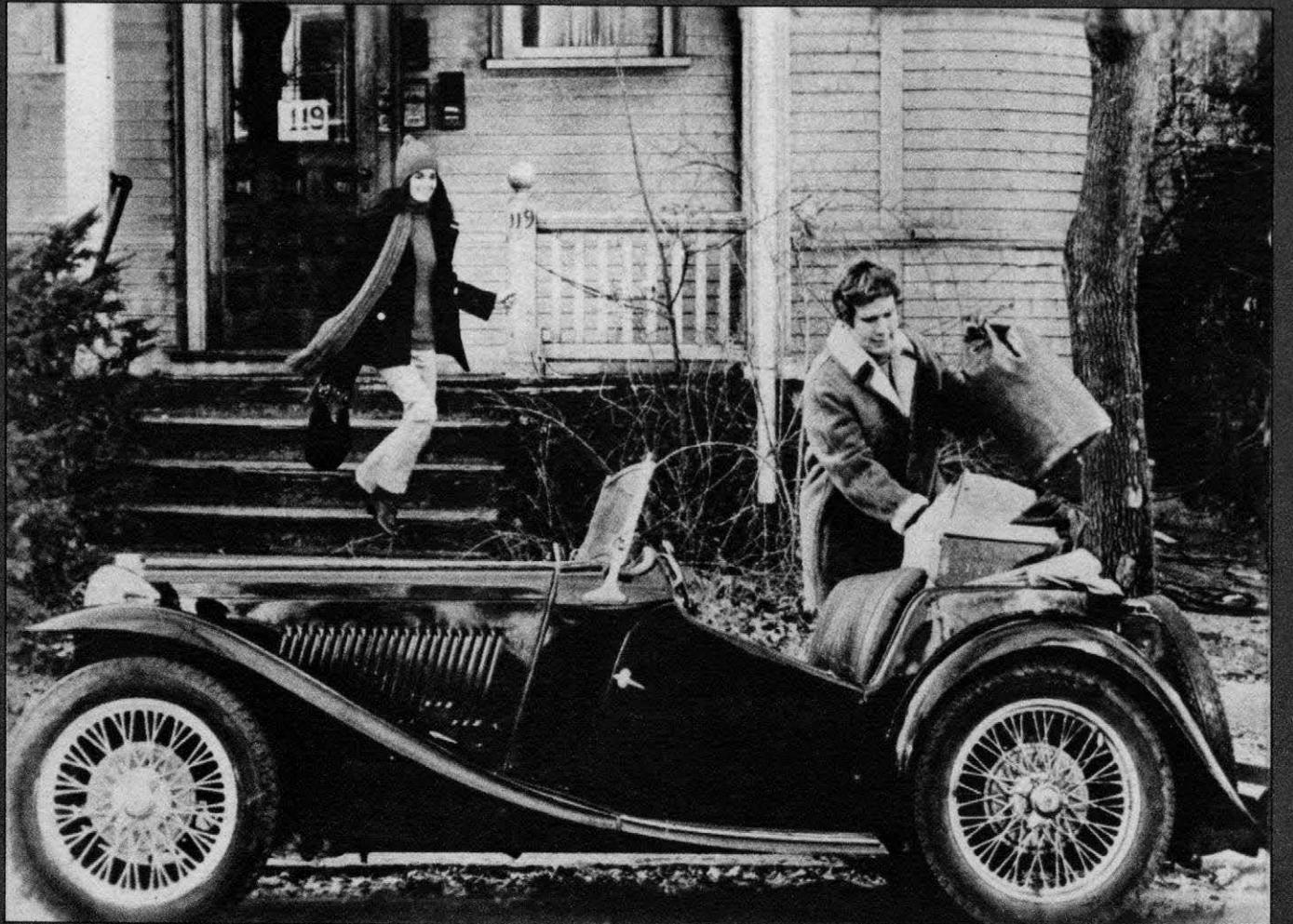
監督賞 フランクリン・J・シャフナー(『パットン大戦車軍団』)

「作品賞候補」『大空港』『ファイブ・イージー・ビーセス』『ある愛の詩』『音楽賞』『M★A★S★H』(マッシュ)(脚本賞)

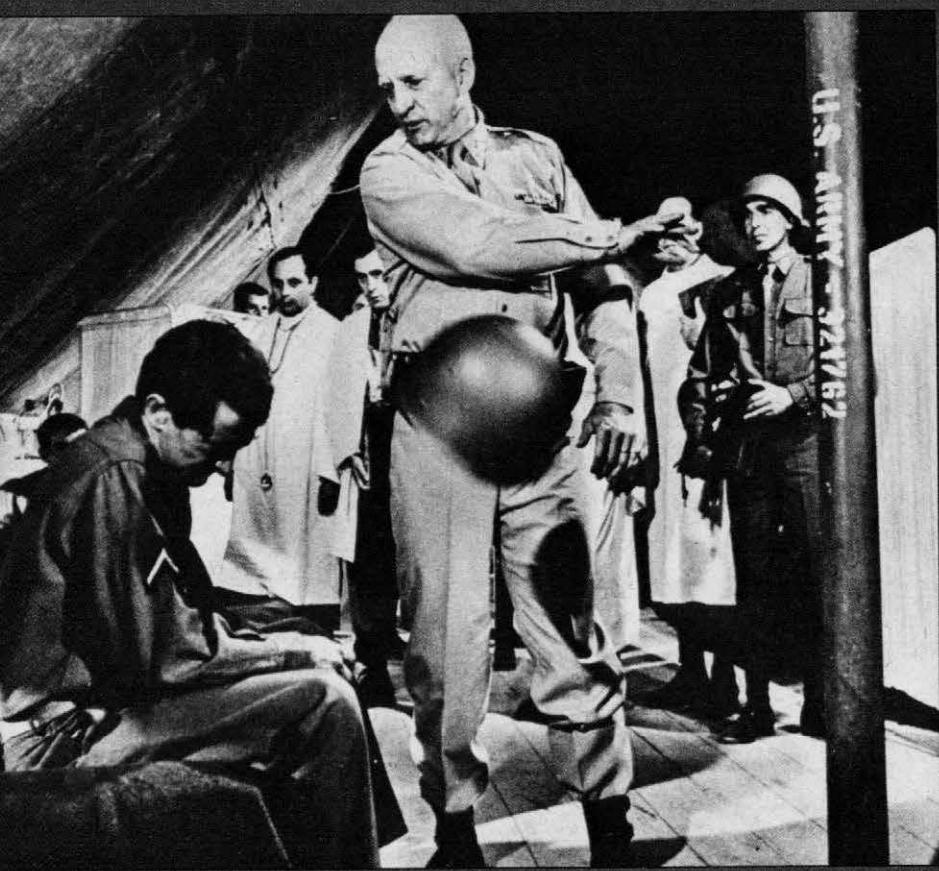
外国映画賞 『殺人捜査』(伊)



イギリスとの合作『恋する女たち』(ケン・ラッセル監督)のグレンダ・ジャクソン



フランス・レイの甘美な音楽で音楽賞を得た『ある愛の詩』ライアン・オニール(右)とアリ・マックロー



第2次大戦の勇将パットン将軍の波乱の半生を描いた『パットン大戦車軍団』は7部門のオスカーを獲得



脚本賞の『マッシュ』(ロバート・アルトマン監督)



ノミネートされたとき辞退していたG・C・スコットに断固主演男優賞が決定された

作品賞 「フレンチ・コネクション」(脚本賞・編集賞)

主演男優賞 ジーン・ハックマン(「フレンチ・コネクション」)

主演女優賞 ジェーン・フォンダ(「コールガール」)

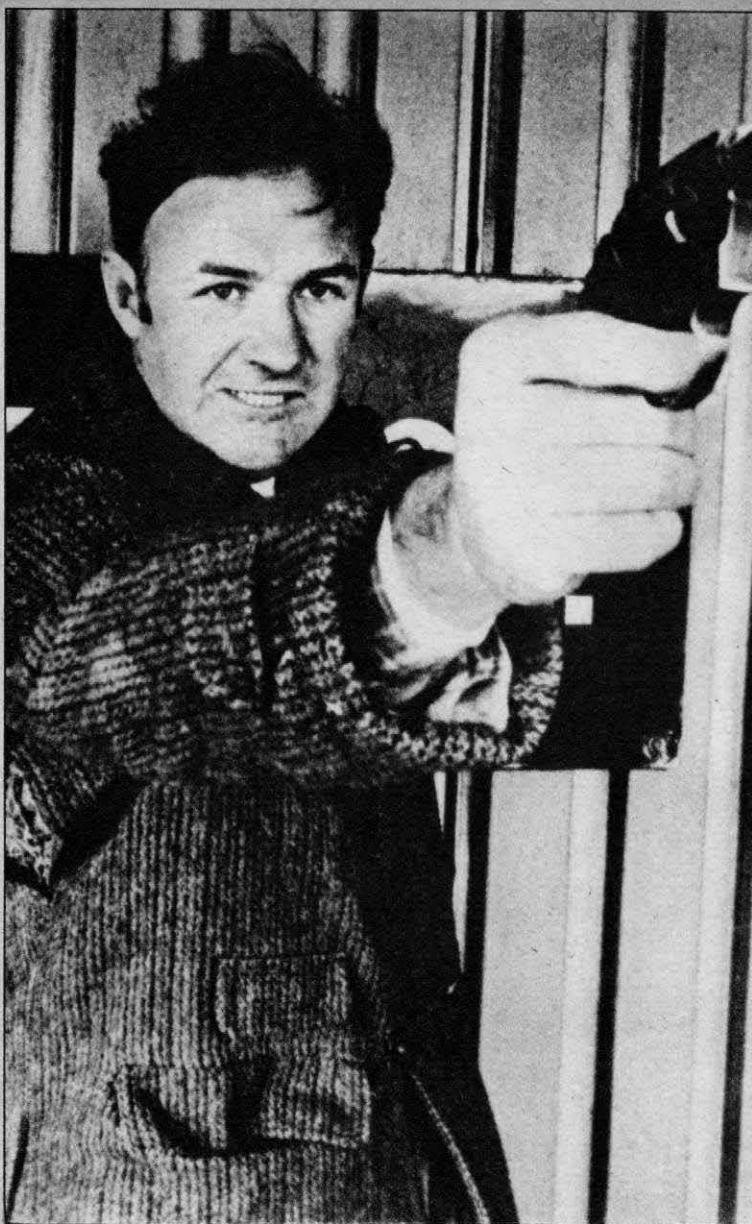
助演男優賞 ベン・ジョンソン(「ラスト・ショー」)

助演女優賞 クロリス・リーチマン(「ラスト・ショー」)

監督賞 ウィリアム・フリードキン(「フレンチ・コネクション」)

「作品賞候補」 「時計じかけのオレンジ」「屋根の上のバイオリン弾き」(撮影賞・音楽賞・サウンド賞)「ラスト・ショー」「ニコライとアレクサン德拉」(美術監督賞・衣装デザイン賞)

外国映画賞 「悲しみの青春」(伊)



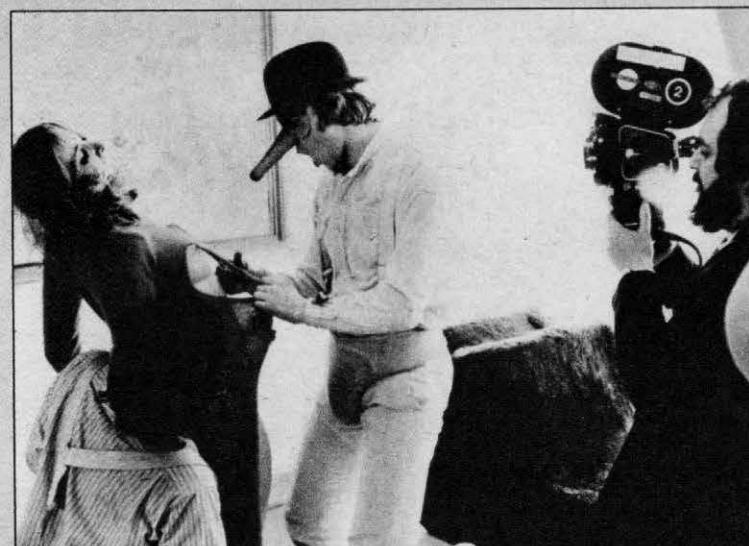
「フレンチ・コネクション」(W・フリードキン監督)でのドイル刑事はジーン・ハックマンの当たり役になった



ロック調の主題歌で受賞した「黒いジャガー」



殺人と性倒錯など特異な題材を描いた『コールガール』(A・J・バクラ監督)のジェーン・フォンダ



作品・監督賞にノミネートされていたが授賞ならなかった『時計じかけのオレンジ』



『ラスト・ショー』のクロリス・リーチマン

一九七〇年代に入つて一九七一年、アカデミー賞の行事は四十四回を迎えた。

一九六〇年代の後半から映画の斜陽、ハリウッド王国の衰退がジャーナリズム、マスコミで話題になっていたが、七〇年、エスカレートするアメリカ映画のボルノ化を兎目に純情映画『ある愛の詩』が大ヒット、映画界の将来にあらたな希望を与えたのだった。

そして六〇年代末期から七〇年代にかけての授賞対象になつた作品を見渡すと、監督の若返りが目立ち、世代交替の時代に入ったことが目につく。『真夜中のカーボイ』(一九六九年)のジョン・シュレシンジャー、『バットン大戦車軍団』(一九七〇年)のフランクリン・シャフナー、『ゴッドファーザー』(一九七二年)のフランシス・フォード・コッポラ、『ス

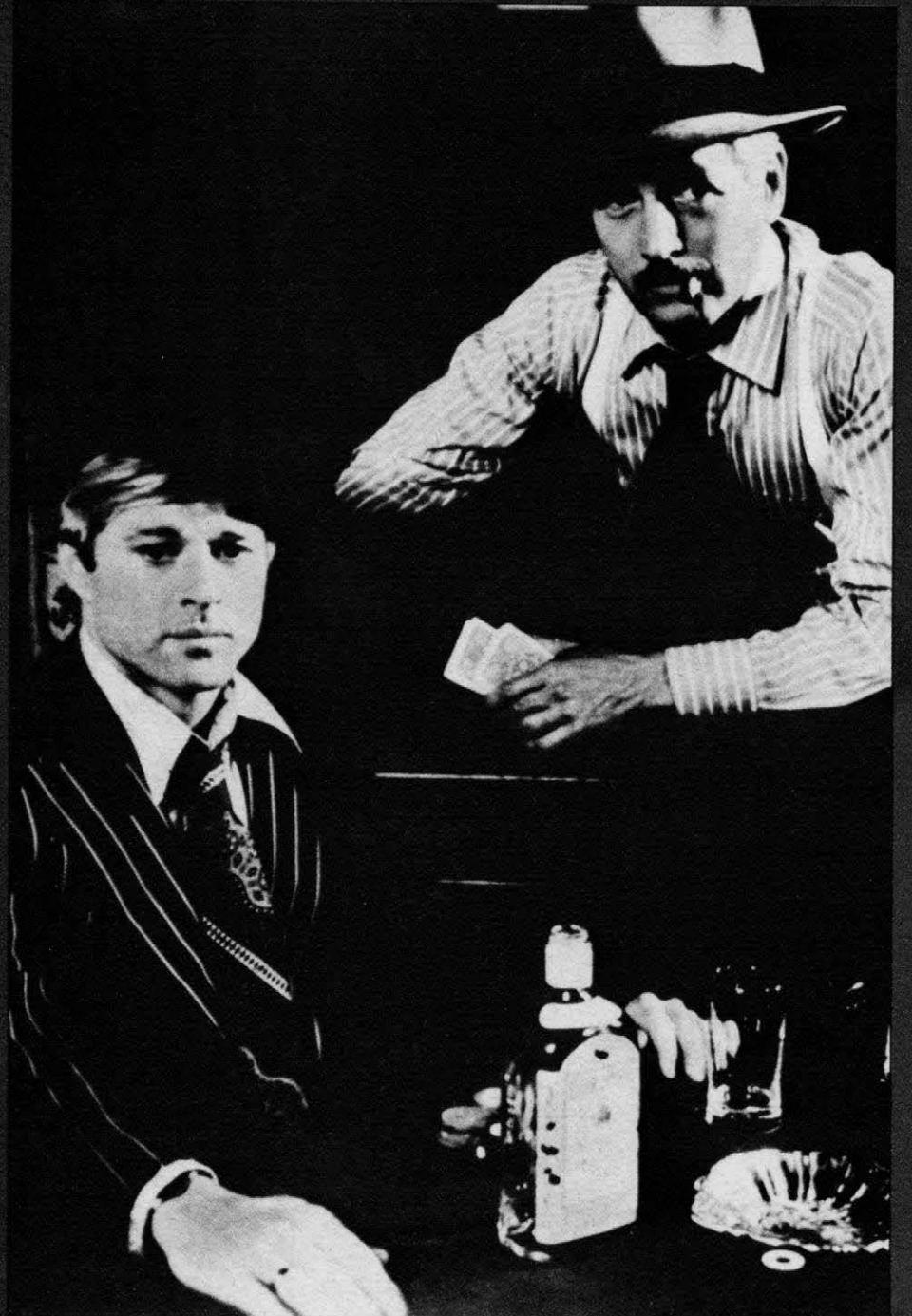
ティング』(一九七三年)のジョージ・ロイ・ヒルなどオスカー受賞作の監督はいずれも四十代、一九七一年度の受賞作『フレンチ・コネクション』のウィリアム・フリードキンに至つてはテレビのドキュメンタリー畠出身、三十三歳の若さだった。フリードキンは監督・作品賞・主演男優賞(ジーン・ハックマン)、脚本賞と主要な部門を独り占めにして、前評判の高かつた『屋根の上のヴァイオリン弾き』『ラスト・ショー』『時計じかけのオレンジ』『ニコライとアレクサン德拉』に圧勝したのだった。

この年のアカデミー賞授賞式のハイライトは予想通り、二十年前アメリカを追われるようにして去つたチャールズ・チャップリンを招待、多年の映画芸術への貢献を賛え贈る特別賞授賞だつた。間もなく八十三歳の誕生日を迎えるとしていた

チャップリンは二十年ぶりに第二の故郷アメリカの土を踏み、この式典に臨んだが、受賞の瞬間会場を埋めていたすべての来客が総立ちとなつて拍手が四分間も続いた。なかつての映画製作の仲間、後輩たちに温く迎えられたチャップリンに「特別賞」があくられるのは一九七七年の第一回の『サーカス』以来のことであり、まさにオスカー史上最も感激的な場面となつたのだった。高齢のチャップリンは涙を浮かべてそのよろこびにしばし声もなかつたが、彼の言葉を期待して拍手を静めた三千の式典参加者である映画人たちに向かつて彼はためらいをみせながら、挨拶の言葉をのべた。『言葉』というものはむだで無力なものです。私はただここに招いていただきた榮誉に感謝の気持でいっぱいです。すてきな心温かい皆さまありがとうございます……』と。

1973

第46回



30年代のしゃれたムードをつくり出し7部門の受賞を果たした『スティング』のポール・ニューマン(右)とロバート・レッドフォード

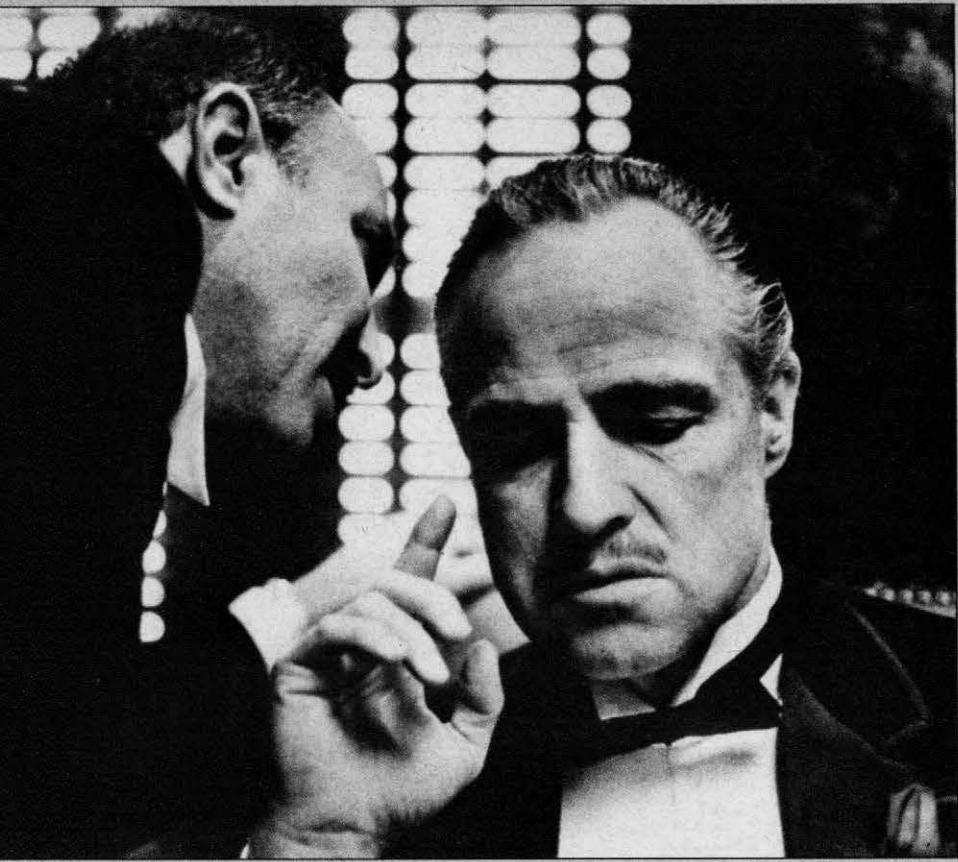


惜しくも受賞を逃した『アメリカン・グラフィティ』



超心理現象による恐怖映画『エクソシスト』

作品賞『スティング』(脚本賞・美術監督賞・衣装デザイン賞・編集賞・音楽賞)
主演男優賞 ジャック・レモン(『その虎を救え』)
主演女優賞 グレンダ・ジャクソン(『ヴィークエンド・ラブ』)
助演男優賞 ジョン・ハウスマン(『ベーバー・チャイズ』)
助演女優賞 ティタム・オニール(『ベーバー・ムーン』)
監督賞 ショージ・ロイ・ヒル(『スティング』)
【作品賞候補】『アメリカン・グラフィティ』『叫びとささやき』『撮影賞』『エクソシスト』(脚本賞・サウンド賞)『ヴィークエンド・ラブ』
【外国映画賞】『アメリカの夜』(仏)



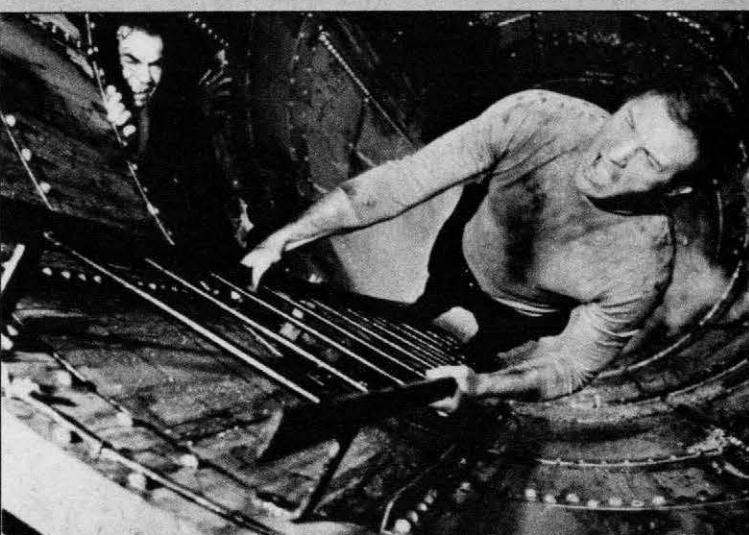
『ゴッドファーザー』(F・F・コッポラ監督)で主演男優賞を決定されながら受賞を拒否して話題を呼んだマーロン・ブランド(右)



『キャバレー』の司会役で好演のジョエル・グレイ



ライザ・ミネリ(右から2人目)のはか7部門のアカデミー賞に輝く『キャバレー』



特撮賞の『ポセイドン・アドベンチャー』

1972

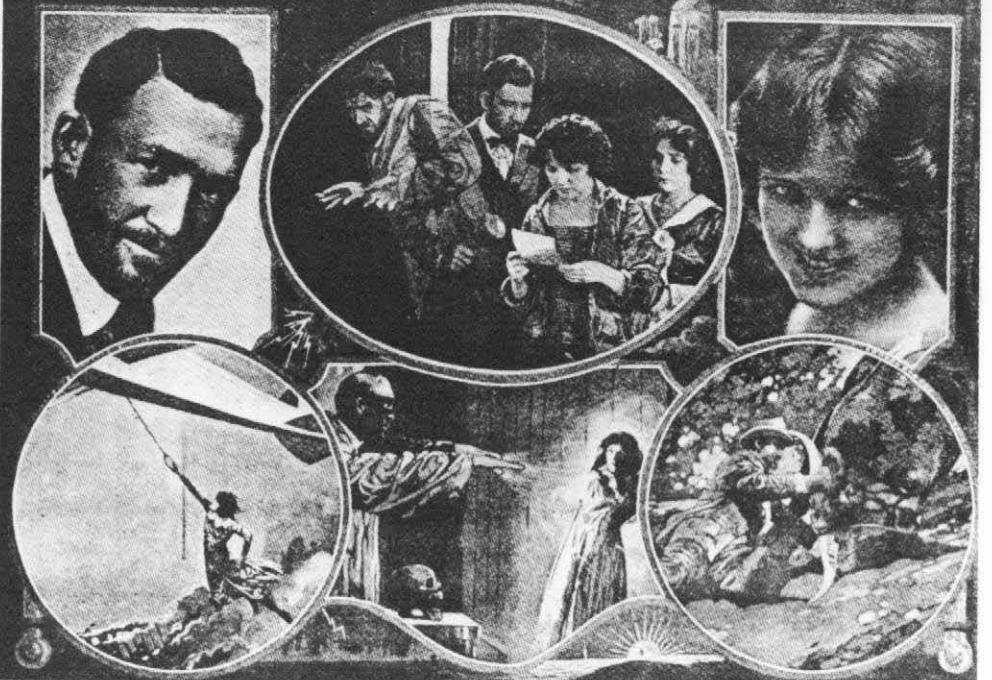
第45回

作品賞『ゴッドファーザー』(脚本賞)
主演男優賞 マーロン・ブランド(『ゴッドファーザー』)
主演女優賞 ライザ・ミネリ(『キャバレー』)
助演男優賞 ジョエル・グレイ(『キャバレー』)
助演女優賞 アイリーン・ヘックート(『バタフライはフリー』)
監督賞 ポブ・フォッシー(『キャバレー』)
【作品賞候補】『キャバレー』(撮影賞・美術監督賞・サウンド賞・編集賞・音楽賞)
『脱出』『移民たち』『サウンダー』
【外国映画賞】『ブルジョワジーの秘かな愉しみ』(仏)

主演男優賞 ジョエル・グレイ(『キャバレー』)
助演男優賞 アイリーン・ヘックート(『バタフライはフリー』)
助演女優賞 ライザ・ミネリ(『キャバレー』)
監督賞 ポブ・フォッシー(『キャバレー』)
【作品賞候補】『キャバレー』(撮影賞・美術監督賞・サウンド賞・編集賞・音楽賞)
『脱出』『移民たち』『サウンダー』
【外国映画賞】『ブルジョワジーの秘かな愉しみ』(仏)

レント
サイ

「神秘の幻影」全十五編 思い出の連続活劇



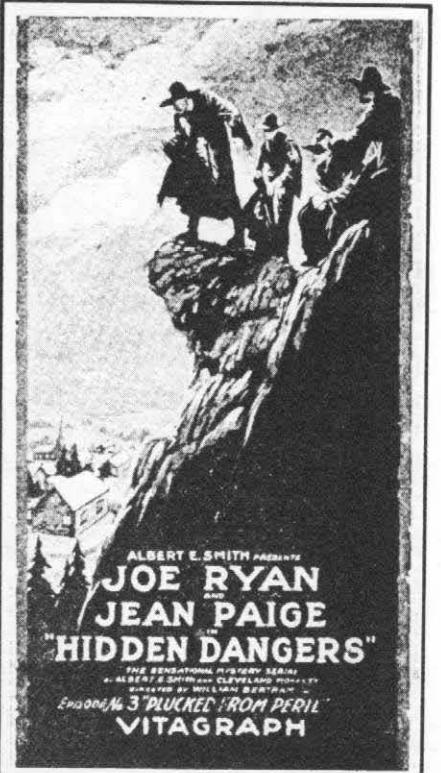
主演スター（左上ジョニー・ライアン 右上ジーン・ペイジ）とこのシリーズの4つの山場を紹介した表紙

サイレント映画時代に流行した連続活劇とは、一編ごとにクライマックスが置かれ、興奮のうちに次編が待たれるような仕組みになっていた。ここに紹介するイラストレーションは、当時、宣伝用に作られたパンフレットの表紙に描かれていたもので、主人公の危機に見舞われる状況が端的に物語られていて興味深い。なお、この「神秘の幻影」（ウリアム・バートラム監督）は日本では大正10年に封切られた。

資料提供：鳥羽幸信氏

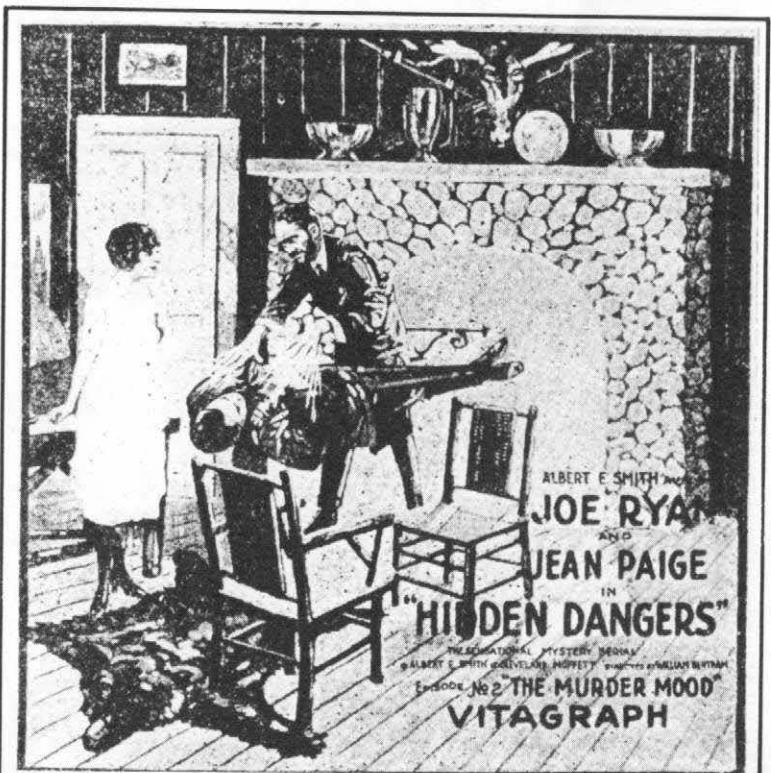


第1話 プロローグ



275

第3話 危機を脱がれて



第2話 殺しの雰囲気

月曜ロードショー

フジテレビ 月曜日ヨル9:02

解説：荻 昌弘

アカデミー受賞作をはじめ話題の名作が今年もズラリ



卒業

出演：ダスティン・ホ夫マン
キャサリン・ロス
アン・パンクロフト

●'67アカデミー監督賞（マイク・ニコルズ）
脚色賞（ジェームズ・ボー/ジョン・ファーロー/S・J・ベルマン）
編集賞（ジーン・ルッジェロ/ポール・ウェザーワックス）
音楽賞（ピクター・ヤング）

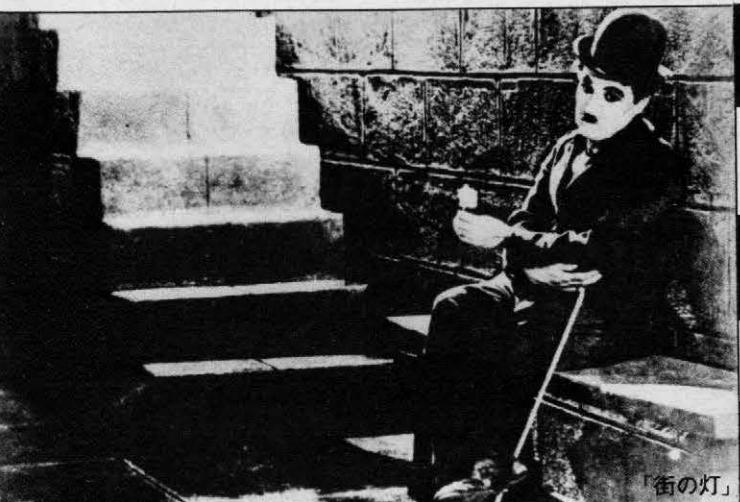
八十日間世界一周

監督：マイケル・アンダースン
出演：デビッド・ニーブン
シャーリー・マックレーン
シャルル・ボワエ

●'59アカデミー外国語映画賞

黒いオルフェ

監督：マルセル・カミュ
出演：マルベッサ・ドーン
ブレノ・メロ



街の灯

監督：チャールズ・チャップリン
出演：チャールズ・チャップリン
バージニア・チェリル

戒厳令

監督：コスター・ガブラス
出演：イブ・モンタン
レナート・サルバトーリ

007サンダーボール作戦

チキ・チキ・バン・バン

恋人たちの曲-悲愴-

フェリーニのローマ

3月のスケジュール

3/7 クインメリー号大爆破

監督：デヴィッド・ローウェル・リッチ
出演：ロバート・スタック/デヴィッド・ヘディソン/ラルフ・ベラミー

3/14 ソルジャー・ボーイ

監督：リチャード・コンフ顿
出演：ジョー・ドン・ペイカー/ホール・コスロ/エリオット・ストリート

3/21 マーフィの戦い

監督：ピーター・エーツ
出演：ピーター・オトワール/シェーン・フィリップス

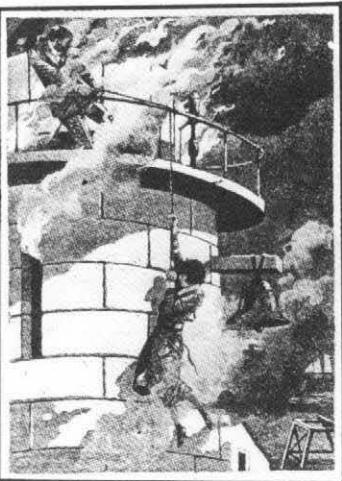
3/28 さらば荒野

監督：ドン・メドフォード
出演：キャンディス・バーゲン/オリヴァ・リード/ジーン・ハックマン

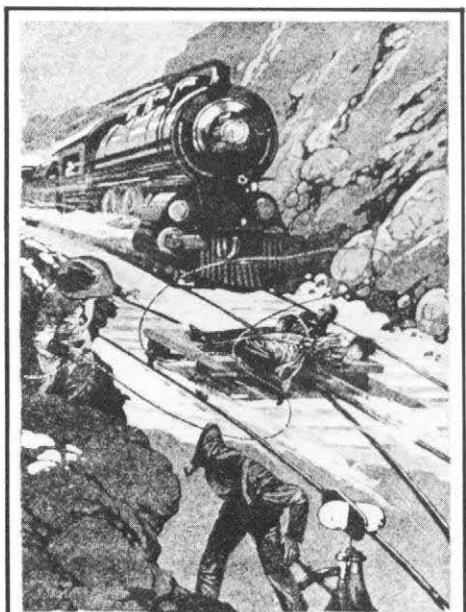


第12話 あわや ハゲタカの餌食に……

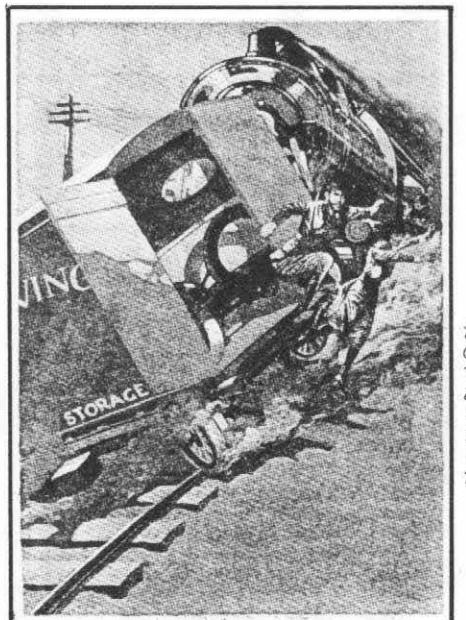
勇敢なヒーローは火の手の上を救けようとすると、火の手の上を救ける勇者である。



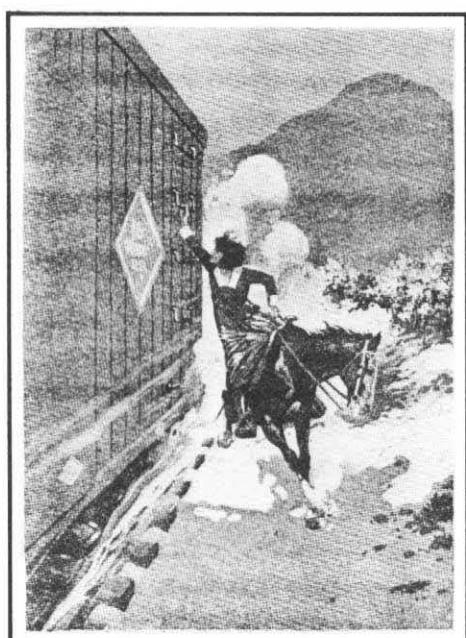
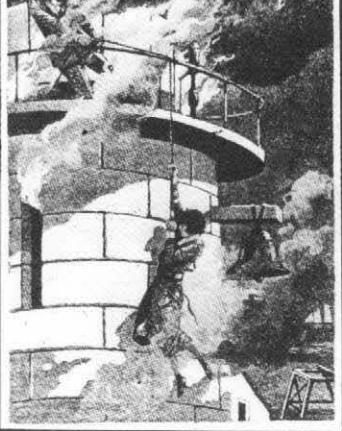
第10話 間一髪のところで救いの手が……



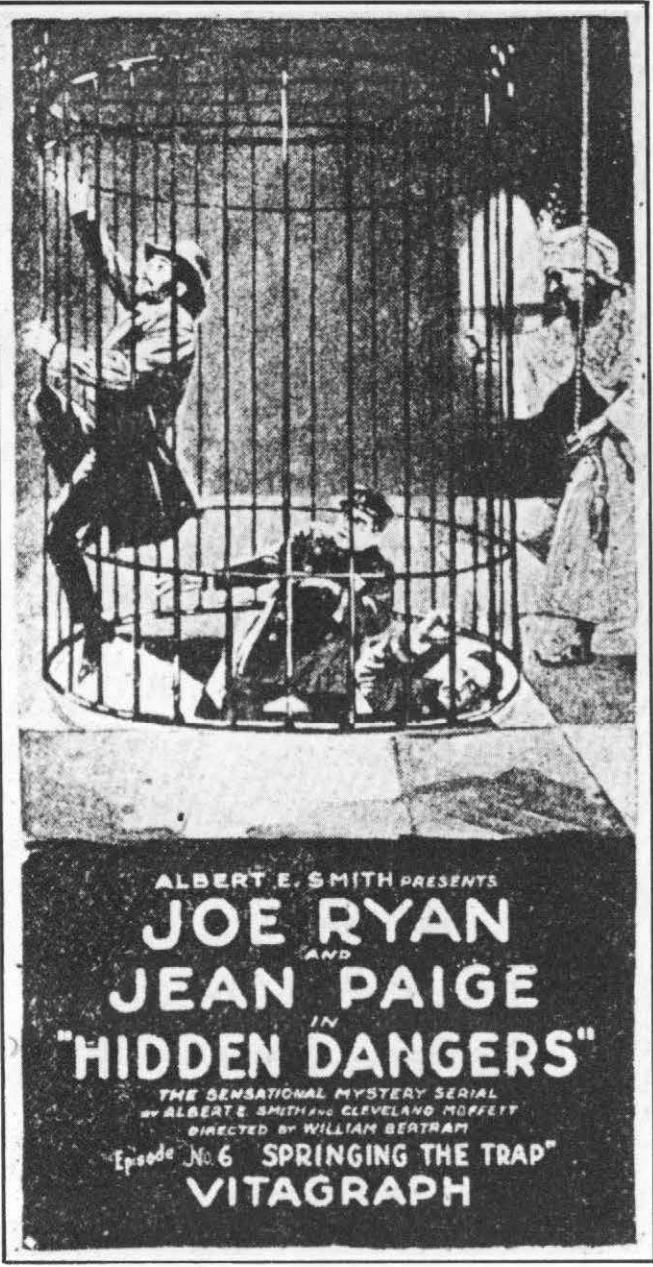
第11話 ヒーローとヒロインは残酷な敵の罠に



ヒロインはヒーローの手に救われたのであります。



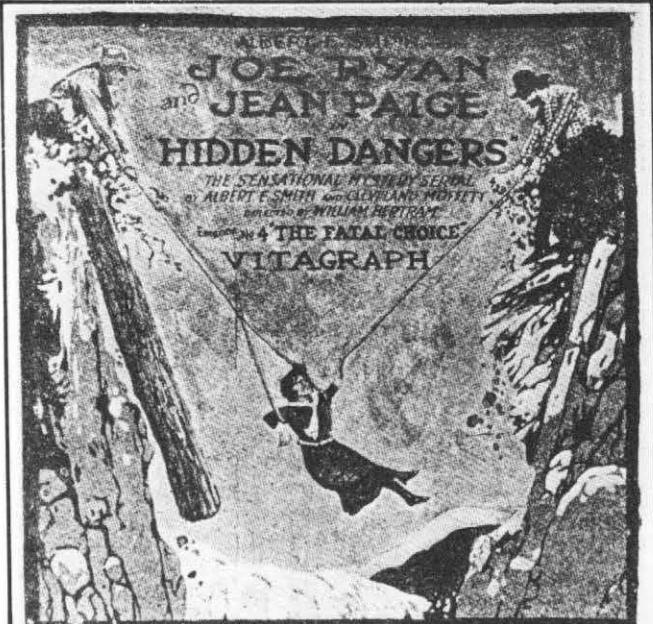
第13話 頑張れ！ヒロインの必死の逃亡



第6話 はね上がる罠——主人公を待ちうけていたものは……



第9話 難を逃れてよじのぼったものの……彼女の運命は



第4話 運命のわかれ道——危うし！ヒロイン



第5話 恐怖の魔手——死を予告されたヒロイン



第8話 悪漢どもの追跡を振り払い必死に逃亡するヒロイン



第7話 炎のかーテンと動く床に乗って逃がれるインド人たち

1927

1926

1925

1924

1923

1922

1921

1920

1919

〔米〕グリフィス、チャップリン、ダグラス・フェアバンクス、メアリ・ピックフォードの四人でユナイティッド・アーティスツ社を設立、表現主義映画の代表作「カリガリ博士」(ウイーネ)が製作され、一躍注目をあびる。

〔英〕短編の科学映画「自然の秘密」シリーズはじまる。

〔ソ連〕映画事業の国有化が進み、モスクワに国立映画学校（のちの映画大学）が開校する。

〔米〕ダグラス・フェアバンクスとメアリー・ピックフォードが結婚し、ファンの話題をさらう。フェアバンクスは「奇傑ゾロ」(ニブロ)をアクロバット的アクションで快演。スター・キートン、監督も兼ねるようになる。

〔英〕「エッゲンバーグの『対角線交響曲』など、絶対映画とよばれる実験映画がつくられる。

〔独〕表現主義演劇の大膽な映画化「朝から夜中まで」(マルティン)公開。

〔ソ連〕グレシヨフ集団が結成され、モンタージュの実験をはじめ〔スウェーデン〕シェーストレムの代表作「靈魂の不滅」、海外にその名を知られる。

〔米〕「黙示録の四騎士」(イングラム)でルドルフ・ヴァレンチノ、スターの座をしめる。フランティ、エスキモー人の生活を長期にわたって記録したドキュメンタリー「極北のナヌーク」(『極北の怪異』)を完成(公開は翌年)。

〔仏〕「エル・ドラド」(レルビエ)など、「フォトジョニー」派の作品があらわれる。

〔独〕ラング、最初の問題作「死滅の谷」を発表。リヒターの「リズム21」、エッゲンバーグの「対角線交響曲」など、絶対映画とよばれる実験映画がつくられる。

〔米〕「スウェーデン」グレタ・ガルボ、「イエスター・ベルリング伝説」(スティルレル)でスクリーンに登場。

〔米〕「黙示録の四騎士」(イングラム)でルドルフ・ヴァレンチノ、スターの座をしめる。フランティ、エスキモー人の生活を長期にわたって記録したドキュメンタリー「極北のナヌーク」(『極北の怪異』)を完成(公開は翌年)。

〔仏〕「エル・ドラド」(レルビエ)など、「フォトジョニー」派の作品があらわれる。

〔独〕ラング、最初の問題作「死滅の谷」を発表。リヒターの「リズム21」、エッゲンバーグの「対角線交響曲」など、絶対映画とよばれる実験映画がつくられる。

〔米〕「スウェーデン」グレタ・ガルボ、「イエスター・ベルリング伝説」(スティルレル)でスクリーンに登場。

〔米〕「黙示録の四騎士」(イングラム)でルドルフ・ヴァレンチノ、スターの座をしめる。フランティ、エスキモー人の生活を長期にわたって記録したドキュメンタリー「極北のナヌーク」(『極北の怪異』)を完成(公開は翌年)。

〔仏〕「エル・ドラド」(レルビエ)など、「フォトジョニー」派の作品があらわれる。

〔独〕ラング、最初の問題作「死滅の谷」を発表。リヒターの「リズム21」、エッゲンバーグの「対角線交響曲」など、絶対映画とよばれる実験映画がつくられる。

〔米〕「黙示録の四騎士」(イングラム)でルドルフ・ヴァレンチノ、スターの座をしめる。フランティ、エスキモー人の生活を長期にわたって記録したドキュメンタリー「極北のナヌーク」(『極北の怪異』)を完成(公開は翌年)。

〔仏〕「エル・ドラド」(レルビエ)など、「フォトジョニー」派の作品があらわれる。

〔独〕ラング、最初の問題作「死滅の谷」を発表。リヒターの「リズム21」、エッゲンバーグの「対角線交響曲」など、絶対映画とよばれる実験映画がつくられる。

〔米〕「黙示録の四騎士」(イングラム)でルドルフ・ヴァレンチノ、スターの座をしめる。フランティ、エスキモー人の生活を長期にわたって記録したドキュメンタリー「極北のナヌーク」(『極北の怪異』)を完成(公開は翌年)。

〔仏〕「エル・ドラド」(レルビエ)など、「フォトジョニー」派の作品があらわれる。

〔独〕ラング、最初の問題作「死滅の谷」を発表。リヒターの「リズム21」、エッゲンバーグの「対角線交響曲」など、絶対映画とよばれる実験映画がつくられる。

〔米〕「黙示録の四騎士」(イングラム)でルドルフ・ヴァレンチノ、スターの座をしめる。フランティ、エスキモー人の生活を長期にわたって記録したドキュメンタリー「極北のナヌーク」(『極北の怪異』)を完成(公開は翌年)。

〔仏〕「エル・ドラド」(レルビエ)など、「フォトジョニー」派の作品があらわれる。

〔独〕ラング、最初の問題作「死滅の谷」を発表。リヒターの「リズム21」、エッゲンバーグの「対角線交響曲」など、絶対映画とよばれる実験映画がつくられる。

〔米〕「サンニー・サイド」(チャップリン)、「散り行く花」(グリフィス)、「仏」「戦争と平和」(ガングス)、「伊」「火鉢」(ジェニーナ)、「独」「バッシュ」(ルビッチュ)、「スウェーデン」「吹雪の夜」(スタイルル)、「ソ連」「ボリクーシカ」(サニン)

カメラマン枝正義郎も「哀の曲」(天活)で独自の新演出をみせる。「インテラーンス」が帝劇で上映され、入場料十円の高額が話題になる。国際活映株式会社(国活)が設立され、天活を吸収する。

大正活動写真株式会社(大活)設立、谷崎潤一郎(原作)・トマス栗原(監督)のコンビで「アマチュア俱楽部」を発表。「尼港最後の日」(日活・坂田重則)ヒットする。松竹キネマ、帝国キネマなど創立。

〔米〕「東への道」(グリフィス)、「キッド」(チャップリ)、「男性と女性」(デリミル)、「宝島」(ターナー)、「仏」「海の人」(レルビエ)、「伊」「硝子の家」(リゲツ)、「独」「巨人ゴーレム」(ガーレン)、「ウエゲナー」(ヴェルトフ)、「三銃士」(ニブロ)、「モヒカン族の最後」(ターナー)、「仏」「狂熱」(テリュック)、「ソ連」、「国内戦の歴史」(ヴェルトフ)

〔米〕「東への道」(グリフィス)、「キッド」(チャップリ)、「男性と女性」(デリミル)、「宝島」(ターナー)、「仏」「狂熱」(テリュック)、「ソ連」、「国内戦の歴史」(ヴェルトフ)、「三銃士」(ニブロ)、「モヒカン族の最後」(ターナー)、「仏」「狂熱」(テリュック)、「ソ連」、「国内戦の歴史」(ヴェルトフ)

〔米〕「東への道」(グリフィス)、「キッド」(チャップリ)、「男性と女性」(デリミル)、「宝島」(ターナー)、「仏」「狂熱」(テリュック)、「ソ連」、「国内戦の歴史」(ヴェルトフ)、「三銃士」(ニブロ)、「モヒカン族の最後」(ターナー)、「仏」「狂熱」(テリュック)、「ソ連」、「国内戦の歴史」(ヴェルトフ)

林長二郎(のちの長谷川一夫)、「稚児の剣法」(松竹・大塚稔)で売り出す。伊藤大輔、大河内伝次郎主演の「忠次旅日記」三部作(日活)、「下郎」で大いに氣をはく。市川右太衛門プロ設立。小山内薰、「黎明」(昭和キネマ)でトーキー映画を試みる。

脚本】寿々喜多呂九平、監督】二川文太郎の「鈴木謙作」、「霧の港」(溝口健二)などの異色作を最後に日活向島は解散、京都に移転する。『船頭小唄』(池田義臣)を大ヒットさせた松竹蒲田も一時的に京都へ移転。阪妻ブロは寿々喜多・二川のコンビで「雄呂鳥」(松本英二)が大ヒットし、小唄映画が流行しはじめる。

〔同〕などから女形の廃止、女優の採用へと向う。牧野、「実録忠臣蔵」(牧野教育映画)で時代劇を改革する。

城戸四郎、松竹蒲田撮影所長に就任。松竹映画は野村芳亭の新派悲劇調から、島津保次郎の明るい現代劇へ転換する。帝キネの「籠の鳥」(松本英二)が大ヒットし、小唄映画が流行しはじめる。

〔同〕などから女形の廃止、女優の採用へと向う。牧野、「実録忠臣蔵」(牧野教育映画)で時代劇を改革する。

小山内薰指導の松竹キネマ研究所が「路上の金森」(村田実)を発表、日本映画の革新が具体化される。「虞美人草」(ヘンリー小谷)の栗島すみ子が日本最初のスター女優となる。

〔米〕「サンニー・サイド」(チャップリン)、「散り行く花」(グリフィス)、「仏」「戦争と平和」(ガングス)、「伊」「火鉢」(ジェニーナ)、「独」「バッシュ」(ルビッチュ)、「スウェーデン」「吹雪の夜」(スタイルル)、「ソ連」「ボリクーシカ」(サニン)

〔米〕「サンニー・サイド」(チャップリン)、「散り行く花」(グリフィス)、「仏」「戦争と平和」(ガングス)、「伊」「火鉢」(ジェニーナ)、「独」「バッシュ」(ルビッチュ)、「スウェーデン」「吹雪の夜」(スタイルル)、「ソ連」「ボリクーシカ」(サニン)

〔米〕「サンニー・サイド」(チャップリン)、「散り行く花」(グリフィス)、「仏」「戦争と平和」(ガングス)、「伊」「火鉢」(ジェニーナ)、「独」「バッシュ」(ルビッチュ)、「スウェーデン」「吹雪の夜」(スタイルル)、「ソ連」「ボリクーシカ」(サニン)

〔米〕「サンニー・サイド」(チャップリン)、「散り行く花」(グリフィス)、「仏」「戦争と平和」(ガングス)、「伊」「火鉢」(ジェニーナ)、「独」「バッシュ」(ルビッチュ)、「スウェーデン」「吹雪の夜」(スタイルル)、「ソ連」「ボリクーシカ」(サニン)

大正活動写真株式会社(大活)設立、谷崎潤一郎(原作)・トマス栗原(監督)のコンビで「アマチュア俱楽部」を発表。「尼港最後の日」(日活・坂田重則)ヒットする。松竹キネマ、帝国キネマなど創立。

〔米〕「サンニー・サイド」(チャップリン)、「散り行く花」(グリフィス)、「仏」「戦争と平和」(ガングス)、「伊」「火鉢」(ジェニーナ)、「独」「バッシュ」(ルビッチュ)、「スウェーデン」「吹雪の夜」(スタイルル)、「ソ連」「ボリクーシカ」(サニン)

〔米〕「サンニー・サイド」(チャップリン)、「散り行く花」(グリフィス)、「仏」「戦争と平和」(ガングス)、「伊」「火鉢」(ジェニーナ)、「独」「バッシュ」(ルビッチュ)、「スウェーデン」「吹雪の夜」(スタイルル)、「ソ連」「ボリクーシカ」(サニン)

大正活動写真株式会社(大活)設立、谷崎潤一郎(原作)・トマス栗原(監督)のコンビで「アマチュア俱楽部」を発表。「尼港最後の日」(日活・坂田重則)ヒットする。松竹キネマ、帝国キネマなど創立。

1935

1934

1933

1932

1931

930

1929

1928

レールはコルダの招きで渡英。ヴィゴ死す。
〔独〕 ナチ党大会を記録した『意志の勝利』（リーフェンシュタール）製作。
〔ソ連〕 社会主義アリズムが提唱される。

〔米〕 不況のため、三分の一近くの劇場が閉鎖、映画各社も経費節約に苦慮する。キヤサリン・ヘップバーンが『若草物語』(キュー・カー)でデビューし、フレッド・アステアが『空中レヴュータイム』(フリーランド)ではじめてジンジャー・ロジャーズとコンビを組む。探検記録を撮っていたシェードザックとM・クーパーが特撮をフルに活用した怪獣ものの太作『キング・コング』を作成。
〔独〕 ヒトラー内閣の宣伝大臣ゲッベルス、強力な映画統制をしく。ラングの『怪人マブゼ博士』(『マブゼ博士の遺書』)上映禁止、ラングはパリへ亡命する。ほかにバブストら、ユダヤ系映画人の亡命あいつぐ。

〔米〕 キヤンク映画の増加とともに、ヘラ・ルコシ主演の「魔人ドラキュラ」(アラウニンク)、ボリス・カーロフ主演の「フランケンシュタイナー」(ホエーリー)など怪奇映画のバターンがつくられる。エディソン死去。
〔仏〕 ル・ミリオン、「自由を我等に」など、前年につけたクレールの活躍がきわだつ。
〔独〕 社会矛盾の反映か、「三文オペラ」(バブスト)、「M」(ラング)などの暗い作品と、「会議は踊る」(シャーレル)、「狂乱のモンテカルロ」(シュワルツ)などの明るいミュージカル作品と、二極化の傾向を示す。
〔ソ連〕 最初のトーキー劇映画「一人」(コジンツエフ／L・トラウベルグ)公開、ついで「人生案内」(エック)の成功により、トーキー化へ進む。

ワード・G・ロビンソン主演の『犯罪王リコ』(ルロイ)の成功を皮切りに、ギャング映画が流行しはじめ、映画界は自主規制の公文化(実施は一九三四年から)をよぎなくされる。ジーン・ハーロー、「地獄の天使」(ヒューズ)に抜擢され、一躍三十年代前半のセックス・シンボルとなる。「仏」クレール、最初のトーキー『巴里の屋根の下』ですぐれたトーキー処理をみせ、主題歌は一世をふるびする。シユルレアリスト映画『黄金時代』(L・ブニュエル)、コクトー最初の映画『詩人の血』など、ヴァンギヤルド映画も最後の輝きをみせる。

〔独〕パブストは反戦映画の傑作『西部戦線一九一八年』を、スタンバーグはマルレーネ・ディートリッヒ起用の『嘆きの天使』を発表。

〔ソ連〕エイゼンシュテインらアメリカへ、そして年末にはメキシコへ入国。ヴェルトフ、トーキーのドキュメンタリー『ドンバス交響曲——热情』を発表。

〔米〕 MGM 映画社、「プロードウェイ・メロディ」（ボーモン）でミュージカル映画をスタートさせる。アカデミー賞第一回授賞式で、作品賞に「つばさ」（ウェルマン）、監督賞にボーザーン（第七天国）などが受賞。ディズニーの「シリーズ・シングフォニー」。シリーズはじまる。R.K.O ラジオ・映画社設立。

〔仏〕 トーキー開発に立ち遅れたフランスは、イギリスでアメリカ式トーキーの「三仮面」（ユゴン）を、また、トービス式トーキーの「女王の頸飾り」（ラヴェル）を作製し、「夜はぼくたちのもの」（ルーセル）によってトーキー化を本格化する。

〔英〕 サイレントでつくられたヒッチコックの「ゆすり」がトーキー化され、イギリスにおけるトーキー映画の第一作となる。グリアースン、『流し網漁船』を発表し、イギリス・ドキュメンタリー映画運動のリーダーとなる。

〔独〕 マルレーネ・ディートリッヒ主演のパート・トーキー「奥様、お手にキスを」（ランド）が大ヒットし、ルツトマンも「大都会」（ドキュメンタリー・シリーズの系列にある「世界のメロディー」）をトーキーで發表する。

〔ソ連〕 ショーリン式、ターゲル式など、独自のトーキー開発を進めるエイゼンシュテインら、欧米の旅へ出発。

公開。トーキー作品「シンギング・フル」(ベーコン)、史上最高の商業収入を記録する。デイズニー最初のミッキー・マウスもの「蒸気船ワイリー号」もトーキー(フィルム式)でデビュー。だが、「群衆」(K・ヴィダー)、「サーカス」(チャップブリジン)などサイレント映画の秀作もくられつつける。

「仏」デンマークのドライヤー、フランスで「裁かるるジャンヌ」を撮り、これはサイレント末期の傑作となる。L・ブニュエルと画家S・ダリの「アンダルシアの犬」はシュルレアリスム映画の代表作。ほかに、「アッシュ・シャーフ家の末裔」(エブスタン)、「テレーズ・ラカン」(フェデー)など秀作が公開される。

「ソ連」エイゼンシュティンら、「トーキーに関する共同宣言」を発表。

(ヒッチコック)、「アラン」(フラハティ)、「ソ連」(チーリー)、「ヤバーエフ」(ワシーリエフ兄弟)、「陽気な連中」(アレクサンドロフ)

〔米〕「カヴァルケード」(F・ロイド)、「四十二番街」
〔ペー・コン・バー・クリー〕、「ゴーラード・ディガーズ」(ル
ロイ・バー・クリー)、「仏」「リリオム」(ラング)、「ド
ン・キホーテ」(バブスト)、「英」「ヘンリー八世の私
生活」(コルダ)、「独」「ワルツ合戦」(ベルガー)、「恋
愛三昧」(オフェルス)、「オーストリア」、「未完成交響
樂」(フォルスト)、「ソ連」、「国境の町」(バルネット)
「脱走者」(アドフキン)

〔米〕「街の灯」（チャップリン）、「市街」（マムーリアントン）、「民衆の敵」（ウェルマン）、「犯罪都市」（マイルフルーズ）、「間諜X-27」（スタンバーゲー）、「シマロン」（ラグマニア）、「陽気な中尉さん」（ルビッシュ）、「いんちき姫 売」（マクラウド・マルクス兄弟）（仏）、「お月様のぼ ャン」（シェー）、「世界の終り」（ガーンス）、「牝犬」（ノワール）、「独」（炭坑）（パブスト）、「少年探偵団」（ランブルヒト）、「制服の処女」（ザガン）（ソ連）、「金の山」（ユトケヴィチ）

靈』(「ワライラ」)、『極樂島満員』(「マツケリー」)、『仏本家ゴルダー』(「デュヴィヴィエ」)、『巴里っ子』(「ビューヨル」)、『コロンビエ』、『黄色の部屋』(「レルビエ」)、『二一ノイ』(「ヴィゴ」)、『英』(「イギリス」)、『ジユノーと孔雀』(「ヒツジコック」)、『アトランティック』(「デュポン」)(独)、『ソリン・ボイ三人組』(「ティーレ」)、『最後の中隊』(「ルンハルト」)、「ソ連」、「大地」(「ドヴェンコ」)

〔米〕『喝采』(マムーリアン)、『ハレルヤ』(K・ヴィダー)、『ラヴ・パレード』(ルビッシュ)、『ヴァージニア』(フーレミング)、『独』『月世界の女』(ランク)、『淪落』(ガロの日記)、(パブスト)、『アスファルト』(J・マイ)、「日曜日の人々」(シオドマクはか)、「ソ連」、「カメラを買った男」(『これがロシアだ!』)、「ヴェルトフ」、「武界庫」(ドヴジエンコ)、「全線」(『古きものと新しきもの』)、「エイゼンシュテイン」、「トウルクシブ」(トウランダ)、「オランダ」、「雨」(イヴェンス)

トレム)、「キートンの蒸気船」(=「キートンの船長」ラ
イスナー)、「英」、「流れ星」(アスキス)、「仏」、「マッ
チ売りの少女」(ルノワール)、「大地の果て」(エプスタ
ン)、「午前の幽霊」(リヒター)、「ソ連」、「アジアの嵐
(V・プロフキン)、「ズヴェニゴーラ」(ドヴジエンコ)
「上海ドキュメント」(アリオーフ)

新興キネマの現代劇部、東京へ移転。財團法人大日本映画協会発足し、国策映画の支援体制を固める。『妻よ薔薇のよう』(成瀬)、『エノケンの近藤男』(山本嘉次郎)などP.C.映画が活躍しはじめる。山中貞雄、日活で

映画の国策化が国会で建議される。入江たか子主演の『滝の白糸』(新興キネマ・溝口)、好評を博す。「君と別れて」(松竹・成瀬巳喜男)、「盤嶽の一生」(日活・山中)、「丹下左膳」(同・伊藤)、「河向の青春」(音画芸術研究所・木村莊十二)。

PCL（のちの東宝）、トーキーの開発にのりだし、東京砧村にスタジオを建設。『生れてはみたけれど』（松竹・小津）、『國士無双』（千恵藏プロ・伊丹万作）、『抱寝の長脇差』（寛寿郎プロ・山中貞雄）。

所平之助、大成功をおさめる。『東京の合唱』（松竹・小津）、『仇討選手』（日活・内田）、『続大岡政談魔像解決編』（同・伊藤）、「黎明以前」（松竹・衣笠）。

が全盛期を迎える『ふるさと』(日活・溝口)、『この太陽』(同・村田)など、日本製トーキー映画がはじめる。

『生ける人形』（日活・内田吐夢）がヒットし、『都會交響樂』（同・溝口）、『斬人斬馬剣』（松竹・伊藤）など傾向映画が流行しはじめる。小津安二郎、『大學は出たけれど』（松竹）を発表。プロキノ（日本プロレタリア映画同盟）創立。

題】『崇禪寺馬場』・『浪人街』――「一語どなつづけに力作を発表。『村の花嫁』（五所平之助）、『彼と東京』（牛原虚彦）など、松竹間に『蒲田調』が發揮されはじめる。片岡千恵蔵ブロ、嵐寛寿郎ブロ設立。

確立。

〔英〕ヒッチコック、「三十九夜」で手腕を發揮。「セイロンの歌」(ライ・ト)そのほかのドキュメンタリー映画に秀作が生まれる。

〔ソ連〕第一回全ソ連邦映画人創作評議会でエイゼンシュティンら批判される。

〔米〕トーキーを拒否していたチャップリン、「モダン・タイムズ」の音楽・効果音にトーキーを採用。ハンフリー・ボガート、「化石の森」(メイヨ)ではじめてギヤングを演じる。

〔仏〕第一回ルイ・デリュック賞に「どん底」(ルノワール)が受賞。

〔独〕アグファ社、多層式アグファカラードを完成。

〔米〕デイズニー、最初のテクニカラーラン編漫画「白雪姫」を完成、大ヒットとなる。

〔仏〕ルノワールの反戦映画「大いなる幻影」公開。

〔伊〕ローマにチネチッタ撮影所開設。

〔仏〕メリエス死す。

〔独〕ベルリン・オリンピックの記録映画「民族の祭典」と「美的の祭典」(ともにリーフェンシュタール)二部作が完成し、ナチス・ドイツの国威を宣伝する。

〔米〕テクニカラーラン編「風と共に去りぬ」(フレミング)が完成する。

〔仏〕「オード・マキシム」(オード・マキシム)と「美の祭典」(リュベ・ルノワール)が完成する。

〔仏〕ベルリン・オリンピックの記録映画「民族の祭典」と「美的の祭典」(ともにリーフェンシュタール)二部作が完成し、ナチス・ドイツの国威を宣伝する。

〔伊〕ヴィスコンティ、「妄執」で戦後のネオレアリズモ映画に先行する。

〔米〕スターたちの応召、前線慰問が増加。

〔仏〕映画人のレジスタンス組織ができる。ブレッソン、最初の長編「罪の天使」を撮る。

〔英〕ジョン・ウエインをスター・ダムにおしめる。

〔仏〕「オード・マキシム」(オード・マキシム)と「美の祭典」(リュベ・ルノワール)が完成する。

〔米〕映画人、戦線へ。

〔仏〕フランス映画解放委員会結成。

〔英〕ローレンス・オリヴィエ、自作自演の「ヘンリー五世」を発表。

〔スウェーデン〕シェーベルイ、「もだえ」(ヘルイマン脚本)を撮る。

〔ソ連〕エイゼンシュティンの「イワン雷帝」第一部が完成。

〔米〕「戦火のかなた」(ロッセリーニ)、「靴みがき」(ヴィットリオ・デ・シルヴィア)など、ネオレアリズモの傑作が誕生する。ヴェネツィア国際映画祭再開。

〔独〕ソ連占領区(東ドイツ)ではウーファの撮影所をひきつき、「殺人者は我々の中にいる」(シュタウテ)を製作。

〔英〕デサンティスの第一作「荒野の抱擁」公開。

〔米〕セミードキュメンタリーの代表作「裸の町」(ダッジン)、異常心理のヒロインを登場させた「蛇の穴」(リトヴァーク)などが話題になる。戦争を風刺したチャップリンの「殺人狂時代」が公開される。

〔仏〕クリールの帰国第一作「沈黙は金」(ジエラール・フィリップ主演)、「肉体の悪魔」(オータン・ララ)など公開。

〔英〕リード、「邪魔者は殺せ」(ジエームズ・マイン主演)でサスペンス映画の秀作を発表。

〔米〕「黄金」(ヒューストン)、「真昼の暴動」(ダッジ)、「アーヴィング」、「逃亡者」(フォード)、「紳士協定」(カザン)、「仏」「犯罪河岸」(クルーザー)、「幸福の設計」(ベックル)、「バルビーア」(ルーキー)、「九〇〇年」(ウェドレス)、「黒水仙」(バウエル)、「ブレスバーガー」(伊)、「アモーレ」(ロッセリーニ)、「せむしの仔馬」(イワノフワノ)。

〔英〕「山河遙かなり」(ジンネマン)、「イースター・パレード」(ウォルターズ)、「ルイジアナ物語」(フラハティ)、「仏」「恐るべき親達」(コクトー)、「バルムの僧院」(クリスティアン・ジヤック)、「英」「落ちた偶像」(リード)、「オリヴィア・ツイスト」(リーン)、「伊」(ソ連)、「せむしの仔馬」(イワノフワノ)。

〔米〕「G I ジョー」(ウェルマン)、「南部の人」(ルノワール)、「コレヒドール戦記」(フォード)、「仏」「ブリーチーク」(ルーキー)、「天国への階段」(バウエル)、「アーヴィング」(ベックル)、「英」「星への道」(アスキス)、「逢ひき」(リーン)。

〔米〕「荒野の決闘」(フォード)、「白昼の決闘」(K・ヴィダー)、「ブルックリン横丁」(カザン)、「仏」「大空ヤクスン」(ソ連)、「戦火の大地」(ドンスコイ)。

〔米〕「オックス・ボウ事件」(ウェルマン)、「町の人気者」(アーヴィング)、「誰が為に鐘は鳴る」(ウッド)、「仏」「秘密告白」(クルーザー)、「悲恋」(ドランゴ)、「デンマーク」、「怒りの日」(ドライヤー)。

〔伊〕アントニオ・

イアン・ジャック)

〔米〕「我が道を往く」(マッケリー)、「毒薬と老娘」(キアブラー)、「アーヴィング」、「誰が為に鐘は鳴る」(ウッド)、「仏」「大空ヤクスン」(ソ連)、「戦火の大地」(ドンスコイ)。

〔米〕「オックス・ボウ事件」(ウェルマン)、「町の人気者」(アーヴィング)、「誰が為に鐘は鳴る」(ウッド)、「仏」「運命の饗宴」(デュヴィヴィエ)、「伊」「白い船」(ロッセリーニ)。

〔米〕「スミス都へ行く」(キアブラー)、「オズの魔法使い」(ワイヤー)、「魔の波止場」(カルネ)、「獣人」(ルノワール)、「ソ連」、「アレクサンドル・ネフスキ」(エイゼンシュティン)。

〔米〕「スミス都へ行く」(キアブラー)、「オズの魔法使い」(ワイヤー)、「魔の波止場」(カルネ)、「獣人」(ルノワール)、「ソ連」、「アレクサンドル・ネフスキ」(エイゼンシュティン)。

〔米〕「スミス都へ行く」(キアブラー)、「魔の波止場」(カルネ)、「獣人」(ルノワール)、「ソ連」、「アレクサンドル・ネフスキ」(エイゼンシュティン)。

〔米〕「スミス都へ行く」(キアブラー)、「魔の波止場」(カルネ)、「獣人」(ルノワール)、「ソ連」、「アレクサンドル・ネフスキ」(エイゼンシュティン)。

〔米〕「スミス都へ行く」(キアブラー)、「魔の波止場」(カルネ)、「獣人」(ルノワール)、「ソ連」、「アレクサンドル・ネフスキ」(エイゼンシュティン)。

〔米〕「スミス都へ行く」(キアブラー)、「魔の波止場」(カルネ)、「獣人」(ルノワール)、「ソ連」、「アレクサンドル・ネフスキ」(エイゼンシュティン)。

〔米〕「スミス都へ行く」(キアブラー)、「魔の波止場」(カルネ)、「獣人」(ルノワール)、「ソ連」、「アレクサンドル・ネフスキ」(エイゼンシュティン)。

〔米〕「スミス都へ行く」(キアブラー)、「魔の波止場」(カルネ)、「獣人」(ルノワール)、「ソ連」、「アレクサンドル・ネフスキ」(エイゼンシュティン)。

〔米〕「スミス都へ行く」(キアブラー)、「魔の波止場」(カルネ)、「獣人」(ルノワール)、「ソ連」、「アレクサンドル・ネフスキ」(エイゼンシュティン)。

〔米〕「スミス都へ行く」(キアブラー)、「魔の波止場」(カルネ)、「獣人」(ルノワール)、「ソ連」、「アレクサンドル・ネフスキ」(エイゼンシュティン)。

〔米〕「スミス都へ行く」(キアブラー)、「魔の波止場」(カルネ)、「獣人」(ルノワール)、「ソ連」、「アレクサンドル・ネフスキ」(エイゼンシュティン)。

〔米〕セミードキュメンタリーの代表作「裸の町」(ダッジン)、異常心理のヒロインを登場させた「蛇の穴」(リトヴァーク)などが話題になる。戦争を風刺したチャップリンの「殺人狂時代」が公開される。

〔仏〕クリールの帰国第一作「沈黙は金」(ジエラール・フィリップ主演)、「肉体の悪魔」(オータン・ララ)など公開。

〔英〕リード、「邪魔者は殺せ」(ジエームズ・マイン主演)でサスペンス映画の秀作を発表。

〔伊〕デサンティスの第一作「荒野の抱擁」公開。

1948 1947 1946 1945 1944 1943

1942 1941 1940 1939 1938 1937 1936

